5. 受信機能を活用する

6. 操作を簡単にする

7. ファクス初期設定を使う

8. 管理者の方へ

9. パソコンからファクス機能を使う

10.困ったときには

11.付録

はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この使用説明書は、製品の正しい使い方や使用上の注意について記載してあります。ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。

株式会社リコー

商標

- Microsoft，Windows，WindowsNTは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Ethernetは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
- その他の製品名、名称は、各社の商標または登録商標です。

* Windows® 98の製品名は、Microsoft® Windows® 98です。
* Windows® 95の製品名は、Microsoft® Windows® 95です。
* Windows® Meの製品名は、Microsoft® Windows® Millennium Edition（Windows Me）です。
* Windows® 2000の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows® 2000 Professional
  Microsoft® Windows® 2000 Server
* Windows NT® 4.0の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows NT® Server 4.0
  Microsoft® Windows NT® Workstation 4.0

- 本書では、NTTグループ各社の総称をNTTと表記しています。

オプションの名称とマークについて

おもなオプションの名称について

オプションの名称は次のように表しています。

- IPSiO ドキュメントフィーダー タイプ8100→自動原稿送り装置(ADF)
- IPSiO 圧版 タイプ8100→原稿カバー
- IPSiO 2000枚フィニッシャー タイプ8000→フィニッシャー
- IPSiO サイド排紙トレイ タイプ8100→サイド排紙トレイ
- IPSiO 両面ユニット タイプ8000→両面ユニット
- IPSiO 2000枚給紙テーブル タイプ8000→給紙テーブル
- 拡張HDD タイプC II→拡張HDD(40GB)
- IPSiO スキャナーユニット タイプ8100→スキャナーユニット
- SDRAMモジュール32MB→32MBメモリー
- imagio FAXメモリータイプN2→FAXメモリー
- imagio FAX機能拡張キットタイプL→FAX機能拡張キット
- imagio ハンドセット タイプ9→ハンドセット
- IPSiO 増設G3ユニット タイプ8100→増設G3ユニット
- IPSiO 増設G4ユニット タイプ8100→G4ユニット
- IPSiO FAXユニット タイプ8100→FAXユニット

マークについて

本書で使われているマークには次のような意味があります。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。「安全上のご注意」にまとめて記載していますので、必ずお読みください。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。「安全上のご注意」にまとめて記載していますので、必ずお読みください。

※以上は、安全上のご注意についての説明です。

重要

誤って操作すると、紙づまり、原稿破損、データ消失の原因になることがあります。必ず、お読みください。

操作の前に

操作をする前に知っておいていただきたいこと、あらかじめ準備していただきたいことなどを説明しています。

補足

操作するときに気を付けることや、操作を誤ったときの対処方法などを説明しています。

制限

数値の制限や組み合わせできない機能、機能が使用できない状態を説明しています。

参照

参照先を示します。

［　］

画面のキーの名称を示します。

【　】

操作部（画面を除く）のキーの名称を示します。

使用説明書の分冊紹介

本機の使用説明書には「ファクス機能 基本編」と「ファクス機能 応用編（本書）」の2冊があります。お使いになる目的に応じて、必要な項目をお読みください。

ファクス機能 応用編（本書）

ファクスをより使いこなすための事項を説明しています。また、管理ご担当者向けに各種設定項目などを説明しています。

ファクス機能 基本編

ファクスを使うときに必要な基本事項を説明しています。すぐ手にできるよう本機の近くに保管してください。

❖ 第1章 操作の前に
本体各部と操作部の名称とはたらき、画面の見かたについて知ることができます。

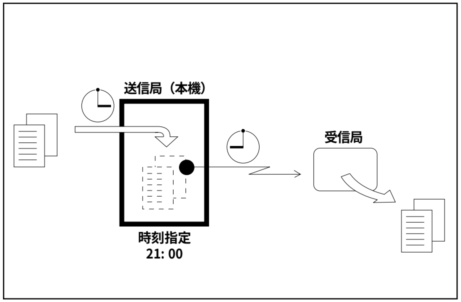
❖ 第2章 送信する／受信する
基本的な送信のしかた、その取り消しかた、および受信の種類について説明しています。そのときの状況に合った送信方法と受信モードの切り替えかたを知ることができます。

❖ 第3章 登録する
相手先に伝えるこちらの名称とファクス番号や、相手先を指定するときに便利な宛先表、グループ宛先の登録・変更・消去のしかたについて知ることができます。文字の入力のしかたについてもこの章をお読みください。

❖ 第4章 こんなときには
画面の表示がいつもと違っていたり【ファクス】キーが赤く点灯したときの対処方法や、音量の調節のしかたについて知ることができます。

時刻指定送信

送信やポーリング受信する時刻を指定すると、指定した時刻に自動的に送信やポーリング受信を開始します。深夜などに割引料金で送信できるので、通信料金を節約できます。

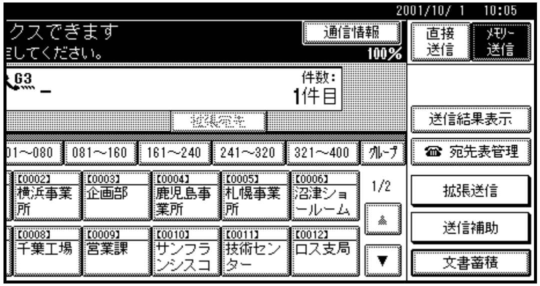


補足

- ❒ 指定できる時刻は、現在から 23 時間 59 分以内です。
- ❒ メモリー送信の手順の中で操作します。
- ❒ 表示された現在時刻が合っていないときは、正しく調整してください。⇒ システム設定編2 スキャナーユニット　タイプ8100対応版「時刻タイマー設定－時刻設定」
- ❒ あらかじめ通信料金が安くなる時刻（エコノミー時刻）を登録しておくと、その時刻を簡単に指定できます。1通信ごとに時刻を入力する必要はありません。登録できる時刻は1種類です。工場出荷時は「23：00」が登録されています。⇒ P.222「エコノミー送信時刻を設定するとき」

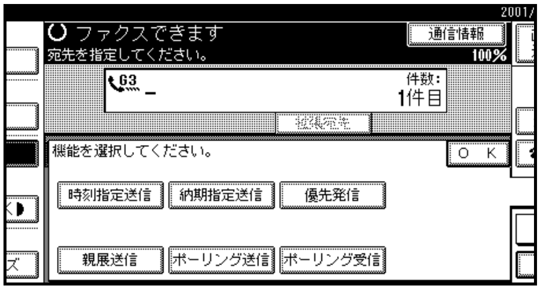
1 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

2 [拡張送信］を押します。

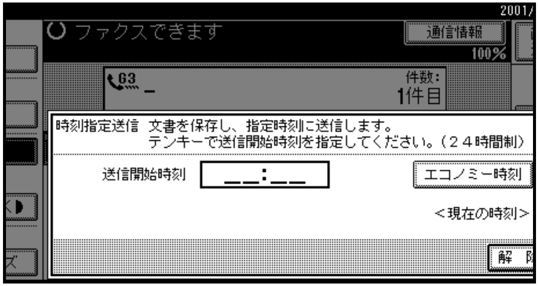


拡張送信のメニュー画面が表示されます。

3 [時刻指定送信］を押します。



4 指定時刻をテンキーで入力するか［エコノミー時刻］を押します。



補足

- ❒ 24時間制の4桁で入力します。
- ❒ 1桁の数値を入力するときは、先頭に0を付けます。
- ❒ 間違えたときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。
- ❒ 操作を取り消すときは［解除］を押します。手順**3**の画面に戻ります。

5 ［OK］を押します。

拡張送信のメニュー画面に戻ります。

［時刻指定送信］が黒く反転表示され、指定した時刻が表示されます。

6 ［OK］を押します。

待機中の画面に戻ります。

補足

- ❒ 設定内容を確認するときは、［拡張送信］を押します。

7 相手先を指定し、【スタート】キーを押します。

補足

- ❒ 時刻指定送信を取り消すときは「送信を中止する」⇒ P.35で操作します。

納期指定送信

送信を完了させたい時刻（納期）を指定すると、話し中などで通信できない場合は、指定した時刻になるまで5分間隔で何回でもダイヤルします。また、送信が終了すると自動的に送信結果レポートが印刷され、通信結果を確認できます。

制限

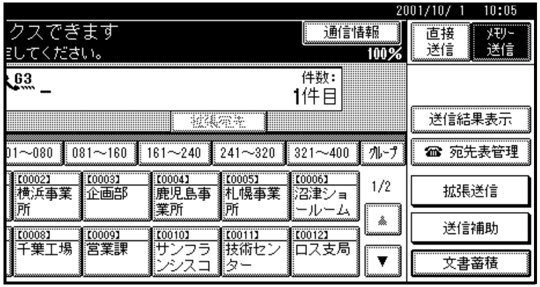
- ❒ 直接送信では使用できません。メモリー送信を使用してください。

補足

- ❒ 指定できる時刻は現在から23時間59分以内です。
- ❒ 表示された現在時刻が合っていないときは、正しく調整してください。⇒ システム設定編 2 スキャナーユニット　タイプ8100対応版「時刻タイマー設定－時刻設定」
- ❒ 指定時刻より前に送信できたときは、送信結果レポートを印刷して送信を終了します。
- ❒ 指定時刻になっても送信できず、規定回数（5回）ダイヤルしていないときは、規定回数までダイヤルし、送信結果レポートを印刷します。規定回数ダイヤルしているときは送信結果レポートを印刷して送信を終了します。

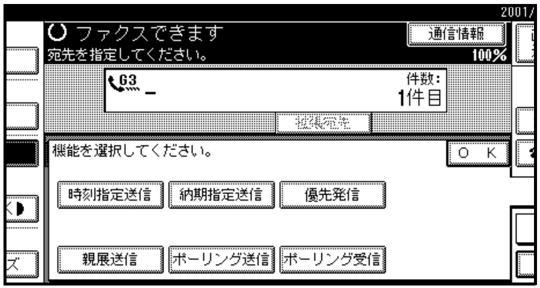
1 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

2 ［拡張送信］を押します。

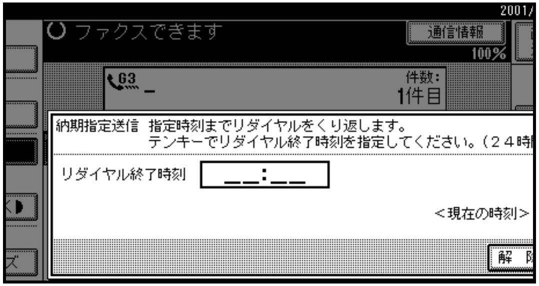


拡張送信のメニュー画面が表示されます。

3 ［納期指定送信］を押します。



4 リダイヤル終了時刻をテンキーで入力します。



補足

- ❒ 24時間制の4桁で入力します。
- ❒ 1桁の数値を入力するときは、先頭に0を付けます。
- ❒ 間違えたときは［クリア］または**【クリア/ストップ】**キーを押して入力し直します。
- ❒ 操作を取り消すときは［解除］を押します。手順3の画面に戻ります。

5 ［OK］を押します。

拡張送信のメニュー画面に戻ります。

［納期指定送信］が黒く反転表示され、指定した時刻が表示されます。

6 ［OK］を押します。

待機中の画面に戻ります。

補足

- ❒ 設定内容を確認するときは、[拡張送信] を押します。

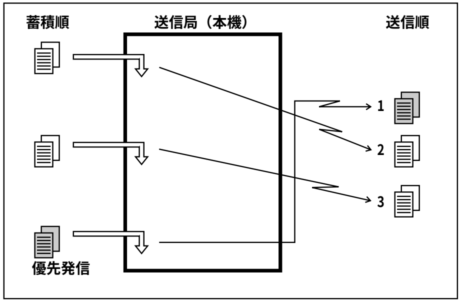
7 相手先を指定し、【スタート】キーを押します。

補足

- ❒ 納期指定送信を取り消すときは「送信を中止する」⇒ P.35で操作します。

優先発信

メモリー送信は蓄積された順番に送信されるので、複数のメモリー送信が予約されているときは、新たに原稿を蓄積してもすぐには送信されません。しかし、優先発信を指定して蓄積すると、すでに予約されているメモリー送信より先に送信されます。

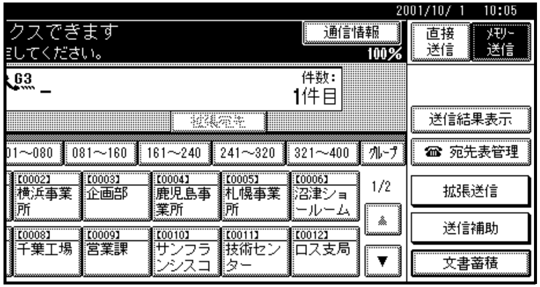


制限

- ❒ 直接送信では使えません。直接送信指定時に優先発信を設定すると、メモリー送信に切り替わります。
- ❒ すでに優先発信として蓄積している文書があるときは、その文書の後に送信されます。
- ❒ 現在送信中の文書があるときは、その送信が終わりしだい送信します。

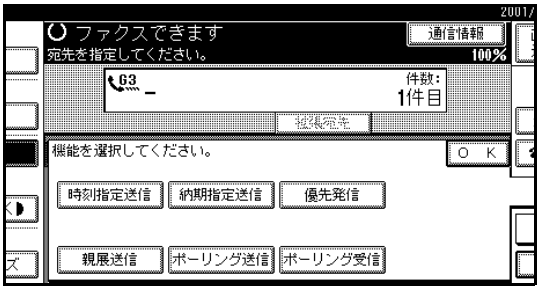
1 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

2 ［拡張送信］を押します。



拡張送信のメニュー画面が表示されます。

3 ［優先発信］を押します。



4 [OK] を押します。

待機中の画面に戻ります。

補足

❒ 設定内容を確認するときは、[拡張送信] を押します。

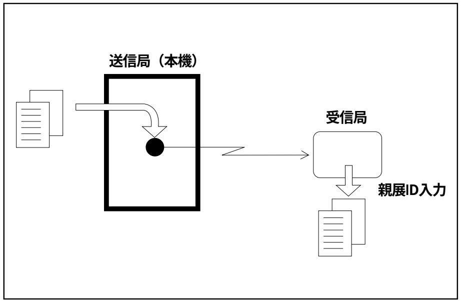
5 相手先を指定し、【スタート】キーを押します。

補足

❒ 優先送信を取り消すときは「送信を中止する」⇒ P.35で操作します。

親展送信

親展送信した原稿は相手先のメモリーに蓄積され、自動的には印刷されません。相手は親展IDを入力して原稿を印刷します。特定の人以外に見せたくない機密文書などを送信すると、親展IDを知っている人しか印刷できないのでお互いにプライバシーが守れます。



親展送信には次の種類があります。

❖ 通常親展送信

送信のときに親展IDを入力しません。相手先は自分のファクスに登録してある親展IDを入力して原稿を印刷します。登録してある親展IDを知っている人は誰でも印刷できます。

❖ IDパーソナル親展送信

送信ごとに親展IDを入力します。相手はその親展IDを入力して原稿を印刷します。相手にあらかじめ指定した親展IDを連絡しておきます。

制限

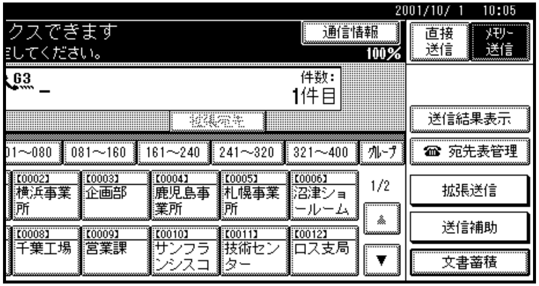
- ❒ 親展送信できる相手先は、親展受信の機能が付いた当社のファクスだけです。ただし、相手先のファクスに親展IDが登録されていないと、親展送信はできません。
- ❒ 相手先のファクスのメモリー容量が0%、または送信する原稿を蓄積できるだけの余裕がないときは送信できません。

補足

- ❒ あらかじめ親展IDを登録することをお勧めします。⇒ P.295 「親展ID登録」
- ❒ 親展IDは0000を除く4桁の数字（0001〜9999）で指定します。
- ❒ F コード (SUB) を使うと同様の機能を持つ他社のファクスへも親展送信することができます。⇒ P.78 「Fコード(SUB)」

1 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

2 ［拡張送信］を押します。



拡張送信のメニュー画面が表示されます。

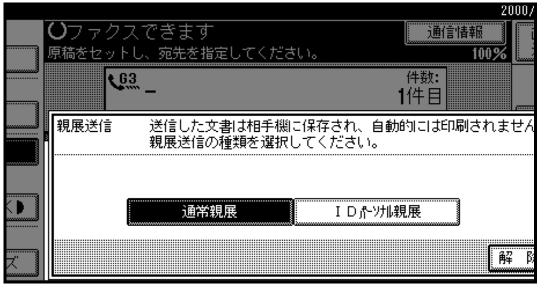
3 ［親展送信］を押します。



4 親展送信の方法に応じて操作します。

通常親展送信のとき

❶［通常親展］が選択されていることを確認します。

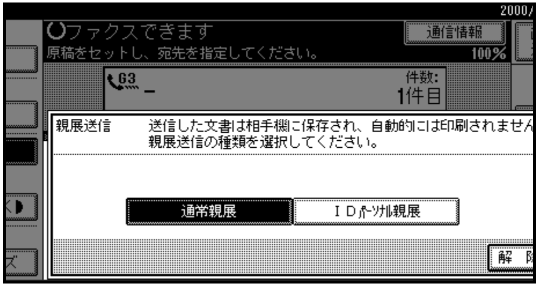


補足

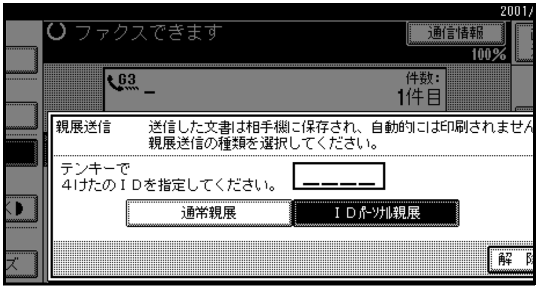
- ❒ 通常親展が選択されていないときは、［通常親展］を押します。
- ❒ 操作を取り消すときは［解除］を押します。手順**3**の画面に戻ります。

IDパーソナル親展送信のとき

❶ ［IDパーソナル親展］を押します。



❷ 親展ID（4桁の数字）をテンキーで入力します。



補足

- ❒ 間違えたときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。
- ❒ 操作を取り消すときは［解除］を押します。手順3の画面が表示されます。

5 ［OK］を押します。

拡張送信のメニュー画面に戻ります。

［親展送信］が黒く反転表示され、親展送信の種類が表示されます。

6 ［OK］を押します。

待機中の画面に戻ります。

補足

- ❒ 設定内容を確認するときは、［拡張送信］を押します。

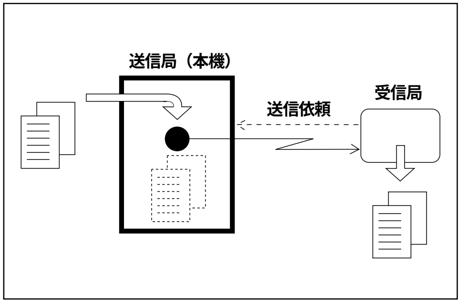
7 相手先を指定し、【スタート】キーを押します。

補足

- ❒ 親展送信を取り消すには「送信を中止する」⇒P.35で送信を取り消します。

ポーリング送信

原稿をメモリーに蓄積し、相手先からの送信依頼を待ちます。相手先から送信の依頼があると、原稿を自動的に送信します。相手は必要に応じて都合のよい時間に原稿を受信できます。



ポーリング送信には次の種類があります。

❖ フリーポーリング

操作のときにポーリングIDを入力しません。ポーリングIDを付けずに原稿が蓄積されます。ポーリングIDが一致するかどうかは確認せずに原稿を送信します。

❖ IDポーリング送信

操作のときにポーリングIDを入力しません。本機に登録してあるポーリングIDを付けて原稿が蓄積されます。相手には、送信依頼をするときこちら側と同じポーリングIDを指定してもらいます。

❖ パーソナルIDポーリング送信

操作のときにポーリングIDを入力します。入力したポーリングIDを付けて原稿が蓄積されます。相手には送信依頼をするとき、受信する原稿に付いているポーリングIDを入力してもらいます。

制限

❒ 相手先のファクスにもポーリング機能が付いていないと使用できません。

❒ 通常、IDを付けたポーリング送信ができるのは、「ポーリング受信」機能を持った当社のファクスだけです。ただし、Fコード掲示板ボックス機能を使うと、相手がポーリング機能と「SEP」機能を持ったファクスであれば、IDを付けてポーリング送信できます。⇒ P.69 「Fコード掲示板ボックスを使う」

補足

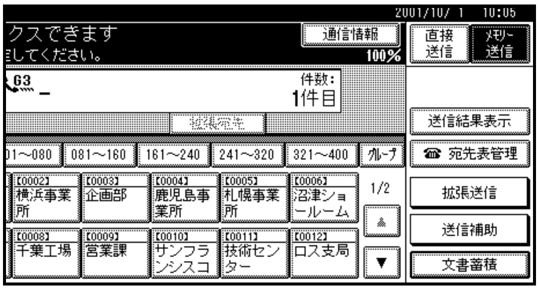
❒ IDポーリング送信のときは、あらかじめポーリングIDを登録しておきます。⇒ P.297 「ポーリングID登録」

❒ フリーポーリング、IDポーリング送信のとき、メモリーに蓄積できる文書数は1つだけです。パーソナルIDポーリング送信のとき、メモリーに蓄積できる文書数は、1つのIDにつき1つです。IDを変えれば最大400（オプションのFAX機能拡張キット装着時は800）まで蓄積できます。

- ❒「パラメーター設定」で、ポーリング送信の文書を送信後に消去するかどうかの設定をすることができます。工場出荷時は「1回」（1回の送信で消去）に設定されています。何回でも送信できるように保存するときは「継続待機」にします。⇒ P.244「パラメーター設定」（スイッチ11ビット7）
- ❒ ポーリングIDは0〜9とA〜Fを使った、0000とFFFFを除く4桁の数字とアルファベットで指定します。
- ❒ 通信料金は相手先の負担になります。

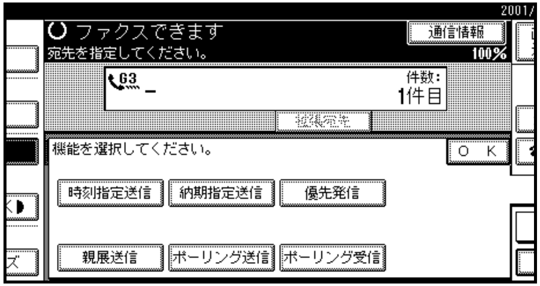
1 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

2 ［拡張送信］を押します。



拡張送信のメニュー画面が表示されます。

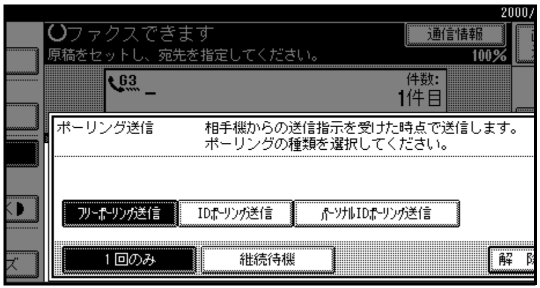
3 ［ポーリング送信］を押します。



4 ポーリング送信の方法に応じて操作します。

フリーポーリングのとき

❶［フリーポーリング送信］が選択されていることを確認します。

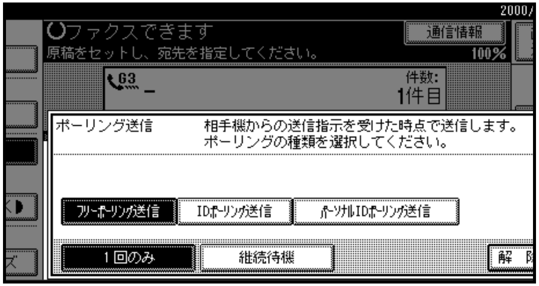


補足

- ❒ フリーポーリング送信が選択されていないときは、［フリーポーリング送信］を押します。

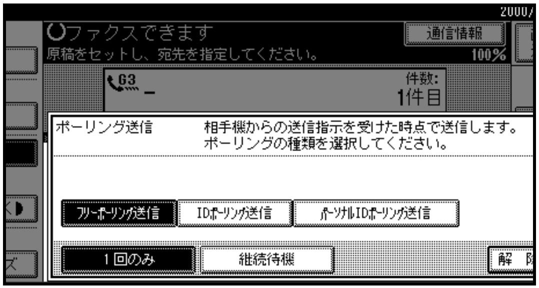
IDポーリング送信のとき

❶ ［IDポーリング送信］を押します。

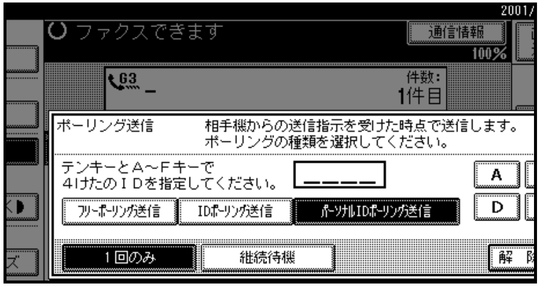


パーソナルIDポーリング送信のとき

❶ ［パーソナルIDポーリング送信］を押します。



❷ ポーリングID（4桁）をテンキーと［A］［B］［C］［D］［E］［F］で入力します。



補足

- ❒ 間違えたときは、［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。

5 1回の送信で原稿を消去するときは［1回のみ］を、何回でも送信できるように保存するときは、［継続待機］を選択します。

補足

- ❒ 操作を取り消すときは［解除］を押します。手順**3**に戻ります。

6 ［OK］を押します。

拡張送信のメニュー画面に戻ります。

「✕✕✕✕✕✕✕✕✕✕」と表示されます。

［ポーリング送信］が黒く反転表示され、ポーリング送信の種類が表示されます。

7 [OK] を押します。

補足

- ❒ 設定内容を確認するときは、[拡張送信] を押します。

8 【スタート】キーを押します。

補足

- ❒ ポーリング送信を取り消すときは「送信を中止する」⇒ P.35で操作します。

ポーリング消去レポート

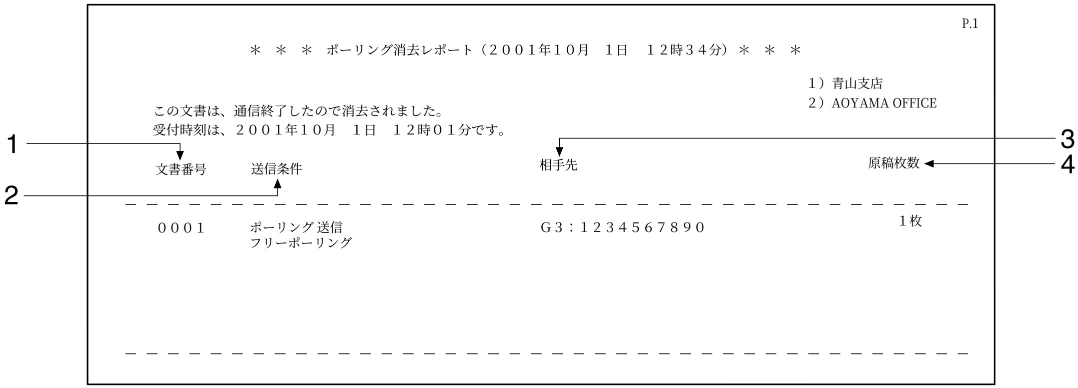
ポーリング送信が終わったことを確認できます。

制限

- ❒「パラメーター設定」で、蓄積した原稿を何回も送信できるようにしている（「継続待機」が設定されている）ときは印刷されません。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ11 ビット7）

補足

- ❒ このレポートを自動的に印刷するかどうかP.244「パラメーター設定」（ビット03 ビット6）で設定できます。工場出荷時は「印刷する」に設定されています。
- ❒ ポーリング送信の結果は「通信管理レポート印刷」⇒ P.50でも確認できます。
- ❒ このレポートに画像を載せるかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は、「画像を載せる」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ04 ビット7）



1. **文書番号**

   文書の管理番号です。

2. **送信条件**

   「ポーリング送信」と記載されます。その下に「フリーポーリング」または「ポーリングID」が記載されます。

3. **相手先**

   相手先に発信元名称（表示用）が登録してあるときはその発信元名称（表示用）が、発信元名称（表示用）がなく発信元ファクス番号が登録してあるときはその発信元ファクス番号が記載されます。

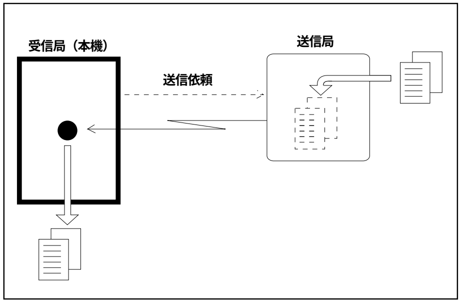
4. **原稿枚数**

   蓄積していた原稿の枚数です。

ポーリング受信

相手先に送信の依頼をして、相手先のメモリーに蓄積されている原稿を受信します。ポーリング機能を使った情報提供サービスを利用するときに使います。

また、何個所か複数の相手先から原稿を集めたいときなど便利です。



ポーリング受信には次の種類があります。

❖ **フリーポーリング受信**

本機と同じポーリングIDの付いた原稿がないときや、本機にポーリングIDを登録していないときでも、相手先にポーリングIDの付いていない原稿があれば受信します。

❖ **IDポーリング受信**

本機に登録しているポーリングIDと、同じポーリングIDが付いた相手先の原稿を受信します。操作の時にポーリングIDを入力しません。

❖ **パーソナルIDポーリング受信**

操作のときにポーリングIDを入力します。入力したポーリングIDと同じポーリングIDが付いた相手先の原稿を受信します。同じポーリングIDの付いた原稿がないときは、ポーリングIDが付いていない原稿（フリーポーリング）を受信します。

制限

❒ IDポーリング受信のときは、あらかじめポーリングIDを登録しておきます。⇒ P.297 「ポーリングID登録」

❒ 相手先のファクスにもポーリング機能が付いていないと使用できません。

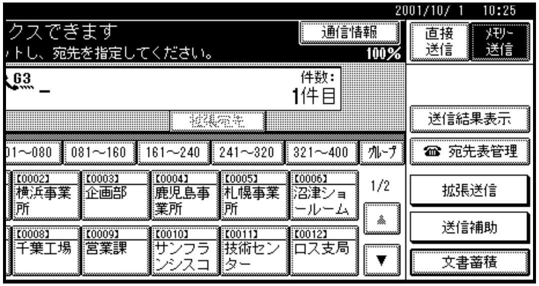
❒ 通常、IDの付いた原稿をポーリング受信できるのは、ポーリング機能を持った当社のファクスだけですが、相手が「ポーリング送信」機能と「SEP」機能を持ったファクスであれば、IDを付けた他社のファクスからもポーリング受信ができます。⇒ P.80 「Fコード(SEP)」

❒ IDポーリング送信とパーソナルIDポーリング送信の原稿を受信するときは、相手先と同じポーリングIDを指定しないと受信できません。フリーポーリングの原稿はポーリングIDが一致しなくても受信できます。

補足

❒ ポーリングIDは0～9とA～Fを使った、0000とFFFFを除く4桁の数字とアルファベットで指定します。

1 [拡張送信] を押します。



拡張送信のメニュー画面が表示されます。

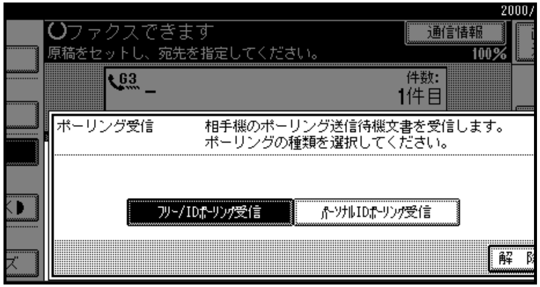
2 [ポーリング受信] を押します。



3 ポーリング受信の方法に応じて操作します。

フリー /IDポーリング受信のとき

❶ [フリー/IDポーリング受信] が選択されていることを確認します。

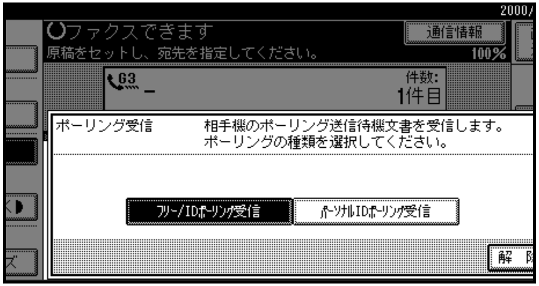


補足

- 「フリー /IDポーリング受信」が選択されていないときは、[フリー/IDポーリング受信] を押します。
- 操作を取り消すときは [解除] を押します。手順**2**の画面に戻ります。

パーソナルIDポーリング受信のとき

❶ [パーソナルIDポーリング受信] を押します。



❷ ポーリングID（4桁）をテンキーと［A］［B］［C］［D］［E］［F］で入力します。



補足

- ❒ 間違えたときは、[クリア] または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。
- ❒ 操作を取り消すときは［解除］を押します。手順2の画面に戻ります。

4 ［OK］を押します。

拡張送信のメニュー画面に戻ります。

［ポーリング受信］が黒く反転表示され、ポーリング受信の種類が表示されます。

5 ［OK］を押します。

待機中の画面になります。

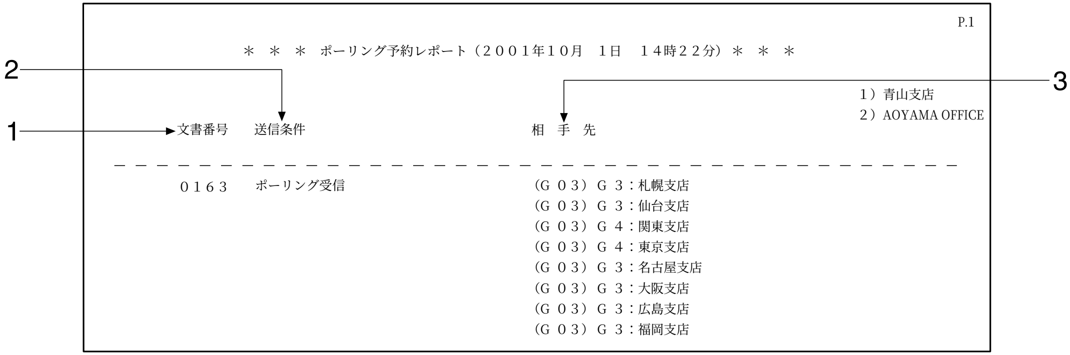
6 相手先を指定し、【スタート】キーを押します。

ポーリング予約レポート

ポーリング受信の操作をしたあとに印刷されます。ポーリング受信の予約内容を確認できます。

補足

- ❒ このレポートを自動的に印刷するかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「印刷しない」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ03 ビット3）



1. **文書番号**
   文書の管理番号です。

2. **送信条件**
   「ポーリング受信」と「ポーリングID」が記載されます。

3. **相手先**

テンキーで指定した場合は入力したファクス番号が記載されます。宛先表で指定した場合は登録してある名称が記載されます。グループで指定した場合はそのグループに登録してあるすべての相手先を記載し、各相手先の先頭に「（G01）」のようにグループナンバーを付けます。

G4ユニット（オプション）を装着しているときは、回線の種類が「G3」「I-G3」「G3（空）」「G4」のいずれかで記載されます。

増設G3ユニット（オプション）を装着しているときは、回線の種類が「G3-1」「G3-2」「G3（空）」のいずれかで記載されます。

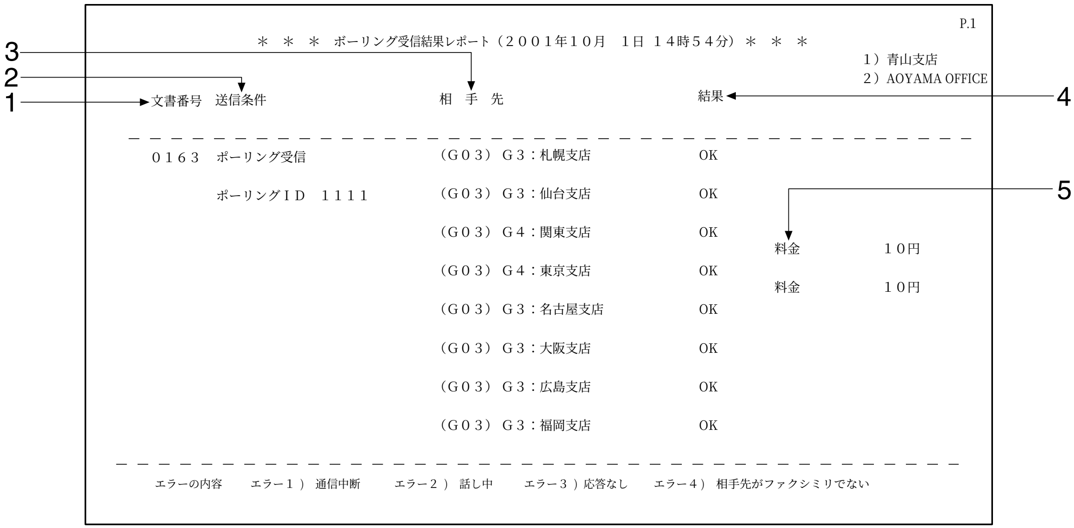
Fコード（SEP/SUB/PWD/SID）、サブアドレスを登録しているときは、テンキーで登録した相手先にのみSEP/SUB/PWD/SID/サブアドレスを印字します。

ポーリング受信結果レポート

ポーリング受信が終わったあとに印刷されます。ポーリング受信の結果を確認できます。

補足

- ❒ ポーリング受信の結果は「通信管理レポート」⇒ P.53でも確認できます。
- ❒ このレポートを自動的に印刷するかどうか「パラメーター設定」⇒ P.244で設定できます。工場出荷時は「印刷する」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ03 ビット4）



1. **文書番号**
   文書の管理番号です。

2. **送信条件**
   「ポーリング受信」と「ポーリングID」が記載されます。

3. **相手先**

テンキーで指定した場合は入力したファクス番号が記載されます。宛先表で指定した場合は登録してある名称が記載されます。グループで指定した場合はそのグループに登録してあるすべての相手先を記載し、各相手先の先頭に「（G01）」のようにグループナンバーを付けます。

G4ユニット（オプション）を装着しているときは、回線の種類が「G3」「I-G3」「G3（空）」「G4」のいずれかで記載されます。

増設G3ユニット（オプション）を装着しているときは、回線の種類が「G3-1」「G3-2」「G3（空）」のいずれかで記載されます。

Fコード（SEP/SUB/PWD/SID）、サブアドレスを登録しているときは、テンキーで登録した相手先にのみSEP/SUB/PWD/SID/サブアドレスを印字します。

4. **結果**

ポーリング受信の結果が記載されます。

OK	全ページ正しく送信できました。	
エラー	正しく送信できませんでした。「エラー」のあとにエラーの内容（送信できなかった理由）を 示す番号が記載されます。自動リダイヤルの機能によりダイヤルを繰り返したときは、ダイヤルごとの理由を順に記載します。	
エラー	エラー 1）通信中断	ファクスの不具合や電話回線に雑音が入ったため、通信が途中で中断されました。
	エラー 2）話し中	相手先が話し中でした。
	エラー 3）応答なし	呼び出しましたが、相手先が電話にでませんでした。
	エラー 4）相手先がファクシミリでない	相手先が電話にはでましたが、ファクシミリではありませんでした。電話などが接続されている可能性があります。この場合は2回でダイヤルを中止します。

5. **料金**

通信料金が記載されます。

記載されるのは、G4ユニット（オプション）を装着しているときです。ただし、通信料金が999999円を超えると「******円」と記載されます。

補足

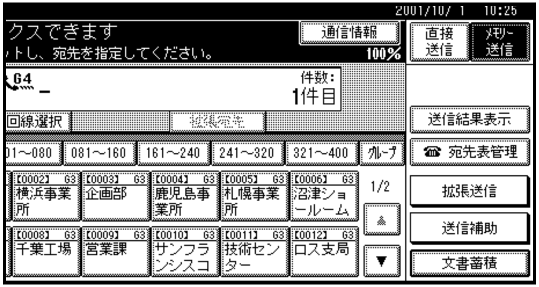
- ❒ G4またはI-G3を使った送信の料金のみが記載され、G3を使った送信の料金は記載されません。
- ❒ 海外に送信したときは料金が計算されないことがあります。

G4 メールサービス

この機能を利用するにはG4ユニット（オプション）が必要です。

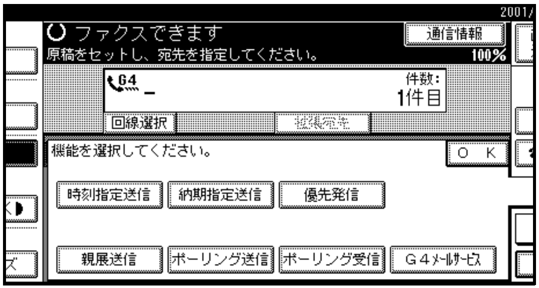
ISDNを利用して、Fネットの短縮ダイヤルにファクス番号を登録したり、Fネットから親展通信の原稿を受信するときなどに使います。⇒ P.346「Fネットのサービスを利用する」

1 **［拡張送信］を押します。**

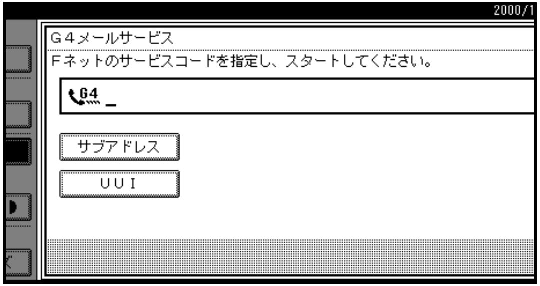


拡張送信のメニュー画面が表示されます。

2 **［G4メールサービス］を押します。**



3 **Fネットのサービスコードを入力します。**



補足

- ❒ **間違えたときは、［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。**
- ❒ **G4メールサービスを取り消すときは［解除］を押します。手順2の画面に戻ります。**

4 **【スタート】キーを押します。**

「交信中です。お待ちください」と表示され、Fネットと通信中であることを示します。

2. 送信待機中・送信中文書を確認／中止する

【スタート】キーを押した（原稿の読み取りが終わった）あとで、宛先や条件の確認/変更あるいは取り消しができます。待機中文書の印刷や待機中文書のリストを印刷することもできます。以下の操作で設定した内容の確認/変更/取り消しができます。

- メモリー送信
- 親展送信⇒ P.16
- 中継依頼送信⇒ P.83
- ポーリング受信⇒ P.24
- ポーリング送信⇒ P.19

制限

❒ 状態が「送信中」「受信中」の文書、親展送信文書およびレポート印刷の待機中の文書は確認/変更できません。

補足

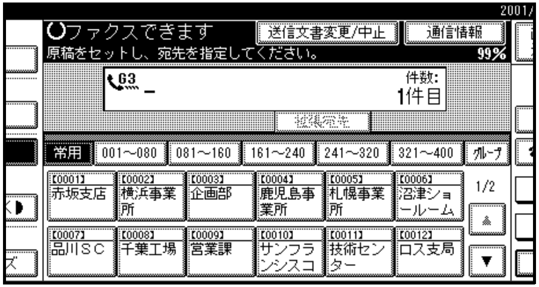
❒「送信文書変更/中止」が画面に表示されていないときは、メモリー送信中、受信中または待機中の文書はありません。

参照

ファクス機能 基本編「第2章 メモリー送信で送る」

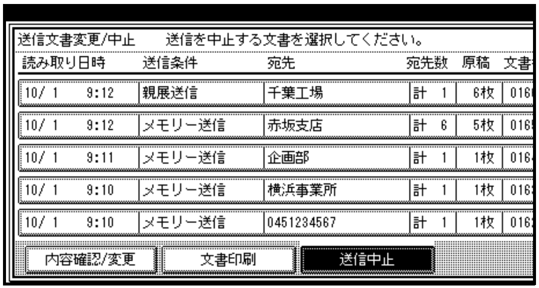
設定内容を確認する

1 [送信文書変更/中止] を押します。



2 [内容確認/変更] を押します。

読み取り日時、送信条件、宛先、宛先数、原稿枚数、文書番号、状態が表示されます。



3 確認する文書を押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは [▲前へ] または [▼次へ] を押して表示させます。
- ❒ 複数の相手先を指定した文書には、最初に指定した相手先が表示されています。
- ❒ 複数の相手先を指定した文書には、未送信の相手先件数だけが宛先数に表示されます。すでに送信が完了した相手先は含まれません。

4 設定内容を確認し、［閉じる］を押します。



5 ［閉じる］を押します。

待機中の画面に戻ります。

送信を中止する

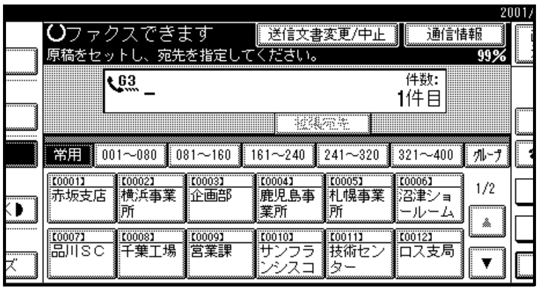
状態が「送信中」「待機中」「不達」のときは、送信を中止できます。読み取った原稿はすべてメモリーから消去されます。

メモリー送信の文書を取り消します。原稿をメモリーに蓄積したあとで相手先や原稿の間違いに気付いたとき、送信を取りやめることができます。メモリー送信を取り消すには、メモリーに蓄積されている文書の中から、取り消す文書を探して消去します。

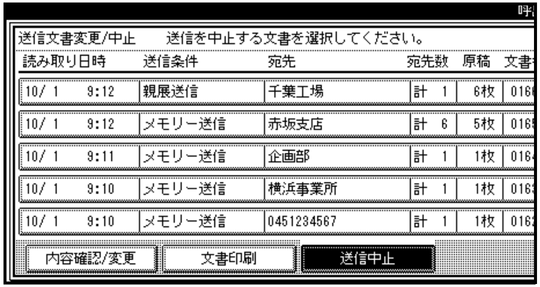
補足

- ❒ 文書が通信中のときに取り消しの操作をした場合は、操作を行ったあとすぐに通信を中断して取り消します。すでに送受信が完了したページは取り消せません。
- ❒ 取り消し操作をしている間に送信が終了したときは、中止できません。

1 ［送信文書変更/中止］を押します。



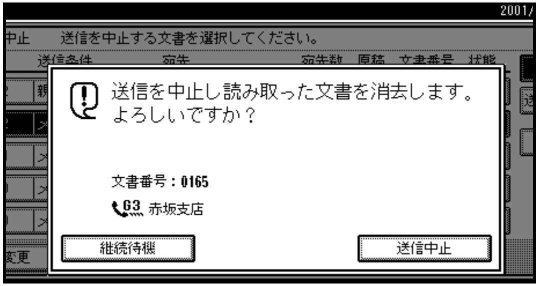
2 送信を中止する文書を押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。
- ❒ 送信中の文書だけを表示させたいときは［送信中のみ表示］を押します。
- ❒ 複数の相手先を指定した文書には、未送信の相手先だけが宛先数に表示されます。すでに送信が完了した相手先は含まれません。
- ❒ 送信時に複数の相手先を指定しても、画面に表示されるのは1件だけです。すべての相手先を見たいときは［内容確認/変更］を押します。

3 [送信中止] を押します。



画面に表示されていた文書の内容が消去されます。

補足

- ❒ 送信を中止しないときは [継続待機] を押します。
- ❒ 続けて送信を中止するときは、手順**2**から繰り返します。

4 [閉じる] を押します。

待機中の画面に戻ります。

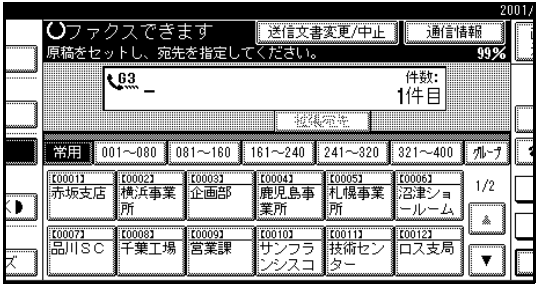
相手先を消去する

設定していた相手先の一部を消去します。

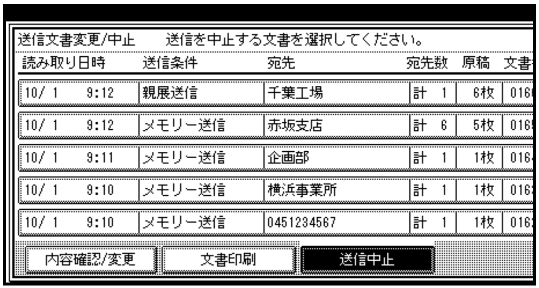
補足

- ❒ 宛先を1件しか設定していないときに、宛先を消去すると、送信そのものが取り消されてしまいます。

1 [送信文書変更/中止] を押します。



2 [内容確認/変更] を押します。



3 相手先を取り消す文書を押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは [▲前へ] または [▼次へ] を押して表示させます。
- ❒ 送信中の文書だけを表示させたいときは [送信中のみ表示] を押します。

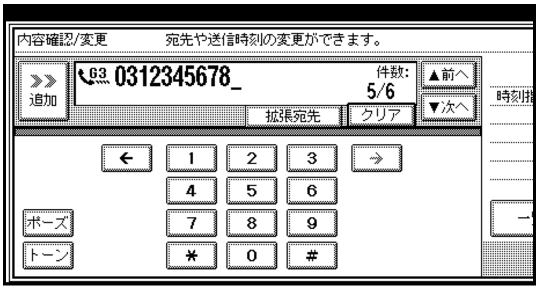
4 取り消す相手先の［変更］を押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

5 ［クリア］を押して相手先を消去します。



6 ［閉じる］を押します。

相手先が消去されました。

補足

- ❒ 続けて相手先を消去するときは、手順**3**から操作します。

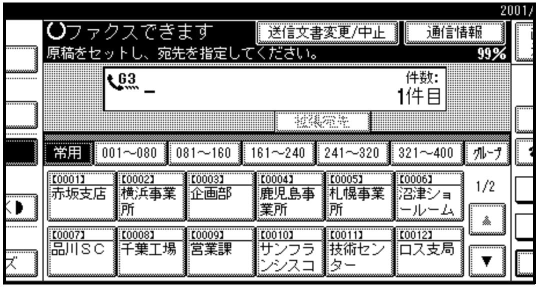
7 ［閉じる］を押します。

待機中の画面に戻ります。

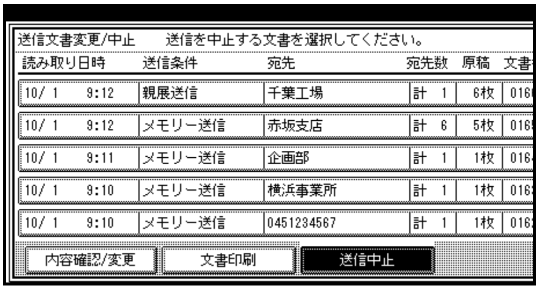
相手先を追加する

送信する相手先を追加します。

1 ［送信文書変更/中止］を押します。



2 ［内容確認/変更］を押します。



3 相手先を追加する文書を押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。
- ❒ 送信中の宛先だけを表示させたいときは［送信中のみ表示］を押します。

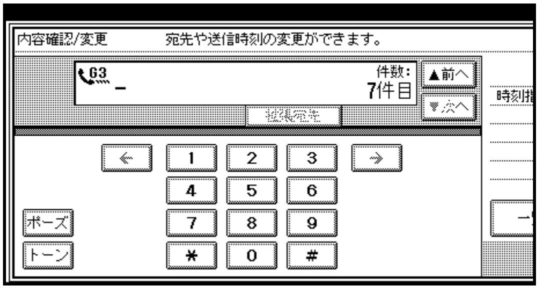
4 ［追加］を押します。



補足

❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

5 追加する相手先をテンキーで入力します。



補足

❒ ［拡張宛先］を押すと、SUBやサブアドレスなども登録できます。

6 ［閉じる］を押します。

補足

❒ 続けて相手先を追加するときは、手順4、5を繰り返します。

7 ［閉じる］を押します。

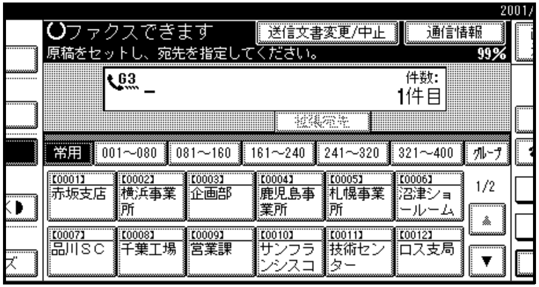
待機中の画面に戻ります。

送信時刻を変更する

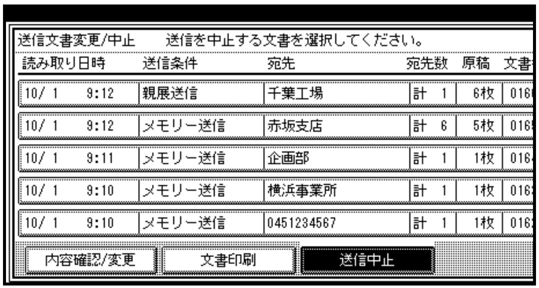
時刻指定送信でメモリーに蓄積した文書の、指定時刻を変更します。⇒ P.10 「時刻指定送信」

また、時刻指定そのものを取り消すこともできます。時刻指定を解除すると、解除後すぐに送信を開始します。

1 ［送信文書変更/中止］を押します。



2 ［内容確認/変更］を押します。



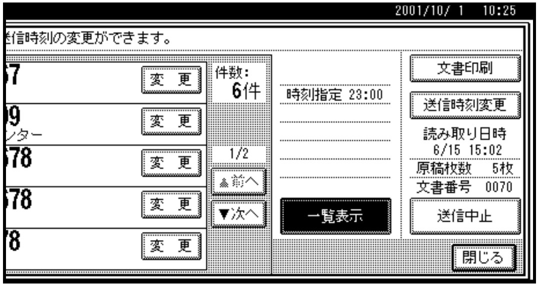
3 送信時刻を変更/解除する文書を押します。



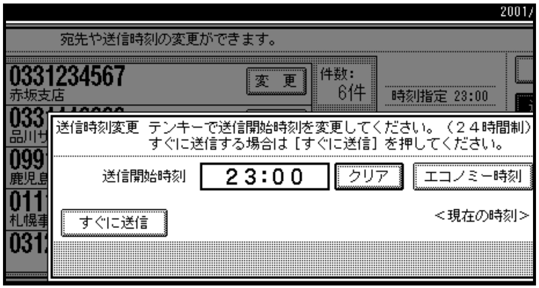
補足

- 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。
- 送信中の宛先だけを表示させたいときは［送信中のみ表示］を押します。

4 [送信時刻変更] を押します。



5 [クリア] を押したあと、送信する時刻をテンキーで入力し直すか、[エコノミー時刻] を押します。



補足

- ❒ 最初は指定した時刻が表示されています。
- ❒ [エコノミー時刻] を押すと、あらかじめ設定されてあるエコノミー時刻が入力されます。⇒P.213「基本設定/調整」
- ❒ すぐに送信したいときは、[すぐに送信] を押します。ただし、メモリーに送信待機中の文書があるときは、その文書のあとに送信されます。

6 [OK] を押します。

7 [閉じる] を押します。

補足

- ❒ 続けて送信時刻を変更するときは、手順3から操作します。

8 [閉じる] を押します。

待機中の画面に戻ります。

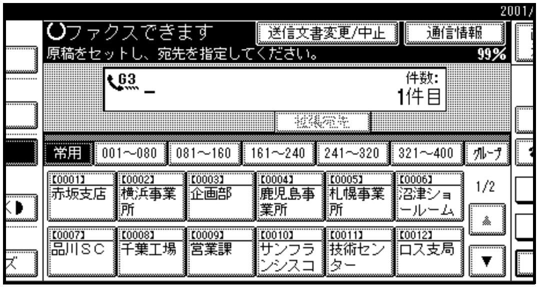
待機中の文書を印刷する

まだ送信されていないメモリー送信の原稿を手動で印刷します。原稿を確認するときに便利です。

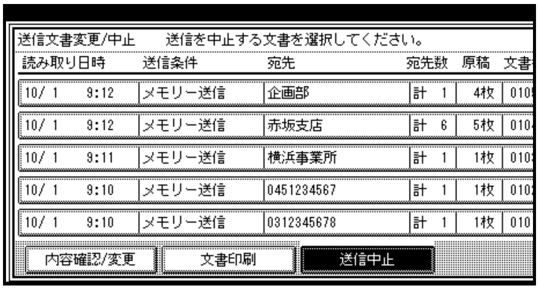
制限

- ❒ 親展送信文書はリストに表示されますが、印刷することはできません。

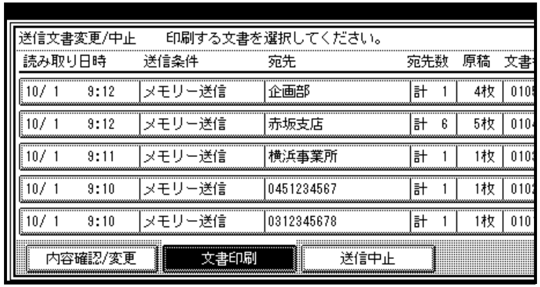
1 ［送信文書変更/中止］を押します。



2 ［文書印刷］を押します。



3 印刷する文書を押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。
- ❒ 複数の相手先を指定した文書には、未送信の相手先件数だけが宛先数に表示されます。すでに送信が完了した相手先は含まれません。
- ❒ 両面印刷（オプション）をするときは［両面に印刷する］を押します。
- ❒ 印刷しないときは、［取消］を押します。手順**3**の画面に戻ります。

4 【スタート】キーを押します。

補足

- ❒ 【スタート】キーを押したあとに印刷を中止するときは［印刷中止］を押します。手順**3**の画面に戻ります。

5 ［閉じる］を押します。

待機中の画面に戻ります。

補足

- ❒ 続けて文書を印刷するときは、手順**3**から操作します。

不達文書を送り直す

メモリー送信できなかった文書は、ファクスのメモリー内に蓄積されています。その文書をもう一度送信することができます。

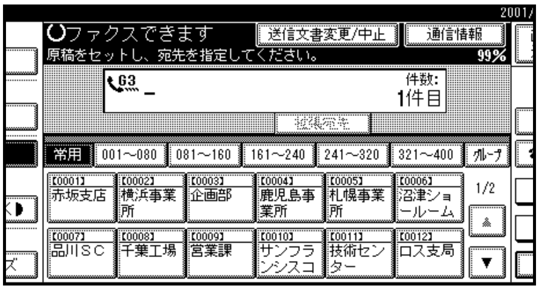
操作の前に

「パラメーター設定」で「送信できなかった文書をメモリーに保持するかどうか」を「保持する」に設定しておきます。工場出荷時は「保持しない」に設定されています。⇒ P.244「パラメーター設定」(スイッチ24 ビット0)

補足

- ❒ 送信できなかった文書をメモリーに保存する時間を「パラメーター設定」で選択することができます。工場出荷時は「24時間」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」(スイッチ24 ビット1)

1 [送信文書変更/中止] を押します。

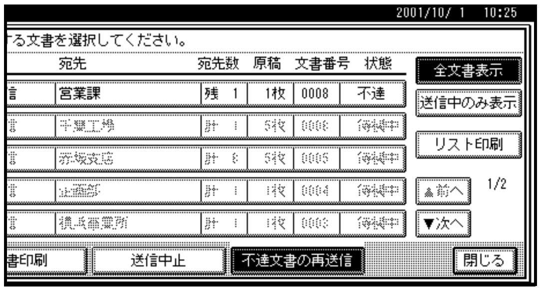


2 [不達文書の再送信] を押します。



3 送り直す文書を押します。

送信できなかった文書は「不達」と表示されています。



補足

- ❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。
- ❒ 複数の相手先を指定した文書には、最初に指定した相手先が表示されています。
- ❒ 複数の相手先を指定した文書には、未送信の相手先件数だけが宛先数に表示されます。すでに送信が完了した相手先は含まれません。

4 ［OK］を押します。

補足

- ❒ 宛先を追加するときは、［追加］を押して指定します。
- ❒ 送信しないときは［取消］を押します。手順3の画面に戻ります。
- ❒ 続けて不達文書を送り直すときは、手順3から操作します。

5 ［閉じる］を押します。

待機中の画面に戻ります。

送信を開始します。

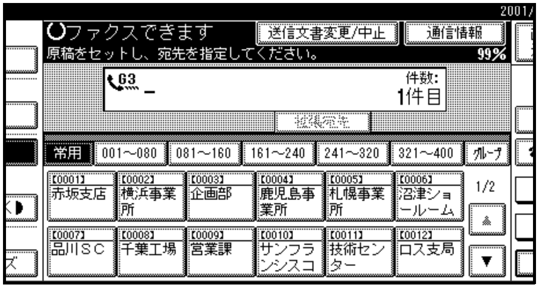
送信待機文書リストを印刷する

送信待機文書リストを手動で印刷します。メモリーに蓄積されている文書の内容を確認できます。

補足

❒ 蓄積されている原稿の内容を印刷することもできます。⇒ P.43「待機中の文書を印刷する」

1 [送信文書変更/中止] を押します。



2 [リスト印刷] を押します。

読み取り日時、送信条件、宛先、宛先数、原稿枚数、文書番号、状態が表示されます。



補足

❒ 印刷しないときは、[取消] を押します。手順**2**の画面に戻ります。

3【スタート】キーを押します。

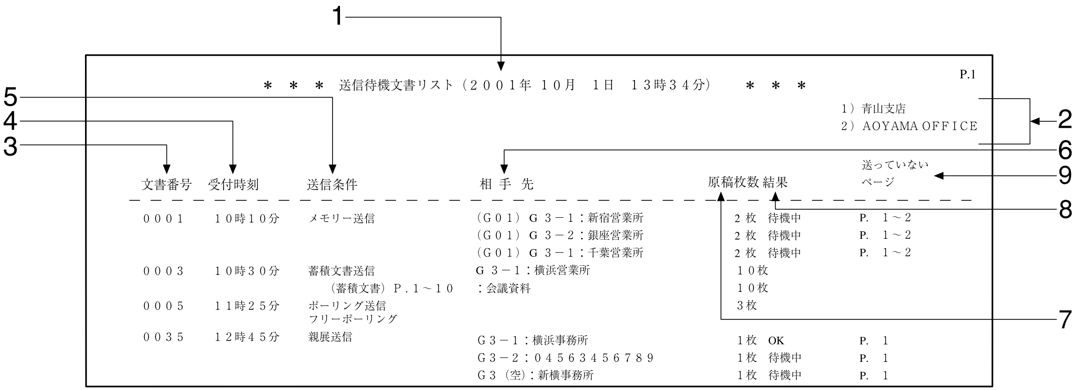
補足

❒ 印刷を中止するときは [印刷中止] を押します。手順**2**の画面に戻ります。

4 [閉じる] を押します。

待機中の画面に戻ります。

送信待機文書リスト



ZEXR010J

***1.* 印刷日時**

リストを印刷した日付と時間が記載されます。

***2.* 発信元名称（印字用）登録内容**

発信元名称（印字用）に登録されている内容が記載されます。

***3.* 文書番号**

文書の管理番号です。

***4.* 受付時刻**

文書を受け付けた（メモリーに蓄積した）時刻です。

***5.* 送信条件**

通信の種類が記載されます。

6. **相手先**

テンキーで指定した場合は入力したファクス番号が記載されます。宛先表で指定した場合は登録してある名称が記載されます。グループで指定した場合はそのグループに登録してあるすべての相手先を記載し、各相手先の先頭に「(G01)」のようにグループナンバーを付けます。

G4ユニット(オプション)を装着しているときは、回線の種類が「G3」「I-G3」「G3 (空)」「G4」のいずれかで記載されます。

増設G3ユニット(オプション)を装着しているときは、回線の種類が「G3-1」「G3-2」「G3 (空)」のいずれかで記載されます。

Fコード(SEP/SUB/PWD/SID)、サブアドレスを登録しているときは、テンキーで登録した相手先にのみSEP/SUB/PWD/SID/サブアドレスを印字します。

7. **原稿枚数**

蓄積した原稿の枚数です。

8. **結果**

送信の結果が記載されます。

通信モードがポーリング送信のときは何も記載されません。

OK	全ページ正しく送信できました。
エラー	正しく送信できませんでした。
送信中	送信中です。
通信中	受信中です。(ポーリング受信のときのみ)
待機中	通信待機中です。

9. **送っていないページ**

メモリー送信のとき送っていないページが記載されます。999枚を超えると「***枚」と記載されます。

通信管理レポート印刷

通信管理レポートを手動で印刷します。最新の送信と受信の結果を50通信分、確認できます。手動で印刷する以外に、送信と受信を合わせて50通信行うたびに自動的に印刷されます。G4ユニット（オプション）または増設G3ユニット（オプション）を付けているときは、使用回線別に通信記録を印刷させることもできます。

重要

- ❒ 自動的に印刷された通信管理レポートに記載されている内容は、印刷後消去されます。過去の通信結果を管理するときは、自動的に印刷されたレポートを保管しておくことをお勧めします（最大送受信あわせて200通信分までは画面で確認できます）。

❖ 通常印刷

送受信された順番に通信結果が印刷されます。

❖ 文書番号印刷

指定した文書番号の通信結果が印刷されます。

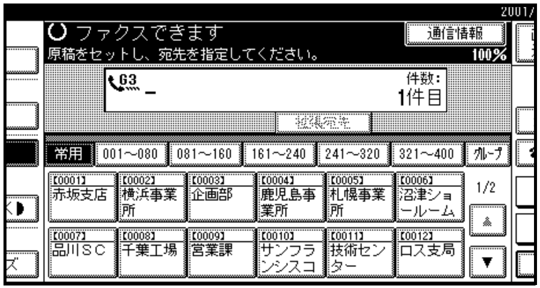
❖ ユーザーコード別印刷

ユーザーコード利用制限のときに送信した文書のうち、指定したユーザーコードを入力して送信した文書の通信結果が印刷されます。⇒ ファクス機能 基本編 「第1章 表示画面とキー操作について」

補足

- ❒ 送信と受信を合わせて50通信行うたびに自動的に印刷されます。
- ❒ 特定相手先を登録するときは、通信管理レポートの相手先名称欄で確認すると便利です。⇒ P.53「通信管理レポート」
- ❒ 50通信ごとにこのレポートを自動的に印刷するかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「印刷する」に設定されています。⇒ P.244「パラメーター設定」（スイッチ03 ビット7）
- ❒ 通信結果を使用回線別に印刷させるかどうか「パラメーター設定」で設定します。工場出荷時は「しない」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ19 ビット1）

1 ［通信情報］を押します。

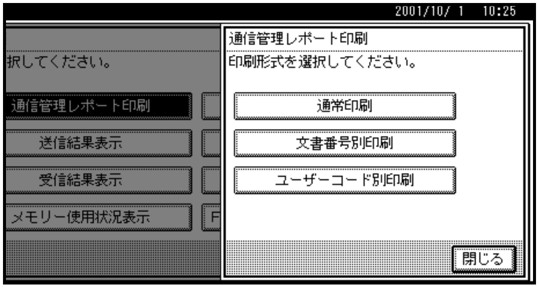


通信情報のメニュー画面が表示されます。

2 ［通信管理レポート印刷］を押します。



3 印刷する形式を選択します。



「通常印刷」を選択するとき

❶ ［通常印刷］を押します。

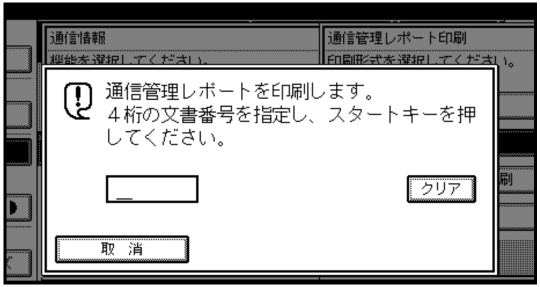
「文書番号別印刷」を選択するとき

❶ ［文書番号別印刷］を押します。

❷ 文書番号（4桁の数字）をテンキーで入力します。

補足

❒ 間違えたときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。



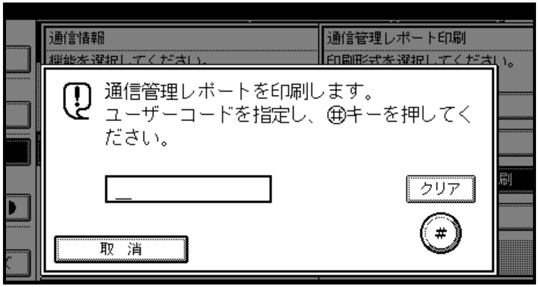
「ユーザーコード別印刷」を選択するとき

❶ ［ユーザーコード別印刷］を押します。

❷ ユーザーコード（8桁までの数字）をテンキーで入力します。

補足

❒ 間違えたときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。



❸ ［#］を押します。

4 【スタート】キーを押します。

レポートが印刷されます。

補足

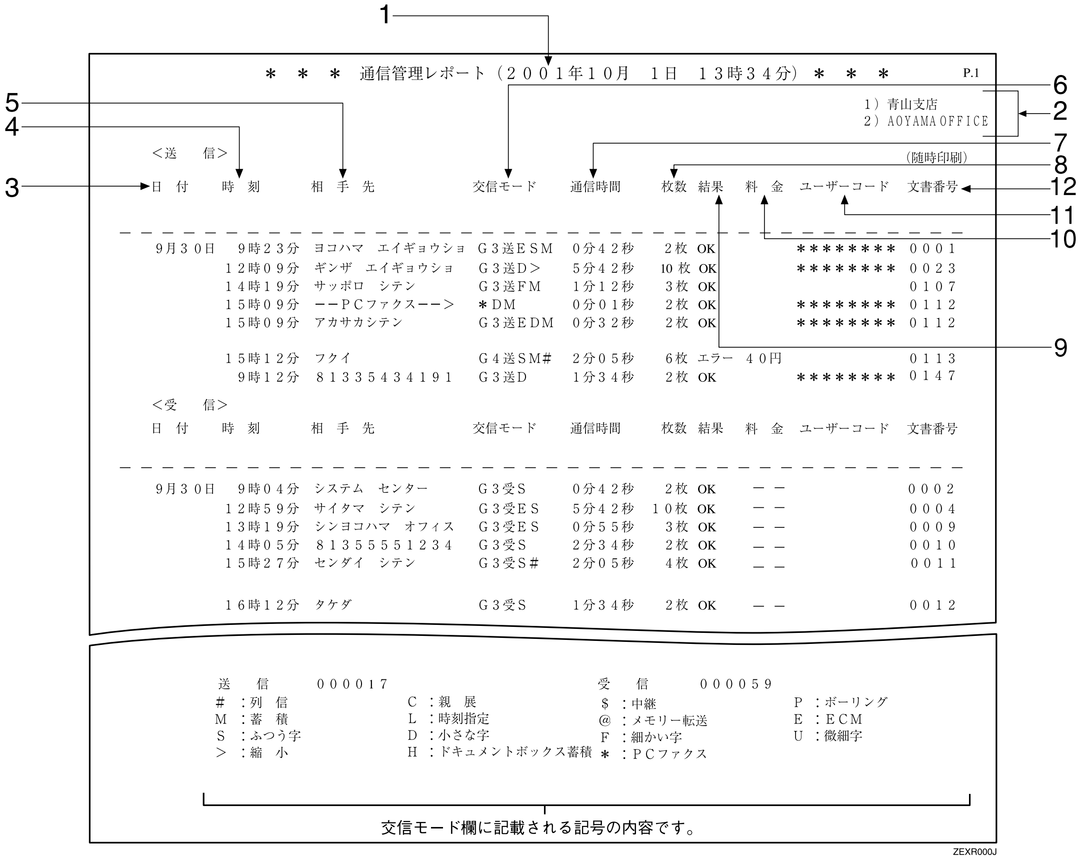
❒ 印刷を中止するときは［印刷中止］を押します。手順2の画面に戻ります。

5 ［閉じる］を押します。

6 ［閉じる］を押します。

待機中の画面に戻ります。

通信管理レポート


1
＊ ＊ ＊ 通信管理レポート（２００１年１０月 １日 １３時３４分）＊ ＊ ＊
P.1
6
１）青山支店
２）AOYAMA OFFICE
2
5
4
7
（随時印刷）
8
＜送 信＞
3
日 付 時 刻 相 手 先 交信モード 通信時間 枚数 結果 料 金 ユーザーコード 文書番号
12
11
10
９月３０日 ９時２３分 ヨコハマ エイギョウショ Ｇ３送ＥＳＭ ０分４２秒 ２枚 OK ＊＊＊＊＊＊＊＊ ０００１
１２時０９分 ギンザ エイギョウショ Ｇ３送Ｄ＞ ５分４２秒 10 枚 OK ＊＊＊＊＊＊＊＊ ００２３
１４時１９分 サッポロ シテン Ｇ３送ＦＭ １分１２秒 ３枚 OK ０１０７
１５時０９分 ーーＰＣファクスーー＞ ＊ＤＭ ０分０１秒 ２枚 OK ＊＊＊＊＊＊＊＊ ０１１２
１５時０９分 アカサカシテン Ｇ３送ＥＤＭ ０分３２秒 ２枚 OK ＊＊＊＊＊＊＊＊ ０１１２
9
１５時１２分 フクイ Ｇ４送ＳＭ＃ ２分０５秒 ６枚 エラー ４０円 ０１１３
９時１２分 ８１３３５４３４１９１ Ｇ３送Ｄ １分３４秒 ２枚 OK ＊＊＊＊＊＊＊＊ ０１４７
＜受 信＞
日 付 時 刻 相 手 先 交信モード 通信時間 枚数 結果 料 金 ユーザーコード 文書番号
９月３０日 ９時０４分 システム センター Ｇ３受Ｓ ０分４２秒 ２枚 OK ーー ０００２
１２時５９分 サイタマ シテン Ｇ３受ＥＳ ５分４２秒 １０枚 OK ーー ０００４
１３時１９分 シンヨコハマ オフィス Ｇ３受ＥＳ ０分５５秒 ３枚 OK ーー ０００９
１４時０５分 ８１３５５５５１２３４ Ｇ３受Ｓ ２分３４秒 ２枚 OK ーー ００１０
１５時２７分 センダイ シテン Ｇ３受Ｓ＃ ２分０５秒 ４枚 OK ーー ００１１
１６時１２分 タケダ Ｇ３受Ｓ １分３４秒 ２枚 OK ーー ００１２
送 信 ０００１７ 受 信 ０００５９
＃ ：列 信
Ｍ ：蓄 積
Ｓ ：ふつう字
＞ ：縮 小
Ｃ ：親 展
Ｌ ：時刻指定
Ｄ ：小さな字
Ｈ ：ドキュメントボックス蓄積
＄ ：中継
＠ ：メモリー転送
Ｆ ：細かい字
＊ ：ＰＣファクス
Ｐ ：ポーリング
Ｅ ：ＥＣＭ
Ｕ ：微細字
交信モード欄に記載される記号の内容です。
ZEXR000J

1. **印刷日時**
レポートを印刷した日付と時間が記載されます。

2. **発信元名称（印字用）登録内容**
発信元名称（印字用）に登録されている内容が記載されます。

3. **日付**
送受信した月日です。

4. **時刻**
送受信を開始した時刻です。

5. **相手先**
相手先に発信元名称（表示用）が登録してあるときはその発信元名称（表示用）が、発信元名称（表示用）がなく発信元ファクス番号が登録してあるときはその発信元ファクス番号が記載されます。発信元名称（表示用）も発信元ファクス番号もない場合、送信時は入力したファクス番号、宛先表の名称が記載されますが、受信時は何も記載されません。
入力したファクス番号や宛先表の名称、グループ宛先の名称が優先して記載されるようにするときは、サービス実施店にご連絡ください。

6. **交信モード**
送信を表す「送」、受信を表す「受」の文字のあとに、通信モードがアルファベットや記号で記載されます。
記載される内容は次のとおりです。
G4ユニット（オプション）、増設G3ユニット（オプション）を装着しているときは、回線の種類が「G3-1」「G3-2」「G4」のいずれかで記載されます。

7. **通信時間**
送受信にかかった時間です。99 分 59 秒を超えると、「**分**秒」と記載されます。

8. **枚数**
送受信した枚数です。999枚を超えると、「***枚」と記載されます。

9. **結果**
送信の結果が記載されます。

OK	全ページ正しく送受信できました。
エラー	正しく送受信できませんでした。
電源断	交信中に電源が切れました。一部原稿が送信されておりません。

10. **料金**
通信料金が記載されます。
記載されるのは、G4ユニット（オプション）を装着しているときです。ただし、通信料金が999999円を超えると「******円」と記載されます。

補足

- ❒ G4またはI-G3を使った送信の料金のみが記載され、G3 を使った送信の料金は記載されません。
- ❒ 海外に送信したときは料金が計算されないことがあります。

11. **ユーザーコード**
ユーザーコード利用制限のときに「＊＊＊＊＊＊＊＊」と記載されます。

12. **文書番号**

文書の管理番号です。

送信結果表示

通信管理レポートの内容の一部を画面に表示できます。

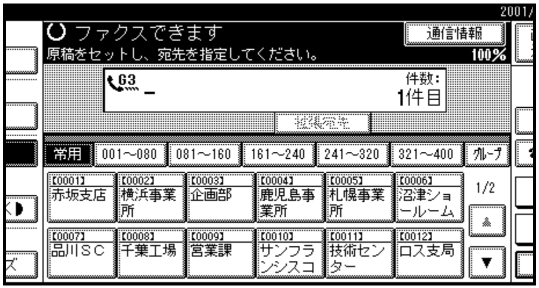
制限

- 「送信結果表示」を表示している間に終了した送信の結果は表示されません。「送信結果表示」をいったん終了し、もう一度操作し直してください。

補足

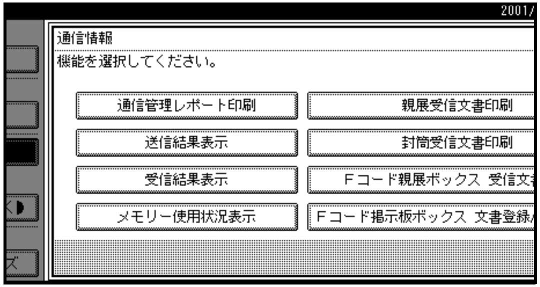
- 通信の結果が新しいもの（送受信あわせて最大200通信）から、送信結果だけを表示します。

1 ［通信情報］を押します。



通信情報のメニュー画面が表示されます。

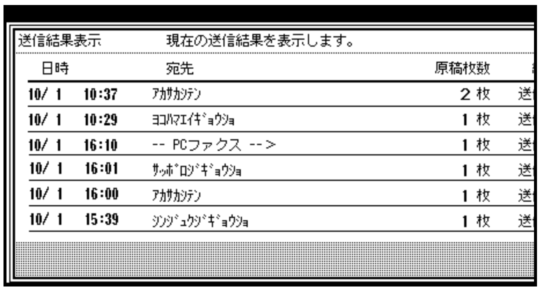
2 ［送信結果表示］を押します。



送信結果が新しい順に6通信分ずつ表示されます。

日時、宛先、原稿枚数、結果、文書番号が表示されます。

3 送信結果を確認し、［閉じる］を押します。



補足

- ❒ 表示されていない送信結果を見るときは、[▲前へ]または[▼次へ]を押して表示させせます。
- ❒ 宛先には、発信元名称(表示用)または発信元ファクス番号が表示されます。パソコンからファクス送信したときは、「− −PCファクス− −>」と表示されます。

4 [閉じる]を押します。

待機中の画面に戻ります。

受信結果表示

通信管理レポートの内容の一部を画面に表示できます。

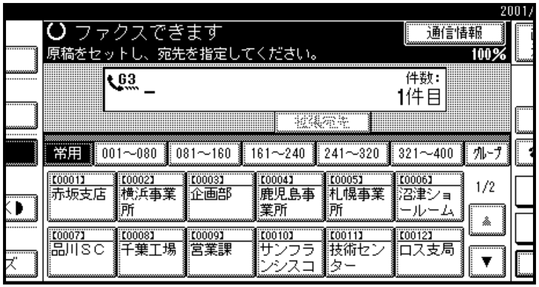
制限

- ❒「受信結果表示」を表示している間に終了した受信の結果は表示されません。「受信結果表示」をいったん終了し、もう一度操作し直してください。

補足

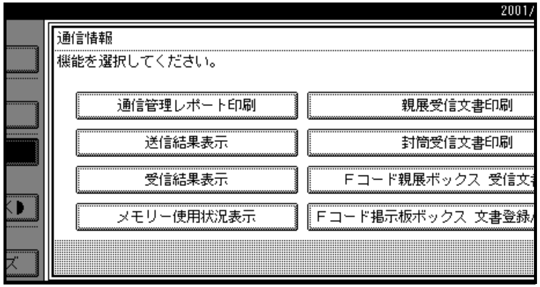
- ❒ 通信の結果が新しいもの（送受信あわせて最大200通信）から、受信結果だけを表示します。

1 ［通信情報］を押します。



通信情報のメニュー画面が表示されます。

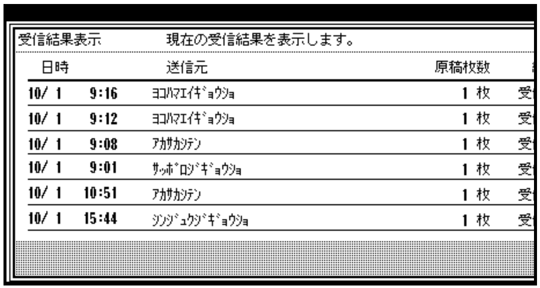
2 ［受信結果表示］を押します。



受信結果が新しい順に6通信分ずつ表示されます。

日時、送信元、原稿枚数、結果、文書番号が表示されます。

3 受信結果を確認し、［閉じる］を押します。



補足

- ❒ 表示されていない受信結果を見るときは、[▲前へ] または [▼次へ] を押して表示させます。
- ❒ 送信元には、あらかじめ登録された発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号が表示されます。

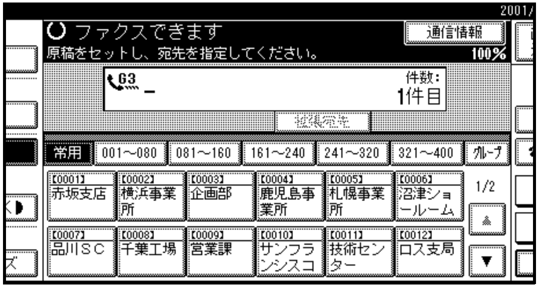
4 [閉じる] を押します。

待機中の画面に戻ります。

メモリー使用状況表示

メモリーが何に使われているかを画面に表示します。メモリー残量、送信待機文書の数、親展受信文書の数、封筒受信文書の数、受信印刷待機文書の数を画面で確認できます。

1 ［通信情報］を押します。

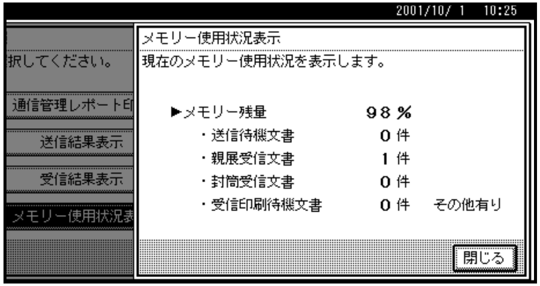


通信情報のメニュー画面が表示されます。

2 ［メモリー使用状況表示］を押します。



3 メモリーの使用状況を確認し、［閉じる］を押します。



補足

- 次の場合に「その他有り」が表示されます。
  - 文書添付の文書を登録しているとき⇒ P.104「文書添付」
  - 中継依頼送信された文書を登録しているとき⇒ P.83「中継依頼送信」
  - Fコード掲示板ボックスに原稿を登録しているとき⇒ P.69「掲示板ボックスに文書を登録する」
  - Fコード親展ボックスに受信したとき⇒ P.67「親展ボックスの受信文書を印刷する」

4 ［閉じる］を押します。

待機中の画面に戻ります。

親展受信印刷

親展受信すると親展受信ランプが点灯します。親展受信した文書はメモリーに蓄積され、自動的には印刷されません。この文書は親展IDを入力して印刷します。

親展IDを知らない人は印刷できないので、受信した文書を他人に見られずにすみます。

操作の前に

あらかじめ親展IDを登録しておきます。⇒ P.295「親展ID登録」

重要

- ❒ 停電時や電源コンセントを抜いたときそのまま約1時間経過すると、親展受信した文書はすべて消去されます。消去された原稿は「電源断レポート」⇒ P.336で確認します。

制限

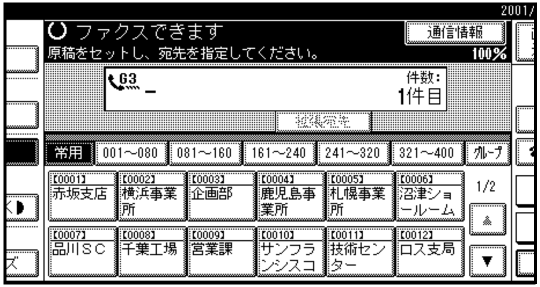
- ❒ 親展IDを登録していないと親展受信できません。

1 親展受信ランプが点灯していることを確認します。



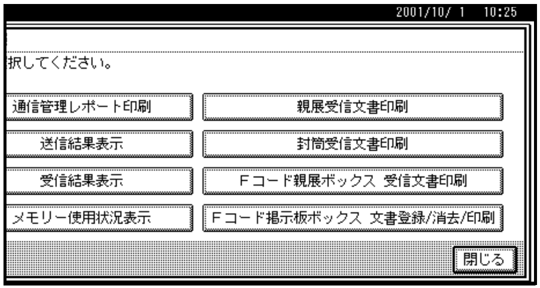
ZFLS150J

2 [通信情報] を押します。



通信情報のメニュー画面が表示されます。

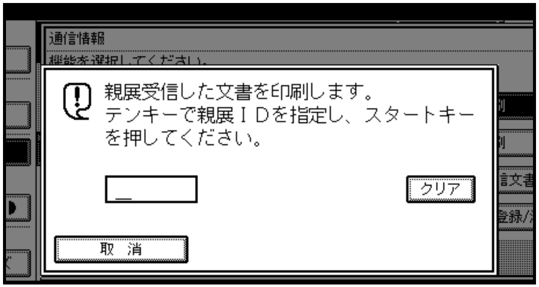
3 [親展受信文書印刷] を押します。



4 親展ID（4桁の数字）をテンキーで入力します。.

入力する親展IDは、相手先の送信方法によって異なります。

- 相手先が親展 ID を指定しないで送信したとき（通常親展送信）は、本機に登録した親展IDを入力します。
- 相手先が親展 ID を指定して送信したとき（ID パーソナル親展送信）は、相手先が操作のときに指定した親展IDを入力します。相手先の指定した親展IDを確認してください。



補足

- ❒ 親展受信した文書がないときは「受信文書はありません。」と表示されます。［確認］を押してください。
- ❒ 親展 ID やパーソナル親展 ID が一致しないときは「指定した親展IDの受信文書はありません。」と表示されます。［確認］を押して操作を終了し、相手先に親展IDやパーソナル親展IDを確認してからもう一度操作し直してください。

5【スタート】キーを押します。

受信文書が印刷されます。印刷終了後、通信情報のメニュー画面に戻ります。

6［閉じる］を押します。

待機中の画面に戻ります。

親展受信ランプが点灯しているのに親展受信印刷ができないときは

親展受信ランプは、F コード親展ボックスに受信したときにも点灯します。F コード親展ボックスを確認してください。

補足

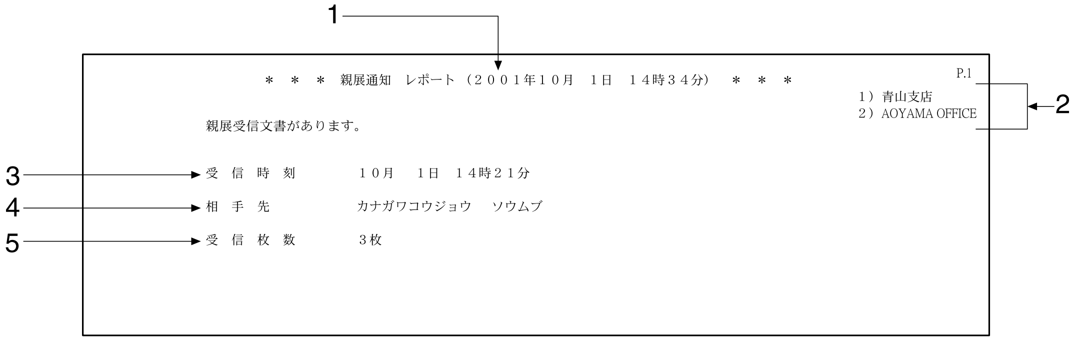
- ❒ 相手先から F コード (SUB) を付けて原稿が送信されたときは、F コード親展ボックスから印刷します。⇒ P.67「親展ボックスの受信文書を印刷する」

親展通知レポート

親展受信があったことを確認できます。

補足

- ❒ 親展受信したときにこのレポートを自動的に印刷するかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「印刷する」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ04 ビット0）



1. **印刷日時**

   レポートを印刷した日付と時間が記載されます。

2. **発信元名称（印字用）登録内容**

   発信元名称（印字用）に登録されている内容が記載されます。

3. **受信時刻**

   親展受信した時刻が記載されます。

4. **相手先**

   相手先の発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号が記載されます。

5. **受信枚数**

   親展受信した枚数です。

封筒受信印刷

封筒受信すると親展受信ランプが点滅します。封筒受信を設定しておくと、受信した原稿はメモリーに蓄積され、自動的には印刷されません。この原稿はあらかじめ登録しておいた封筒IDを入力して印刷します。

封筒IDを知らない人は印刷できないので、内容を他人に見られずにすみます。

操作の前に

あらかじめ封筒IDを登録しておきます。⇒ P.298 「封筒ID登録」

あらかじめ封筒受信の機能を「ON（使用する）」にしておきます。⇒ P.238 「封筒受信」

重要

❒ 停電時や電源コンセントを抜いたときそのまま約1時間経過すると、封筒受信した文書はすべて消去されます。消去された原稿はP.336「電源断レポート」で確認します。

制限

❒ ポーリング受信した原稿は封筒受信の対象とはならず、受信したあと自動的に印刷されます。

補足

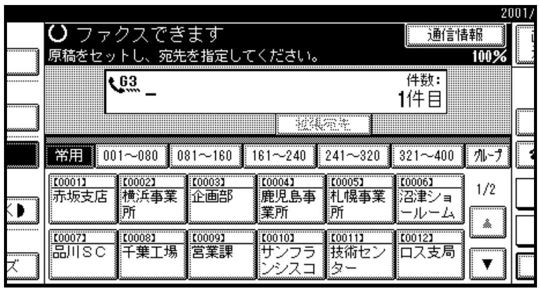
❒ 特定の相手先から受信した文書だけを封筒受信するように設定することもできます。⇒ P.262 「特定相手先の登録/変更」

1 親展受信ランプが点滅していることを確認します。



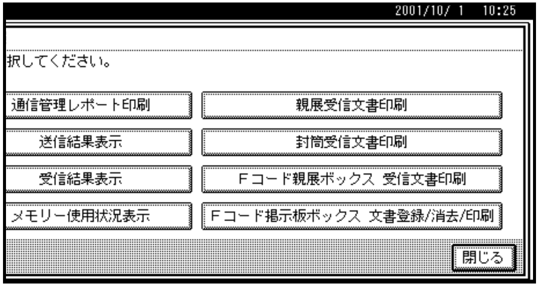
ZFLS150J

2 ［通信情報］を押します。

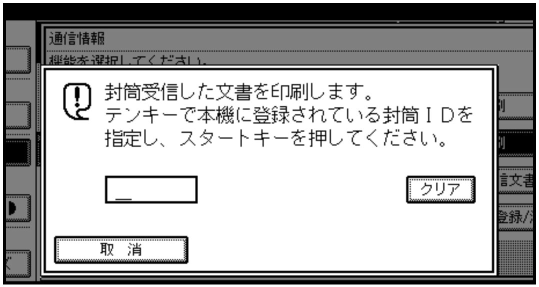


通信情報のメニュー画面が表示されます。

3 ［封筒受信文書印刷］を押します。



4 封筒ID（4桁の数字）をテンキーで入力します。



補足

- ❒ 封筒受信した文書がないときは「受信文書はありません。」と表示されます。［確認］を押してください。
- ❒ 封筒IDが一致しないときは「指定したコードは登録されている封筒IDと一致しません。」と表示されます。［確認］を押して操作を終了し、封筒IDを確認してからもう一度操作し直してください。

5 【スタート】キーを押します。

受信文書が印刷されます。印刷終了後、通信情報のメニュー画面に戻ります。

6 ［閉じる］を押します。

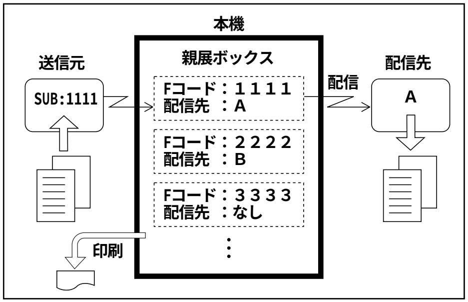
待機中の画面に戻ります。

F コード親展ボックスを使う

親展ボックスとは

本機を利用者や部門ごとの私書箱のように利用するときに設定します。

親展ボックスを設定すると、送信文書を他人に見られることなく受信することができます。また、親展ボックスに配信先を登録しておくと、受信した文書を自動的に配信先に送信させることができます。



GFSINB0J

補足

- ❒ 親展ボックスに登録したFコードを送信元に伝え、Fコードと一致する「SUB」を付けて文書を送信してもらいます。「Fコード(SUB)」⇒ P.78
- ❒ 文書を受信すると親展受信ランプが点灯し、親展通知レポートが印刷されます。⇒ P.63「親展通知レポート」
- ❒ 親展ボックスに配信先を登録しているときは、受信した文書に「メモリー転送マーク印字」⇒ P.237 を付けて配信します。親展ボックスに配信先を登録していないときは、「親展ボックスの受信文書を印刷する」⇒ P.67で受信した文書を印刷します。配信された文書は消去されます。

親展ボックスの受信文書を印刷する

親展ボックスに受信した文書（Fコード親展文書）を印刷します。

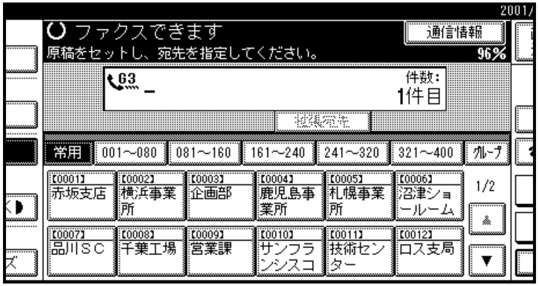
操作の前に

あらかじめ F コード親展ボックスを設定しておきます。⇒ P.274 「親展ボックスの登録/変更」

補足

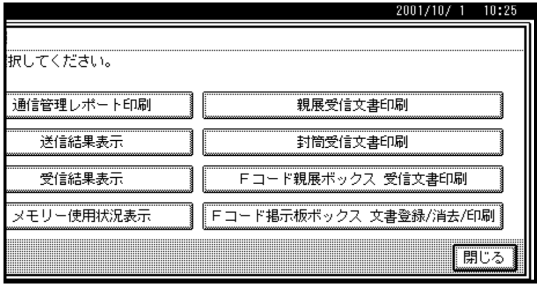
❒ Fコード親展文書は印刷すると消去されます。

1 ［通信情報］ を押します。

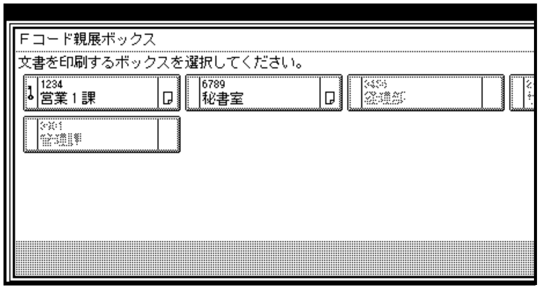


通信情報のメニュー画面が表示されます。

2 ［Fコード親展ボックス 受信文書印刷］ を押します。



3 印刷する文書のボックスを押します。



補足

❒ 印刷する文書が表示されていないときは、［▲前へ］ または ［▼次へ］ を押して探します。

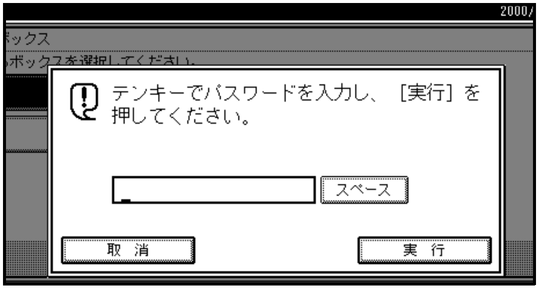
パスワードが設定されているとき

選択した F コード親展ボックスにパスワードがあらかじめ設定されているとき、次の画面が表示されます。

補足

- ❒ パスワードの登録は「管理者用設定」で行います。⇒ P.274 「親展ボックスの登録/変更」

❶ パスワードを入力します。



補足

- ❒ 間違ったときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して、入力し直します。
- ❒ ［取消］を押すと、手順3の画面に戻ります。

❷ ［実行］を押します。

4 【スタート】キーを押します。

受信文書が印刷されます。

補足

- ❒ 印刷を中止するときは［印刷中止］を押します。手順3の画面に戻ります。中止した文書は消去されません。

5 ［閉じる］を押します。

補足

- ❒ 続けて別の親展ボックスの文書を印刷するときは、手順3から操作します。

6 ［閉じる］を押します。

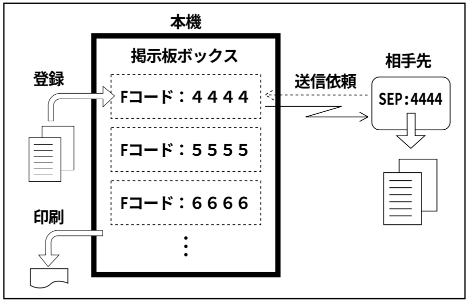
待機中の画面に戻ります。

F コード掲示板ボックスを使う

掲示板ボックスとは

本機を掲示板として利用するとき、掲示する文書ごとに設定します。

好きなときに相手先から送信依頼をしてもらい、掲示板ボックスに登録した文書を取り出してもらうことができます。



GFKEIB0J

- 掲示板ボックスへの文書の登録は、「掲示板ボックスに文書を登録する」で行います。⇒ P.69
- 掲示板ボックスに登録した F コードを相手先に伝えておきます。
- 相手先から送信依頼があると、相手先からの「SEP」と掲示板ボックスに登録したFコードを比較し、一致すると相手先に文書を送信します。⇒ P.80 「Fコード(SEP)」
- 掲示板ボックスに登録した文書は、「掲示板の文書を印刷する」⇒ P.72で印刷もできます。
- F コード掲示板ボックスにあらかじめパスワードを設定しておくことができます。

補足

❒ パスワードの登録は「管理者用設定」で行います。⇒ P.280 「掲示板ボックスの登録/変更」

掲示板ボックスに文書を登録する

掲示板ボックスに文書を登録します。

操作の前に

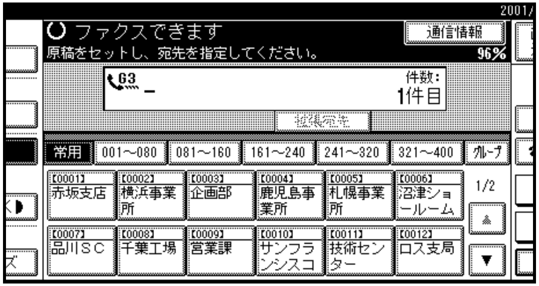
あらかじめ F コード掲示板ボックスを設定しておきます。⇒ P.280 「掲示板ボックスの登録/変更」

補足

❒ 1個の掲示板ボックスに登録できる文書は1件です。

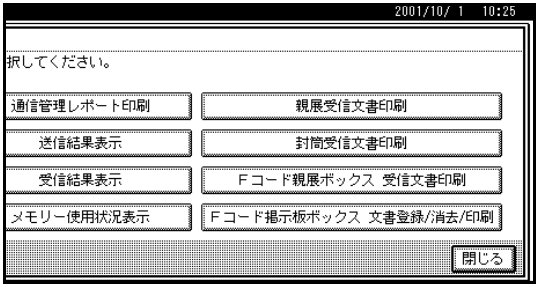
❒ 登録した文書は自動的には消去されません。登録ずみの文書を消去するときは、「文書消去」で消去します。⇒ P.74 「掲示板の文書を消去する」

1 ［通信情報］を押します。

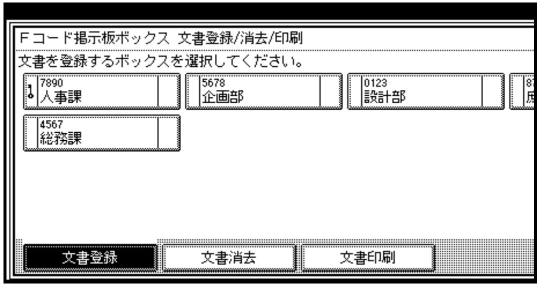


通信情報のメニュー画面が表示されます。

2 ［Fコード掲示板ボックス　文書登録/消去/印刷］を押します。



3 文書を登録するボックスを押します。

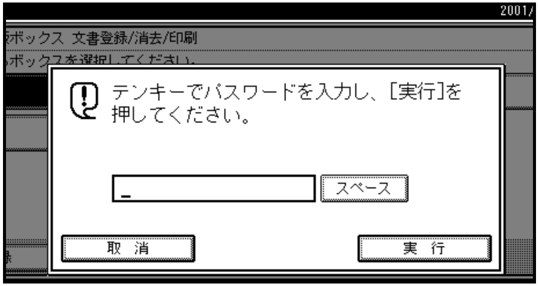


補足

- ❒ 登録するボックスが表示されていないときは、［▲前へ］または［▼次へ］を押して探します。
- ❒ すでに登録された文書があるときは、ボックス名の後に文書を表わすマークが表示されます。
- ❒ 文書が登録されているボックスを選択すると、メッセージが表示されます。文書を変更するときは［登録］を押します。このとき、もともと登録されていた文書は上書きされます。

パスワードが設定されているとき

❶ パスワードを入力します。

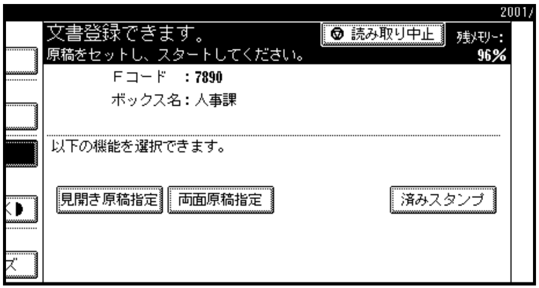


補足

- ❒ 間違ったときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して、入力し直します。
- ❒ ［取消］を押すと、手順3の画面に戻ります。

❷ ［実行］を押します。

4 登録する原稿をセットし、読み取り条件を選択します。



補足

- ❒ 読み取り条件のほかに次の機能が選択できます。
  - 「見開き原稿指定」
  - 「両面原稿指定」（オプションの自動原稿送り装置(ADF)が必要）
  - 「済みスタンプ」（オプションの自動原稿送り装置(ADF)が必要）

5 【スタート】キーを押します。

原稿が読み取りされます。

読み取りを中止するときは［読み取り中止］を押します。手順3の画面に戻ります。

補足

- ❒ 原稿ガラスに原稿をセットしたときは、60秒以内に次の原稿をセットします。セットする原稿がないときは［#］を押します。

6 ［閉じる］を押します。

補足

- ❒ 続けてほかのボックスに文書を登録するときは、手順3から操作します。

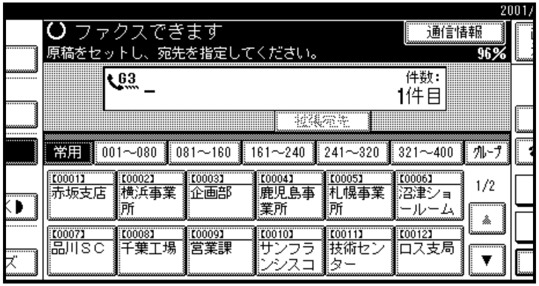
7 ［閉じる］を押します。

待機中の画面に戻ります。

掲示板の文書を印刷する

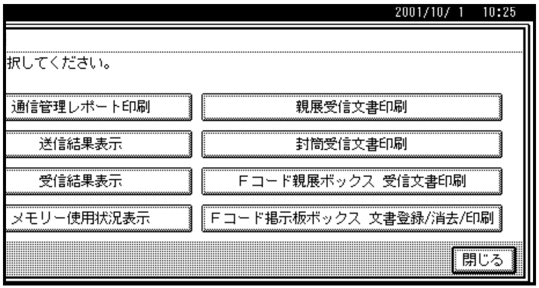
掲示板ボックスに登録されている文書を印刷します。

1 **［通信情報］を押します。**

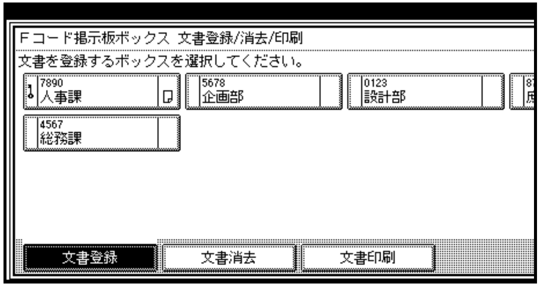


通信情報のメニュー画面が表示されます。

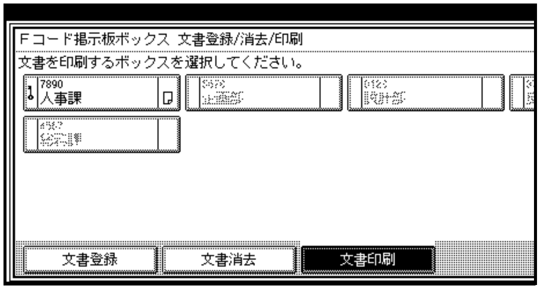
2 **［Fコード掲示板ボックス　文書登録/消去/印刷］を押します。**



3 **［文書印刷］を押します。**



4 **印刷する文書が登録されているボックスを押します。**

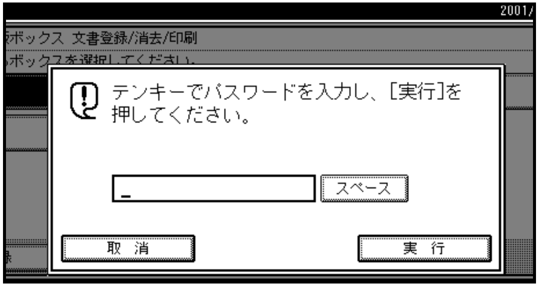


補足

- ❒ 登録するボックスが表示されていないときは、［▲前へ］または［▼次へ］を押して探します。
- ❒ 文書が登録されているボックスがないときは、選択できません。

パスワードが設定されているとき

❶ パスワードを入力します。



補足

- ❒ 間違ったときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して、入力し直します。
- ❒ ［取消］を押すと、手順4の画面に戻ります。

❷ ［実行］を押します。

5 【スタート】キーを押します。

登録文書が印刷されます。

補足

- ❒ 両面印刷（オプション）をするときは、【スタート】キーを押す前に［両面に印刷する］を押します。
- ❒ 【スタート】キーを押す前に印刷を中止するときは［取消］を押します。手順4の画面に戻ります。
- ❒ 【スタート】キーを押したあとに印刷を中止するときは［印刷中止］を押します。手順4の画面に戻ります。

6 ［閉じる］を押します。

補足

- ❒ ほかの掲示板ボックスに登録した文書を印刷するときは、手順4から繰り返します。

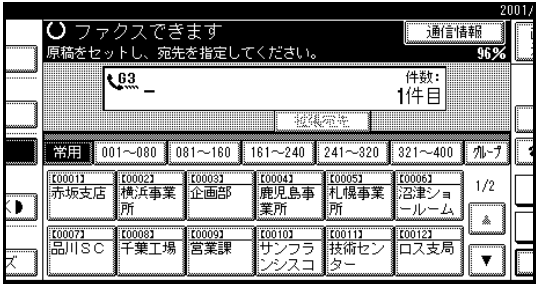
7 ［閉じる］を押します。

待機中の画面に戻ります。

掲示板の文書を消去する

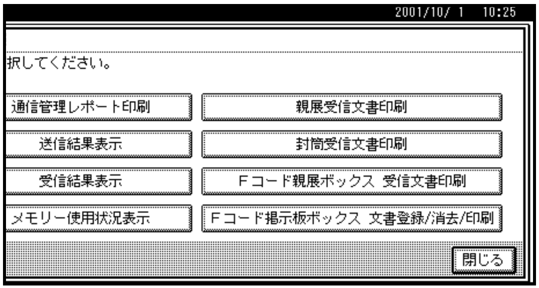
掲示板ボックスに登録されている文書を消去します。

1 **［通信情報］を押します。**

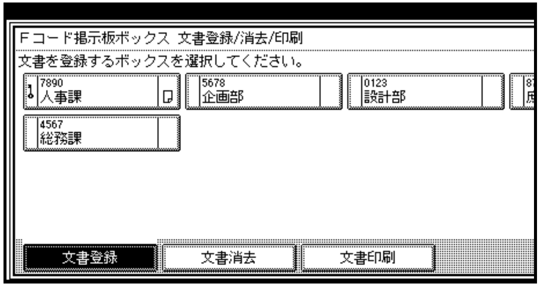


通信情報のメニュー画面が表示されます。

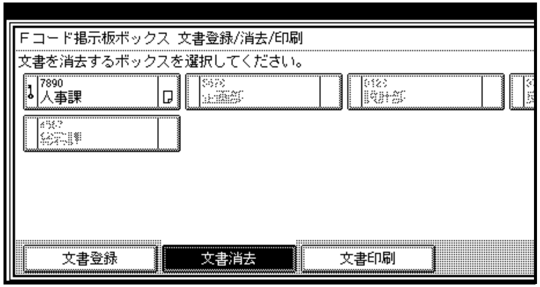
2 **［Fコード掲示板ボックス文書登録/消去/印刷］を押します。**



3 **［文書消去］を押します。**



4 **消去する文書が登録されているボックスを押します。**

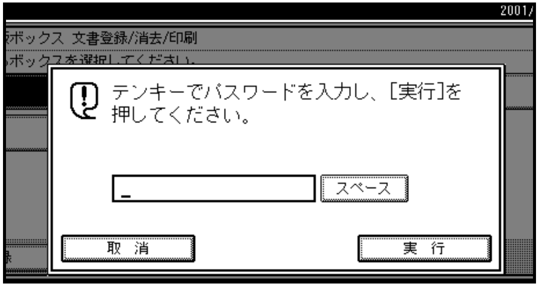


補足

- ❒ 消去する文書が登録されているボックスが表示されていないときは、［▲前へ］または［▼次へ］を押して探します。
- ❒ 文書が登録されているボックスがないときは、選択できません。

パスワードが設定されているとき

❶ パスワードを入力します。



補足

❒ 間違ったときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して、入力し直します。

❒ ［取消］を押すと、手順4の画面に戻ります。

❷ ［実行］を押します。

5 ［消去する］を押します。

掲示板文書が消去されます。

補足

❒ ［消去しない］を押すと、文書を消去しないで手順4の画面に戻ります。

6 ［閉じる］を押します。

補足

❒ ほかの掲示板ボックスに登録した文書を消去する場合には、手順4から繰り返します。

7 ［閉じる］を押します。

待機中の画面に戻ります。

便利なダイヤル機能

チェーンダイヤルで指定する

宛先表とテンキーを組み合わせて指定するなど、2 種類以上の指定方法で相手先を指定することができます。新電電各社のアクセス番号などを登録して使うと便利です。

補足

- ❒ 入力できる桁数は、合わせて254桁までです。
- ❒ メモリー送信と直接送信のときは、ダイヤルの間にポーズを入力します。オンフックダイヤルとマニュアルダイヤルのとき、ポーズは必要ありません。

メモリー送信でチェーンダイヤルを使うとき

宛先表に0077を登録し、テンキーで0222123456を入力するときを例にして説明します。

① 0077を登録している宛先キーを押します。

② **【ポーズ/リダイヤル】**キーを押します。

③ テンキーでファクス番号を入力します。

リダイヤルで指定する

これまでにダイヤルした最新の 10 件の相手先を記憶しています。続けて同じ相手先にダイヤルするときに使うと、ファクス番号を入力し直さなくてもいいので便利です。

制限

- ❒ 次の相手先は記憶しません。
  - 宛先表で指定した相手先
  - グループ宛先
  - プログラムで指定した相手先
  - 中継依頼送信の受信局に指定した相手先
  - 代行受信転送で指定した転送先
  - ハンドセット（オプション）のテンキーで指定した相手先
  - リダイヤルで指定した相手先（すでに記憶ずみと見なします）
  - 複数の相手先を指定した文書の、2宛先目以降
- ❒ リダイヤルが使えるのは、1桁目にダイヤルを入力する前です。入力したあとに**【ポーズ/リダイヤル】**キーを押すと、ポーズが入力されます。

1 【ポーズ/リダイヤル】キーを押します。



2 使用する相手先を選択します。



補足

- ❒ 原稿を読み取らせた日時がキーになっているので、押して選択します。
- ❒ 相手先が表示されていないときは、[▲前へ] または [▼次へ] を押して、表示させます。
- ❒ 相手先が発信元名称（表示用）を登録できる当社のファクスの場合は、ファクス番号と名称等が表示されます。⇒ファクス機能 基本編「第3章 こちらの名称とファクス番号を登録する」

拡張宛先を使う

F コード (SUB)

F コード通信機能を持った他社のファクスへ親展送信することができます。⇒ P.16 「親展送信」

また、中継局機能を持った他社のファクスへ中継依頼送信することができます。

F コード(SUB)を付けて送信すれば、そのF コード(SUB)を知っている関係者の間だけで安全に文書をやり取りすることができます。

制限

- 「SUB」はG3、I-G3のとき使用できます。G4では使用できません。
- 「SUB」を指定するとチェーンダイヤルは使えません。⇒ P.76 「チェーンダイヤルで指定する」
- 通常の親展送信を指定するとFコードの「SUB」は選択できなくなります。

補足

- 入力できる桁数は最大20桁です。
- 入力する桁数は相手先のファクスの仕様に合わせてください。
- 宛先表、グループ宛先、プログラム登録には相手先の名称やファクス番号だけでなく、「SUB」も登録できます。登録可能な文字は数字、スペース、「#」、「＊」です。⇒ファクス機能 基本編「第3章 宛先表に登録する」、ファクス機能 基本編「第3章 グループ宛先を登録する」、P.168「プログラムを登録/変更する」
- 「SUB」は各種リスト/レポートに印字されます。⇒ P.203 「リスト/レポート印刷」

1 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

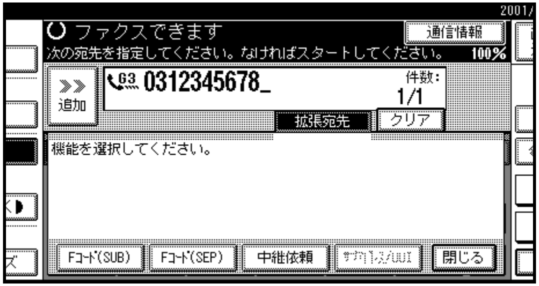
2 相手先のファクス番号をテンキーで入力します。

3 [拡張宛先] を押します。

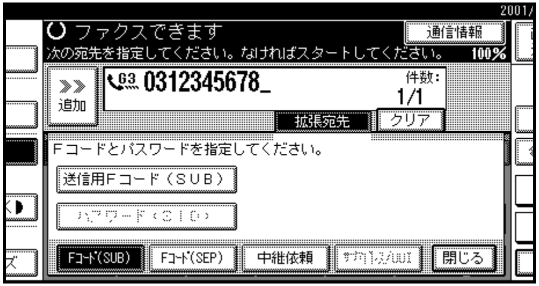


拡張宛先のメニュー画面が表示されます。

4 [Fコード(SUB)］を押します。



5 [送信用Fコード(SUB)］を押します。



6 テンキーで「SUB」を入力します。



補足

- ❒ 間違えたときは、[クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して、入力し直します。

7 [OK］を押します。

[拡張宛先］の上に「Fコード(SUB)」と表示されます。

8 パスワードを入力するときは、[パスワード(SID)］を押して入力します。

9 [閉じる］を押します。

10 【スタート】キーを押します。

補足

- ❒ 直接送信のときは、相手先のファクスに「Fコード」機能がないと、画面にメッセージが表示されます。[確認］を押して送信を中止します。

F コード (SID)

他社のファクス宛に「SUB」機能を使って送信するときに「SID」の入力が必要なときがあります。また、Fコード中継ボックスにパスワードが設定されているときは、「SUB」のほかにパスワードとして「SID」を入力します。

制限

- 入力できる桁数は最大20桁です。

補足

- 宛先表、グループ宛先には相手先の名称やファクス番号だけでなく「SID」も登録できます。登録可能な文字は数字、スペース、「#」、「＊」です。⇒ファクス機能 基本編「第3章 宛先表に登録する」、ファクス機能 基本編「第3章 グループ宛先を登録する」
- 「SID」は各種リスト/レポートに印字されます。⇒ P.203 「リスト/レポート印刷」

F コード (SEP)

通常、IDの付いた原稿を「ポーリング受信」⇒ P.24できるのは、同じ機能を持った当社のファクスだけですが、Fコードの「SEP」を使うと、ポーリング受信機能のある他社のファクスからでもIDの付いた原稿をポーリング受信できます。

相手先に送信の依頼をし、相手先のメモリーに蓄積してあるFコード(SEP)の付いた原稿を受信します。入力したFコード(SEP)と同じFコード(SEP)の付いた相手先の原稿を受信します。

制限

- 「SEP」はG3、I-G3のとき使用できます。G4では使用できません。
- 「SEP」を指定するとチェーンダイヤルは使えません。⇒ P.76 「チェーンダイヤルで指定する」

補足

- 入力できる桁数は最大20桁です。
- 入力する桁数は相手先のファクスの仕様に合わせてください。
- 宛先表、グループ宛先、プログラム登録には相手先の名称やファクス番号だけでなく、「SEP」も登録できます。登録可能な文字は数字、スペース、「#」、「＊」です。⇒ファクス機能 基本編「第3章 宛先表に登録する」、ファクス機能 基本編「第3章 グループ宛先を登録する」、P.168「プログラムを登録/変更する」
- 「SEP」は各種リスト/レポートに印字されます。⇒ P.203 「リスト/レポート印刷」

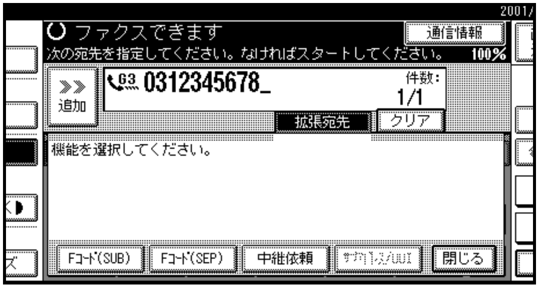
1 相手先のファクス番号をテンキーで入力します。

2 [拡張宛先] を押します。

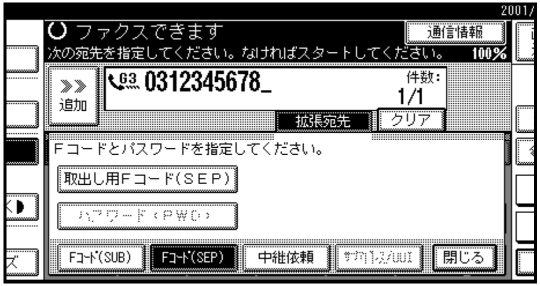


拡張宛先のメニュー画面が表示されます。

3 [Fコード(SEP)] を押します。



4 [取り出し用Fコード(SEP)] を押します。



5 テンキーで「SEP」を入力します。



補足

- 間違えたときは [クリア] または【クリア/ストップ】キーを押して、入力し直します。

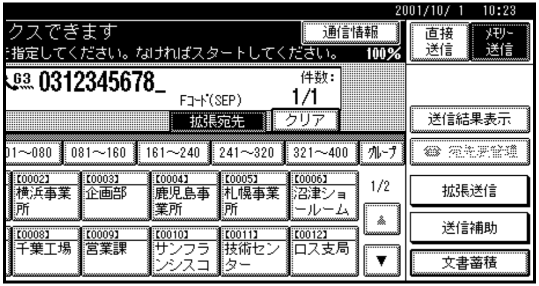
6 [OK] を押します。

[拡張宛先] の上に「Fコード(SEP)」と表示されます。

7 パスワードを入力するときは、[パスワード(PWD)]を押して入力します。

8 [閉じる]を押します。

9 [拡張送信]を押します。

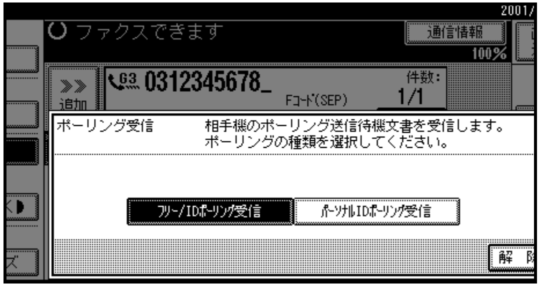


拡張送信のメニュー画面が表示されます。

10 [ポーリング受信]を押します。



11 [フリー/IDポーリング受信]が選択されていることを確認します。



補足

- ❒ 操作を取り消すときは、[解除]を押します。手順**10**の画面に戻ります。

12 [OK]を押します。

拡張送信のメニュー画面に戻ります。

[ポーリング受信]が黒く反転表示され、フリー/IDポーリング受信と表示されます。

13 [OK]を押します。

待機中の画面になります。

14 【スタート】キーを押します。

F コード (PWD)

他社のファクス宛に「SEP」機能を使ってポーリング受信するときに「PWD（パスワード）」の入力が必要なときがあります。当社のファクスから受信するときには必要ありません。

制限

- ❒ 入力できる桁数は最大20桁です。

補足

- ❒ 宛先表、グループ宛先、プログラム登録には相手先の名称やファクス番号だけでなく、「PWD」も登録できます。登録可能な文字は数字、スペース、「#」、「＊」です。⇒ファクス機能 基本編「第3章 宛先表に登録する」、ファクス機能 基本編「第3章 グループ宛先を登録する」、P.168「プログラムを登録/変更する」
- ❒ 「PWD」は各種リスト/レポートに印字されます。⇒ P.203 「リスト/レポート印刷」

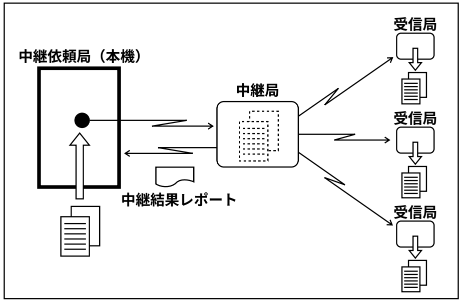
中継依頼送信

中継局機能が付いているファクスを経由して、相手先に送信します。

遠くの複数の相手先に送信するとき、遠距離通信は中継局までの 1 回ですむので通信料金が節約できます。また、1 回の操作で複数の相手先に送信できるので同じ操作を何回も繰り返す必要がありません。

操作の前に

ポーリングIDと中継結果レポート設定を設定しておきます。⇒ P.297 「ポーリングID登録」、P.293 「中継結果レポート設定」



❖ **中継依頼局**
中継依頼送信をするファクス（本機）です。

❖ **中継局**
中継を依頼される、中継局機能付きのファクスです。

❖ **受信局**
中継局から原稿を受信するファクスです。

制限

- ❒ 中継局に指定できるのは中継局機能が付いた当社のファクスだけです。
- ❒ 中継局の宛先表（ワンタッチダイヤル）または短縮ダイヤルに、中継依頼局（本機）のファクス番号が登録されていないと中継依頼送信できません。

補足

- ❒ 中継依頼局（本機）と中継局のファクスには同じポーリングIDを登録します。
- ❒ 1回の中継依頼で指定できる中継局数は最大500件です。ただし、テンキーで指定できる中継局数は最大50件です。
- ❒ 1回の中継依頼で指定できる受信局数は各中継局につき最大30件です。中継局のファクスに登録されているグループ宛先を指定したときは、1グループを1件と数えます。
- ❒ 受信局の指定とテンキーによる中継局の指定は、合計して最大100件です。⇒ファクス機能 基本編「第2章　テンキーで相手先を指定するときの制限事項」

1 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

2 中継局を指定します。

補足

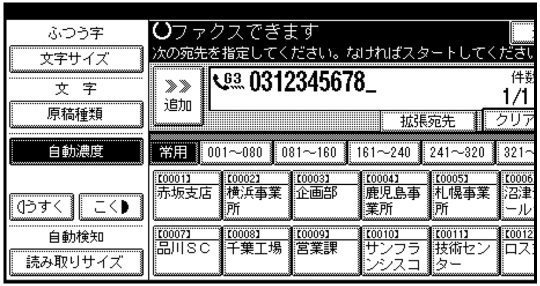
- ❒ 中継局のファクス番号を、「宛先表」、「テンキー」のいずれかで指定します。
- ❒ 間違えたときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。

参照

ファクス機能 基本編「第2章 宛先表を使う」

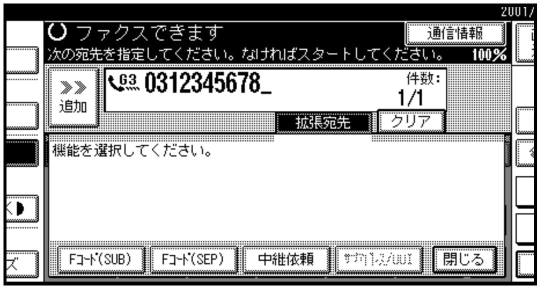
ファクス機能 基本編「第2章 直接番号を入力する」

3 ［拡張宛先］を押します。

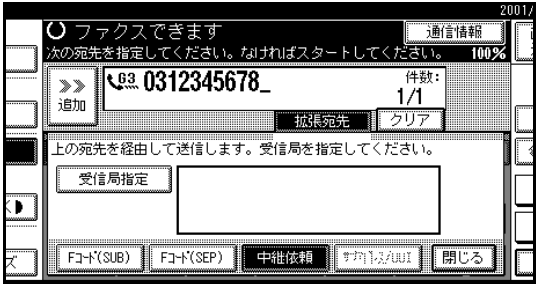


拡張宛先のメニュー画面が表示されます。

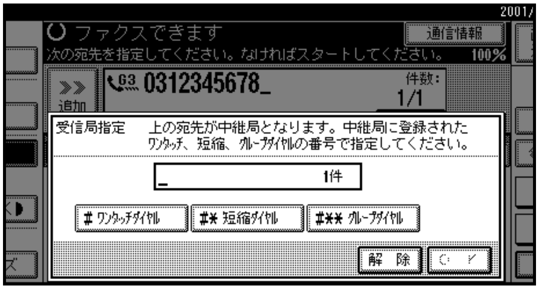
4 ［中継依頼］を押します。



5 ［受信局指定］を押します。



6 受信局を指定します。



補足

- ❒ 受信局は、中継局に登録してある宛先表（ワンタッチダイヤル）、短縮ダイヤル、およびグループ宛先で指定します。
- ❒ 受信局として指定した相手先の情報は中継局に伝えられ、中継局に登録されているファクス番号に送信されます。
- ❒ 中継依頼送信を取り消すときは［解除］を押し、確認のメッセージが表示されてから［解除する］を押します。手順5の画面に戻ります。

宛先表（ワンタッチダイヤル）のとき

❶ ［#ワンタッチダイヤル］を押します。

❷ 中継局の宛先表（ワンタッチダイヤル）に登録してある相手先の番号（2桁または3桁）をテンキーで入力します。

補足

- ❒ 中継局のワンタッチダイヤル 01 に登録してある相手先は【0】【1】と入力します。

短縮ダイヤルのとき

❶ ［#＊短縮ダイヤル］を押します。

❷ 短縮ナンバー（2桁または3桁）をテンキーで入力します。

補足

- ❒ 中継局の短縮ダイヤル 12 に登録してある相手先は【1】【2】と入力します。

グループ宛先のとき

❶ ［＃＊＊グループダイヤル］を押します。

❷ グループナンバー（2桁）で指定します。

補足

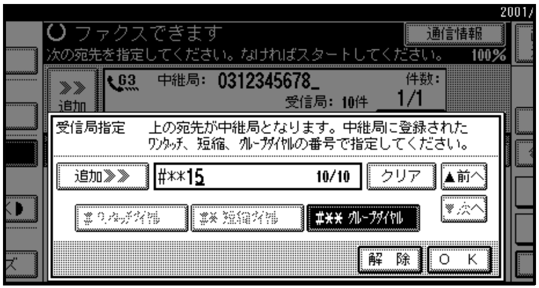
❒ 中継局のグループ宛先04に登録してある相手先は【0】【4】と入力します。

7 次の受信局があれば、［追加］を押して指定します。

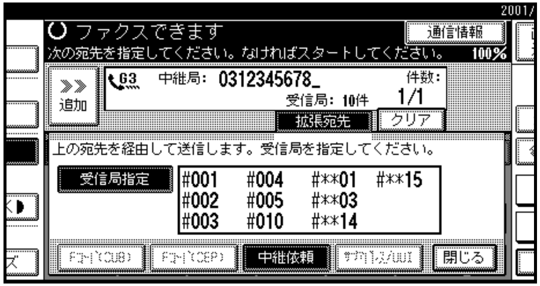
補足

❒ ［▲前へ］または［▼次へ］を押すと、すでに指定した受信局を表示して確認できます。表示した受信局は［クリア］または**【クリア/ストップ】**キーを押して取り消せます。

8 すべての受信局を指定したら、［OK］を押します。



9 ［閉じる］を押します。



中継局と受信局数が表示されます。

10 【スタート】キーを押します。

多段中継グループ設定

グループ宛先に中継局を登録します。相手のファクスが中継依頼送信をしてきたとき、そのグループが受信局として指定されていれば、登録してある中継局に対して中継依頼送信で原稿を送信します。指定されたグループ宛先に登録してある宛先が受信局になります。（中継局１件の宛先に受信局は30件以下に設定してください。）複数の中継局を経由することになり、中継依頼送信がより効率的になります。

詳しくは最寄りのサービス実施店にお問い合わせください。

サブアドレス

この機能を利用するためにはG4 ユニット（オプション）が必要です。

ISDNでは1つの回線に複数の端末（ファクスやデジタル電話など）を接続できます。これらの端末をそれぞれ識別するために付ける番号をサブアドレスといいます。相手先の端末にサブアドレスが割り付けられているときは、こちら側でサブアドレスを指定すると、1つの回線に接続されている複数の端末の中から特定の端末に送信できます。

制限

❒ サブアドレスを使えるのはISDNのときだけです。

補足

❒ サブアドレスの番号は宛先表にも登録できます。

1 G4、またはG3のISDN回線を選択します。

補足

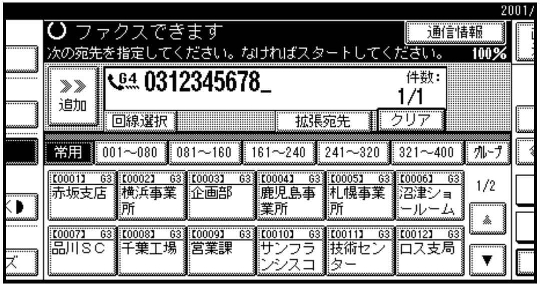
❒ G4ユニット（オプション）を付けているとき、G3で使用する回線はISDNに設定されます。

参照

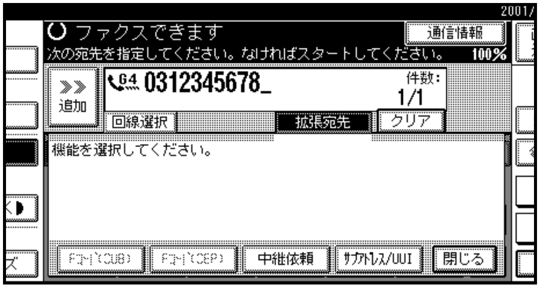
「回線を選択する」⇒ P.95

2 相手先のファクス番号をテンキーで入力します。

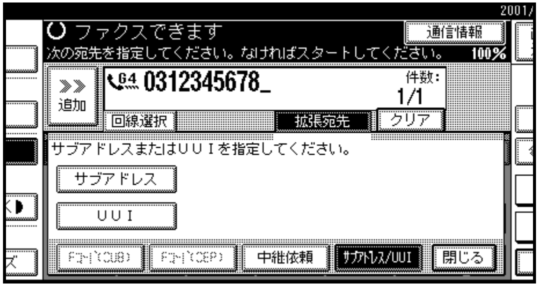
3 [拡張宛先] を押します。



4 [サブアドレス/UUI] を押します。



5 ［サブアドレス］を押します。



6 相手先のサブアドレスの番号をテンキーで入力します。



補足

- ❒ 入力できる桁数は、19桁です。
- ❒ 間違えたときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。

7 ［OK］を押します。

8 ［閉じる］を押します。

サブアドレスと表示されます。

9 【スタート】キーを押します。

UUI

この機能を利用するためにはG4ユニット（オプション）が必要です。

UUI（User-User Information）はメールシステムのサービスコードを指定するときなどに使います。

操作の前に

NTTとUUIの契約が必要です。

制限

- ❒ UUIを使えるのはISDNのときだけです。

補足

- ❒ UUIの番号は宛先表にも登録できます。
- ❒ 原稿を送信しないときは、G4メールサービスを使います。⇒ P.31 「G4メールサービス」

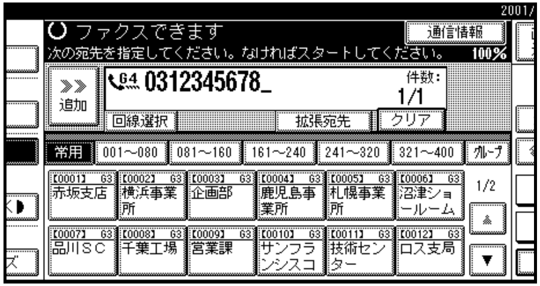
1 G4の回線を選択します。

参照

「回線を選択する」⇒ P.95

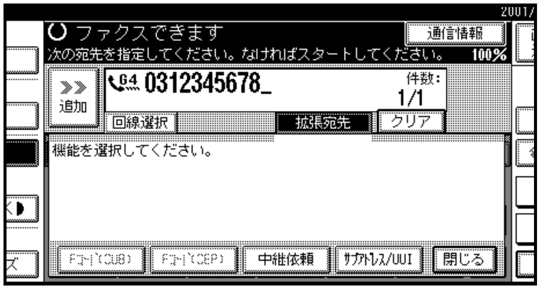
2 相手先のファクス番号をテンキーで入力します。

3 ［拡張宛先］を押します。

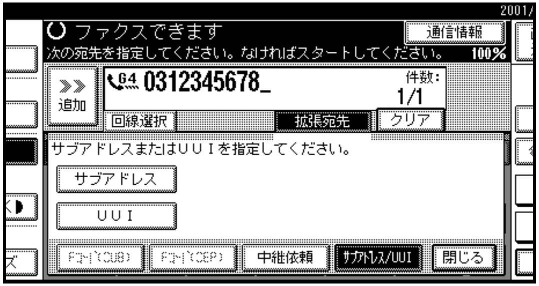


拡張宛先のメニュー画面が表示されます。

4 ［サブアドレス/UUI］を押します。



5 [UUI] を押します。



6 UUIの番号をテンキーで入力します。



7 [OK] を押します。

補足

- 間違えたときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。

8 [閉じる] を押します。

UUIと表示されます。

9 【スタート】キーを押します。

オンフックダイヤル（オンフックを使った送信）

受話器を置いたままでも、発信音を聞きながらダイヤルできます。相手先が電話の場合は、つながったあと受話器を取ると、相手と会話することもできます。

制限

❒ 増設G3回線（オプション）では、使えません。

補足

❒ オンフックの音量を調節できます。⇒ ファクス機能 基本編「第4章 音量を調節する」

❒ ISDNでオンフックダイヤルをお使いになるときは、最寄りのサービス実施店にお問い合わせください。

1 原稿をセットします。

補足

❒ 不定形サイズの原稿を送信するときは、［読み取りサイズ］を押して、原稿のサイズを指定します。

参照

ファクス機能 基本編「第2章 原稿をセットする」

2 読み取り条件を選択します。

参照

ファクス機能 基本編「第2章 原稿をきれいに送るには」

3 【オンフック】キーを押します。

受話器を上げたのと同じ状態になり、「ツー」という音が本体内部のスピーカーから聞こえます。

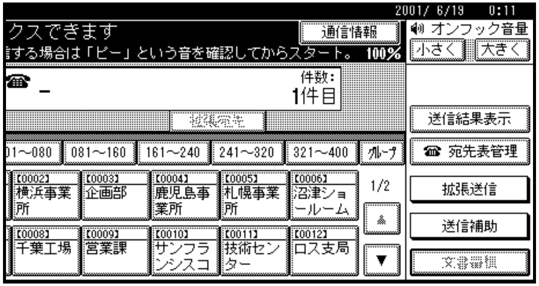


ZFLS120J

補足

❒ もう一度**【オンフック】**キーを押すと、受話器を置いたのと同じ状態になります。

4 相手先を指定します。



指定したファクス番号がすぐにダイヤルされます。

補足

- ❒ 間違えたときは【オンフック】キーか【リセット】キーを押して、操作をやり直します。
- ❒ ［大きく］または［小さく］を押して、音量を調節することができます。

5 相手先とつながり「ピー」という音が聞こえたら【スタート】キーを押します。

送信が開始されます。

補足

- ❒ 【スタート】キーを押す前に相手の声が聞こえたときは、ハンドセット（オプション）を取ってファクスを送信することを伝え、受信操作をしてもらいます。送信が終わると、ファクス初期画面に戻ります。
- ❒ 送信を途中で中止するときは、【クリア/ストップ】キーを押し、原稿を取り除きます。

マニュアルダイヤル（受話器を使った送信）

ハンドセット（オプション）または外付け電話機の受話器を上げてダイヤルします。相手先が電話の場合は、そのまま電話として会話することもできます。

制限

- ❒ G4回線（オプション）、増設G3回線（オプション）では、使えません。
- ❒ マニュアルダイヤルの送信結果は直接送信レポートに印刷できません。

1 原稿をセットします。

補足

- ❒ 不定形サイズの原稿を送信するときは、［読み取りサイズ］を押して、原稿のサイズを指定します。

参照

ファクス機能 基本編「第2章 原稿をセットする」

2 読み取り条件を選択します。

参照

ファクス機能 基本編「第2章 原稿をきれいに送るには」

3 受話器を上げます。

「ツー」という音が受話器から聞こえます。

4 相手先を指定します。



指定したファクス番号がすぐにダイヤルされます。

補足

- ❒ 間違えたときは受話器を置いて、手順**3**から繰り返します。

5 相手先とつながり「ピー」という音が聞こえたら、【スタート】キーを押します。

送信が開始されます。

補足

- ❒ 相手が電話にでたときは、ファクスを送信することを伝え、受信操作をしてもらいます。

6 受話器を置きます。

送信が終わると、ファクス初期画面に戻ります。

補足

- ❒ 送信を途中で中止するときは【クリア/ストップ】キーを押し、原稿を取り除きます。

回線を選択する

この機能を利用するためにはG4ユニット（オプション）または増設G3ユニット（オプション）が必要です。

本機はオプションのG4ユニット（オプション）または増設G3ユニット（オプション）を装着すると、接続できる回線を2回線まで増やすことができます。

制限

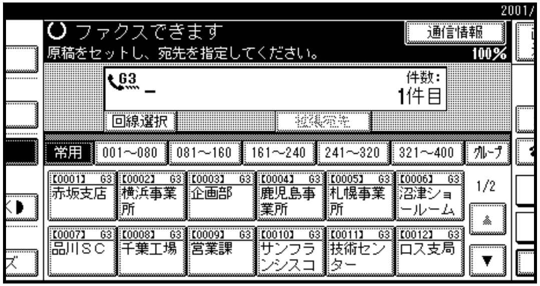
- ❒ **送信の操作の途中で回線を選択できるのは、相手先をテンキーまたはチェーンダイヤルで指定したときだけです。**

補足

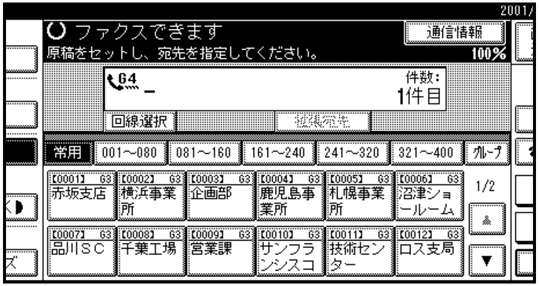
- ❒ **G4ユニット（オプション）、増設G3ユニット（オプション）を付けているときは、通常使用する回線を「基本設定/調整」で設定できます。工場出荷時は「G３　空き回線使用」に設定されています。**⇒ P.213 「基本設定/調整」

❖ G3

電源を入れた直後やリセットされた状態では、G3が選択されています。増設G3ユニット（オプション）を装着すると「G3-1」、「G3-2」が選択できるようになります。



❖ G4
ISDNが選択されます。



制限

❒ G4選択のときはJBIG送受信はできません。

❖ G3選択時の回線について
G4での通信には必ずISDNを使いますが、G3での通信には加入電話回線もISDNも使うことができます。したがって、加入電話回線とISDNの両方が接続してあるときは、「G3空き回線」を選択したとき、どちらの回線も使うことができます。G3回線でISDNを使うときは、「I-G3」を選択します。

補足

❒ G4ユニット（オプション）の設置時、G3で使用する回線はISDNに設定されていますが、設定を変更するときは最寄りのサービス実施店にご連絡ください。

❒ G3にISDNを使うと、サブアドレスとUUIが使えるようになります。

❖ 自動識別
G4を選択したときの機能です。最初はG4でダイヤルしますが、相手先が加入電話回線だったときG4ではつながらないので、自動的にG3に切り替えてダイヤルし直します。

制限

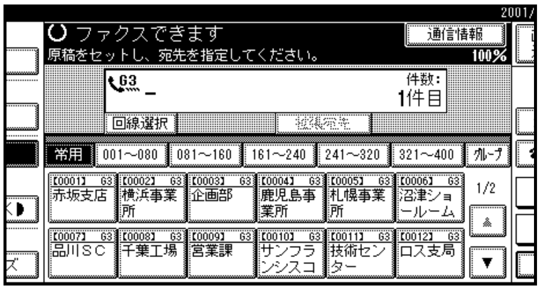
❒ この機能を利用するためには、G4ユニット（オプション）が必要です。

補足

❒ 相手先のG3がTA（ターミナルアダプター）やPBX等を付けてISDNに接続されている場合は、発信した番号がISDNにあるため、「G4」と判断され切り替わりません。

❒ 海外への送信時は、国際回線からの信号により自動切り替えがきかず、送信できない場合があります。

1 ［回線選択］を押します。

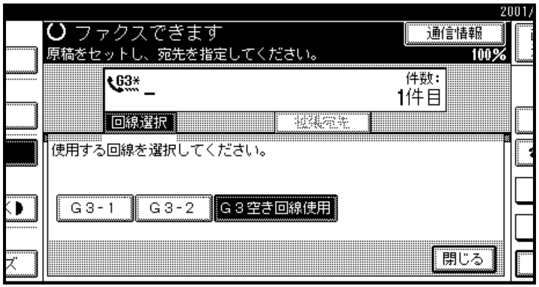


2 使用する回線を押します。

G4ユニット（オプション）を装着したとき



増設G3ユニット（オプション）を装着したとき



補足

- ❒「G3空き回線使用」を選択すると、空いているG3 回線から送信するので、より効率的になります。

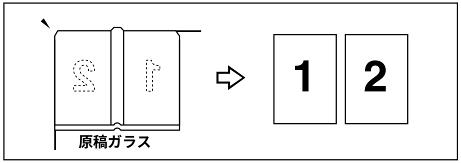
3 ［閉じる］を押します。

選択された回線が表示されます。

送信補助を使う

見開き原稿指定

見開きの原稿を送信するとき、左右を1ページずつ読み取って送信します。



制限

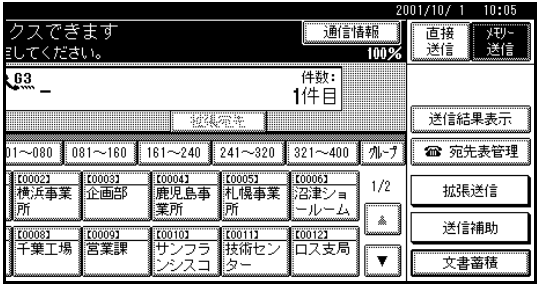
- ❒ 原稿は原稿ガラスにセットしてください。自動原稿送り装置(ADF)<オプション>では使用できません。
- ❒ 相手先にセットされている用紙のサイズと向きによっては、縮小して送信されることがあります。

補足

- ❒「左側→右側の順に読み取る」か「右側→左側の順に読み取る」かを指定できます。
- ❒ 見開き原稿読み取り開始ページ設定は「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「右側→左側の順に読み取る」が設定されています。⇒P.244「パラメーター設定」(スイッチ06 ビット6)

1 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

2 [送信補助]を押します。



送信補助のメニュー画面が表示されます。

3 [見開き原稿指定]を押します。



4 送信する原稿のサイズを押します。

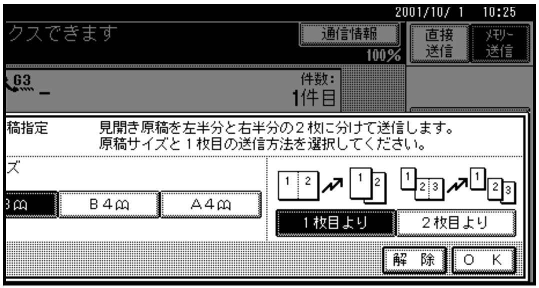


補足

- 見開き原稿指定を取り消すときは［解除］を押します。手順**3**の画面に戻ります。
- A3を選択したときは回転送信されます。⇒P.125「回転送信」

5 見開き原稿を読み取る先頭ページを選択します。

［1枚目より］または［2枚目より］を押します。



補足

- １枚目から見開きで読み取るときは「１枚目より」を選択します。1枚目に送付票を付けるときなどは、「2枚目より」を選択します。

6 ［OK］を押します。

［見開き原稿指定］が黒く反転表示され、その上に選択した原稿サイズが表示されます。

7 ［OK］を押します。

8 相手先を指定し、【スタート】キーを押します。

補足

- 原稿が複数あるときは、次の原稿をセットし直して【スタート】キーを押すことを繰り返します。
- 最後の原稿の読み取りが終了したら［#］を押します。
- ［#］を押さなくても、最後の原稿の読み取りが終了してから60秒経過すると自動的に送信が開始されます。

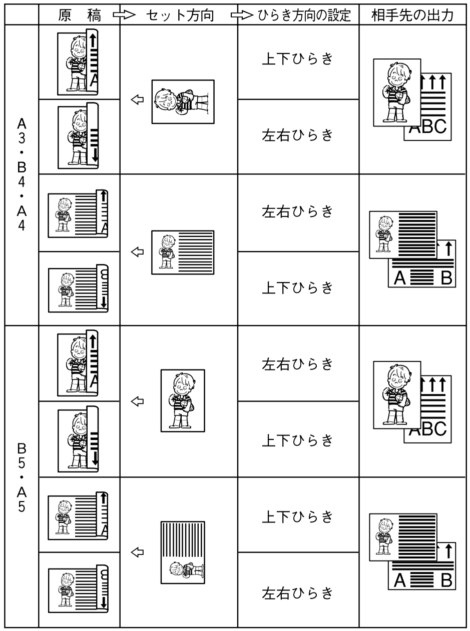
両面原稿送信

この機能を利用するためには自動原稿送り装置（ADF）<オプション>が必要です。

両面の原稿を送信するとき、表と裏を1ページずつ読み取って送信します。

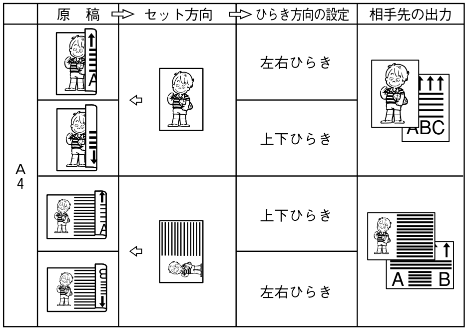
制限

- ❒ **原稿の表面と裏面が同じ方向になるように送信するためには「原稿セット方向」と「ひらき方向」を次のように設定してください。「原稿セット方向」と「ひらき方向」が正しく設定されていないと、原稿の表面と裏面で上下が逆になって相手先に印刷されることがあります。**



GFRYOU00J

❒ **回転送信時**⇒ P.125 「回転送信」



GFRYOU10J

❒ **両面原稿送信時はメモリー送信、クイックメモリー送信で送信します。直接送信はできません。**

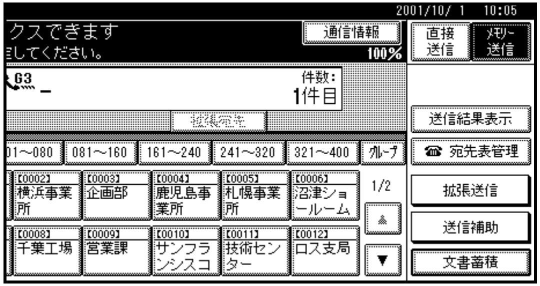
❒ **原稿ガラスにセットして送信することはできません。**

補足

❒ **両面を正しく読み取れたかを済みスタンプで確認できます。**⇒ P.115 「済みスタンプ」

1 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

2 [送信補助] を押します。



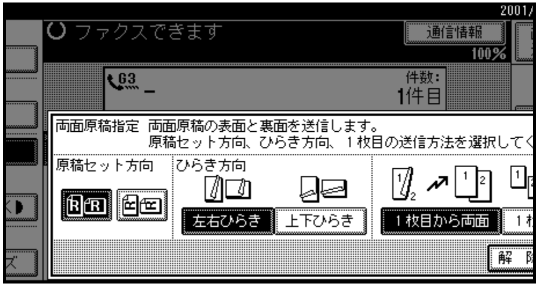
送信補助のメニュー画面が表示されます。

3 [両面原稿指定] を押します。



4 原稿セット方向を選択します。

自動原稿送り装置（ADF）<オプション>に入れた原稿の向きを確認して、またはを押します。

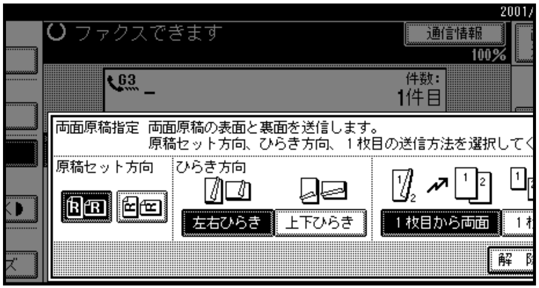


補足

- ❒ 原稿セット方向は、正しく設定してください。間違っていると、正しく送れないことがあります。

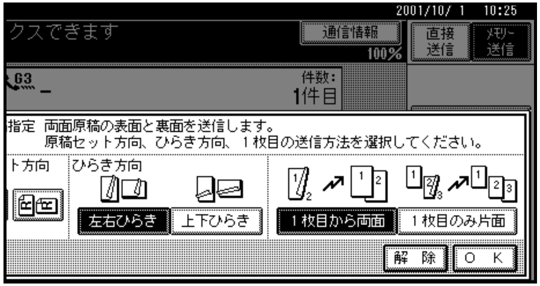
5 両面原稿のひらき方向を選択します。

［左右ひらき］または［上下ひらき］を押します。



6 1枚目の原稿の読み取り方法を選択します。

［1枚目から両面］または［1枚目のみ片面］を押します。



補足

- ❒ 両面原稿送信を取り消すときは［解除］を押します。手順3の画面に戻ります。
- ❒ 自動原稿送り装置（ADF）<オプション>で1枚目が送付票の文書を送信するときなどに「1枚目のみ片面」を選択します。

7 ［OK］を押します。

［両面原稿指定］が黒く反転表示され、その上に原稿セット方向とひらき方向が表示されます。

8 ［OK］を押します。

9 相手先を指定し、【スタート】キーを押します。

定型文印字

送信原稿の1ページ目の先端に、定型文を印字します。

定型文は「マル秘」「至急」「電話ください」「関係区に配布してください」の4種類があります。

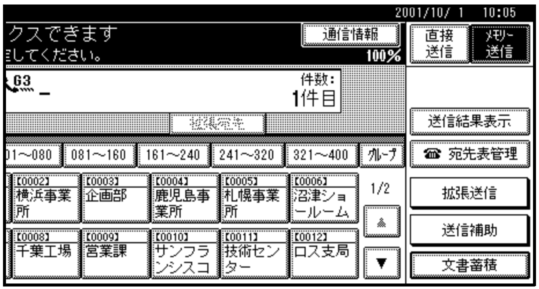
ほかの文を登録することもできます。

補足

- ❒ この機能を使用するときは、宛名差し込みの 2 行目、3行目は印字されません。
- ❒ 定型文を印字する範囲に画像があるとき、画像は消去されます。
- ❒ 定型文を登録するときは、「定型文」⇒ P.193で行います。

1 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

2 ［送信補助］を押します。

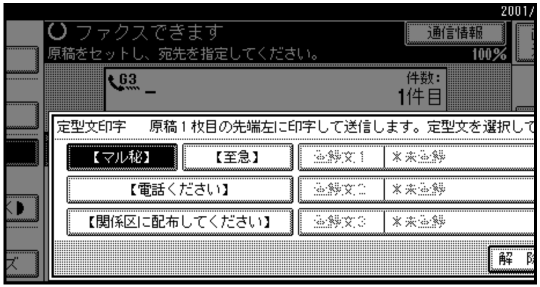


「送信補助」のメニュー画面が表示されます。

3 ［定型文印字］を押します。



4 印字する定型文を押します。



補足

- ❒ 登録されている定型文の内容は、登録文のキーの中に表示されます。登録されていないときは「＊未登録」と表示されます。
- ❒ 複数の定型文を印字することはできません。

5 ［OK］を押します。

［定型文印字］が黒く反転表示され、その上に選択した定型文が表示されます。

6 ［OK］を押します。

7 相手先を指定して、【スタート】キーを押します。

文書添付

よく使う原稿を登録しておけば、必要なときに印刷したり、そのまま送信したりできます。ファクスの送付票や地図などを登録しておくと便利です。

文書添付の文書だけを送信する方法と、他の原稿といっしょに送信する方法があります。

操作の前に

文書添付用の文書を登録しておきます。⇒ P.195「文書添付」

重要

- 登録・変更したときは、「文書添付リスト」を印刷し、保管しておくことをお勧めします。⇒ P.212「文書添付リスト」

制限

- 1 回の送信で指定できる文書添付の文書は 1 つです。

補足

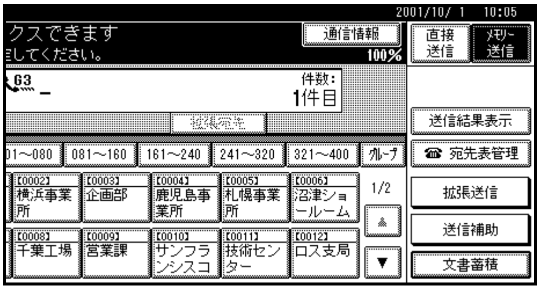
- 文書添付は最大6文書登録できます。FAX機能拡張キット（オプション）を付けているときは最大18文書まで登録できます。
- 文書添付の文書はメモリー送信で送信します。
- 他の原稿といっしょに送信するときは、文書添付の文書が先に送信されます。
- 文書添付の文書を登録すると、メモリー残量が少なくなります。文書を消去しないと100%には戻りません。
- 登録した文書を印刷することができます。⇒ P.105「文書添付文書を印刷する」

1 一緒に送信する原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

補足

- 文書添付の原稿だけを送信するときは、手順**2**から操作します。

2 ［送信補助］を押します。



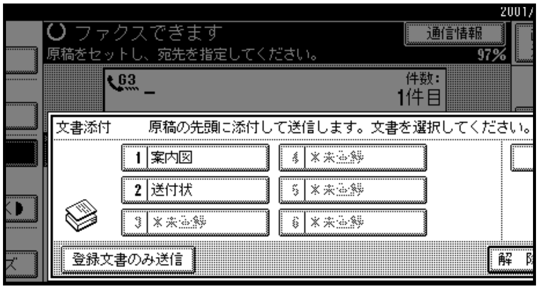
送信補助のメニュー画面が表示されます。

3 ［文書添付］を押します。



4 添付する文書を押します。

文書添付の文書だけを送信するときは、［登録文書のみ送信］を押します。



補足

- ❒ 登録されている文書は、キーの中に文書名が表示されます。登録されていないときは「＊未登録」と表示されます。
- ❒ 添付する文書が表示されていないときは、［▲前へ］または［▼次へ］を押して探します。
- ❒ 間違えたときは［解除］を押して、文書添付を取り消してから、もう一度設定します。
- ❒ 操作を取り消すときは［解除］を押します。手順**3**の画面に戻ります。

5 ［OK］を押します。

［文書添付］が黒く反転表示され、その上に選択した文書名が表示されます。

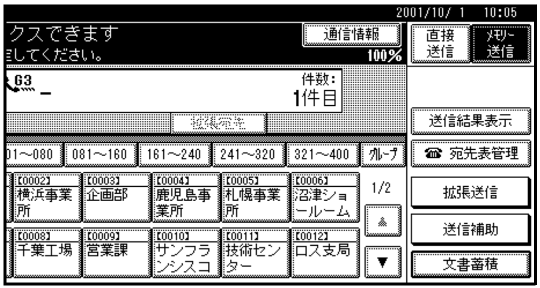
6 ［OK］を押します。

7 相手先を指定し、【スタート】キーを押します。

文書添付文書を印刷する

文書添付に登録した文書を印刷します。登録した文書の内容を確かめることができて便利です。

1 ［送信補助］を押します。

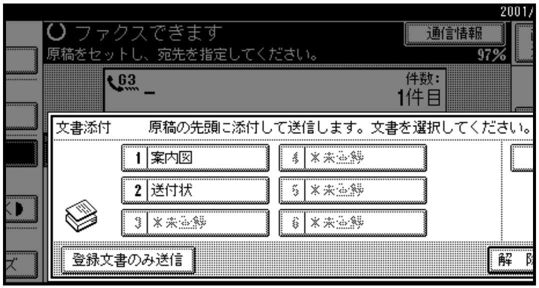


送信補助のメニュー画面が表示されます。

2 [文書添付] を押します。



3 印刷する文書を押します。



補足

- ❒ 登録されている文書は、キーの中に文書名が表示されます。登録されていないときは「＊未登録」と表示されます。
- ❒ 添付する文書が表示されていないときは、[▲前へ] または [▼次へ] を押して探します。
- ❒ 操作を取り消すときは [解除] を押します。手順3の画面に戻ります。

4 [文書印刷] を押します。

5 【スタート】キーを押します。

印刷が終了すると手順3の画面に戻ります。

補足

- ❒ 印刷を取り消すときは、[取消] を押します。手順3の画面に戻ります。

6 [解除] を押します。

補足

- ❒ 文書添付の送信を行うこともできます。⇒ P.104 「文書添付」

7 [OK] を押します。

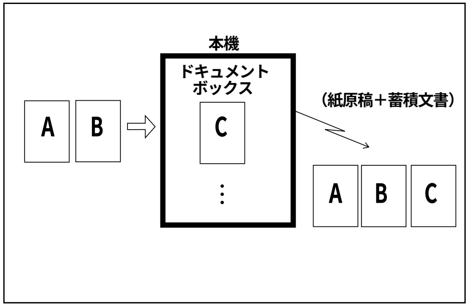
待機中の画面に戻ります。

蓄積文書指定

この機能を利用するためには拡張HDD(40GB)（オプション）が必要です。

ドキュメントボックス（ハードディスク）に蓄積してある文書を送信します。複数の文書を指定して送信したり、読み取った原稿と合わせて1つの文書として送信することができます。

蓄積した原稿は、「蓄積文書を印刷する」⇒ P.111で印刷することもできます。



操作の前に

あらかじめ、送信する文書を蓄積しておきます。また、パスワードの設定をしておくこともできます。⇒ P.174 「ドキュメントボックスを利用する」

制限

- ❒ 【ファクス】キーを押して、送信または印刷できるのは、ファクス機能から蓄積した文書だけです。受信文書は、蓄積文書として指定できません。

蓄積文書を送信する

ドキュメントボックスに蓄積した文書を送信します。

ドキュメントボックスに蓄積した文書は、消去するまで何回でも送信することができます。

一度送信しても文書はドキュメントボックスに蓄積されているので、原稿をセットしないで1回の操作で送信することができます。

制限

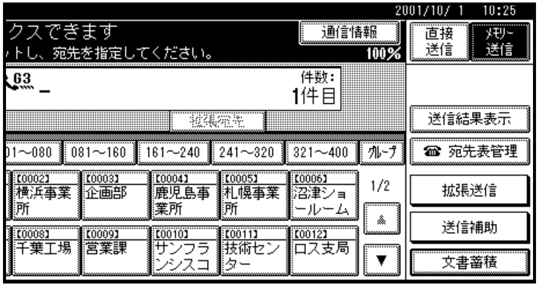
- ❒ 送信できるのは、ファクス機能から蓄積した文書のみです。コピー機能、プリンター機能およびスキャナー機能から蓄積した文書は送信できません。
- ❒ 次の送信方法は使えません。
  - フリーポーリング送信
  - IDポーリング送信
  - パーソナルIDポーリング送信
  - 直接送信
  - クイックメモリー送信⇒ P.123「クイックメモリー送信」
  - オンフックダイヤル
  - マニュアルダイヤル

補足

- ❒ 一度に指定できる文書は30件までです。
- ❒ 1回の操作で送信できるのは、合計400ページまでです。FAXメモリー（オプション）を付けたときは1000ページまで送信できます。

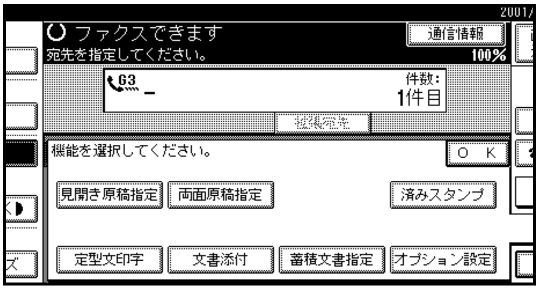
- 指定した文書は蓄積したときの読み取り条件で送信されます。

1 [送信補助] を押します。

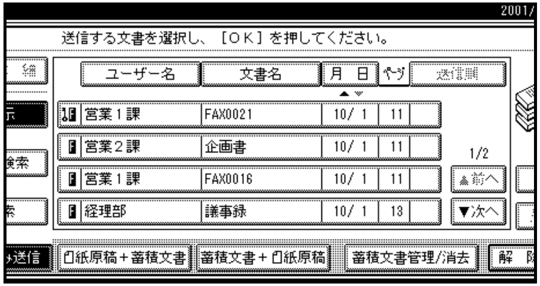


送信補助のメニュー画面が表示されます。

2 [蓄積文書指定] を押します。



3 送信する文書を指定します。



補足

- 文書名やユーザー名は変更することができます。⇒ P.179 「蓄積文書の情報を変更する」
- 複数の文書を選択したときは、選択した順に送信されます。
- 文書を送信する順番に並べるときは [送信順] を押します。
- 文書名順に並べるときは [文書名] を押します。
- 文書を登録したユーザー名で並べるときは [ユーザー名] を押します。
- 文書を登録した月日順で並べるときは [月日] を押します。

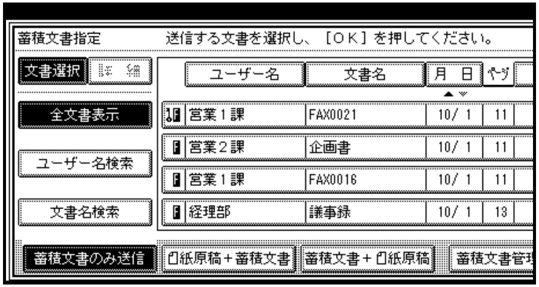
「全文書表示」から文書を指定するとき

❶ [▲前へ] または [▼次へ] を押して送信する文書を表示させます。

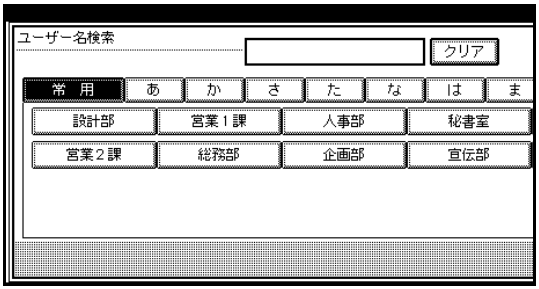
❷ 検索した文書名を押します。

「ユーザー名」から文書を指定するとき

❶ [ユーザー名検索] を押します。



❷ 送信する文書を登録したユーザー名を押します。



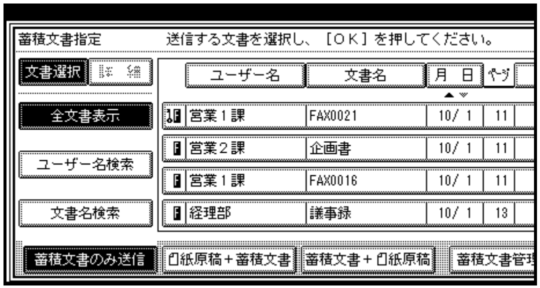
> **補足**
>
> ❒ 送信する文書を登録したユーザー名が表示されていないときは、[▲前へ] または [▼次へ] を押して表示させます。
>
> ❒ ユーザー名を入力して検索するときは［登録外名称］を押したあと、ユーザー名を入力します。ユーザー名は部分一致で検索されます。⇒ P.259 「特定相手先設定」

❸ [OK] を押します。

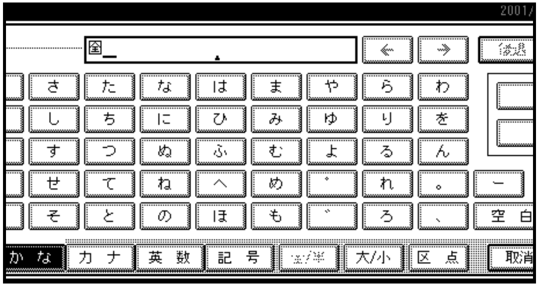
❹ 送信する文書名を押します。

「文書名」から文書を指定するとき

❶ [文書名検索] を押します。



❷ 送信する文書の文書名を入力します。



補足

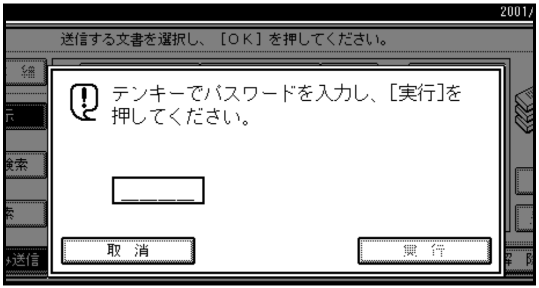
- ❒ 文書名は部分一致で検索されます。⇒P.259「特定相手先設定」

❸［OK］を押します。

❹ 送信する文書名を押します。

4 パスワードを設定している文書を選択したときは、パスワードを入力します。

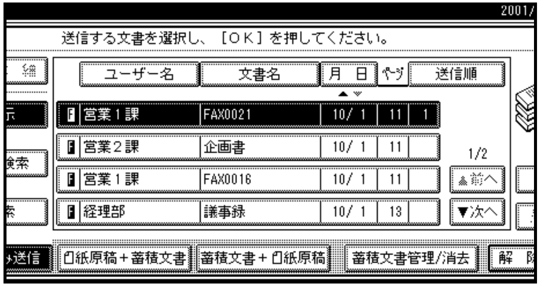
パスワードを設定していないときは、手順**6**に進みます。



5［実行］を押します。

6 蓄積した文書に原稿を追加して送信するときは［紙原稿＋蓄積文書］または［蓄積文書＋紙原稿］を押します。

蓄積文書のみ送信するときは、手順**7**に進みます。



補足

- ❒［紙原稿＋蓄積原稿］を指定すると、「原稿」→「蓄積した文書」の順に送信されます。［蓄積文書＋紙原稿］を指定すると、「蓄積した文書」→「原稿」の順に送信されます。
- ❒ 追加した原稿は蓄積されません。

7［OK］を押します。

送信補助のメニュー画面に戻ります。

8 [OK］を押します。

補足

- ❒ 蓄積した文書に原稿を追加して送るときは、原稿をセットして、読み取り条件を選択します。

9 相手先を指定し、【スタート】キーを押します。

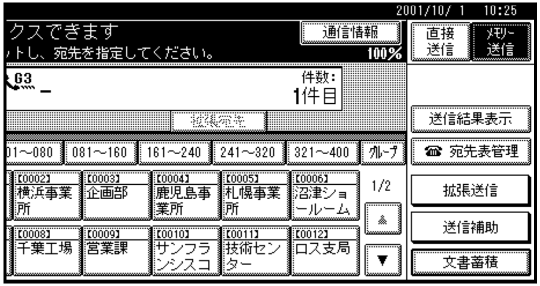
蓄積文書を印刷する

ドキュメントボックスに蓄積されている文書を印刷します。

補足

- ❒ ファクス機能を使って蓄積した文書のみ印刷できます。ファクス機能を使って蓄積した文書は先頭に「F」と表示されます。
- ❒ 先頭ページのみ印刷して原稿の内容を確認することもできます。
- ❒ 複数の文書を指定して印刷することができます。
- ❒ 複数の文書を指定して印刷するときは、ページ番号は全文書通して付けます。ページ番号を付けるかどうかを「パラメーター設定」で設定することができます。工場出荷時は「印字する」に設定されています。⇒ P.244「パラメーター設定」（スイッチ18ビット3）

1 [送信補助］を押します。

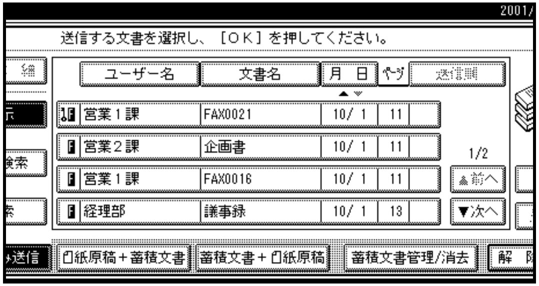


送信補助のメニュー画面が表示されます。

2 [蓄積文書指定］を押します。

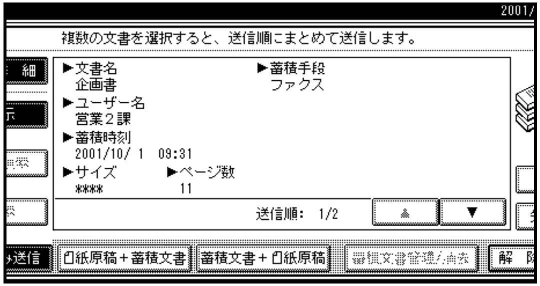


3 印刷する文書を押します。



補足

- ❒ 印刷する文書が表示されていないときは、［▲前へ］または［▼次へ］を押して探します。
- ❒ 文書名順に並べるときは［文書名］を押します。
- ❒ 文書を登録したユーザー名で並べるときは［ユーザー名］を押します。
- ❒ 文書を登録した月日順で並べるときは［月日］を押します。
- ❒ 選択した文書の情報を知りたいときは、［詳細］を押します。待機中の画面に戻るときは、［文書選択］を押します。

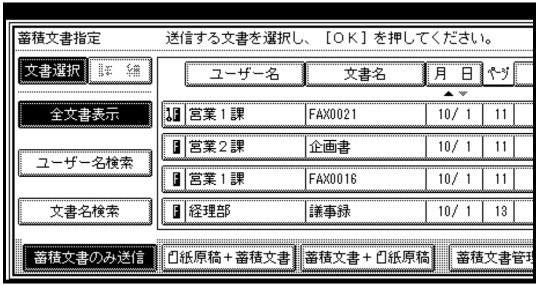


「全文書表示」から文書を指定するとき

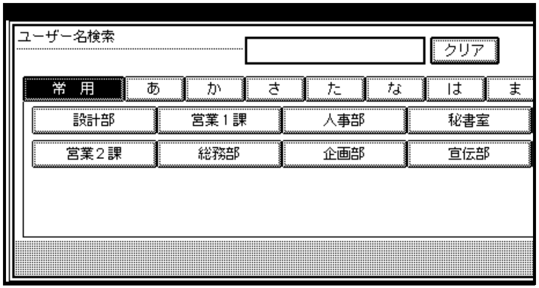
1. ［▲前へ］または［▼次へ］を押して印刷する文書を表示させます。
2. 検索した文書名を押します。

「ユーザー名」から文書を指定するとき

❶ ［ユーザー名検索］を押します。



❷ 印刷する文書を登録したユーザー名を押します。



補足

- ❒ 印刷する文書のユーザー名が表示されていないときは、［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。
- ❒ ユーザー名を入力して検索するときは［登録外名称］を押したあと、ユーザー名を入力します。ユーザー名は部分一致で検索されます。

参照

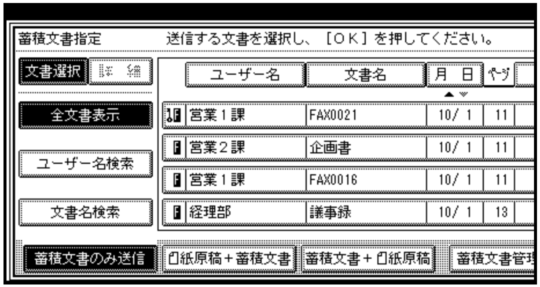
ファクス機能 基本編「第3章 文字の入力のしかた」

❸ ［OK］を押します。

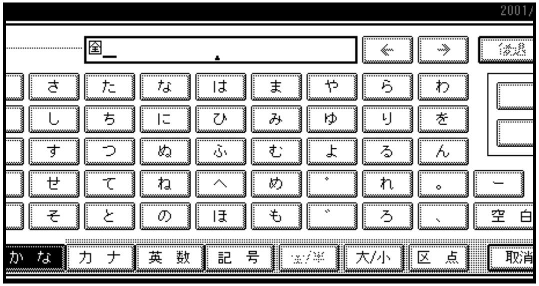
❹ 検索した文書名を押します。

「文書名」から文書を指定するとき

❶ ［文書名検索］を押します。



❷ 印刷する文書の文書名を入力します。



補足

- ❒ 文書名は部分一致で検索されます。

参照

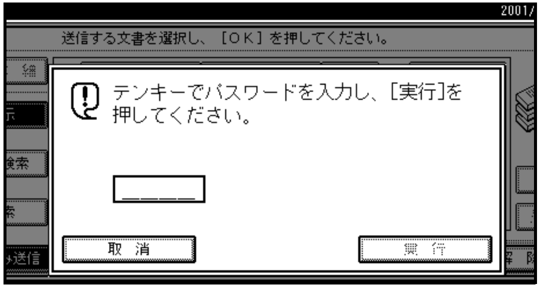
ファクス機能 基本編「第3章 文字の入力のしかた」

❸ ［OK］を押します。

❹ 検索した文書名を押します。

4 パスワードを設定している文書を選択したときは、パスワードを入力します。

パスワードを設定していないときは、手順**6**に進みます。



5 ［実行］を押します。

6 ［文書印刷］または［先頭ページ印刷］を押します。

［文書印刷］を押したときは、全ページ印刷します。［先頭ページ印刷］を押したときは、一番最初のページのみ印刷します。

制限

- ❒「先頭ページ印刷」を選択したときは、A4サイズより大きい原稿は、A4サイズに縮小して印刷します。
- ❒「先頭ページ印刷」で印刷できるのは、30件までです。

補足

- ❒ 両面印刷をするときは［両面に印刷する］を押します。複数の文書を指定したときは、文書ごとに両面印刷します。

7 【スタート】キーを押します。

補足

- ❒ 先頭ページのみ印刷したときは、用紙の先端に文書名が印字されます。
- ❒ 印刷を中止するときは［印刷中止］を押します。

8 ［解除］を押します。

補足

- ❒ 蓄積文書指定送信を行うこともできます。⇒ P.107 「蓄積文書を送信する」

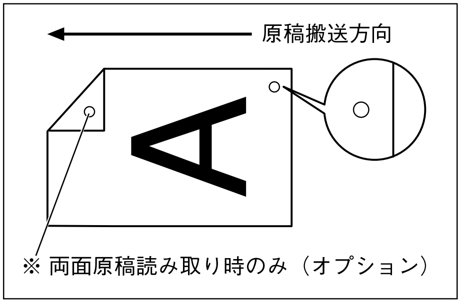
送信補助のメニュー画面に戻ります。

9 ［OK］を押します。

済みスタンプ

この機能を利用するためには自動原稿送り装置（ADF）<オプション>が必要です。

自動原稿送り装置（ADF）<オプション>を使って送信するとき、原稿を読み取ったあと、片面原稿のときは送信する面の後端に、両面原稿のときは表面の後端と裏面の先端に○印のスタンプを押します。原稿に押されたスタンプは、メモリー送信のときは正しくメモリーに蓄積できたことを、直接送信のときは正しく送信できたことを表します。



FSTAM49J

制限

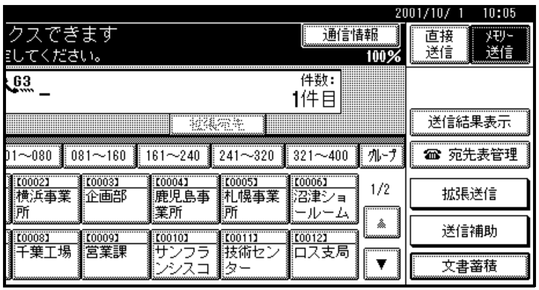
- ❒ スタンプを押せるのは、原稿を自動原稿送り装置（ADF）<オプション>にセットしたときだけです。
- ❒ 原稿の読み取り中にスタンプの「ON」、「OFF」の切り替えはできません。

補足

- スタンプカートリッジは1個付属しています。
- スタンプが薄くなってきたときは、カートリッジを交換してください。⇒ P.338 「スタンプを交換する」
- スタンプを押すように設定したのに、スタンプが押されていないページがあったときは、そのページだけもう一度送信し直してください。
- 通常スタンプを押すかどうか「基本設定/調整」⇒ P.213で設定できます。基本設定を「する」にしておき、設定を変えたいときだけ［済みスタンプ］を押して変更すると便利です。工場出荷時は「しない」に設定されています。
- クイックメモリー送信時に紙つまりがおきたときは、スタンプが押されていても送信できていないことがあります。

1 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

2 ［送信補助］を押します。



送信補助のメニュー画面が表示されます。

3 ［済みスタンプ］を押します。



［済みスタンプ］が黒く反転表示されます。

補足

- 済みスタンプを押すのを取り消すときは、もう一度［済みスタンプ］を押します。

4 ［OK］を押します。

5 相手先を指定し【スタート】キーを押します。

オプション設定

送信ごとに発信元名称印字、宛名差し込み、送信者印字、縮小送信、自動縮小、ID送信のON/OFFを設定できます。

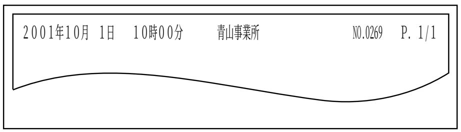
発信元名称印字

発信元名称印字を「ON」にすると、登録した名称を相手先の用紙に印字します。「OFF」にすると印字されません。発信元名称（印字用）は2種類登録でき、相手先ごとにどちらの発信元名称（印字用）を印字させるか設定できます。どちらの発信元名称（印字用）を印字させるかは相手先を宛先表に登録するときに、あらかじめ設定しておきます。

補足

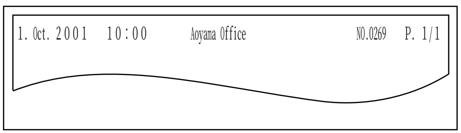
- ❒ 工場出荷時は「ON」に設定されています。

第1発信元名称の例



GFTTII0J

第2発信元名称の例



GFTTIN2J

補足

- ❒ テンキーで指定したときは、第1発信元名称が印字されます。
- ❒ 通常発信元名称（印字用）を印字するかどうか「基本設定/調整」⇒ P.213で設定できます。基本設定をよく使う設定にしておき、設定を変えたいときだけ「オプション設定」で変更すると便利です。工場出荷時は「ON」に設定されています。
- ❒ 発信元名称（印字用）は「発信元情報登録」で登録できます。⇒ファクス機能 基本編「第3章 こちらの名称とファクス番号を登録する」
- ❒ 「日付」「発信元名称」「文書番号」「ページ番号」ごとに印字する／しないを「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時はそれぞれ「印字する」に設定されています。⇒ P.244「パラメーター設定」（スイッチ18 ビット3、2、1、0）
- ❒ 印字する名称を「第1名称」と「第2名称」から選択するようにすることができます。詳しくはサービス実施店にお問い合わせください。

宛名差し込み

「宛先表」に相手先の名称を登録し、宛名差し込みの機能を「ON」にすると、登録した相手先の名称に自動的に「様」を付けて相手先の受信紙の1ページ目の先端に印字できます。また、定型文として登録した文章も印字できます。

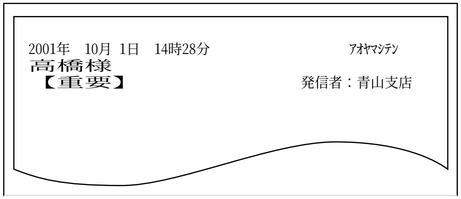
補足

- ❒ 工場出荷時は「OFF」に設定されています。

参照

「登録/変更する」⇒ P.193

ファクス機能 基本編「第2章 宛先表を使う」



制限

- ❒ 宛名差し込みを「登録設定値」に設定したときに宛先名が印刷される範囲に画像があると、その画像は消去されます。「OFF」にすると宛名差し込みは印字されません。

補足

- ❒ 宛名差し込みの機能を使用するかどうか「基本設定/調整」で設定できます。工場出荷時は「OFF」に設定されています。⇒ P.213 「基本設定/調整」

送信者名印字

ユーザーコードにユーザー名、部署名などを登録しているときに、送信者名として受信紙の右端に印字することができます。送信者印字を印字するときは、「変更」を押して印字するユーザー名を設定します。「印字しない」にすると印字されません。

補足

- ❒ 工場出荷時は「印字しない」に設定されています。
- ❒ ユーザー名はシステム初期設定で設定します。⇒システム設定編2 スキャナーユニット　タイプ8100対応版「ユーザーコードについて」

縮小送信

「ON」にするとすこし小さめ（93%）に縮小し、原稿の左側に余白をつけて送信します。「OFF」にすると縮小送信は解除されます。

制限

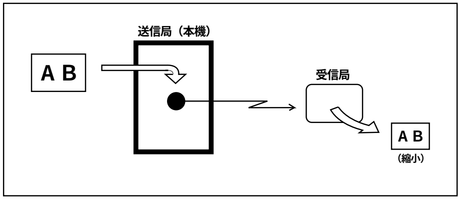
- ❒ 直接送信、蓄積文書指定送信のとき、この機能は使用できません。
- ❒ 回転送信はできません。

補足

- ❒ 縮小送信するかどうか「基本設定/調整」⇒ P.213で設定できます。工場出荷時は「OFF（縮小送信しない）」に設定されています。

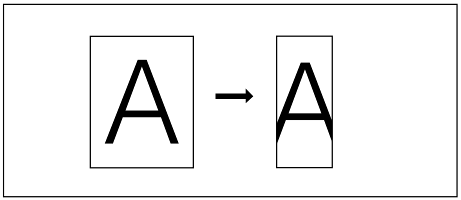
自動縮小

「ON」にすると送信側の原稿の幅より受信側の用紙の幅が小さいとき、受信側の用紙の幅に合わせ、縮小して送信します。「OFF」にすると自動縮小送信は解除されます。



重要

❒ 自動縮小しないと、常に等倍で送信するので、送信側の原稿の幅より受信側の用紙の幅が小さいと、画像が欠けることがあります。



補足

❒ 自動縮小送信するかどうか「基本設定/調整」 ⇒ P.213で設定できます。工場出荷時は「ON（自動縮小する）」に設定されています。

ID 送信

「ON」にすると本機に登録されているポーリングIDと同じIDが登録されている、当社のファクスだけに送信します。送信できる相手先を限定することができます。「OFF」にするとID送信は解除されます。

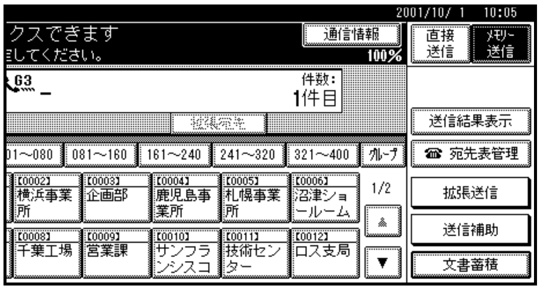
補足

❒ 工場出荷時は「OFF」に設定されています。

オプション設定のしかた

1 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

2 [送信補助] を押します。



送信補助のメニュー画面が表示されます。

3 ［オプション設定］を押します。



4 設定するオプションを選択します。

発信元名称印字を設定するとき

❶「発信元名称印字」の［ON］を押します。



補足

❒ 発信元名称を印字しないときは［OFF］を押します。

❒ オプション設定を終了するときは、手順**5**に進みます。

宛名差し込みを設定するとき

❶「宛名差し込み」の［登録設定値］を押します。



補足

❒ 宛名差し込みしないときは［OFF］を押します。

❒ オプション設定を終了するときは、手順**5**に進みます。

送信者印字を設定するとき

❶ ［変更］を押します。



❷ 印字するユーザー名を押します。



補足

❒ ユーザーコードを登録したときに設定したユーザー名が表示されます。⇒ システム設定編2スキャナーユニット　タイプ8100対応版「ユーザーコードについて」

❒ 見出しキーを押すと、見出しを切り替えることができます。

❒ 登録されていないユーザー名を印字するときは、［登録外名称］を押して、入力します。

❒ 送信者印字を印字しないときは、［印字しない］を押します。

❸ ［OK］を押します。

送信者名が表示されます。

補足

❒ オプション設定を終了するときは、手順5に進みます。

縮小送信を設定するとき

❶ 「縮小送信」の［ON］を押します。



補足

❒ 縮小送信しないときは［OFF］を押します。

❒ オプション設定を終了するときは、手順5に進みます。

自動縮小送信を設定するとき

❶「自動縮小」の［ON］を押します。



補足

- ❒ 自動縮小送信しないときは［OFF］を押します。
- ❒ オプション設定を終了するときは、手順5に進みます。

ID送信を設定するとき

❶「ID送信」の［ON］を押します。



補足

- ❒ ID送信しないときは［OFF］を押します。
- ❒ オプション設定を終了するときは、手順5に進みます。

5 ［OK］を押します。

送信補助のメニュー画面に戻ります。

補足

- ❒ 設定を変更したときは［オプション設定］が黒く反転表示されます。

6 ［OK］を押します。

7 相手先を指定し、【スタート】キーを押します。

送信の予備知識

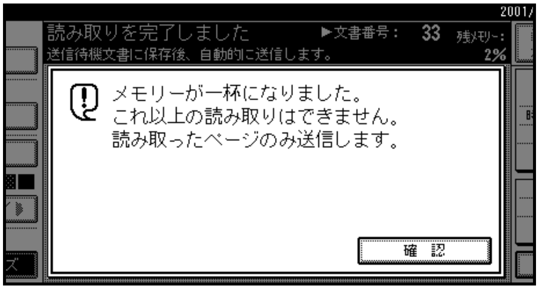
❖ 蓄積中にメモリー残量がなくなったとき

原稿を蓄積している途中でメモリー残量がなくなる（メモリー残量が0%になる）と、読み取りが中断されます。

補足

- ❒ 工場出荷時は「読み取ったページのみ送信」に設定されています。読み取ったページを消去して終了するように設定する場合は、サービス実施店に連絡してください。

① メモリー残量がなくなっていることを確認します。
画面にメッセージが表示されます。



② ［確認］を押します。
もとの表示に戻ります。

❖ クイックメモリー送信

原稿を読み取りながら相手先を呼び出します。従来のメモリー送信はすべての原稿を一度メモリーに蓄積してから相手先を呼び出すので、それに比べて相手先につながったかどうか早く確認できます。また、直接送信よりも早く読み取りが終わるので、原稿を急いで持ち帰りたいときにも便利です。

制限

- ❒ 次のときは通常のメモリー送信になります。
  - 相手先が話し中などでつながらなかったとき
  - 他の通信中にメモリー送信の予約をしたとき
  - 複数の相手先を指定したとき
  - 原稿ガラスに1枚目の原稿をセットしたとき
  - ドキュメントボックスに蓄積した文書を送信するとき
- ❒ クイックメモリー送信中に【クリア/ストップ】キーを押したり、原稿がつまったり、メモリー残量がなくなると送信を終了し、メモリー送信結果レポートを印刷後、文書は消去されます。
- ❒ クイックメモリー送信時は、発信元名称印字の原稿総枚数が自動的に印字されません。

補足

- クイックメモリー送信するかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「クイックメモリー送信する」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ07ビット2）
- メモリー残量が少なくなったとき、通常のメモリー送信になることがあります。通常のメモリー送信になるときのメモリー残量の目安は、オプションの有無によって変わります。
- クイックメモリー送信では、蓄積結果レポートは印刷されません。

❖ 送信結果の確認のしかた

「メモリー送信結果レポート」を「自動印刷する」に設定しているときは、すべての相手先への送信が終わると通信結果レポートが印刷されるので、その内容で確認します。⇒ P.129 「メモリー送信結果レポート」

送信結果レポートを「自動印刷しない」に設定しているときは、送信できなかった相手先があるときだけ「不達レポート」が自動的に印刷されます。したがって不達レポートが印刷されないときは、正常に送信できたことになります。⇒ P.132 「不達レポート」

「通信管理レポート」⇒ P.53を印刷しても確認できます。レポートの内容を画面に表示させることもできます。⇒ P.56 「送信結果表示」

❖ 自動リダイヤル

相手先が話し中でつながらなかったり、送信中のエラーで正しく送信できなかったときは、5分間隔で最大5回ダイヤルを繰り返します。

それでも送信できなかったときは送信を終了し、「メモリー送信結果レポート」⇒ P.129または「不達レポート」⇒ P.132が印刷されます。

補足

- 待機中の文書が多いときは、読み取った順番に送信されないときがあります。

❖ 列信

すでにメモリーに蓄積されている原稿の中に、今からメモリー送信しようとする相手先と同じ相手先の原稿があるときは、その原稿も一緒に送信します。複数回の通信を1回でできるので通信料金を節約でき、送信時間が短縮されます。

補足

- 列信するかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「列信する」に設定されています。⇒ P.244「パラメーター設定」（スイッチ14 ビット2）
- 時刻指定されている原稿は、指定時刻が経過していれば列信されます。
- 待機中の文書が多いときは、読み取った順番に送信されないときがあります。

❖ ECM(Error Correction Mode)
国際的に決められた規格による機能で、電話回線の影響で正しく送信できなかったときに、その部分を自動的に送信し直します。ただし、相手先のファクスにも同じ機能がないと働きません。

補足

- ❒ ECM機能を使うかどうか「自動誤り再送(ECM)」⇒ P.239で設定できます。工場出荷時は送受信時「ON」に設定されています。

❖ 同報送信の送信順
指定した相手先の順に送信されます。正しく送信されなかった相手先への自動リダイヤルは、最後に指定した相手先の次に行われます。たとえば相手先としてABCDの4箇所を指定して、AとCへの送信が話し中だったときは、ABCDACの順にダイヤルされます。
G4ユニット（オプション）または増設G3ユニット（オプション）を付けているときは、複数回線での一斉同報送信ができます。⇒ P.125「一斉同報送信」

❖ 同報送信の途中経過を知りたいとき
同報送信時、どの相手先まで送信できたか途中経過を知りたいときは、「送信待機文書リスト」⇒ P.48で確認できます。

❖ デュアルアクセス
メモリー送信中、受信中、レポートの自動印刷中でもメモリー送信の原稿を読み取らせることができます。通信が終わりしだい、ただちに送信を開始するので、回線を効率的に使用できます。

制限

- ❒ 直接送信中、初期設定操作中に原稿を読み取らせることはできません。

❖ 回転送信
通常、A4サイズの原稿は▭にセットしますが、▯にセットすると90°回転して送信します。相手先がA4▭までしか受信できないファクスでも等倍で受信します。

制限

- ❒ 直接送信では、この機能は働きません。
- ❒ 原稿サイズ混載を指定しているときは、この機能は働きません。⇒ファクス機能 基本編「第2章 読み取りサイズを指定する」

❖ 一斉同報送信
この機能を利用するためにはG4ユニット（オプション）または増設G3ユニット（オプション）が必要です。
通常、複数の相手先を指定しても、指定した順に1宛先ずつ送信されますが、本機では異なる回線を使って、複数の相手先に同時に送信することができます。
従来の同報送信に比べて、すべての相手先へ送信する時間が短縮されます。

制限

- 同時に送信できるのは最大2回線です。

補足

- 増設G3ユニット（オプション）を使うときは、宛先の回線種類を「G3空き回線使用」に設定しておくと、空いているG3回線から送信するので、より効率的になります。

❖ JBIG送信

この機能を利用するためにはＦＡＸ機能拡張キット（オプション）が必要です。

圧縮率の高いJBIG（Joint Bi-level image experts Group）を使うと、「写真原稿」で読み取った原稿でも速く送信できます。

参照

ファクス機能　基本編「第2章　原稿種類を選ぶ」

制限

- 回線がG4（オプション）のときは使用できません。
- ECM機能が「OFF」のときはJBIG送信できません。⇒ P.239 「自動誤り再送(ECM)」
- 相手先のファクスにJBIG受信機能およびECM機能（G3で通信時のみ）が付いていないと、JBIG送信できません。

補足

- 増設G3ユニット（オプション）を付けているとき、増設G3側（G3-2）でのJBIG送信は標準機能です。

印刷されるレポート

蓄積結果レポート

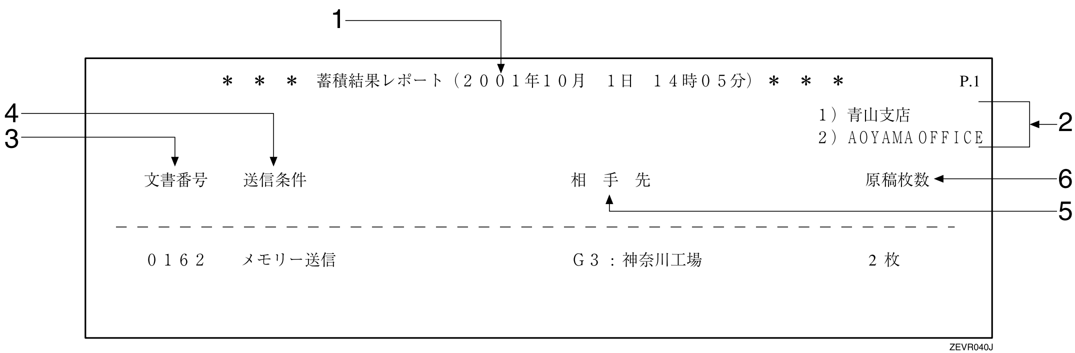
原稿の蓄積が終わると印刷されます。メモリー送信で蓄積した原稿や相手先を確認できます。

制限

- クイックメモリー送信のとき、このレポートは印刷されません。

補足

- このレポートを自動的に印刷するかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「印刷しない」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ03 ビット2）
- レポートを印刷しないように設定していても、正常に蓄積できなかったときは、自動的に印刷されます。
- このレポートに画像を載せるかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「載せる」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ04 ビット7）



1. **印刷日時**

   レポートを印刷した日付と時間が記載されます。

2. **発信元名称(印字用)登録内容**

   発信元名称(印字用)に登録されている内容が記載されます。

3. **文書番号**

   文書の管理番号です。

4. **送信条件**

   送信の種類が記載されます。

5. **相手先**

   テンキーで指定した場合は、入力したファクス番号が記載されます。宛先表で指定した場合は、登録してある名称が記載されます。グループで指定した場合は、そのグループに登録してあるすべての相手先を記載し、各相手先の先頭に「(G01)」のようにグループナンバーを付けます。

   G4ユニット(オプション)を装着しているときは、回線の種類が「G3」「I-G3」「G4」「G3(空)」のいずれかで記載されます。

   増設G3ユニット(オプション)を装着しているときは、回線の種類が「G3-1」「G3-2」「G3(空)」のいずれかで記載されます。

   Fコード(SEP/SUB/PWD/SID)、サブアドレスを登録しているときは、テンキーで登録した相手先にのみSEP/SUB/PWD/SID/サブアドレスを印字します。

6. **原稿枚数**

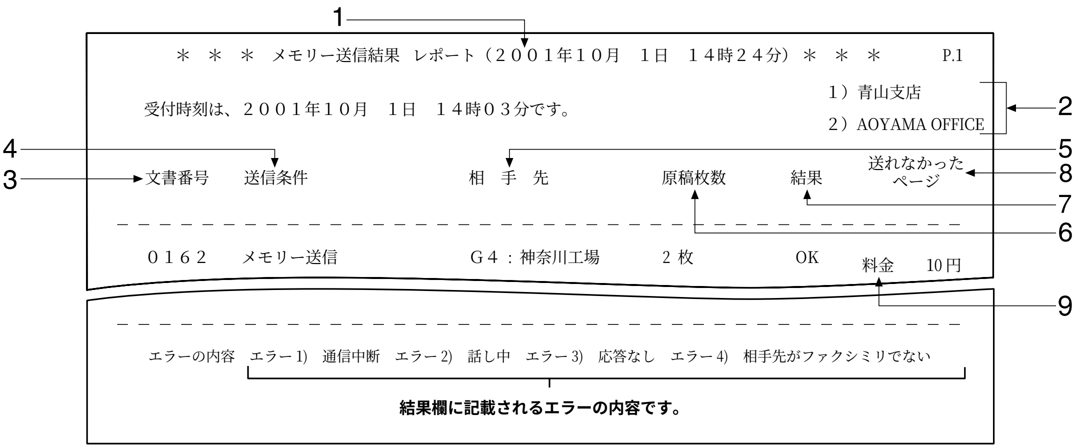
   蓄積した原稿の枚数です。文書添付を指定しているときは、文書添付の原稿も枚数に含まれます。

メモリー送信結果レポート

メモリー送信が終わると印刷されます。送信の結果を確認できます。

補足

- 複数の相手先を指定したときは、すべての相手先への送信が終わってから印刷されます。
- このレポートを印刷しないように設定していると、送信できなかった相手先があるときに「不達レポート」が印刷されます。⇒ P.132 「不達レポート」
- このレポートを自動的に印刷するかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「印刷しない」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ03 ビット0）
- このレポートに画像を載せるかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「載せる」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ04 ビット7）



***1.* 印刷日時**

レポートを印刷した日付と時間が記載されます。

***2.* 発信元名称（印字用）登録内容**

発信元名称（印字用）に登録されている内容が記載されます。

3. **文書番号**

文書の管理番号です。

4. **送信条件**

「メモリー送信」「親展送信」「PCファクス送信」「蓄積文書送信」のいずれかが記載されます。

「蓄積文書送信」のときは、文書の種類、ページ番号、文書名が記載されます。

5. **相手先**

テンキーで指定した場合は入力したファクス番号が記載されます。宛先表で指定した場合は登録してある名称が記載されます。グループで指定した場合はそのグループに登録してあるすべての相手先を記載し、各相手先の先頭に「(G01)」のようにグループナンバーを付けます。

G4ユニット(オプション)を装着しているときは、回線の種類が「G3」「I-G3」「G4」「G3(空)」のいずれかで記載されます。

増設G3ユニット(オプション)を装着しているときは、回線の種類が「G3-1」「G3-2」「G3(空)」のいずれかで記載されます。

Fコード(SEP/SUB/PWD/SID)、サブアドレスを登録しているときは、テンキーで登録した相手先にのみSEP/SUB/PWD/SID/サブアドレスを印字します。

6. **原稿枚数**

送信した枚数が記載されます。

7. **結果**

送信の結果が記載されます。

OK	全ページ正しく送信できました。	
エラー	正しく送信できませんでした。「エラー」のあとにエラーの内容(送信できなかった理由)を 示す番号が記載されます。自動リダイヤルの機能によりダイヤルを繰り返したときは、ダイヤルごとの理由を順に記載します。	
	エラー 1) 通信中断	ファクスの不具合や電話回線に雑音が入ったため、通信が 途中で中断されました。
	エラー 2) 話し中	相手先が話し中でした。
	エラー 3) 応答なし	呼び出しましたが、相手先が電話にでませんでした。
	エラー 4) 相手先がファクシミリでない	相手先が電話にはでましたが、ファクシミリではありませんでした。電話などが接続されている可能性があります。この場合は2回でダイヤルを中止します。

8. **送れなかったページ**

相手先に送信できなかったページが記載されます。

9. **料金**

通信料金が記載されます。

記載されるのは、G4ユニット（オプション）を装着しているときです。ただし、通信料金が999999円を超えると「******円」と記載されます。

補足

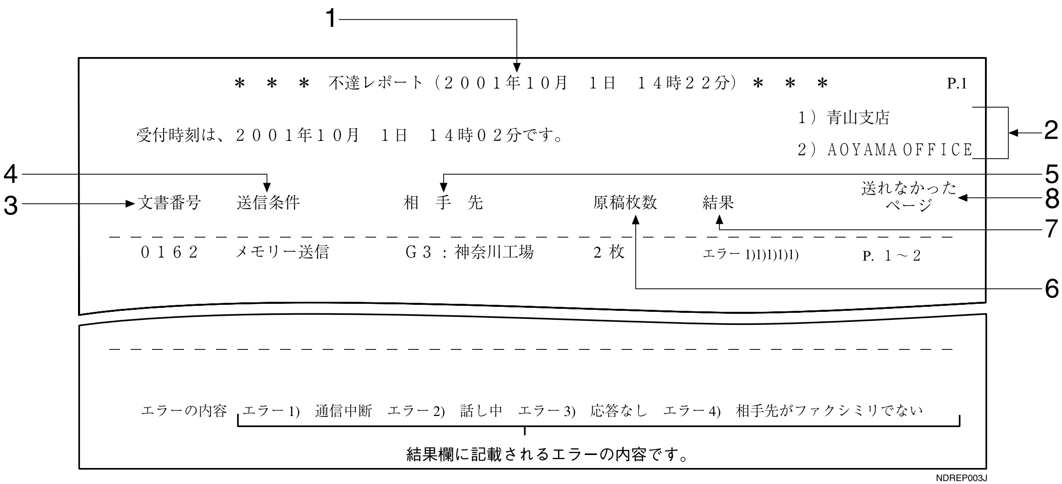
- ❒ G4またはI-G3を使った送信の料金のみが記載され、G3を使った送信の料金は記載されません。
- ❒ 海外に送信したときは料金が計算されないことがあります。

不達レポート

メモリー送信できなかった相手先があると印刷されます。送れなかった相手先を確認できます。

補足

- ❒ メモリー送信結果レポートを自動的に印刷しないように設定している場合、送信できなかった相手先があるときだけ、自動的に印刷されます。メモリー送信結果レポートを印刷するように設定しているとき、不達レポートは印刷されません。
- ❒ このレポートに画像を載せるかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「載せる」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ04 ビット7）



1. **印刷日時**

レポートを印刷した日付と時間が記載されます。

2. **発信元名称（印字用）登録内容**

発信元名称（印字用）に登録されている内容が記載されます。

3. **文書番号**

文書の管理番号です。

4. **送信条件**

「メモリー送信」「親展送信」「メモリー転送」「蓄積文書送信」「PCファクス送信」のいずれかが記載されます。

5. **相手先**

送れなかった相手先が記載されます。

テンキーで指定した場合は入力したファクス番号が記載されます。宛先表で指定した場合は登録してある名称が記載されます。グループで指定した場合はそのグループに登録してあるすべての相手先を記載し、各相手先の先頭に「(G01)」のようにグループナンバーを付けます。

G4ユニット(オプション)を装着しているときは、回線の種類が「G3」「I-G3」「G4」「G3(空)」のいずれかで記載されます。

増設G3ユニット(オプション)を装着しているときは、回線の種類が「G3-1」「G3-2」「G3(空)」のいずれかで記載されます。

Fコード(SEP/SUB/PWD/SID)、サブアドレスを登録しているときは、テンキーで登録した相手先にのみSEP/SUB/PWD/SID/サブアドレスを印字します。

6. **原稿枚数**

送信できなかった枚数が記載されます。

7. **結果**

送信の結果が記載されます。

<table>
<tr><td>OK</td><td colspan="2">全ページ正しく送信できました。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">エラー</td><td colspan="2">正しく送信できませんでした。「エラー」のあとにエラーの内容(送信できなかった理由)を 示す番号が記載されます。自動リダイヤルの機能によりダイヤルを繰り返したときは、ダイヤルごとの理由を順に記載します。</td></tr>
<tr><td>エラー 1)
通信中断</td><td>ファクスの不具合や電話回線に雑音が入ったため、通信が 途中で中断されました。</td></tr>
<tr><td>エラー 2)
話し中</td><td>相手先が話し中でした。</td></tr>
<tr><td>エラー 3)
応答なし</td><td>呼び出しましたが、相手先が電話にでませんでした。</td></tr>
<tr><td>エラー 4)
相手先がファクシミリでない</td><td>相手先が電話にはでましたが、ファクシミリではありませんでした。電話などが接続されている可能性があります。この場合は2回でダイヤルを中止します。</td></tr>
</table>

8. **送れなかったページ**

相手先に送信できなかったページが記載されます。

9. **料金**

通信料金が記載されます。

記載されるのは、G4ユニット（オプション）を装着しているときです。ただし、通信料金が999999円を超えると「******円」と記載されます。

補足

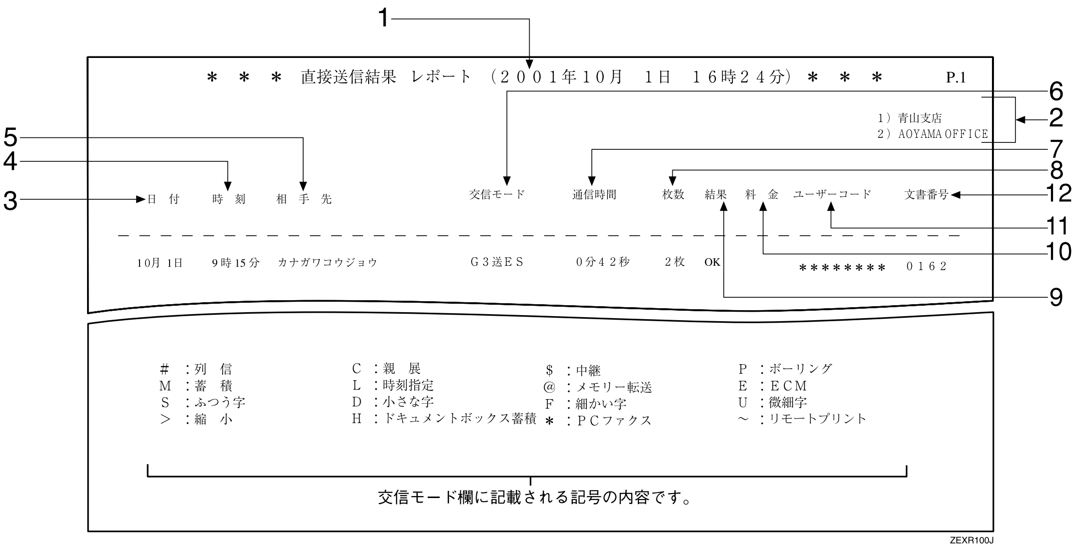
- ❒ G4またはI-G3を使った送信の料金のみが記載され、G3を使った送信の料金は記載されません。
- ❒ 海外に送信したときは料金が計算されないことがあります。

直接送信結果レポート

指定した相手先への送信が終わると印刷されます。直接送信の結果を確認できます。

補足

- このレポートを自動的に印刷するかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「印刷しない」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ03 ビット5）



1. **印刷日時**

レポートを印刷した日付と時間が記載されます。

2. **発信元名称（印字用）登録内容**

発信元名称（印字用）に登録されている内容が記載されます。

3. **日付**

送信した月日です。

4. **時刻**

送信を開始した時刻です。

5. **相手先**

相手先に発信元名称(表示用)が登録してあるときはその発信元名称(表示用)が、発信元名称(表示用)がなく発信元ファクス番号が登録してあるときはその発信元ファクス番号が記載されます。

発信元ファクス番号もないときは入力したファクス番号または宛先表の名称が記載されます。

6. **交信モード**

送信を表す「送」の文字のあとに、通信モードがアルファベットや記号で記載されます。

7. **通信時間**

送信にかかった時間です。

8. **枚数**

送信した枚数です。

9. **結果**

送信の結果が記載されます。

OK	全ページ正しく送信できました。
エラー	正しく送信できませんでした。

10. **料金**

通信料金が記載されます。

記載されるのは、G4ユニット(オプション)を装着しているときです。ただし、通信料金が999999円を超えると「******円」と記載されます。

補足

- ❒ G4またはI-G3を使った送信の料金のみが記載され、G3を使った送信の料金は記載されません。
- ❒ 海外に送信したときは料金が計算されないことがあります。

11. **ユーザーコード**

ユーザーコード利用制限をしているとき、「********」と記載されます。

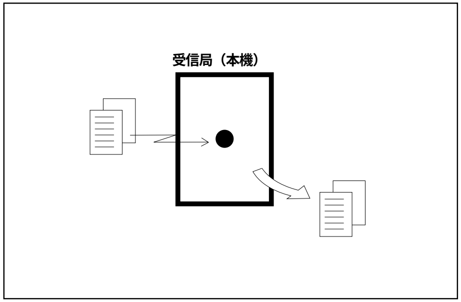
12. **文書番号**

文書の管理番号です。

受信について

直接受信

受信した文書をメモリーに蓄積せずに、1 ページ受信するたびに印刷します。



通常、本機は直接受信しますが、「集約印刷」「受信文書印刷部数設定」「受信逆順印刷」「両面印刷（オプション）」を「ON（使用する）」に設定しているときは、メモリー受信します。また、代行受信する条件が発生しているときは、印刷せずにメモリーに蓄積します。⇒ P.138 「メモリー受信」、P.139 「代行受信」

重要

- ❒ 大切な原稿を受信したときは、相手先に連絡して内容を確認することをお勧めします。

制限

- ❒ ファクスのメモリー残量が少ないときは受信できないことがあります。

補足

- ❒ 直接受信中にファクスのメモリー残量が 0% になると、それ以上に受信できず、その時点で通信が終了します。

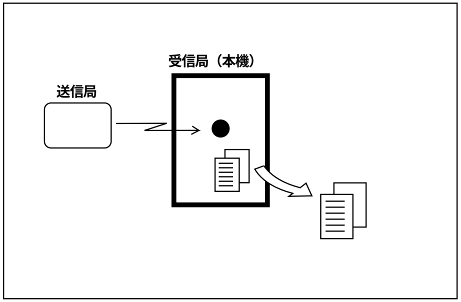
❖ **受信時の文字サイズ**

本機が受信できる文字サイズは「ふつう字」「小さな字」「細かい字（オプション）」「微細字（オプション）」です。

オプションのFAX メモリーを装着していないときは送信側が文字サイズを「細かい字」または「微細字」に設定して送信してきても、本機は「小さな字」で受信します。このため送信側の思いどおりに受信されないことがあります。 また、オプションのFAXメモリーを装着していても、送信側が「細かい字」に設定して送信してきた場合は「微細字」で受信せずに「細かい字」で受信します。

メモリー受信

受信した文書を一度メモリーに蓄積し、全ページを受信したあとで印刷します。



通常、本機は直接受信しますが、次の機能を「ON（使用する）」に設定しているときは自動的にメモリー受信します。

- 集約印刷
- 受信文書印刷部数設定
- 受信逆順印刷
- 両面印刷（オプション）

重要

- ❒ 停電時や電源コンセントを抜いたとき、または主電源を「Off」にしたときそのまま約1時間経過すると、ファクスのメモリーに蓄積されている文書はすべて消去されます。
- ❒ メモリー受信する設定にしていると、大量の文書や、細かい内容の文書を受信できないことがあります。そのときは、集約印刷、受信文書印刷部数、受信逆順印刷、両面印刷を「OFF」に設定するか、メモリーを増設することをお勧めします。

制限

- ❒ メモリー残量が少ないときは受信できないことがあります。

補足

- ❒ メモリー受信中にメモリー残量が0%になると、それ以上受信できず、その時点で通信が終了します。

代行受信

次の条件のときに受信があると、受信した文書は印刷されずにメモリーに蓄積されます。このように、受信した文書はメモリー受信したまま印刷されません。このようにメモリー受信した文書が印刷されず、メモリーに待機している状態を代行受信と呼びます。代行受信した文書は、代行受信の原因が取り除かれると自動的に印刷されます。

- 用紙がないとき
- トナーがないとき
- 用紙がつまっているとき
- 排紙先のトレイに用紙が一杯になったとき

制限

❒ メモリー残量が少ないときは受信できないことがあります。

補足

❒ 代行受信するかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号を受けたときに代行受信する」に設定されています。⇒ P.244「パラメーター設定」（スイッチ05 ビット1、2）

❒ 代行受信すると代行受信ランプが点灯します。



ZFLS160J

❒ 代行受信中にメモリー残量が0%になると、それ以上受信できず、その時点で通信が終了します。

❖ 代行受信ランプが点灯したとき

代行受信すると代行受信ランプが点灯します。代行受信の原因を操作パネルで確認し、処理してください。処理したあと、代行受信している文書が自動的に印刷されます。

代行受信の原因	状態	原因と対処方法
用紙がない。	が点灯。	用紙を補給してください。⇒保守・運用編「用紙をセットする」
トナーがない。	が点灯。	トナーボトルを交換してください。⇒保守・運用編「トナーを補給する」
用紙がつまっている。	が点灯。	用紙を取り除いてください。⇒保守・運用編「つまった用紙を取り除く」
他の機能を使用している。	コピーなど他の機能の印刷が行われている。	現在行われている印刷が終了したあと、自動的に印刷されます。急いでいるときは現在行われている印刷を中止してください。
排紙先のトレイに用紙が一杯になっている。	「排紙先の用紙が一杯になりました。用紙を取り除いてください。」と表示されている。	トレイから用紙を取り除いてください。

❖ （親展受信ランプ）が点灯・点滅したとき

親展受信またはFコード親展ボックスに受信すると親展受信ランプが点灯します。親展受信したときは、親展受信文書を印刷してください。Fコード親展ボックスに受信したときは、親展ボックス文書を印刷してください。封筒受信すると親展受信ランプが点滅します。封筒受信文書を印刷してください。

参照

「親展受信印刷」⇒ P.61

「親展ボックスの受信文書を印刷する」⇒ P.67

「封筒受信印刷」⇒ P.64

代行受信の条件

「用紙がない」「トナーがない」など、本機が印刷できない状態のときに代行受信する条件を、「発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号を受けたとき」、「ポーリングIDが一致したとき」または「無条件」の3つから選択できます。

補足

- 代行受信する条件は「パラメーター設定」で設定します。工場出荷時は「発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号を受けたときに代行受信する」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ05 ビット1、2）
- すべての受信を受け付けないようにも設定できます。

❖ 発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号を受けたとき代行受信する

相手先に発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号が登録してあるときだけ、代行受信します。受信した文書をメモリーに蓄積したまま電源が切れ、そのまま1時間以上経過すると、受信した文書が消えてしまいます。このようなときでも、電源断レポートや通信管理レポートを使って、消えてしまった文書を確認できるので、送信し直してもらうことができます。

重要

- 相手先に発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号が登録されていないと、大切な原稿を受信できないことがあります。できるだけ相手先に発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号を登録してもらうことをお勧めします。

❖ 無条件に代行受信する

相手先の発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号の登録にかかわらず代行受信します。

❖ ポーリングIDが一致したとき

代行受信する 相手先のファクスに登録されているポーリングIDと、本機に登録してあるポーリングIDが一致したときだけ受信します。

受信モードについて

受信モードには「自動切り替え」、「手動受信」、および「自動受信」の3つがあります。それぞれの受信モードにはいろいろな機能がついています。⇒ P.224「受信設定」

制限

- ❒ NTTとナンバー・ディスプレイの契約をしていると、自動受信またはファクス優先モードでは、ファクスを受信できません。手動受信または電話優先モードに設定すると、ファクスの受信はできますが、ナンバー・ディスプレイは利用できません。

❖ 受信モードタイマー切り替え

受信のしかた(自動切り替え、手動受信、自動受信)を時刻によって自動的に切り替えることができます。切り替えは1日2回、1週間分設定できます。⇒ P.241 「受信モードタイマー切り替え」

制限

- ❒ ダイヤルイン機能とは併用できません。⇒ P.145 「ダイヤルイン機能」

❖ 呼び出し音について

受信モードが「自動切り替え(ファクス優先モード)」または「自動受信」に設定されているとき、相手先からの呼び出しに対し、ハンドセット(オプション)と外付け電話機のベルを鳴らさずに着信します(無鳴動着信)。夜間など静かに受信するときにこのモードにしておくと便利です。

ベルを鳴らさないように設定していても、本機が着信できない状態のときはベルが鳴ります。受信モードが「自動切り替え(電話優先モード)」または「手動受信」のときはベルを鳴らします。

補足

- ❒ 呼び出し音を鳴らすようにするかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷値は「鳴らさないようにする」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」(スイッチ07 ビット0)

自動切り替え

電話がかかってくると、相手が電話なのかファクスなのかを判断し、自動的に電話とファクスを切り替えます。自動切り替えには「電話優先モード」と「ファクス優先モード」があります。

比較的ファクスとして使うことが多いときは「ファクス優先モード」に設定します。電話として使うことが多いとき、または外付け電話機として留守番電話機を接続するときは「電話優先モード」に設定します。

また、ダイヤルイン機能を使って自動切り替えすると、早く正確に切り替えることができます。

補足

- ❒ 優先モードを電話優先モードにするかファクス優先モードにするか「受信設定」で選択できます。工場出荷時は「ファクス優先」に設定されています。
⇒ P.224 「受信設定」

電話優先モード

相手先から電話がかかってくると呼び出しベルを8回鳴らします。呼び出し中に受話器を取ると会話できます。呼び出しベルが鳴っていても受話器を取らないでそのままにしておくと、自動的にファクスに切り替わります。

補足

- ❒ ハンドセット（オプション）と外付け電話機のベルが同時に鳴ります。先に取った方で会話ができます。
- ❒ ナンバー・ディスプレイの契約をしていると、はじめに短い呼び出しベルが数回鳴り、その後、通常の呼び出しベルが鳴ります。ハンドセット（オプション）または外付け電話機で応答するときは、通常の呼び出しベルが鳴ってから応答してください。

❖ 留守番電話機を接続する

外付け電話機として留守番電話機を接続することができます。このとき受信モードは自動切り替え（電話優先モード）に設定してください。
電話がかかってくると留守番電話機が応答します。

- 相手先が自動送信ファクスの場合は、応答メッセージ中か応答メッセージ後に「ポー」というファクス信号音を検出すると、自動的にファクスに切り替わります。
留守番電話機に音のない空白が録音され、録音件数に加算されることがあります。
- 相手先が電話の場合は、相手からのメッセージを留守番電話機に録音します（通常の留守番電話機と同じです）。

重要

- ❒ 留守番電話を使用しているときに自動切替機能がうまく働かないときは、留守番電話器の応答メッセージのはじめの4秒間を無音状態にしてください。

制限

- ❒ 留守番電話機によってはうまく動作しない場合があります。

補足

- ❒ 留守番電話機を留守録セットした場合は、留守番電話機側で設定した回数だけベルが鳴ったあと、相手先とつながります。留守番電話機のベルを鳴らす回数はリンギング回数の設定（工場出荷値8回）より少なくしてください。

❖ **リンギング回数設定**

「電話優先モード」に設定すると、相手先の状態（自動送信、手動送信、電話）にかかわらず、こちら側のハンドセット（オプション）や電話機のベルを一定の回数鳴らします。ベルの回数（リンギング回数）は「受信設定」⇒ P.224で設定できます。

補足

❒ リンギング回数は、1〜29回の範囲で設定できます。工場出荷時は、8回です。

ファクス優先モード

ハンドセット（オプション）や外付け電話機のベルを鳴らさずに受信します。相手先がファクスのときは自動的に受信します。相手先が電話のときはベルを6回鳴らしますので、受話器を取って会話をしてください。呼び出しベルが鳴っていても受話器を取らないでそのままにしておくと、自動的にファクスに切り替わります。

補足

❒ ファクス優先モード時の音声メッセージ1「電話の方はそのままお待ちください。ファクスの方はスタートボタンを押してください。」を相手先に流すかどうか「パラメーター設定」で設定できます（音声応答）。工場出荷値は「流す」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ07 ビット1）

❒ ファクス優先モードにした場合、相手から電話があると呼び出し中でも電話料金がかかります。あらかじめ相手先にお伝えください。

❖ **呼び出し回数設定**

「ファクス優先モード」に設定すると、相手先が手動送信や電話のときにはこちらの電話機のベルを鳴らします。そのときに鳴らすベルの回数（呼び出し回数）を⇒ P.224「受信設定」で設定できます。

補足

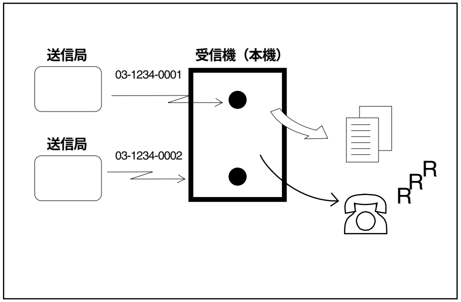
❒ 呼び出し回数は 1 〜 29 回の範囲で設定できます。工場出荷時は、6回です。

ダイヤルイン機能

NTT とダイヤルインサービスの契約をすると、1 本の電話回線で複数の番号を利用できます。

本機の場合は2つの番号を利用でき、この2つの番号をそれぞれ電話用、ファクス用として、あらかじめ相手に知らせておきます。

相手が電話をするときは電話用の番号に、ファクスを送りたいときはファクス用の番号にダイヤルしてもらうと、自動的に電話とファクスを切り替えて応答します。



- 電話用の番号にかかってくるとベルを鳴らします。ファクス用の番号にかかってくるとファクスとして自動的に受信します。
- 電話用の番号にファクスが送信されると、受話器を上げたときに「ポーッ、ポーッ」という音が聞こえます。このときは手動受信の操作をしてファクスに切り替えてください。⇒ P.146 「手動受信」

重要

- ❒ ダイヤルイン契約は有料です。
- ❒ 電話用の番号を登録してください。
- ❒ ダイヤルインの利用開始日（局内工事が行われる時刻）からダイヤルイン機能が利用できます。

補足

- ❒ 現在使用中の回線をダイヤルイン契約すると、電話番号が変わることがあります。
- ❒ 先にダイヤルイン機能を「ON」に設定するとそれ以前に設定していた受信モードは無視され自動切り替え（ファクス優先モード）で受信します。

制限

- ❒ 電話とファクスを同時に使うことはできません。
- ❒ ISDNでは使用することができません。
- ❒ 増設G3（オプション）またはG4（オプション）に接続している回線では使用できません。
- ❒ 受信モードタイマー切り替えとは併用できません。
- ❒ ダイヤルインサービスを受けられない地域があります。詳しくはNTT の営業窓口におたずねください。ダイヤルインにはPB信号方式とモデム信号方式があり、本機はPB信号方式のみに対応しています。また、ISDNのダイヤルインには対応していません。

1 NTTの営業窓口にダイヤルインサービスが利用可能か問い合わせ、利用可能であれば申し込みます。

2 NTTから電話用とファクス用の番号をもらいます。

3 「ダイヤルイン番号登録」で電話用のダイヤルイン番号を登録します。⇒ P.301 「ダイヤルイン番号登録」

4 「パラメーター設定」で「使う」を選択します。⇒ P.244 「パラメーター設定」(スイッチ25 ビット3)

停電のときの電話の受けかた

ダイヤルイン機能を使用しているときに停電すると、ファクスの受信はできなくなりますが、電話を受けることはできます。

電話を受けるときは次のとおり操作してください。

❶ ベルが1、2回だけ鳴ります。鳴り終わる前に受話器を上げます。

❷ 「ピポパポ」という信号音が聞こえます。信号音が聞こえなくなったら受話器を置きます。

❸ 1、2秒後に受話器を上げます。相手と会話できます。

手動受信

電話がかかってくるとベルが鳴るので、ハンドセット(オプション)または外付け電話機で応答してください。相手が会話しようとしているときは、そのまま会話します。

補足

❒ ナンバー・ディスプレイの契約をしていると、はじめに短い呼び出しベルが数回鳴り、その後、通常の呼び出しベルが鳴ります。ハンドセット(オプション)または外付け電話機で応答するときは、通常の呼び出しベルが鳴ってから応答してください。

ファクスへ切り替える

相手がファクスを送信するといってきたときや、「ポーッ、ポーッ」という音が聞こえるときは、次の手順でファクスに切り替えます。

補足

❒ ファクスへ切り替えるときは、原稿がセットされていないことを確認します。

❖ **ハンドセット(オプション)または外付け電話機で応答したとき**

- **【手動受信】**キーまたは**【スタート】**キーを押してハンドセット(オプション)を置きます。(手動受信)

- テンキーの【2】を押して受話器を置きます。使用している回線がダイヤル回線のときは 1 回、プッシュ回線のときは2回押してください。(リモート切替)

制限

❒ リモート切替は地域や電話機によっては使えないことがあります。

❒ 増設G3回線（オプション）のときはリモート切替できません。

補足

❒ リモート切替できるようにするかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「する」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ07 ビット5）

自動受信

電話がかかってくるとファクスとして自動的に受信します。

電話へ切り替える

本体内部のスピーカーから人の声が聞こえるときは、相手が会話をしようとしています。そのときは次の手順で電話に切り替え、相手と会話します。

ハンドセット（オプション）または外付け電話機の受話器を取って、【2】を押します。使用している回線がダイヤル回線のときは1回、プッシュ回線のときは2回押してください。（リモート切替）

制限

❒ リモート切替は地域や電話機によっては使えないことがあります。

❒ 増設G3回線（オプション）のときはリモート切替できません。

補足

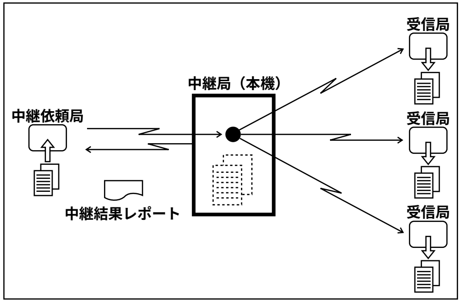
❒ リモート切替できるようにするかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「する」に設定されています。⇒ P.244「パラメーター設定」（スイッチ07 ビット5）

❒ スピーカーから聞こえる音量を調節できます。⇒ ファクス機能 基本編「第4章 音量を調節する」

受信するときの機能

中継局機能

相手のファクスが中継依頼送信をしてきたときの機能です。本機が中継局になり、受信した文書を指定された受信局に自動的に送信します。



❖ **中継依頼局**
中継依頼送信をしてきたファクスです。

❖ **中継局**
中継を依頼されたファクス（本機）です。

❖ **受信局**
中継局から原稿を受信するファクスです。
受信局は、本機に登録してある宛先表またはグループ宛先で指定されます。

制限

- ❒ 中継局のポーリング ID と中継依頼局のポーリング IDが一致しなければ受信しません。
- ❒ 中継局（本機）の宛先表（ワンタッチダイヤル）に、中継依頼局のファクス番号が登録されていないと中継依頼送信できません。
- ❒ 中継局には中継結果レポート設定が設定されていないと受信できません。⇒ P.293「中継結果レポート設定」
- ❒ テンキーで指定する宛先を 2 件以上記憶できる容量がなければ受信しません。⇒ファクス機能 基本編「第2章　テンキーで相手先を指定するときの制限事項」
- ❒ 中継依頼局がグループを受信局として指定してきたとき、受信局の合計が500宛先を超える場合は中継同報送信できません。中継依頼局に中継結果レポートを返送して終了します。

参照

ファクス機能 基本編「第3章 グループ宛先を登録する」

❖ **多段中継**

複数の中継局を経由すると中継依頼送信が効率的になります。
グループ宛先に中継局を登録しておくと、そのグループが受信局として指定されたとき、登録してある中継局に対して中継依頼送信で原稿を送信します。指定されたグループ宛先に登録してある相手先が受信局になります。
詳しくは最寄りのサービス実施店にお問い合わせください。

参照

ファクス機能 基本編「第3章 グループ宛先を登録する」

❖ **中継結果レポートの返送**

中継依頼局の中継結果レポート設定（自局番）に登録されている番号と、中継局の宛先表に登録してある番号を比較し、下5桁が一致する番号があればレポートを返送します。一致する番号の例は次のとおりです。

- 中継依頼局の中継結果レポート設定（自局番登録）
  001813-11112222
- 中継局の宛先表
  03-11112222

中継結果レポート

受信局への送信の結果を確認できます。

中継依頼局によって指定された受信局への送信をすべて終えたとき、本機から中継依頼局に送信します。

中継依頼局に送信できないときは本機で印刷します。

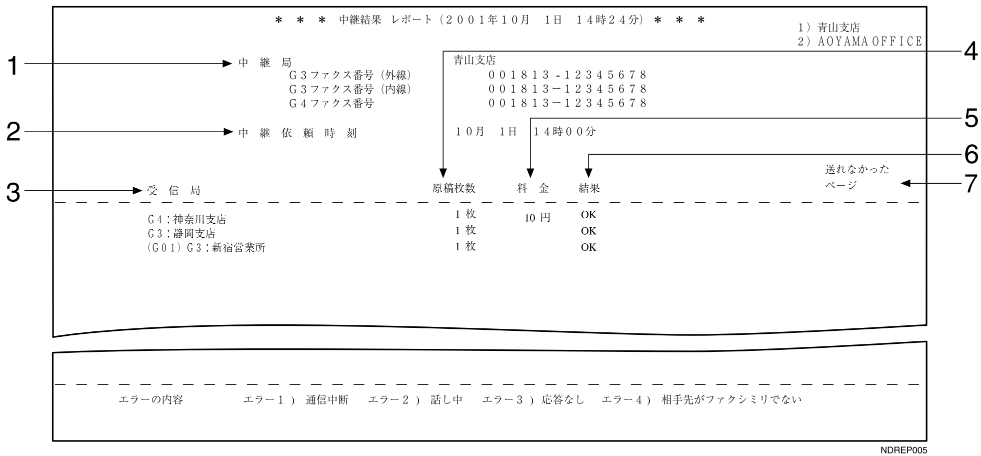
操作の前に

中継依頼局のファクス番号を、中継局（本機）の宛先表に登録しておきます。⇒ファクス機能 基本編「第3章 宛先表に登録する」

外線自局番を登録しておきます。⇒ P.293 「中継結果レポート設定」

補足

❒ このレポートに画像（原稿の一部）を載せるかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「載せる」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ04 ビット7）



1. **中継局**

本機に発信元名称（印字用）が登録してあるときはその発信元名称（印字用）が、発信元名称（印字用）がなく発信元名称（表示用）が登録してあるときはその発信元名称（表示用）が、発信元名称（表示用）がなく発信元ファクス番号が登録してあるときはその発信元ファクス番号が記載されます。発信元名称（印字用）、発信元名称（表示用）、発信元ファクス番号のすべてがない場合は何も記載されません。

2. **中継依頼時刻**

中継依頼を受けた日時が記載されます。

3. **受信局**

宛先表で指定した場合は登録してある名称が記載されます。グループで指定した場合はそのグループに登録してあるすべての相手先を記載し、各相手先の先頭に「(G01)」のようにグループナンバーを付けます。テンキーでグループ登録した相手先はファクス番号が、宛先表で登録した相手先は名称が記載されます。

G4ユニット（オプション）を装着しているときは、回線の種類が「G3」「I-G3」「G4」「G3（空）」のいずれかで記載されます。

増設G3ユニット（オプション）を装着しているときは、回線の種類が「G3-1」「G3-2」「G3（空）」のいずれかで記載されます。

4. **原稿枚数**

中継依頼局から中継を依頼されて、受信した原稿の枚数です。

5. **料金**

通信料金が記載されます。

記載されるのは、G4ユニット（オプション）を装着しているときです。ただし、通信料金が999999円を超えると「******円」と記載されます。

補足

- ❒ G4またはI-G3を使った送信の料金のみが記載され、G3を使った送信の料金は記載されません。
- ❒ 海外に送信したときは料金が計算されないことがあります。

6. **結果**

送信の結果が記載されます。

OK	全ページ正しく送信できました。	
エラー	正しく送信できませんでした。「エラー」のあとにエラーの内容（送信できなかった理由）を 示す番号が記載されます。自動リダイヤルの機能によりダイヤルを繰り返したときは、ダイヤルごとの理由を順に記載します。	
エラー	エラー 1）通信中断	ファクスの不具合や電話回線に雑音が入ったため、通信が 途中で中断されました。
	エラー 2）話し中	相手先が話し中でした。
	エラー 3）応答なし	呼び出しましたが、相手先が電話にでませんでした。
	エラー 4）相手先がファクシミリでない	相手先が電話にはでましたが、ファクシミリではありませんでした。電話などが接続されている可能性があります。この場合は2回でダイヤルを中止します。

7. **送れなかったページ**

結果が「エラー」のとき、送信していないページ数を記載します。

JBIG 受信

この機能を利用するためにはFAX機能拡張キット（オプション）が必要です。

JBIG機能を利用した受信が可能になります。

制限

- ECM機能が「OFF」のときはJBIG受信できません。⇒ P.239 「自動誤り再送(ECM)」
- 回線がG4（オプション）のときには使えません。

補足

- 増設G3ユニット（オプション）を付けているとき、増設G3側（G3-2）でのJBIG受信は標準機能です。

自動電源受信機能

本機は電源が切れていても（**【電源】**キーのランプが消灯していても）、主電源スイッチを「On」にしているとき（スリープモード時）は、原稿読み取りずみのメモリー送信や受信印刷ができます。

夜間や休日などの不在時、主電源スイッチは「On」のまま、**【電源】**キーを押して電源を切っておくと電力コストの削減ができます。

重要

- **【電源】**キーと主電源スイッチの両方を「Off」にしているときは、受信できません。

補足

- スリープモード時に受信した文書をいつ印刷するか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「即時印刷（すぐに印刷する）」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ14 ビット0）
- メモリーで受信（代行受信）し、電源を入れたあとまとめて印刷するように設定することもできます。

印刷するときの機能

印刷終了ブザー

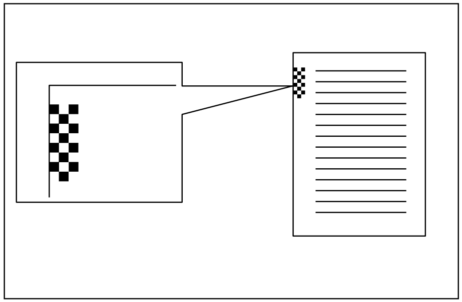
受信文書の印刷終了時にブザーを鳴らして知らせます。離れたところからでも受信したことがわかります。

補足

- ブザーの音量を調節できます。鳴らしたくないときは最小に設定します。⇒ファクス機能 基本編「第4章 音量を調節する」

しおり印字機能

受信紙の1枚目に、しおりのマークを印字します。複数の文書を受信したときなど文書の区切りがわかり便利です。



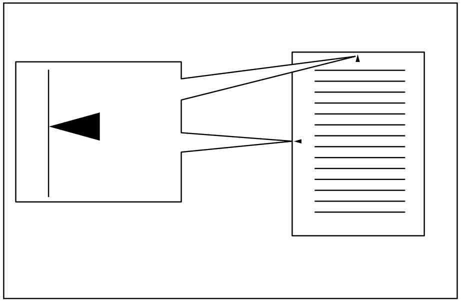
補足

- しおり印字機能を使用するかどうか「受信設定」⇒ P.224で設定できます。工場出荷時は「使用する」に設定されています。

センターマーク印字

受信した文書、リストおよびレポートの左端と上端の中央にマークを印字します。

ファイリングなどのためにパンチ穴を開けるときの目印になります。

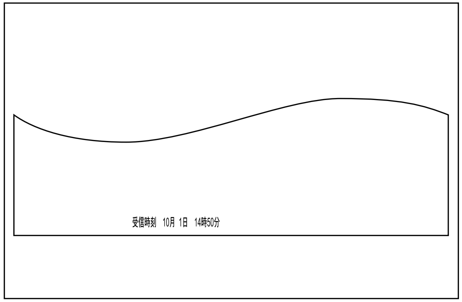


補足

- ❒ センターマーク印字するかしないか「受信設定」⇒ P.224で設定できます。工場出荷時は「印字する」に設定されています。
- ❒ 左端のセンターマークはセンター位置から多少ずれることがあります。

受信時刻印字

受信紙の下の部分に、受信した日付と時刻を印字できます。



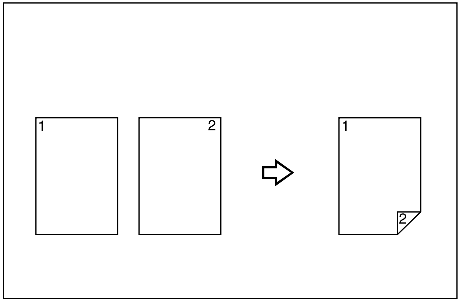
補足

- ❒ 受信時刻印字するかどうか「受信設定」⇒ P.224で設定できます。工場出荷時は「印字しない」に設定されています。
- ❒ 記録分割したページは、最後の用紙にだけ印字されます。
- ❒ 印刷した時刻もあわせて印刷するように設定することもできます。サービス実施店に連絡してください。

両面印刷

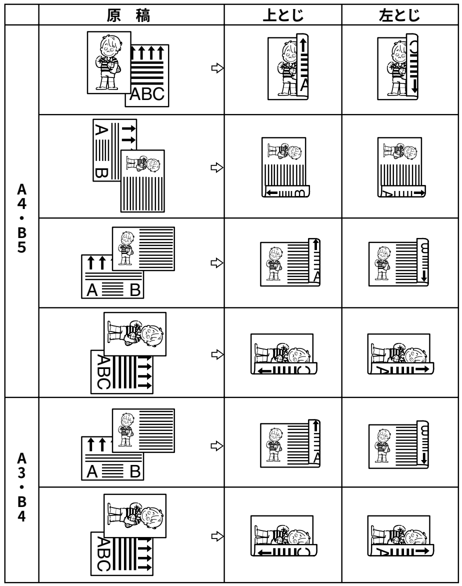
この機能を利用するためには両面ユニット（オプション）が必要です。

受信文書を用紙の両面に印刷できます。また、本機に蓄積されている送信待機文書、蓄積文書を用紙の両面に印刷することができます。



制限

- この機能を使用する場合は、受信文書がすべてのページが同じサイズになるように、相手先に送信してもらう必要があります。また、相手先が送信してきた原稿と同じサイズの用紙を本機にセットしておく必要があります。（A4→A4、B4→B4などが一般的な例です。B5・A3サイズは、ファクスによっては正しいサイズで読み取れないことがあります。）本機では A3▭ B4▭ A4▯▭ B5▯▭ A5▯が正しいサイズで読み取れます。送受信とも本機を使用した場合は次のとおりです。



補足

- ❒ 両面印刷時のとじ方向（左とじ、上とじ）は、工場出荷時は「左とじ」に設定されています。設定を変更するときは最寄りのサービス実施店に連絡してください。

制限

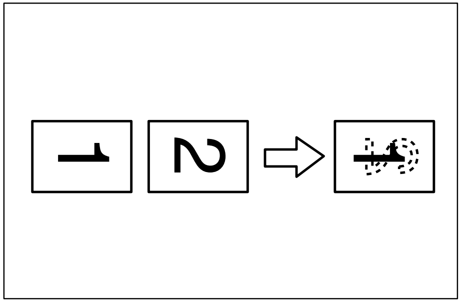
- ❒ 相手のファクスが原稿サイズを正しく読み取れずに送信してきたときや、相手先の原稿サイズとこちらの用紙サイズが一致しないときは、分割・縮小されたり、余白ができることがあります。（例:相手のファクスがB5サイズの原稿を検知できず、B4サイズとして送信してきたときは、こちら側にB5サイズの用紙がセットされていても、B4の用紙に印刷されます。）
- ❒ この機能が有効になるのは、受信文書のすべてのページが同じ幅で、すべてのページをメモリーで受信できたときだけです。
- ❒ 集約印刷とは併用できません。

補足

- ❒ 両面印刷するかどうか「受信設定」⇒ P.224で設定できます。工場出荷時は「OFF（両面印刷しない）」に設定されています。「ON（両面印刷する）」に設定すると本機はメモリー受信するようになります。
- ❒ 受信する原稿の向きによっては、原稿の表と裏の天地が逆になります。
- ❒ 特定の相手先から受信した文書だけを両面印刷するように設定することもできます。⇒ P.259 「特定相手先設定」
- ❒ 蓄積文書を印刷するときは、同じサイズの文書ごとに両面印刷します。文書によっては片面にだけ印刷されます。

180° 回転印刷

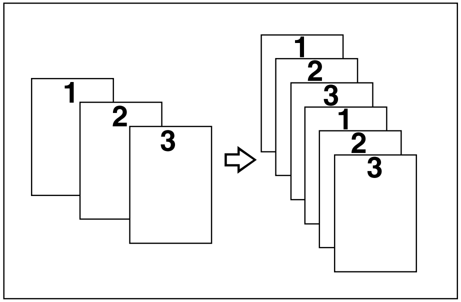
両面印刷時に表面/裏面の天地をそろえるために、裏面が180°もしくは270°回転し、印刷されます。



受信文書印刷部数設定

受信文書を設定した部数だけ印刷することができます。

特定の相手先（特定相手先）からの受信文書だけを設定した部数印刷するなど、送信してきた相手先によって印刷部数を区別することもできます。

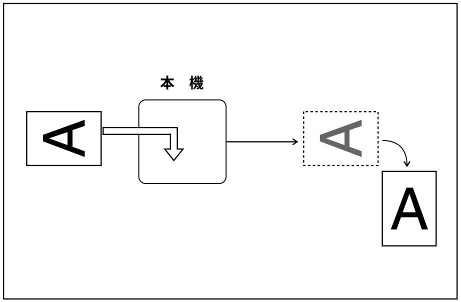


補足

- ❒ 設定できる部数は1～10部、特定相手先を指定したときも1～10部です。
- ❒ この機能を使用するかどうかを「受信設定」 ⇒ P.224で設定できます。工場出荷時は「OFF（1部）」に設定されています。「ON」に設定し部数を登録すると、本機はメモリー受信するようになります。

回転レシーブ

給紙トレイにセットされている用紙と同じサイズで向きだけが違う文書を受信したとき、自動的に画像を右回りに90°回転して印刷できます。

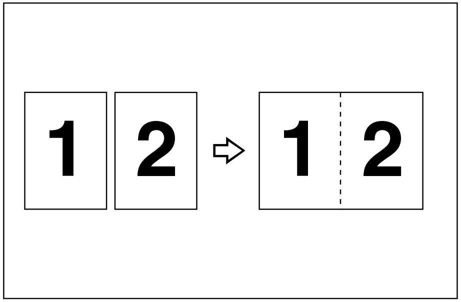


補足

- ❒ 「給紙トレイ選択」で、給紙トレイを設定しているときは、そのトレイの用紙が選択されます。⇒ P.224 「受信設定」

集約印刷

A5 の文書が2枚続けて送信されたときはA4の用紙の左右に、B5 の文書が2枚続けて送信されたときは B4 の用紙の左右に、2 枚分をまとめて印刷します。用紙の無駄がなくなるので経済的です。



次のように印刷されます。

- A5 の文書はA4の用紙の左右に印刷
- B5 の文書はB4の用紙の左右に印刷
- A4 の文書はA3の用紙の左右に印刷

制限

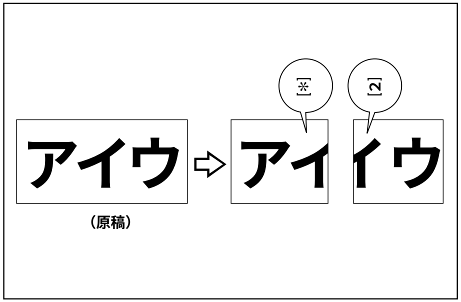
- ❒ A5、B5、A4 より大きい文書を受信したとき、この機能は働きません。B5、A4 の用紙があるときは、1枚の用紙に1枚分印刷します。A5、B5、A4の用紙があるときは、受信文書を回転して1枚の用紙に1枚分印刷します。
- ❒ 受信文書と同じサイズで同じ向きの用紙がセットされているときは、集約印刷できません。
- ❒ 両面印刷と集約印刷が同時に設定されているときは、両面印刷が優先され、集約印刷は無効になります。

補足

- ❒ 集約印刷するかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「印刷しない」に設定されています。「印刷する」に設定すると本機はメモリー受信するようになります。⇒ P.244「パラメーター設定」（スイッチ10 ビット1）

記録分割・縮小

セットしてある用紙より長い文書を受信したとき、1ページを複数枚に分割したり、長さを縮小して1枚に印刷することができます。



分割と縮小の目安として、印刷する文書の長さが用紙に比べ約20mmより長いときは分割し、それ以内のときは縮小して1枚に印刷します。

分割したときは分割位置に分割マーク（*）を印字し、分割した部分を約10mm重ねて印刷します。

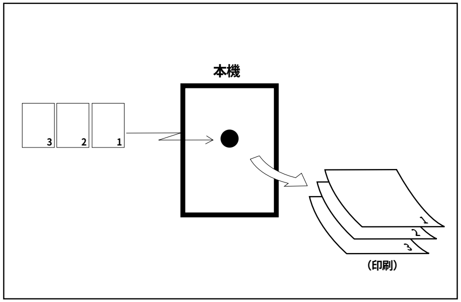
補足

❒ 以下の設定を変更することができます。サービス実施店に連絡してください。() 内は工場出荷時の設定です。

- 縮小するかどうか（縮小する）
- 分割マークを印字するかどうか（印字する）
- 重ねて記録するかどうか（記録する）
- 分割した部分を何mm重ねて記録するか(10mm)
  4mm、10mm、15mmの中から選択できます。
- 分割の目安（原稿の長さが用紙の長さより20mm長いとき）
  5〜155mmの範囲で5mmごとに変更できます。

受信逆順印刷（受信紙ソート印刷）

受信した文書をいったんメモリーに蓄積し、先頭ページから並ぶように印刷します。並べ換える手間が省けます。



補足

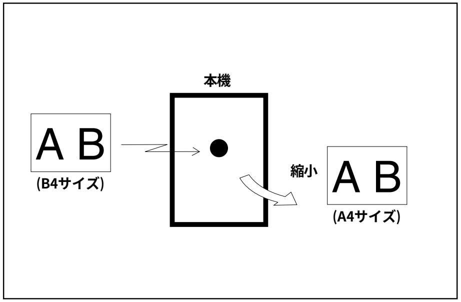
❒ 受信逆順印刷するかどうか「受信設定」⇒ P.224で設定できます。工場出荷時は「OFF（しない）」に設定されています。

❒ この機能を「ON（する）」に設定すると1ページ目から送信されてきた原稿は最終ページから印刷されます。

❒ 特定の相手先から受信した文書だけを受信逆順印刷するように設定することもできます。⇒ P.259「特定相手先設定」

受信側縮小

通常は2枚に分割して印刷される文書を1枚の用紙に縮小して印刷できます。



次の場合に使用できます。

- A4▭とB5▯の用紙をセットしている場合に、B4▭の文書を受信したときは、A4▭1枚に縮小して印刷します。
- B4▭とA4▯の用紙をセットしている場合に、A3▭の文書を受信したときは、B4▭1枚に縮小して印刷します。

補足

❒ 受信側縮小するかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「縮小しない」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ10 ビット3）

❒ この機能を使用したときは、通常より印刷の品質が落ちるときがあります。

参照

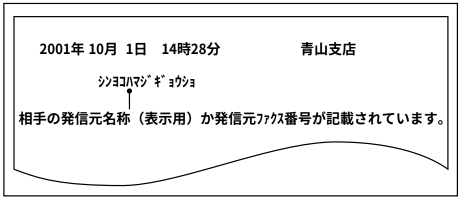
「記録分割・縮小」⇒ P.159

TSI（送信側情報）印字

受信したときに相手先に登録してある発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号を用紙に印字します。相手先が発信元名称（印字用）を印字しないで送信しても、どこから送られてきたかわかります。

参照

ファクス機能 基本編「第3章 こちらの名称とファクス番号を登録する」



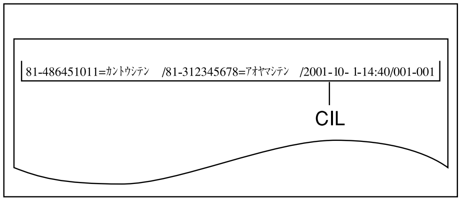
補足

❒ TSI（送信側情報）印字するかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「印字しない」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ02 ビット3）

CIL（受信側・送信側情報）印字

この機能を利用するためには G4 ユニット（オプション）が必要です。

受信した文書の全ページに、受信側（本機）の自局番号と自局名称、送信側の自局番号と自局名称、通信日時とページ番号を印字することをCIL（受信側・送信側情報）印字といいます。相手先の名称も印字されます。



GFCILI00J

補足

- ❒ CIL（受信側・送信側情報）印字するかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「印字する」に設定されています。⇒ P.244「パラメーター設定」（スイッチ02 ビット5）

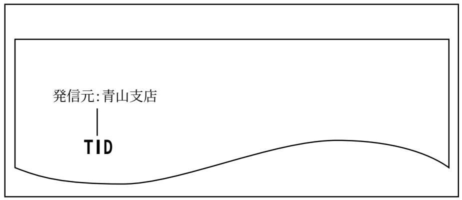
TID（送信側情報印字 <G4 用 >）印字

この機能を利用するためには G4 ユニット（オプション）が必要です。

相手先に G4 発信元情報として登録されている名称を印字することをTID（送信側情報印字<G4用>）印字といいます。

参照

ファクス機能 基本編「第3章 こちらの名称とファクス番号を登録する」



補足

- ❒ TID（送信側情報印字<G4用>）印字するかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「印字する」に設定されています。⇒ P.244「パラメーター設定」（スイッチ02 ビット6）

同じサイズの用紙がないとき

受信した文書のサイズに合わせて、次の順位で用紙が選択されます。

❖ 表の見かた

B4▭とA5▭の用紙がセットされているときに、A4▭の原稿を受信したことを例に説明します。
受信原稿A4▭の欄を上から順に調べます。セットされている用紙の中で最も優先順位の高い用紙に印刷されます。
この場合はB4▭の方がA5▭より優先順位が高いので、B4▭に印刷されます。

❖ 優先順位表

	受信サイズ	A5▯	B5▯	A4▯	A4▭	B4▭	A3▭
優先順位	1	A5▭	B5▯	A4▯	A4▭	B4▭	A3▭
	2	A4▭	B5▭	A4▭	A4▯	A3▭	A4▯▯
	3	A4▯	B4▭	A3▭	A3▭	B5▯▯	A4▭▭
	4	B5▯	A4▯	B4▯	B4▭	B5▭▭	B4▭▭
	5	B5▭	A4▭		A5▭▭	A4▯▯	
	6	A3▭	A3▭		B5▯▯	A4▭▭	

GFUSN01J

- B5▭の用紙しかセットされていないときにA3▭の文書を受信すると、代行受信したまま文書が印刷されません。
- ▯▯、▭▭は複数枚に記録分割して印刷します。
- ░░は回転レシーブ機能により90°回転して印刷します。

制限

- ❒ 手差しトレイの用紙は選択されません。ただし、「特定相手先設定」で、給紙トレイを手差しトレイに設定しているときは手差しトレイの用紙が選択されます。⇒ P.259「特定相手先設定」

補足

- ❒ ファクスで受信できる原稿の幅は、A4、B4、およびA3の3種類に限られています。A4より幅の狭い原稿はすべて A4 幅として送信されます。長さは原稿に応じて送信されます。
- ❒ 受信サイズは相手先が送った原稿サイズと異なることがあります。

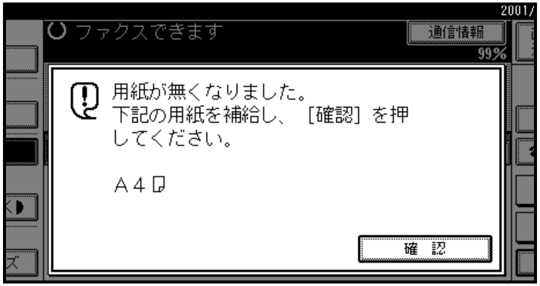
参照

「記録分割・縮小」⇒ P.159
「受信側縮小」⇒ P.160
「回転レシーブ」⇒ P.157

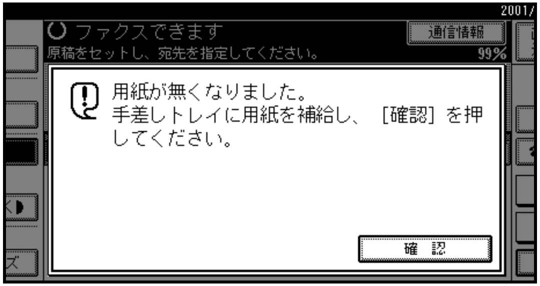
ジャストサイズ印刷

受信した用紙のサイズと最適な用紙が給紙トレイにないときに、印刷しないで「用紙が無くなりました。」と表示します。給紙トレイに同じサイズの用紙を補給してから、［確認］を押してください。

- 給紙トレイのとき



- 手差しトレイのとき



制限

- ❒ 給紙トレイが引き出されているときは印刷できません。必ず給紙トレイを元に戻してください。
- ❒ メッセージが表示されたときの本機の状態によって、[確認] を押したあとの動作が異なります。
    - 受信文書やレポートが自動的に印刷されていたときは、印刷が中止されたところから、自動で印刷を再開します。
    - 文書やレポート・リストを手動で印刷していたときは、印刷は再開されません。最初から操作し直します。

補足

- ❒ 最適な用紙サイズで印刷するかどうかを「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「しない」(ジャストサイズ印刷は「OFF」)に設定されています。⇒ P.244「パラメーター設定」(スイッチ05 ビット5)

手差しトレイの用紙に受信する

特定の相手先からの受信を、手差しトレイの用紙に印刷します。

給紙トレイにセットされていないサイズの用紙を手差しトレイにセットして受信することができます。

手差しトレイには、普通紙で最大100枚までセットできます。

制限

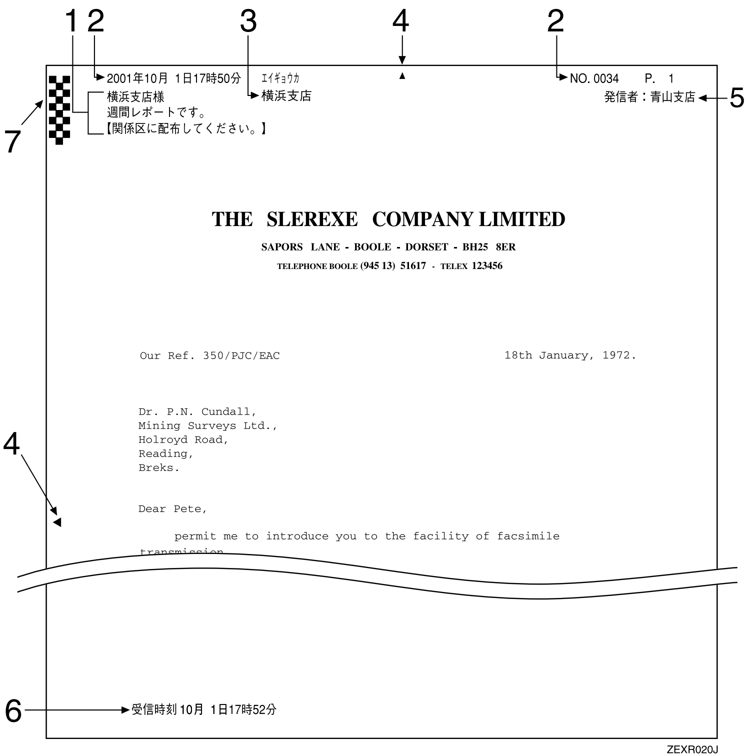
- ❒ FAXメモリー(オプション)の有無、文字サイズ(線密度)、原稿サイズ(縦の長さ)により、印刷される領域(横の長さが128〜432mm)が変わります。
- ❒ この機能を使うときは、受信紙をフィニッシャー(オプション)に排出することはできません。排紙先をフィニッシャー(オプション)に設定していても、本体排紙トレイに排出されます。⇒システム設定編 2 スキャナーユニット タイプ 8100 対応版「基本設定－排紙先:ファクス」

補足

- ❒ この機能を使用するときは、「特定相手先登録」の「機能選択(相手先別受信機能)」を「ON」に設定し、「給紙トレイ設定」から「手差しトレイ」を選択します。「特定相手先の登録/変更」⇒ P.262
- ❒ 433mm 以上の紙を使用すると、しわができたり、用紙が送られなかったり、紙づまりをおこす原因となることがあります。
- ❒ A4▭ とB4、A3以外の用紙を手差しトレイにセットするときは、サイズの指定をします。⇒ P.269「手差し用紙サイズ指定を設定するとき」
- ❒ 指定した用紙とセットした用紙のサイズが異なると、用紙がつまったり画像が欠けたりすることがあります。
- ❒ この機能を使うときは、回転レシーブ、180度回転印刷の機能は使用できません。

受信紙に印字される機能

受信紙に印字される名称やマークは、送信側の設定によるものと、受信側の設定によるものの2種類があります。加入電話回線を使った通信のときの例です。



1. **宛名差し込み(送信側の設定)**⇒ P.117「オプション設定」
2. **発信元名称印字(送信側の設定)**⇒ P.117 「オプション設定」
3. TSI**(送信側情報)印字(受信側の設定)**⇒ P.160「TSI(送信側情報)印字」
4. **センターマーク印字(受信側の設定)**⇒ P.154「センターマーク印字」
5. **送信者名印字(送信側の設定)**⇒ P.117「オプション設定」
6. **受信時刻印字(受信側の設定)**⇒ P.154 「受信時刻印字」
7. **しおり印字(受信側の設定)**⇒ P.153 「しおり印字機能」

受信紙の排出先について

回線別排紙先設定

この機能を利用するには、増設G3ユニット（オプション）またはG4ユニット（オプション）が必要です。

回線ごとに文書を排出させるトレイを設定できます。たとえばG3回線で受信した文書は「本体排紙トレイ」に、G4回線（オプション）で受信した文書は「本体左上トレイ」に排出されるように設定しておくと、文書の仕分けが簡単になります。

排紙先に、フィニッシャー（オプション）またはサイド排紙トレイ（オプション）を指定することもできます。サイド排紙トレイ（オプション）を指定するときは、両面ユニット（オプション）が必要です。

補足

- この機能を使用するときは、「受信設定」⇒ P.224の「回線別排紙先設定」で回線と排紙先を設定します。

排紙位置シフト機能

この機能を利用するためにはフィニッシャー（オプション）が必要です。

ファクスの受信紙をフィニッシャー（オプション）に排出するように設定していると、排紙位置シフト機能が使えます。

受信文書やレポートを印刷するとき、フィニッシャー（オプション）内部の排出口が動き、文書ごとに手前と奥に振り分けて印刷します。たとえば、先に受信した文書を手前に排出していると、次の受信文書は奥に排出されます。文書単位で振り分けるので、トレイにたまった文書を仕分けるときに便利です。

補足

- 排紙位置シフト機能を使うかどうかは「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「使う」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ19 ビット0）

プログラムを使う

よく行う操作の内容を登録しておくことをプログラム登録といいます。プログラム登録した内容は登録したキーを押すだけで、繰り返し行うことができます。

プログラムを登録 / 変更する

登録できる内容は次のとおりです。

- メモリー送信、直接送信、宛先（最大500件）、文字サイズ、原稿種類、回線選択、済みスタンプ、時刻指定送信、親展送信、文書添付、見開き原稿指定、納期指定送信、ポーリング送信、ポーリング受信、中継依頼送信、両面原稿送信、オプション設定の各機能
- プログラム名称（全角で最大10文字、半角で最大20文字）

重要

- ❒ 登録・変更したときは、「プログラムリスト」を印刷し、保管しておくことをお勧めします。⇒ P.210「プログラムリスト」

制限

- ❒ 待機中のメモリー送信で使われているプログラムは、変更できません。
- ❒ 中継依頼送信と同報送信は同時に登録できません。

補足

- ❒ 登録できるプログラム数は最大100件です。FAX機能拡張キット（オプション）を付けているときは最大200件まで登録できます。
- ❒ 変更は登録と同じ操作です。変更する項目の操作をしてください。
- ❒ プログラムはファクス機能でご利用になる場合とコピー機能でご利用になる場合とでは、設定、変更の方法が異なります。それぞれの機能で実施してください。

参照

コピー機能応用編 「プログラム」

1 プログラムに登録する操作をします。

補足

- ❒ 登録する内容によって操作が異なります。
- ❒ 【リセット】キーを押すと、何も操作していない状態に戻ります。

ファクス番号が0123456789の相手に時刻指定送信をする操作をプログラム登録するときの例

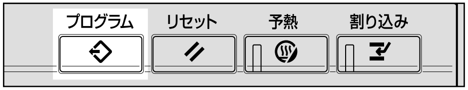
❶ テンキーで【0】【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】を押す

❷ 時刻指定送信の操作をする

参照

「時刻指定送信」⇒ P.10

2 【プログラム】キーを押します。



ZFLS170J

プログラム（ファクス）のメニュー画面が表示されます。

3 ［登録］を押します。

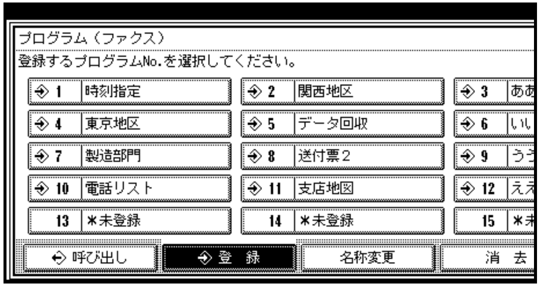
プログラムが1件も登録されていないときは、手順**4**に進みます。



補足

- ❒ 登録されていないプログラム No．は「＊未登録」と表示されます。すでに登録されているプログラム No．はプログラム名称が表示されます。

4 「＊未登録」と表示されているプログラムNo．を押します。



補足

- ❒ 「＊未登録」が表示されていないときは［▲ 前へ］または［▼次へ］を押して探します。
- ❒ 間違えたときは［取消］を押して指定し直します。
- ❒ プログラムを変更するときは、変更するプログラムNo．を押したあと、［登録する］を押します。間違えたときは［登録しない］を押したあと、手順**4**から操作します。

5 プログラムの名称を入力します。

補足

- ❒ プログラム名の登録は省略できません。必ず登録してください。
- ❒ ［取消］を押すと入力した内容を取り消して手順**4**の画面に戻ります。
- ❒ すでに登録されているときは名称が表示されます。変更するときは［後退］、［全消去］を押して入力し直します。

参照

ファクス機能 基本編「第3章 文字の入力のしかた」

6 [OK] を押します。

プログラムが登録されます。

待機中の画面に戻ります。

プログラムの使いかた

補足

❒ プログラムを使うときは、それまでの設定が解除されます。

ファクス番号0123456789に時刻指定送信するプログラムを実行するときの例

1 ファクス初期画面が表示されていることを確認します。

補足

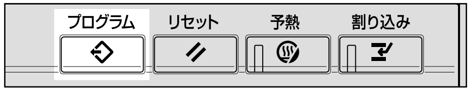
❒ 表示されていないときは【ファクス】キーを押します。

2 原稿をセットします。

補足

❒ プログラムに相手先や読み取り条件を登録していないときは、相手先のファクス番号を入力して読み取り条件を選択します。

3 【プログラム】キーを押します。



ZFLS170J

4 登録しているプログラムNo．を押します。



待機中の画面が表示されます。

登録したファクス番号が表示され、拡張送信が選択されます。

補足

❒ 送信するプログラム No. が表示されていないときは [▲前へ] または [▼次へ] を押して探します。

5 【スタート】キーを押します。

ファクス番号と送信する時刻が表示され、原稿の読み取りが始まります。

指定した時刻に送信が始まります。

プログラムの名称を変更する

プログラムの名称だけを変更します。

制限

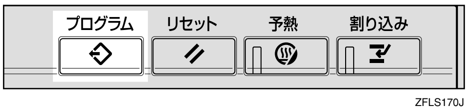
- 待機中のメモリー送信で使われているプログラムは、変更できません。

1 ファクス初期画面が表示されていることを確認します。

補足

- 表示されていないときは【ファクス】キーを押します。

2 【プログラム】キーを押します。



3 ［名称変更］を押します。



4 名称を変更するプログラムNo．を押します。



補足

- 変更するプログラムNo.が表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して探します。

5 名称を入力し直します。

補足

- 変更を取り消すときは［取消］を押し、手順7に進みます。

6 ［OK］を押します。

名称が変更されました。

7 ［閉じる］を押します。

ファクス初期画面に戻ります。

プログラムを消去する

不要になったプログラムを消去します。

制限

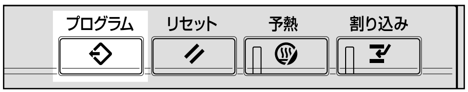
- ❒ 待機中のメモリー送信で使われているプログラムは、消去できません。

1 ファクス初期画面が表示されていることを確認します。

補足

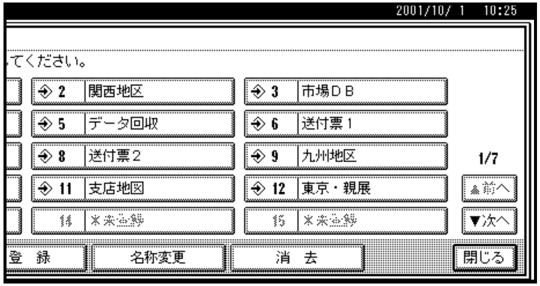
- ❒ 表示されていないときは【ファクス】キーを押します。

2 【プログラム】キーを押します。



ZFLS170J

3 ［消去］を押します。



4 消去するプログラムNo.を押します。



補足

- ❒ 消去するプログラムNo.が表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して探します。

5 ［消去する］を押します。

補足

- ❒ ［消去しない］を押すと、プログラムを消去しないで手順**3**の画面に戻ります。

6 ［閉じる］を押します。

ファクス初期画面に戻ります。

ドキュメントボックスを利用する

この機能を使用するためには拡張HDD(40GB)（オプション）が必要です。

本機のドキュメントボックスに文書を蓄積します。

ドキュメントボックスは、コピー機能、ファクス機能、プリンター機能、スキャナー機能で読み取った文書を蓄積することができます。

ファクス機能を使って蓄積した文書は、送信することができます。

ドキュメントボックスに蓄積すると次の点で便利です。

- 一度蓄積しておくと、指定するだけで何回も送信できます。
- 蓄積していてもファクスのメモリーを消費しません。

蓄積した複数の文書を1つの文書として送信したり、読み取った原稿と合わせて1つの文書として送信することができます。蓄積した文書を送信するときは、「送信補助」の「蓄積文書指定」を使います。⇒ P.111「蓄積文書を印刷する」

制限

❒ ファクス機能で蓄積した文書を、【ドキュメントボックス】キーを押したときに表示される画面から操作することはできません。

補足

❒ 蓄積した文書は、停電のときや主電源が落ちたりしても消去されません。

❒ ドキュメントボックスに蓄積された文書は、一定日数経過後に自動的に消去するかどうか設定できます。工場出荷時には「3日」経過後に消去するよう設定されています。設定を変更するときは、システム設定編2スキャナーユニット　タイプ8100対応版「管理者用設定」の「蓄積文書自動消去設定」を参照してください。

❒ 蓄積できる文書は、コピー機能、ファクス機能、プリンター機能、スキャナー機能と合わせて、ドキュメントボックス全体で約2000ページ（ITU-T No.4チャート）分です。

❒ ファクス機能を使って蓄積できる文書は最大1000文書です。

❒ 1文書で蓄積できるのは、最大400ページまでです。FAXメモリー（オプション）を装着したときは、最大1000ページまで蓄積できます。

文書を蓄積する

ドキュメントボックスに文書を蓄積しながら送信します。送信しないで文書の蓄積だけすることもできます。

蓄積した文書ごとに以下の設定 / 登録をすることができます。

❖ **文書名**
読み取った文書には「FAX0001」「FAX0002」と文書名が自動的に付けられます。⇒ P.177 「文書名を設定するとき」

❖ **ユーザー名**
蓄積した人や部門がわかるように、必要に応じて設定します。⇒ P.176 「ユーザー名を登録するとき」

❖ **パスワード**
不特定の人に送信されないように設定します。⇒ P.178 「パスワードを設定するとき」

補足

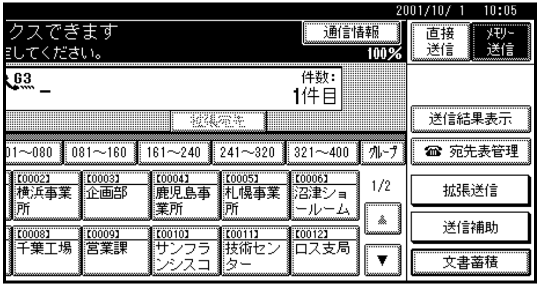
❒ 文書名やユーザー名は変更することができます。⇒ P.179 「蓄積文書の情報を変更する」

1 ファクス初期画面が表示されていることを確認します。

表示されていないときは、【**ファクス**】キーを押して、表示させます。

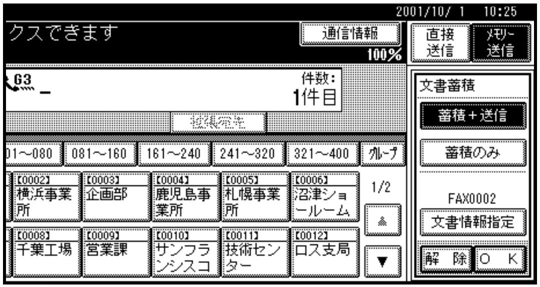
2 原稿をセットし、読み取り条件を選択します。

3 [文書蓄積] を押します。

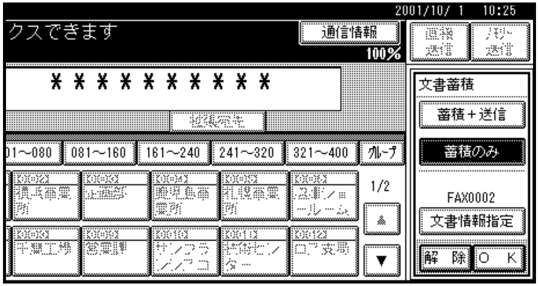


4 [蓄積+送信] または [蓄積のみ] を押します。

文書を蓄積してから送信するときは [蓄積+送信] を押します。



文書を蓄積するときは［蓄積のみ］を押します。



「蓄積のみ」を選択したときは「＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊」が表示されます。

5 必要に応じてユーザー名、文書名、パスワードを設定します。

補足

❒ ユーザー名、文書名、パスワードを設定しないときは手順6に進みます。

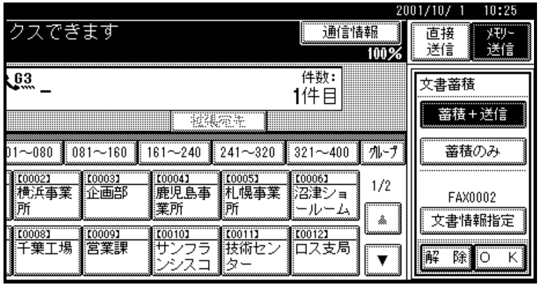
❒ 複数の文書を一度に変更することはできません。

ユーザー名を登録するとき

補足

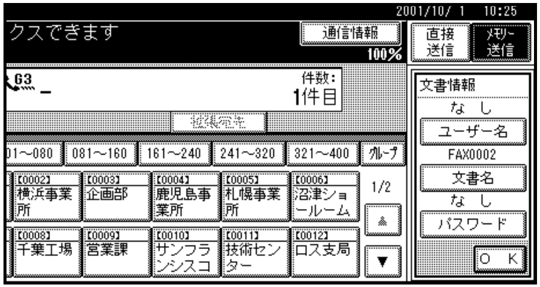
❒ ユーザーコードに登録したユーザー名から設定します。ユーザーコードはシステム初期設定で設定します。⇒システム設定編2スキャナーユニット　タイプ8100対応版「ユーザーコードについて」

❶ ［文書情報指定］を押します。



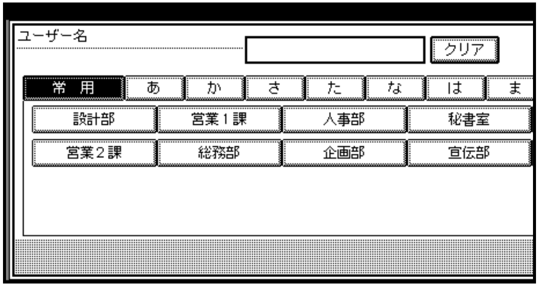
❷ ［ユーザー名］を押します。

ユーザー名変更の画面が表示されます。



❸ **設定するユーザー名を押します。**

ユーザーコードに登録されたユーザー名が表示されます。



補足

- ❒ 設定するユーザー名が表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して探します。
- ❒ 見出しキーを押すと、見出しを切り替えることができます。
- ❒ 登録されていないユーザー名を設定するときは、［登録外名称］を押して、入力します。［登録外名称］を押して、入力したユーザー名は、ユーザーコードには登録されません。

参照

ファクス機能 基本編「第3章 文字の入力のしかた」

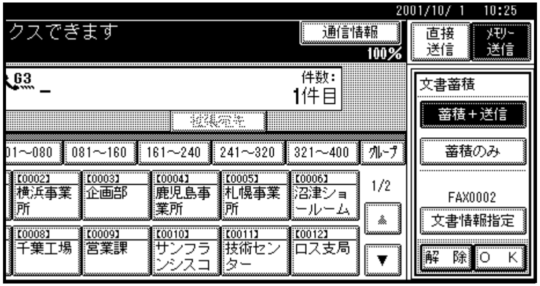
❹ **［OK］を押します。**

指定したユーザー名が表示されます。

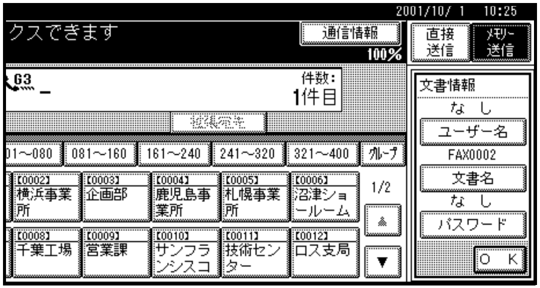
❺ **［OK］を押します。**

文書名を設定するとき

❶ **［文書情報指定］を押します。**



❷ **［文書名］を押します。**



文書名を変更する画面が表示されます。

❸ 文書名を入力します。

参照

ファクス機能 基本編「第3章 文字の入力のしかた」

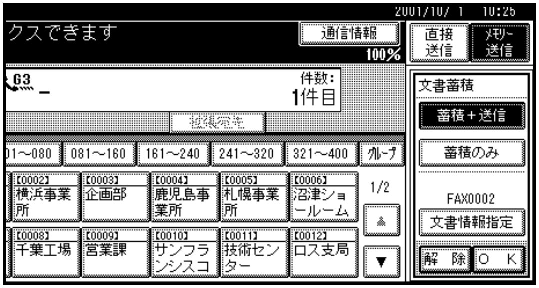
❹ [OK] を押します。

変更した文書名が表示されます。

❺ [OK] を押します。

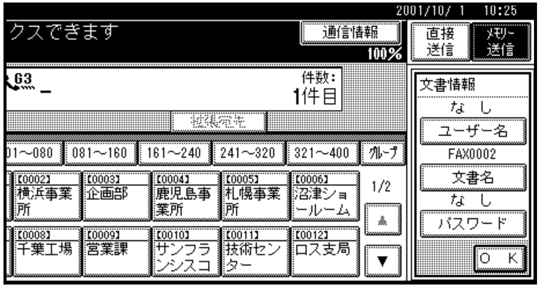
パスワードを設定するとき

❶ [文書情報指定] を押します。

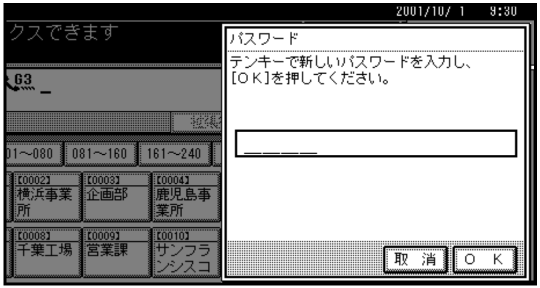


❷ [パスワード] を押します。

パスワード設定の画面が表示されます。



❸ パスワードをテンキーで入力します。



補足

- ❒ 間違えたときは [クリア] または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。
- ❒ 入力できる数字は4桁です。

❹ [OK] を押します。

❺ [OK] を押します。

6 [OK] を押します。

7 「蓄積+送信」を選択したときは、相手先を指定します。

補足

❒ 「蓄積のみ」を選択したときは、手順**8**に進みます。

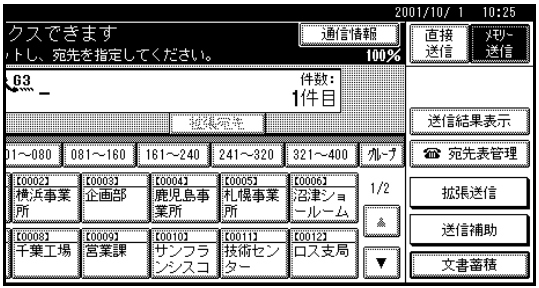
8 【スタート】キーを押します。

蓄積文書の情報を変更する

蓄積されている文書の文書名、ユーザー名、パスワードを変更します。

蓄積する文書を変更するときは、文書を消去したあとに登録し直します。⇒ P.182 「蓄積文書を消去する」

1 [送信補助] を押します。

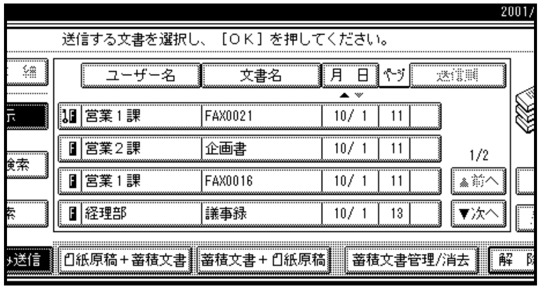


送信補助のメニュー画面が表示されます。

2 [蓄積文書指定] を押します。



3 [蓄積文書管理/消去] を押します。



4 変更する文書を押します。

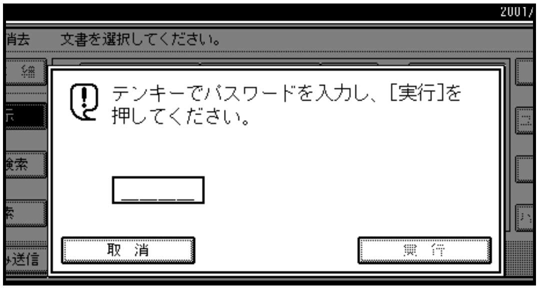


補足

- ❒ 変更する文書が表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して探します。

5 パスワードを設定している文書を選択したときは、パスワードを入力します。

パスワードを設定している文書を選択していないときは、手順**7**に進みます。



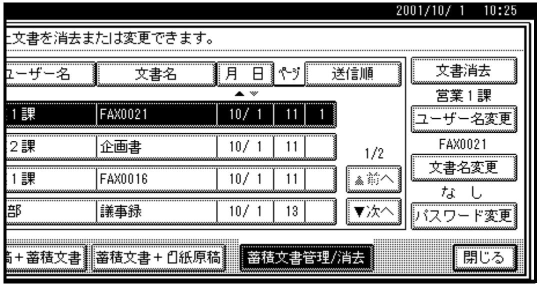
6 ［実行］を押します。

7 蓄積文書の情報を変更します。

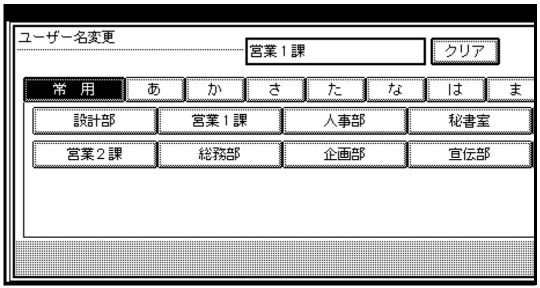
変更する項目を操作します。

ユーザー名を変更するとき

❶［ユーザー名変更］を押します。



❷［クリア］を押します。



補足

- ❒ 変更するユーザー名が表示されていないときは、[▲前へ] または [▼次へ] を押して探します。

ユーザー名が消去されます。

❸ 新たに設定するユーザー名を押します。

補足

- ❒ 見出しキーを押すと、見出しを切り替えることができます。
- ❒ 登録されていないユーザー名を設定するときは、[登録外名称] を押して、入力します。[登録外名称] を押して、入力したユーザー名は、ユーザーコードには登録されません。

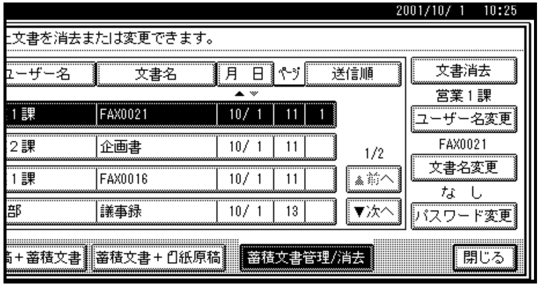
参照

ファクス機能 基本編「第3章 文字の入力のしかた」

❹ [OK] を押します。

文書名を変更するとき

❶ [文書名変更] を押します。



❷ [後退] または [全消去] を押して文書名を入力し直します。

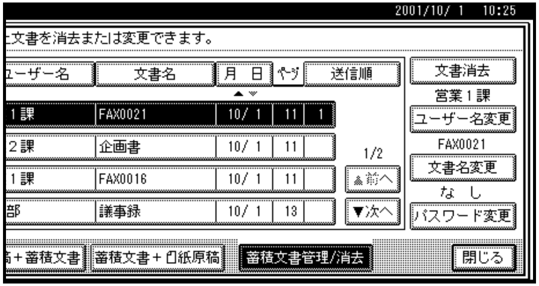
参照

ファクス機能 基本編「第3章 文字の入力のしかた」

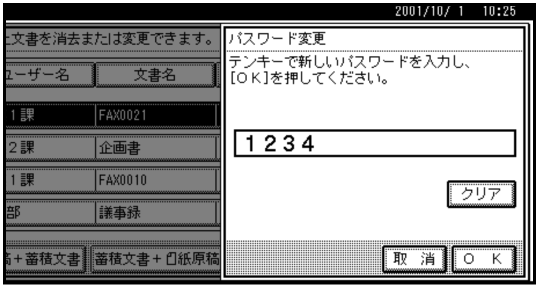
❸ [OK] を押します。

パスワードを変更するとき

❶ ［パスワード変更］を押します。



❷ テンキーでパスワードを、入力し直します。



❸ ［OK］を押します。

8 ［閉じる］を押します。

送信補助のメニュー画面に戻ります。

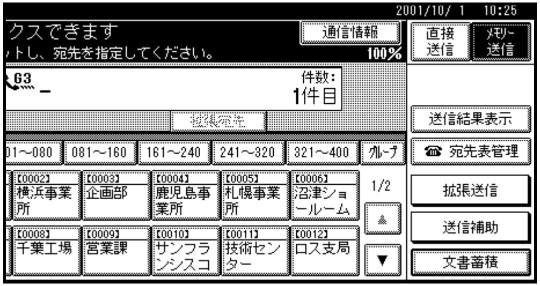
9 ［OK］を押します。

待機中の画面に戻ります。

蓄積文書を消去する

蓄積した文書を消去します。

1 ［送信補助］を押します。

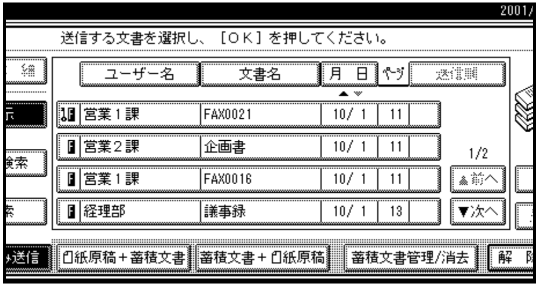


送信補助のメニュー画面が表示されます。

2 ［蓄積文書指定］を押します。



3 [蓄積文書管理/消去] を押します。

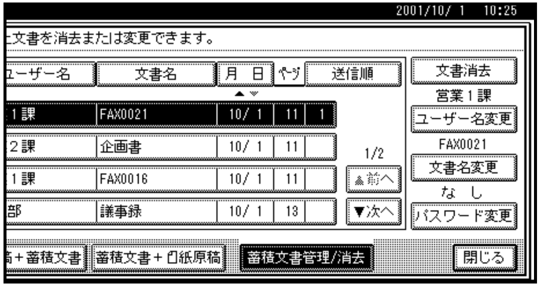


4 消去する文書を押します。

補足

- ❒ 複数の文書を指定して、消去することもできます。
- ❒ 消去する文書が表示されていないときは [▲前へ] または [▼次へ] を押して探します。
- ❒ パスワードを入力する画面が表示されたときは、テンキーでパスワードを入力して [OK] を押します。

5 [文書消去] を押します。



6 [消去する] を押します。

補足

- ❒ 消去しないときは [消去しない] を押します。

7 [閉じる] を押します。

8 [OK] を押します。

待機中の画面に戻ります。

ドキュメントボックスに蓄積した文書をパソコンで操作する

ネットワーク上のパソコンにインストールした「Ridoc Desk 2000 Lt」または「Ridoc Desk 2000」を使って、ドキュメントボックスに蓄積したファクス文書の内容を確認したり操作したりすることができます。

パソコンでできるおもな操作は次のとおりです。

- 文書の内容を簡易的に表示する<イージービューア>
- 文書情報を表示する<プロパティ >
- 文書を削除する<削除>
- 文書をパソコンにコピーする<コピー >
- 文書を印刷する<蓄積文書の印刷>
- 文書をファクス送信する<蓄積文書のファクス送信>
- 文書をパソコン上にファイルとして書き出す<ファイル書き出し>

詳しくは、「Ridoc Desk 2000」の使用説明書、ヘルプをご覧ください。

補足

❒ サーバーへ配信するときの条件はシステム初期設定で設定できます。詳しくはシステム設定編 2 スキャナーユニット　タイプ 8100 対応版をご覧ください。

初期設定の変更

相手先のファクス番号やよく使う機能、こちら側の名称を登録して、ファクスをより便利に使うことができます。また、使用する条件に合わせて各機能の初期設定値を変更したり、操作の条件を設定することができます。

初期設定の機能は次の5つの項目に分類されています。

❖「登録/変更/消去」

宛先表、グループ宛先、宛先表の見出し、宛先表の並べ順、定型文、文書添付、読み取りサイズの登録・変更・消去ができます。

⇒ファクス機能 基本編「第3章 宛先表に登録する」
⇒ファクス機能 基本編「第3章 グループ宛先を登録する」
⇒ P.188 「登録/変更/消去」

❖「リスト/レポート印刷」

通信管理レポート、宛先リスト、宛名差し込みリスト、グループリスト、プログラムリスト、文書添付リストが印刷できます。⇒ P.203 「リスト/レポート印刷」

❖「基本設定/調整」

送信モード（メモリー送信/直接送信）、読み取り条件（文字サイズ、原稿種類、自動濃度）の初期値を設定できます。また、こちら側の名称やファクス番号、本機から聞こえる音量の調節などもできます。

⇒ P.213 「基本設定/調整」
⇒ファクス機能　基本編「第3章　こちらの名称とファクス番号を登録する」
⇒ファクス機能 基本編「第4章 音量を調節する」

❖「受信設定」

受信モード切替、受信モード自動切り替え時優先、しおり印字機能、センターマーク印字機能、受信時刻印字、受信印刷部数設定、両面印刷機能、受信逆順印刷、迷惑ファクス防止機能、回線別排紙先、メモリー転送機能のON/OFFおよび給紙トレイの指定を設定できます。⇒ P.224 「受信設定」

❖「管理者用設定」

本機が接続されている回線の種別、ポーリングIDなどいろいろなIDコード、受信する相手先などを登録できます。また、送受信した枚数の確認などもできます。

⇒ P.233 「管理者用設定を使う」

補足

- 各機能の詳しい説明については、それぞれの参照先を参照してください。
- システム初期設定の操作については、システム設定編2スキャナーユニット　タイプ8100対応版を参照してください。

画面について

- 項目タブを押すと項目のメニューが表示されます。
- [▲前へ] または [▼次へ] を押すと画面の切り替えができます。
- 選択した項目は黒く反転表示されます。
- 設定が終了したら［設定］または［OK］を押します。ファクス初期設定では、［設定］を押さずに操作を終了した場合、設定されません。
- ［解除］または［取消］を押すと、機能を設定または取り消して1つ前の画面に戻ります。

アクセスコード設定

アクセスコードを設定すると、あらかじめ登録してある8桁までの番号を入力しないと、初期設定、管理者用設定が操作できなくなります。不特定の人が操作できなくなるため、間違えて設定内容が変更されたりすることを防止します。

補足

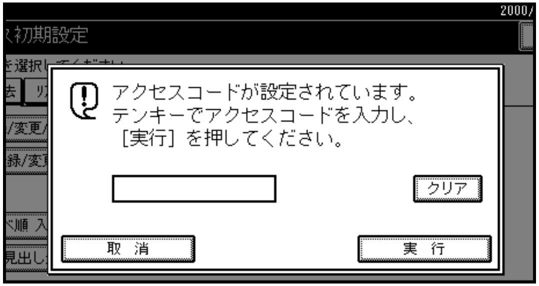
- ❒ アクセスコード設定をするかどうかシステム初期設定で設定します。⇒システム設定編2スキャナーユニット　タイプ8100対応版「管理者用設定－アクセスコード設定」
- ❒ アクセスコード設定を「する」に設定したときは、アクセスコード（最大8桁まで）をテンキーで入力し、制限する範囲を「一部」「初期設定すべて」から選択します。工場出荷時は「一部」に設定されています。
  - 「一部」を選択したとき
    管理者用設定だけにアクセスコードが設定されます。
  - 「初期設定すべて」を選択したとき
    初期設定のすべての項目にアクセスコードが設定されます。

① **【初期設定/カウンター】**キーを押します。

② ［ファクス初期設定］を押します。
アクセスコード設定で「初期設定すべて」を選択しているときは、手順③に進みます。

③［管理者用設定］を押します。

④ アクセスコード（8桁までの数字）をテンキーで入力します。



⑤［実行］を押します。

補足

❒ 登録していないアクセスコードを入力すると、手順③の画面に戻ります。

登録 / 変更 / 消去

宛先表 並び順入れ替え

宛先表に登録した名称の並び順を変更します。よく送信する相手先を宛先表の1ページ目に変更しておくと便利です。

補足

❒ 並び順を変更できるのは、見出し1、見出し2、見出し3のときです。宛先一覧の並べ順は変更できません。

宛先表の並び順を変更するときは、矢印キーを押します。

矢印キーを押すと押した矢印の方向にある宛先キーの表示位置に移動します。



上の画面から［→］を押したとき宛先キーは、それぞれ次のように移動します。



上の画面から［↓］を押したとき宛先キーは、それぞれ次のように移動します。



参照

ファクス機能 基本編「第3章 宛先表に登録する」

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。

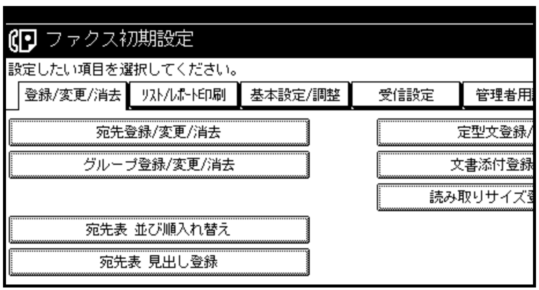


ZFLS110J

2 [ファクス初期設定] を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 「登録/変更/消去」が表示されていることを確認します。



4 [宛先表 並び順入れ替え] を押します。

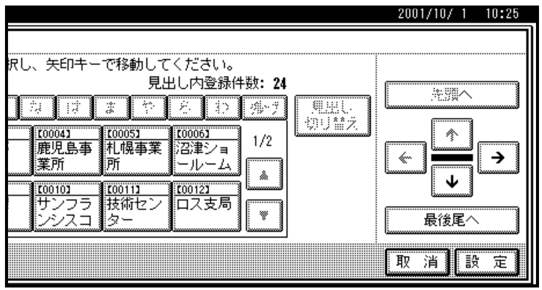
5 並び順を変更する宛先キーを押します。



補足

- ❒ 宛先キーが見つからないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して、表示させます。
- ❒ 宛先キーが別の見出しにあるときは、［見出し切り替え］を押して、見出しを切り替えて探します。

6 矢印キーを押して、宛先キーを移動します。



補足

- ❒ 宛先表の先頭に移動するときは［先頭へ］を宛先表の最後に移動するときは［最後尾へ］を押します。

7 ［設定］を押します。

並び順が変更されました。

補足

- ❒ 変更しないときは［取消］を押します。

8 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

見出し

登録した相手先の中から目的の相手先を探しやすいように宛先表の見出しに名称を付けます。

電話帳と同じように、多くの登録先の中から目的の相手先を探しやすいように宛先表にも見出しが付いています。

登録する

下の画面は宛先表の「か行」のページ（画面）を選択した状態を表しています。



［常用］［あ］［か］［さ］［た］［な］［は］［ま］［や］［ら］［わ］はそれぞれ見出しキーになっており、たとえば「さ行」のページを選択するときは、［さ］を押すとページ（画面）が切り替わります。

本機はお客様の用途に合わせて宛先表を作ることができます。宛先表を作るためには、検索しやすいように見出しを登録します。工場出荷時に五十音別に設定されていた宛先表も、別の分類に変更することができます。

「五十音別」「アルファベット順」「社内用」、「五十音別」「社内用」「社外用」など用途に合わせて、宛先表を作成し、利用してください。

補足

- ❒ 宛先表は4種類作ることができます。別の宛先表を表示させるときは「見出し切り替え」を使います。⇒ P.192 「見出し切り替え」
- ❒ 「見出し1」「見出し2」の見出しキーに登録できる文字数は、全角2文字（半角4文字）です。
- ❒ 「見出し3」の見出しキーに登録できる文字数は、全角4文字（半角8文字）です。
- ❒ 登録と変更は同じ手順で操作します。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。

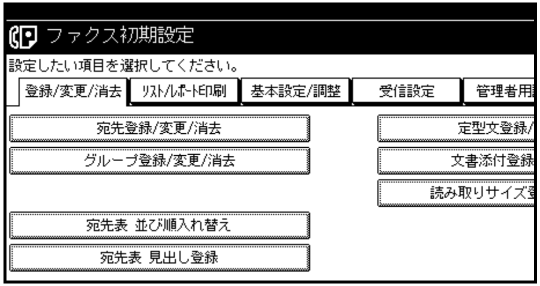


ZFLS110J

2 ［ファクス初期設定］を押します。

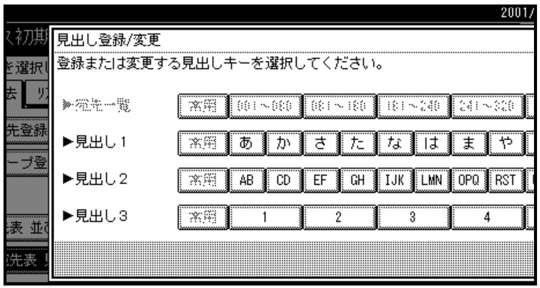
ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 「登録/変更/消去」が選択されているのを確認します。



4 ［宛先表 見出し登録］を押します。

5 登録する見出しキーを押します。



補足

- ❒ 「宛先一覧」と「常用」は変更できません。

6 見出しキーの名称を入力します。

参照

ファクス機能 基本編「第3章 文字の入力のしかた」

7 ［OK］を押します。

補足

- 続けて見出しキーを登録するときは手順 **5** から操作します。

8 ［閉じる］を押します。

9 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

見出し切り替え

宛先表の見出しを切り替えます。ファクスの相手先を宛先表で指定するときは、送信する相手先が登録してある見出しを表示させます。

宛先一覧では登録されているすべての相手先を指定することができます。

五十音順の宛先表を表示させたいときは「見出し1」、アルファベット順の宛先表を表示させたいときは「見出し2」、お客様が登録した宛先表を表示させたいときは「見出し3」を選択します。

① ［宛先表管理］を押します。

② ［見出し切り替え］を押します。

③ 表示させる見出しキーを押します。

④ ［設定］を押します。
「見出し切り替え」の上に選択した見出しの名称が表示されます。

補足

- 見出し切り替えを取り消すときは［取消］を押して、手順②の画面に戻ります。

⑤ ［閉じる］を押します。
待機中の画面に戻ります。

定型文

送信原稿の１ページ目の先端に印字する定型文を登録します。挨拶文などを登録しておくと便利です。

補足

- ❒ 登録できるのは、「登録文1」「登録文2」「登録文3」だけです。工場出荷時に登録されている「【マル秘】」「【至急】」「【電話ください】」「【関係区に配布してください】」は変更できません。
- ❒ 登録と変更は同じ手順で操作します。

登録 / 変更する

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。

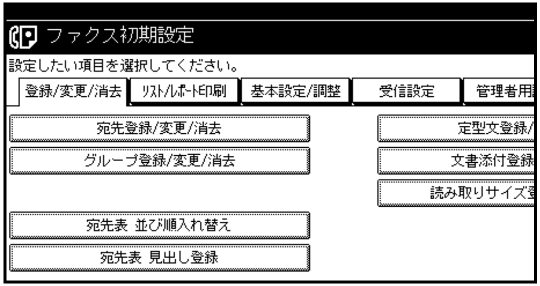


ZFLS110J

2 [ファクス初期設定] を押します。

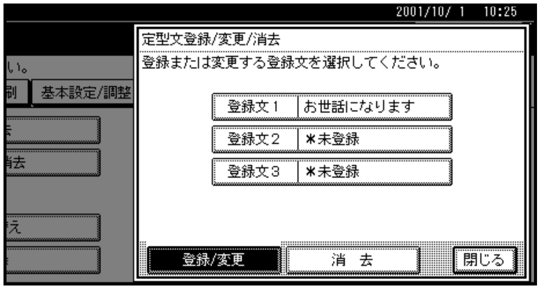
ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 「登録/変更/消去」が表示されていることを確認します。



4 [定型文登録/変更/消去] を押します。

5 「＊未登録」と表示されているキーを押します。



補足

- ❒ 変更するときは、変更する登録文のキーを押します。

6 登録する文章を入力します。

参照

ファクス機能 基本編「第3章 文字の入力のしかた」

7 ［OK］を押します。

補足

- ❒ 続けて登録文を登録するときは手順 **5** から操作します。
- ❒ 登録を取り消すときは、［取消］を押します。

8 ［閉じる］を押します。

9 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

消去する

不要になった定型文を消去します。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。

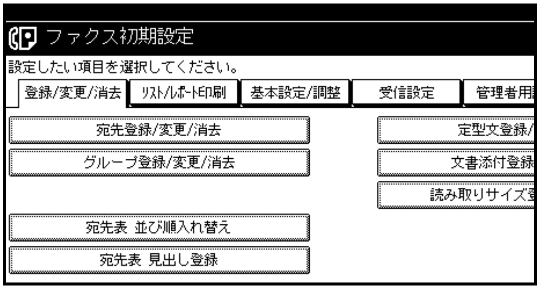


ZFLS110J

2 ［ファクス初期設定］を押します。

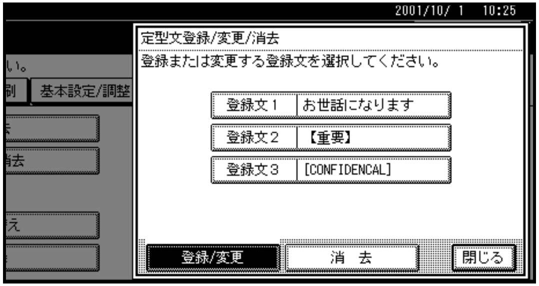
ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 「登録/変更/消去」が表示されていることを確認します。

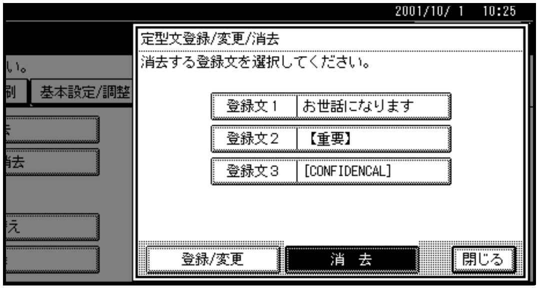


4 [定型文登録/変更/消去] を押します。

5 [消去] を押します。



6 消去する登録文を選択します。



7 [消去する] を押します。

補足

- ❒ 続けて登録文を消去するときは手順 **6** から操作します。
- ❒ 消去しないときは [消去しない] を押して、手順**6**の画面に戻ります。

8 [閉じる] を押します。

9 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

文書添付

よく使う原稿を登録しておけば、必要なときに印刷したり、そのまま送信したりできます。ファクスの送付票や地図などを登録しておくと便利です。

登録できる内容は次のとおりです。

- 原稿（最大6文書、FAX機能拡張キット<オプション>装着時最大18文書、1文書につき1ページのみ）
- 読み取り条件（文字サイズ、原稿種類、濃度）
- 読み取りサイズ
- 文書の名称（全角で最大8文字、半角で最大16文字）

重要

- ❒ 登録・変更したときは、「文書添付リスト」を印刷し、保管しておくことをお勧めします。⇒ P.212「文書添付リスト」

登録 / 変更する

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。

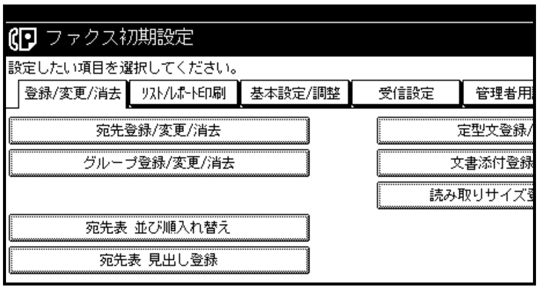


ZFLS110J

2 ［ファクス初期設定］を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［登録/変更/消去］が表示されていることを確認します。



4 ［文書添付登録/変更/消去］を押します。

5 登録/変更する文書を選択します。



補足

- ❒ すでに登録した文書があるときは、その名称が表示されます。

文書を登録するとき

❶「＊未登録」と表示されている文書を押します。

❷ 文書の名称を入力します。

参照

ファクス機能 基本編「第3章 文字の入力のしかた」

❸［OK］を押します。

文書を変更するとき

❶ 変更する文書を押します。

文書が登録されているというメッセージが表示されます。

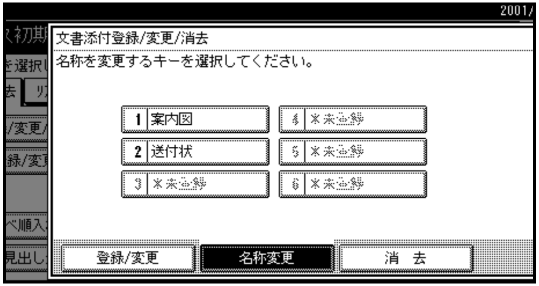
❷［登録する］を押します。

変更しないときは［登録しない］を押します。

名称のみ変更するとき

❶［名称変更］を押します。

❷ 変更する文書を押します。



❸ 文書の名称を入力します。

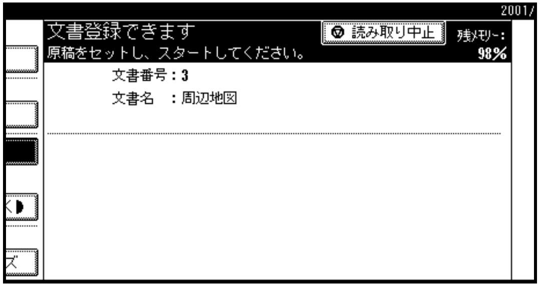
参照

ファクス機能 基本編「第3章 文字の入力のしかた」

❹［OK］を押します。

手順8に進みます。

6 原稿をセットして、読み取り条件を選択します。



補足

❒「読み取りサイズ」も指定できます。⇒ファクス機能 基本編「第2章 読み取りサイズを指定する」

7【スタート】キーを押します。

原稿の読み取りが始まります。

補足

❒ 読み取りを取り消すときは、［読み取り中止］を押します。

8 読み取り終了後、［閉じる］を押します。

文書が登録されます。

9【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

消去する

文書添付用として登録した文書を消去します。

制限

- ❒ 送信待機中の文書は消去できません。送信終了後に消去するか、または送信待機中の文書を消去してから文書添付の原稿を消去してください。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。

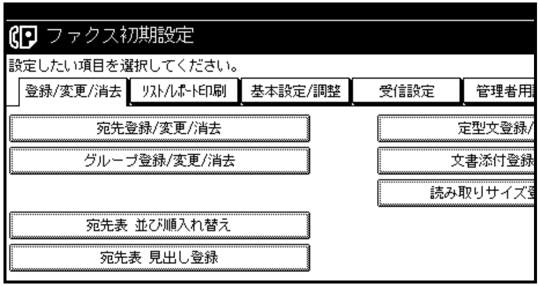


ZFLS110J

2 [ファクス初期設定]を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 [登録/変更/消去]が表示されていることを確認します。



4 [文書添付登録/変更/消去]を押します。

5 [消去]を押します。



6 消去する添付文書のキーを押します。



7 [消去する］を押します。

補足

- 文書を消去しないときは、[消去しない]を押して手順6の画面に戻ります。

8 [閉じる］を押します。

文書が消去されます。

9【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

読み取りサイズ

読み取りサイズ指定で送信するとき、よく使うサイズをあらかじめ登録しておきます。

重要

- 登録・変更したときは、内容をメモなどに控えておくことをお勧めします。

補足

- 登録できる数は最大2サイズです。
- 変更は登録と同じ操作です。変更する項目の操作をしてください。
- 横のサイズの指定は128〜1200mmまたは5.5〜47inchまでです。128未満は入力しても設定できません。1200より大きい数値は入力できません。

登録 / 変更する

1【初期設定/カウンター】キーを押します。

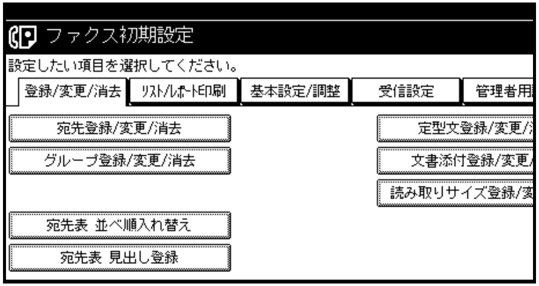


ZFLS110J

2 ［ファクス初期設定］を押します。

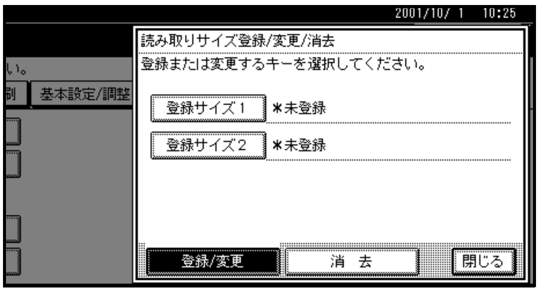
ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［登録/変更/消去］が表示されていることを確認します。



4 ［読み取りサイズ登録/変更/消去］を押します。

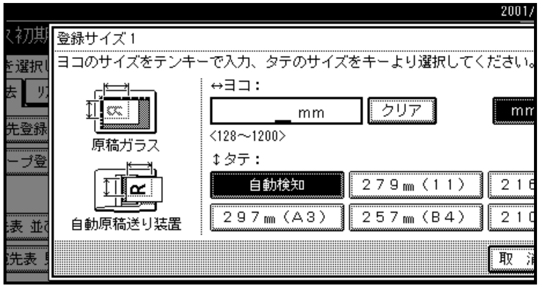
5 ［登録/変更］が選択されていることを確認したあと、［登録サイズ1］または［登録サイズ2］を押します。



補足

- ❒「登録/変更」が選択されていないときは、［登録/変更］を押します。
- ❒ 登録されていないときは、「＊未登録」と表示されます。すでに登録されているときは、サイズが表示されます。

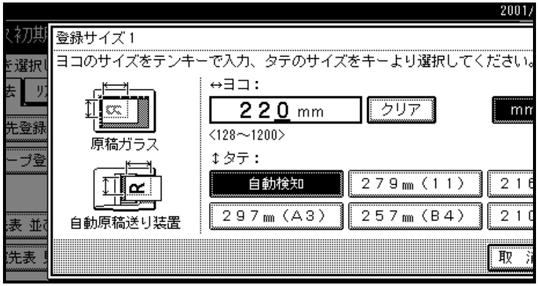
6 横のサイズをテンキーで入力します。



補足

- ❒ ［mm］または［inch］を押して、単位を切り替えることができます。数値を入力してから［mm］または［inch］を押して切り替えると、その数値を単位に合わせて自動的に計算し表示します。（端数は四捨五入されます）たとえば、単位がmmの状態で【2】【5】【0】を入力しinchに切り替えると、9.8inchが表示されます。もう一度mmに切り替えると249mmが表示されます。
- ❒ 間違えたときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して、入力し直します。
- ❒ 設定を取り消すときは［取消］を押します。

7 登録する縦のサイズを押します。



補足

- ❒ 縦（幅）の指定は選択している単位によって表示が異なります。mm表示のときは「自動検知」「210mm（A4）」「257mm（B4）」「297mm（A3）」「216mm（8$^1/_2$inch）」「279mm（11inch）」から選択します。inch表示のときは「自動検知」「8.3inch（A4）」「10.1inch（B4）」「11.7inch（A3）」「8.5inch」「11.0inch」から選択します。
- ❒ 設定を取り消すときは［取消］を押します。

8 ［設定］を押します。

設定したサイズが表示されます。自動検知に設定したときは、「自動」と表示されます。

9 ［閉じる］を押します。

10 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

消去する

登録した読み取りサイズの値を消去します。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。

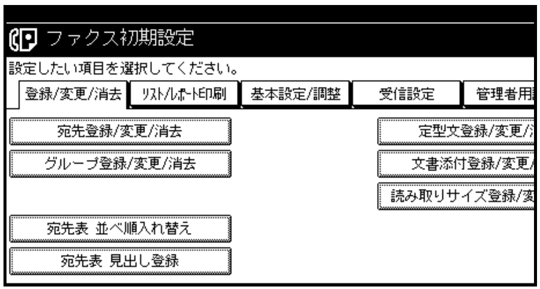


ZFLS110J

2 ［ファクス初期設定］を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

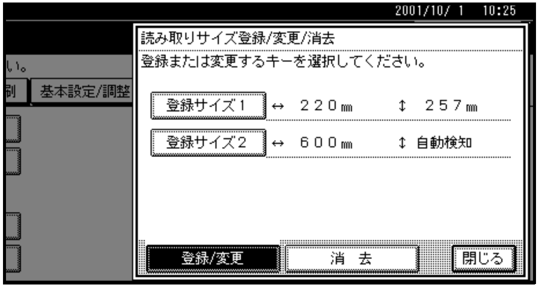
3 ［登録/変更/消去］が表示されていることを確認します。



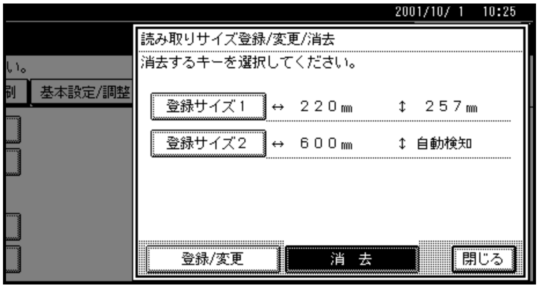
4 [読み取りサイズ登録/変更/消去]を押します。

登録されている内容が表示されます。

5 [消去]を押します。



6 消去する[登録サイズ]を押します。



7 [消去する]を押します。

指定した読み取りサイズが消去されます。

補足

- 登録サイズを消去しないときは[消去しない]を押して手順6の画面に戻ります。

8 [閉じる]を押します。

9 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

リスト / レポート印刷

リスト・レポートを手動で印刷できます。

以下のリスト・レポートを手動で印刷できます。

- **通信管理レポート**⇒ P.53
- **宛先リスト**⇒ P.205
- **宛名差し込みリスト**⇒ P.207
- **グループリスト**⇒ P.208
- **プログラムリスト**⇒ P.210
- **文書添付リスト**⇒ P.212

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。

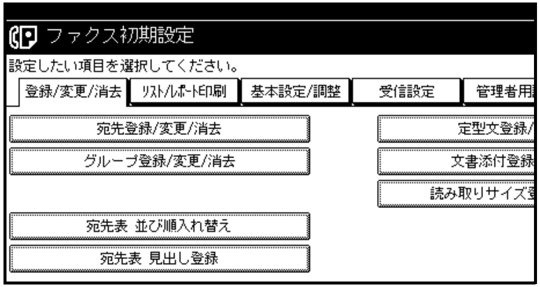


ZFLS110J

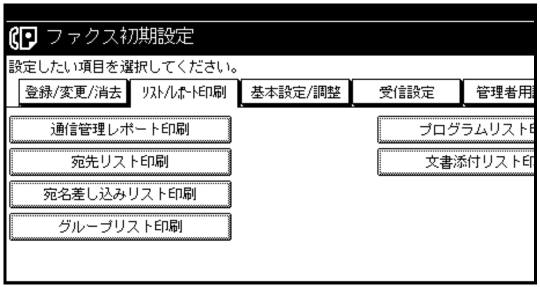
2 ［ファクス初期設定］を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［リスト/レポート印刷］を押します。



4 印刷するリストまたはレポートを押します。



補足

- ❒ 通信管理レポートを印刷するときは、「通常印刷」、「文書番号別印刷」、「ユーザーコード別印刷」の中から印刷単位を選択します。



- ❒ 宛先リストを印刷するときは、「登録番号順」、「見出し1印刷」、「見出し2印刷」、「見出し3印刷」の中から印刷単位を選択します。



5 【スタート】キーを押します。

印刷終了後、手順4の画面に戻ります。

補足

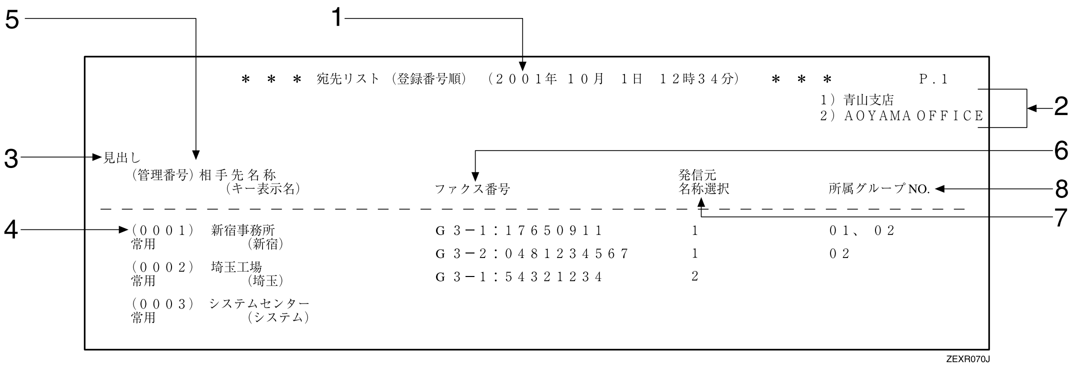
- ❒ ［取消］を押すと、手順4の画面に戻ります。

6 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

宛先リスト

宛先表に登録されている内容をリストにして印刷し、確認できます。



1. **印刷日時**
   リストを印刷した日付と時間が記載されます。
2. **発信元名称（印字用）登録内容**
   発信元名称（印字用）に登録されている内容が記載されます。
3. **見出し名称**
   登録した見出しです。登録番号順で印刷したときは印刷されません。「常用」に登録したときは、管理番号の下に登録されます。
4. **管理番号**
   宛先表の番号です。
5. **相手先名称（キー表示名）**
   登録した名称です。キー表示名も印刷されます。

6. **ファクス番号**

宛先登録であらかじめ選択した回線がリストに表示されます。選択していないときは「G3（空）」が表示されます。

G4ユニット（オプション）を装着しているときは、回線の種類が「G3」「I-G3」「G4」「G3（空）」のいずれかで記載されます。

増設G3ユニット（オプション）を装着しているときは、回線の種類が「G3-1」「G3-2」「G3（空）」のいずれかで記載されます。

Fコード（SEP/SUB/PWD/SID）、サブアドレスを登録しているときは、SEP/SUB/PWD/SID/サブアドレスを印字します。

7. **発信元名称選択**

選択した発信元名称（印字用）です。第1発信元名称（印字用）を選択しているときは「1」、第2発信元名称（印字用）を選択しているときは「2」と記載されます。

8. **所属グループNo.**

相手先をグループ宛先に登録していると、登録先のグループナンバーがすべて記載されます。

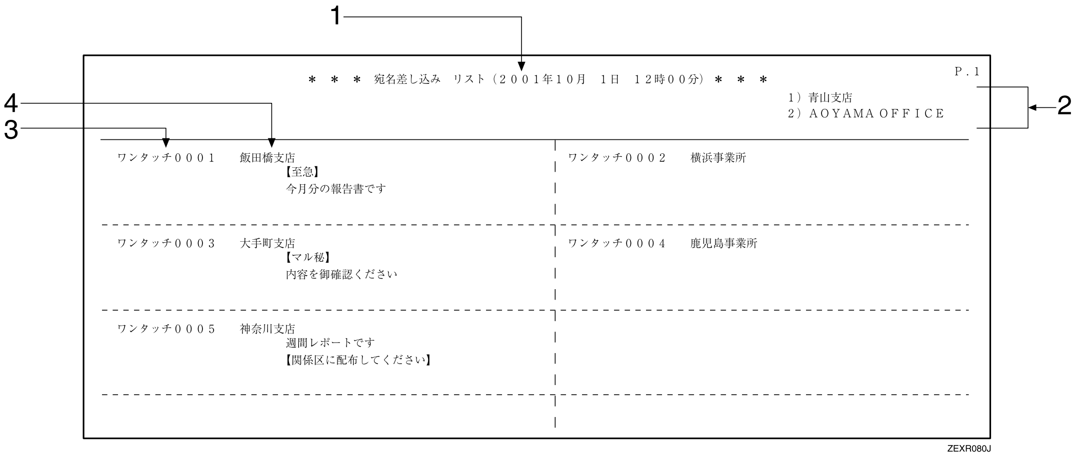
宛名差し込みリスト

宛名差し込みに登録した内容が印刷されます。

宛先表に登録されている宛名の内容を確認できます。

補足

- ❒ 1ページに26件印刷されます。



1. **印刷日時**

   リストを印刷した日付と時間が記載されます。

2. **発信元名称（印字用）登録内容**

   発信元名称（印字用）に登録されている内容が記載されます。

3. No.

   宛先が登録されている宛先表の番号です。

   宛先表に登録した番号は「ワンタッチ」と記載されます。

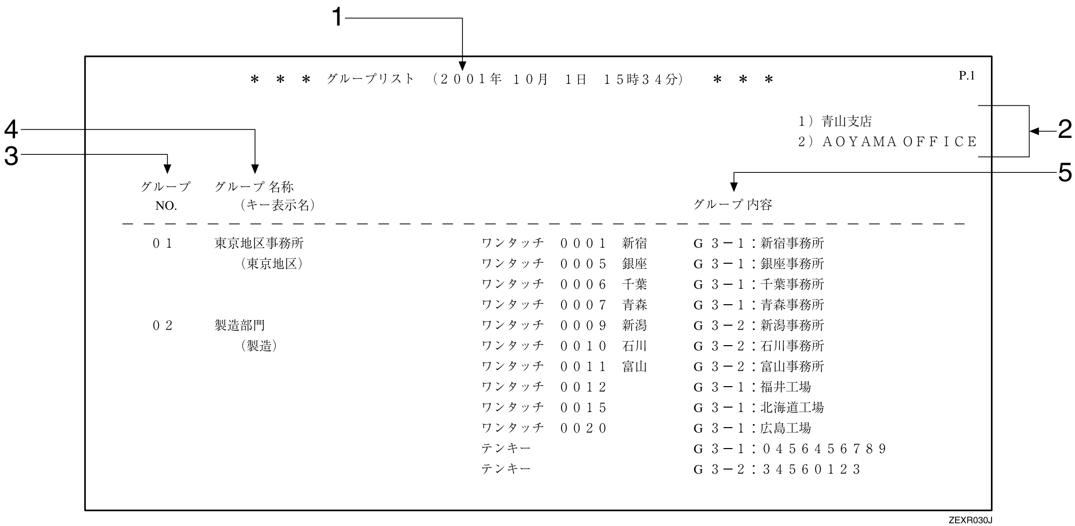
4. **宛先名**

   登録した宛名と定型文です。

   2段目と3段目に登録した定型文が記載されます。

グループリスト

グループに登録されている内容をリストにして印刷し、確認できます。



1. **印刷日時**
   リストを印刷した日付と時間が記載されます。

2. **発信元名称（印字用）登録内容**
   発信元名称（印字用）に登録されている内容が記載されます。

3. **グループNo.**
   グループナンバーです。

4. **グループ名称（キー表示名）**
   登録したグループの名称です。キー表示名も印刷されます。

5. **グループ内容**

グループに登録してある相手先が記載されます。また、登録のときにあらかじめ選択した回線がリストに表示されます。選択していないときは「G3（空）」が表示されます。

テンキーで登録した相手先は「テンキー」と記載されます。宛先表に登録した相手先は「ワンタッチ」と記載されます。

中継依頼送信で中継局に設定してある相手先は「中継局」と記載されます。「受信局」に設定してある相手先は「受信局」と記載されます。

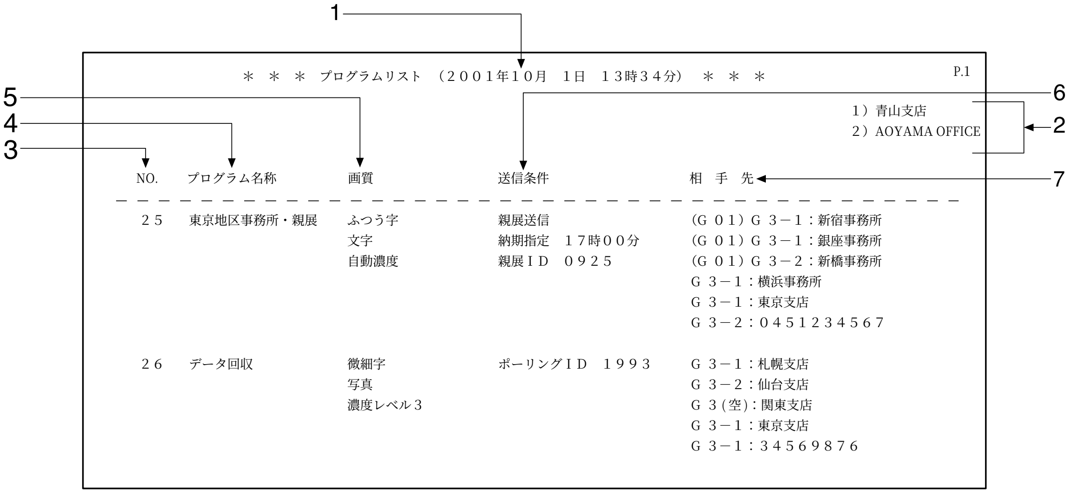
G4ユニット（オプション）を装着しているときは、回線の種類が「G3」「I-G3」「G4」「G3（空）」のいずれかで記載されます。

増設G3ユニット（オプション）を装着しているときは、回線の種類が「G3-1」「G3-2」「G3（空）」のいずれかで記載されます。

Fコード（SEP/SUB/PWD/SID）、サブアドレスを登録しているときは、テンキーで登録した相手先にのみSEP/SUB/PWD/SID/サブアドレスを印字します。

プログラムリスト

プログラムに登録されている内容をリストにして印刷し、確認できます。



1. **印刷日時**
   リストを印刷した日付と時間が記載されます。
2. **発信元名称（印字用）登録内容**
   発信元名称（印字用）に登録されている内容が記載されます。
3. **No.**
   プログラム登録No.です。
4. **プログラム名称**
   登録した名称です。
5. **画質**
   文字サイズ、原稿種類、濃度の設定が記載されます。
6. **送信条件**
   送信または受信を登録しているときは通信の種類が記載されます。
   送信または受信以外の機能を登録しているときはその機能名が記載されます。

7. **相手先**

テンキーで指定した場合は入力したファクス番号が記載されます。宛先表から指定した場合は登録してある名称が記載されます。グループで指定した場合はそのグループに登録してあるすべての相手先を記載し、各相手先の先頭に「（G01）」のようにグループナンバーを付けます。

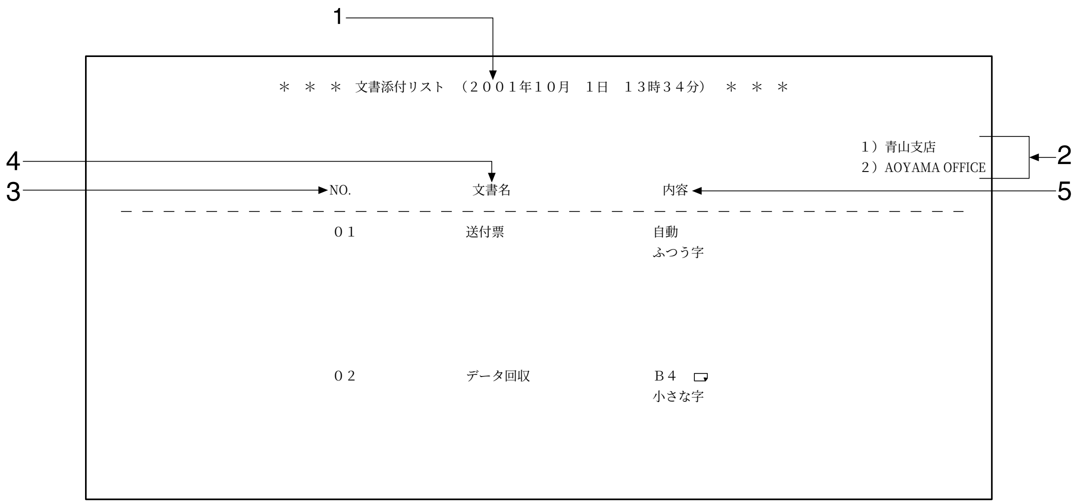
G4ユニット（オプション）を装着しているときは、回線の種類が「G3」「I-G3」「G4」「G3（空）」のいずれかで記載されます。

増設G3ユニット（オプション）を装着しているときは、回線の種類が「G3-1」「G3-2」「G3（空）」のいずれかで記載されます。

Fコード（SEP/SUB/PWD/SID）、サブアドレスを登録しているときは、テンキーで登録した相手先にのみSEP/SUB/PWD/SID/サブアドレスを印字します。

文書添付リスト

登録されている文書添付の名称をリストにして印刷し、確認できます。



1. **印刷日時**
   リストを印刷した日付と時間が記載されます。
2. **発信元名称（印字用）登録内容**
   発信元名称（印字用）に登録されている内容が記載されます。
3. No.
   文書登録の番号です。
4. **文書名**
   文書名が記載されます。
5. **内容**
   文字サイズ、読み取りサイズの設定が記載されます。読み取りサイズは「A4」等の定形サイズの他、「自動」、「登録サイズ1」、「登録サイズ2」のいずれかが表示されます。

基本設定 / 調整

次の項目の初期値を設定します。電源を入れたとき、ここで設定した項目が選択されます（ファクス初期画面で黒く反転表示されます）。

補足

❒ ______は工場出荷時の値です。

❖ メモリー送信/直接送信優先設定
通常文書を送信するときの送信モードを設定します。

- メモリー送信
- 直接送信

❖ 優先文字サイズ
通常原稿を読み取るときの文字サイズを設定します。

- ふつう字
- 小さな字
- 微細字（オプションのFAXメモリーが必要）

❖ 優先原稿種類
通常原稿を読み取るときの原稿種類を設定します。

- 文字
- 文字・写真
- 写真

❖ 自動濃度優先
通常原稿を読み取るときに自動濃度を使うか設定します。

- する
- しない

❖ 読み取り濃度調整
通常原稿を読み取る濃度を設定します。

- 「うすく」または「こく」を押し、「レベル１」「レベル２」「レベル３」「レベル４」「レベル５」「レベル６」「レベル７」を選択します。

❖ 宛先表見出し切り替え
宛先表に表示される見出しを選択します。

- 宛先一覧
- 見出し１
- 見出し２
- 見出し３

❖ 宛先表表示切り替え
宛先表の替わりにテンキーを表示させます。

- 宛先表表示
- テンキー表示

❖ **音量調節**
次のそれぞれの場合の音量を調節します。工場出荷時は、小さい方から２番目のレベルになっています。
⇒ファクス機能 基本編「第4章 音量を調節する」

- オンフック時
- 送信時
- 受信時
- 発信時
- 受信印刷時

❖ **発信元情報登録**
次のそれぞれの項目を登録します。
⇒ファクス機能　基本編「第3章　こちらの名称とファクス番号を登録する」

- 発信元名称（印字用）
- 発信元名称（表示用）
- 発信元ファクス番号

❖ **発信元名称印字優先設定**
通常発信元名称（印字用）を印字するか設定します。

- ON
- OFF

❖ **宛名差し込み優先設定**
通常宛名差し込み機能を使うか設定します。

- 登録設定値
- OFF

❖ **縮小送信優先設定**
通常縮小送信を使うか設定します。⇒ P.117 「オプション設定」

- ON
- OFF

❖ **自動縮小優先設定**
自動縮小送信をするか設定します。⇒ P.117 「オプション設定」

- ON
- OFF

❖ **ID送信優先設定**
通常ID送信をするか設定します。⇒ P.117 「オプション設定」

- ON
- OFF

❖ **読み取り終了時リセット**
原稿の読み取りを終了するごとに初期値に戻すかどうか設定します。

- する
- しない

❖ **原稿サイズ混載優先**
通常自動原稿送り装置(ADF)<オプション>に原稿をセットしたときに原稿サイズ混載機能を使用するか設定します。

- する
- しない

❖ **済みスタンプ優先**
通常済みスタンプを押すかどうか設定します。

- する
- しない

❖ **優先回線選択**
通常使用する回線を設定します。
工場出荷時は「G3」に設定されています。

❖ **エコノミー時刻登録**
通信料金の安くなる時刻を指定して、送信することをエコノミー送信といいます。この時刻（エコノミー送信時刻）を登録します。⇒ P.10「時刻指定送信」
工場出荷時は「23:00」が登録されています。

❖ **オンフック解除時間**
オンフックダイヤルを使って送信したときにオンフックが解除される時間を設定します。ファクス情報サービスでオンフックダイヤルが切れてしまうときに設定すると便利です。

- 「1分」「3分」「5分」「10分」を選択します。

❖ **クイック操作キー設定**
よく使う機能をクイック操作キーとして登録すると、電源を入れた直後の画面に表示されます。
クイック操作キーに登録できる機能は次のとおりです。
通信管理レポート印刷、送信結果表示、親展受信文書印刷、封筒受信文書印刷、蓄積文書指定送信、時刻指定送信、納期指定送信、文書添付、両面原稿指定、ID送信、ポーリング送信、ポーリング受信、発信元名称印字、宛名差し込み、宛先表管理、メモリー転送、中継依頼送信
クイック操作キーとして登録できる機能は最大3種類です。
工場出荷時には、クイック操作キー２に送信結果表示、クイック操作キー３に宛先表管理が登録されています。
⇒ファクス機能 基本編「第1章　表示画面とキー操作について」

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。

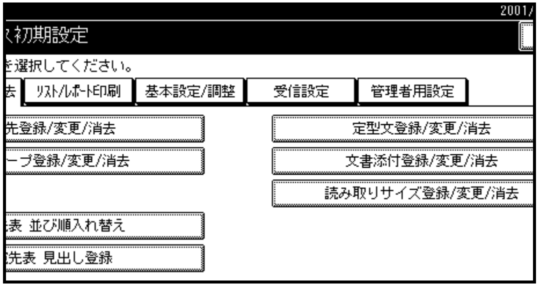


ZFLS110J

2 ［ファクス初期設定］を押します。

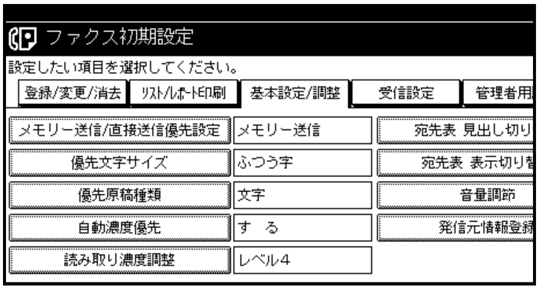
ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［基本設定/調整］を押します。



基本設定/調整のメニュー画面が表示されます。

4 設定する機能を押します。



補足

- ❒ 間違えたときは［取消］を押します。
- ❒ 設定する機能が見つからないときは、［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。





メモリー送信/直接送信優先の切り替えを設定するとき

❶ [メモリー送信] または [直接送信] を押します。



❷ [設定] を押します。

優先文字サイズを設定するとき

❶ 設定する文字サイズを押します。



❷ [設定] を押します。

優先原稿種類を設定するとき

❶ 設定する原稿の種類を押します。



❷ [設定] を押します。

自動濃度優先のON/OFFを設定するとき

❶ [する] または [しない] を押します。

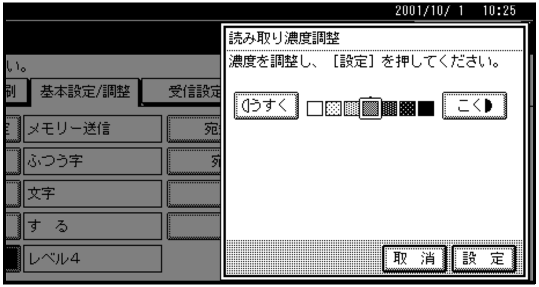


❷ [設定] を押します。

読み取り濃度を設定するとき

❶ ［こく］または［うすく］を押します。

濃度表示「□」が移動します。



補足

❒ 濃度は7段階で設定できます。

❷ ［設定］を押します。

宛先表の見出し切り替えを設定するとき

❶ 設定する見出しを押します。



❷ ［設定］を押します。

宛先表とテンキーの表示の切り替えを設定するとき

❶ ［宛先表表示］または［テンキー表示］を押します。



❷ ［設定］を押します。

発信元名称印字を設定するとき

❶［ON］または［OFF］を押します。



❷［設定］を押します。

宛名差し込み優先を設定するとき

❶［登録設定値］または［OFF］を押します。



補足

- ❒「登録設定値」を選択したときは、「オプション設定」⇒ P.117で設定した名称が印字されます。

❷［設定］を押します。

縮小送信優先を設定するとき

❶［ON］または［OFF］を押します。



❷［設定］を押します。

自動縮小優先を設定するとき

❶ [ON] または [OFF] を押します。



❷ [設定] を押します。

読み取り終了ごとに優先設定に戻すとき

❶ [する] または [しない] を押します。



❷ [設定] を押します。

ID送信優先を設定するとき

❶ [ON] または [OFF] を押します。



❷ [設定] を押します。

原稿サイズ混載優先を設定するとき

❶ [する] または [しない] を押します。



❷ [設定] を押します。

済みスタンプ優先を設定するとき

❶ ［する］または［しない］を押します。



❷ ［設定］を押します。

優先回線を設定するとき

補足

❒ 増設している回線によって表示される画面が異なります。

❶ 通常使用する回線を押します。

G4ユニット（オプション）を装着しているとき



❷ ［設定］を押します。

エコノミー送信時刻を設定するとき

制限

❒ 登録できるエコノミー送信時刻は1種類です。

補足

❒ 工場出荷時は「23：00」が登録されています。

❶ エコノミー送信時刻（24時間制）をテンキーで入力します。



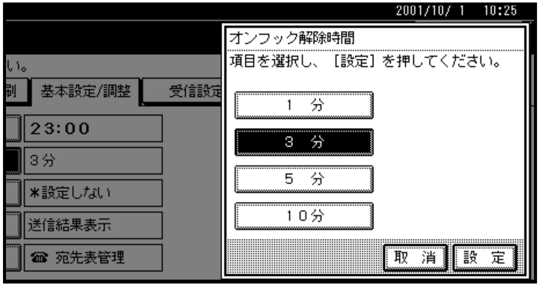
補足

❒ 間違えたときは、［クリア］を押して入力し直します。

❷ ［設定］を押します。

オンフック解除時間を設定するとき

❶ オンフックを解除する時間を押します。



補足

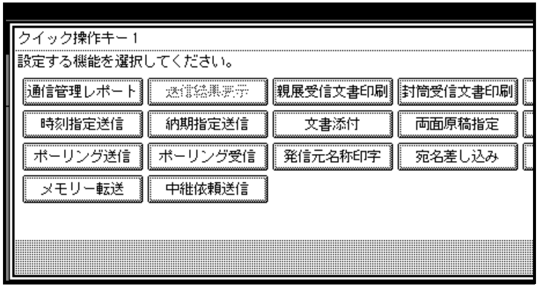
❒ 設定できる時間は、「1分」「3分」「5分」「10分」です。

❷ ［設定］を押します。

クイック操作キーを設定するとき

❶ 登録するクイック操作キーを押します。

❷ クイック操作キーに登録する機能を押します。



補足

❒ 半輝度になっているものは、すでに設定ずみの機能です。

❸［設定］を押します。

5【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

受信設定

受信するときに使う次の機能のON/OFFを設定できます。

- 受信モード切り替え⇒ファクス機能　基本編「第2章 受信の種類」、P.142 「受信モードについて」
- 受信モード自動切り替え時優先⇒ P.142
- 迷惑ファクス防止機能⇒ P.260
- メモリー転送機能⇒ P.234 「メモリー転送設定」、P.259 「特定相手先設定」
- 受信文書印刷部数設定機能⇒ P.157
- 両面印刷機能（オプションの両面ユニット装着時）⇒ P.155
- 受信逆順印刷機能⇒ P.159
- 給紙トレイ設定⇒ P.262 「相手先別給紙トレイ選択（給紙トレイ選択機能）」
- 回線別排紙先設定⇒ P.167
- しおり印字機能⇒ P.153
- センターマーク印字機能⇒ P.154
- 受信時刻印字機能⇒ P.154

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



ZFLS110J

2 ［ファクス初期設定］を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［受信設定］を押します。



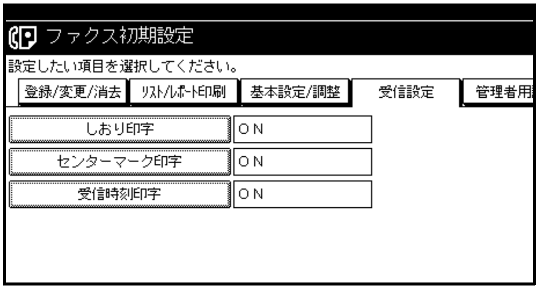
受信設定のメニュー画面が表示されます。

4 設定する機能を押します。



補足

- ❒ 設定する機能が表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。
- ❒ 間違えたときは［取消］を押します。



受信モードを切り替えるとき

❶ 受信モードを選択します。



❷ ［設定］を押します。

補足

- ❒ 設定を取り消すときは［取消］を押します。

受信モード自動切り替え時優先設定を設定するとき

❶ ［電話優先］または［ファクス優先］を押します。

「ファクス優先」を押したとき



「電話優先」を押したとき



制限

❒ 増設G3回線（オプション）のとき、「電話優先」は使えません。

補足

❒ ［電話優先］を押したときは、ベルを鳴らす回数（リンギング回数）を設定できます。ベルを鳴らす回数をテンキーで入力します。設定できる回数は1〜29回です。工場出荷時は「8回」に設定されています。

❒ ［ファクス優先］を押したときは、ベルを鳴らす回数（呼び出し回数）を設定できます。ベルを鳴らす回数をテンキーで入力します。設定できる回数は1〜29回です。工場出荷時は「6回」に設定されています。

❒ 間違えたときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して、入力し直します。

❷ ［設定］を押します。

補足

❒ 設定を取り消すときは［取消］を押します。

迷惑ファクス防止機能のON/OFFを設定するとき

❶ ［ON］または［OFF］を押します。



❷ ［設定］を押します。

補足

- ❒ 設定を取り消すときは［取消］を押します。

メモリー転送機能のON/OFFを設定するとき

❶ ［ON］または［OFF］を押します。



❷ ［設定］を押します。

補足

- ❒ 設定を取り消すときは［取消］を押します。

受信文書印刷部数を設定するとき

❶ 部数をテンキーで入力します。



補足

- ❒ 間違えたときは［クリア］を押して、入力し直します。
- ❒ 設定できる部数は1〜10部です。工場出荷時は「1部」に設定されています。

❷ ［設定］を押します。

補足

- ❒ 設定を取り消すときは［取消］を押します。

両面印刷のON/OFFを設定するとき

❶ ［ON］または［OFF］を押します。



❷ ［設定］を押します。

補足

❒ 設定を取り消すときは［取消］を押します。

受信逆順印刷のON/OFFを設定するとき

❶ ［ON］または［OFF］を押します。



❷ ［設定］を押します。

補足

❒ 設定を取り消すときは［取消］を押します。

給紙トレイ選択を設定するとき

❶ 選択する給紙トレイを押します。



補足

❒ トレイを選択しないときは「自動選択」が選択されます。

❒ 手差しトレイを選択するときは、「特定相手先設定」⇒ P.259で相手先ごとに選択します。

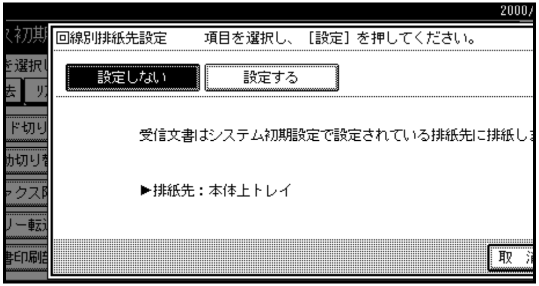
❷ ［設定］を押します。

補足

❒ 設定を取り消すときは［取消］を押します。

回線別排紙先を設定するとき

❶ ［設定する］を押します。



補足

- ❒「設定しない」を選択しているときは、システム初期設定で設定されたトレイに排紙します。⇒システム設定編2スキャナーユニット　タイプ 8100 対応版「基本設定－排紙先：ファクス」

❷ 設定する回線を押します。



❸ 排紙するトレイを押します。



❹ ［設定］を押します。

補足

- ❒ 続けて他の回線を設定するときは、手順❷から操作します。

❺ ［設定］を押します。

補足

- ❒ 設定を取り消すときは［取消］を押します。

しおり印字機能のON/OFFを設定するとき

❶ ［ON］または［OFF］を押します。



❷ ［設定］を押します。

補足

- ❒ 設定を取り消すときは［取消］を押します。

センターマーク印字機能のON/OFFを設定するとき

❶ ［ON］または［OFF］を押します。



❷ ［設定］を押します。

補足

- ❒ 設定を取り消すときは［取消］を押します。

受信時刻印字のON/OFFを設定するとき

❶ ［ON］または［OFF］を押します。



❷ ［設定］を押します。

補足

- ❒ 設定を取り消すときは［取消］を押します。

5 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

管理者用設定一覧表

機能	内容	参照先
通信枚数カウンター	送信枚数、受信枚数の累積を画面で確認できます。	⇒ P.233
メモリー転送設定	受信した原稿を登録してある相手先（転送先）へ転送します。受信した相手先にかかわらずすべて転送します。	⇒ P.234
封筒受信	受信した原稿がメモリーに蓄積され、自動的には印刷されません。	⇒ P.238
自動誤り再送（ECM）	電話回線の影響で正しく送信できなかったときに、その部分を自動的に送信し直します。	⇒ P.239
受信モードタイマー切り替え	受信モード（自動切り替え、手動受信、自動受信）を切り替える時間を登録します。	⇒ P.241
パラメーター設定/リスト印刷	各種の機能を利用状況に合った設定に変更できます。また、設定した内容をリストに印刷して確認できます。	⇒ P.244
特定相手先設定/リスト印刷	特定の相手先からの受信文書を他の文書と区別して印刷したり、転送することができます。また、設定した内容をリストに印刷して確認できます。	⇒ P.259
Fコードボックス設定/リスト印刷	親展ボックス、掲示板ボックス、中継ボックスの登録、変更、消去ができます。またFコードボックスリストを印刷します。	⇒ P.274
中継結果レポート設定	中継依頼送信の結果を中継局から返送してもらうために、接続した電話回線の番号を登録しておきます。	⇒ P.293
親展ID登録	親展送信、親展受信を使用するために必要なIDを登録します。	⇒ P.295
ポーリングID登録	中継依頼送信、中継局機能、IDポーリング送信、IDポーリング受信、ID送信、ID受信を使用するために必要なIDを登録します。	⇒ P.297
封筒ID登録	封筒受信を使用するために必要なIDを登録します。	⇒ P.298
ダイヤル/プッシュ選択	接続した電話回線の種別を設定します	⇒ P.300

機能	内容	参照先
ダイヤルイン番号登録	ダイヤルイン番号のうち電話用として使用する番号を登録しておきます。登録していないダイヤルイン番号はファクス用として使用されます。	⇒ P.301
ISDN-G3回線登録	G3デジタル回線と接続しているとき、2つのファクス番号、サブアドレスを登録します。	⇒ P.303
ISDN-G4回線登録	G4デジタル回線と接続しているとき、2つのファクス番号、サブアドレスを登録します。	⇒ P.306
全文書転送	メモリーに蓄積したすべての文書を他のファクスに転送して印刷します。	⇒ P.308

管理者用設定を使う

通信枚数カウンター

送信枚数、受信枚数の累積を画面に表示して確認できます。

- 送信枚数
  送信した原稿の総枚数
- 受信枚数
  受信した原稿の総枚数

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



ZFLS110J

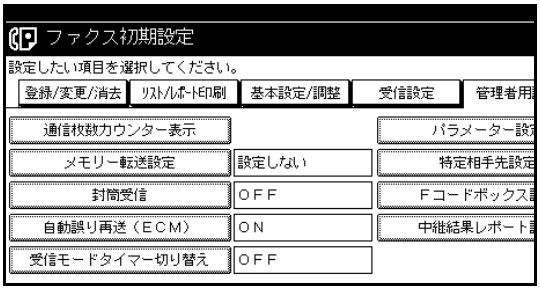
2 ［ファクス初期設定］を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［管理者用設定］を押します。



4 ［通信枚数カウンター表示］を押します。



使用枚数が表示されます。

補足

❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

5 内容を確認したら［閉じる］を押します。



6【初期設定/カウンター】キーを押します。

ファクス初期設定画面に戻ります。

メモリー転送設定

受信した原稿を印刷し、さらにあらかじめ登録してある相手先（転送先）へ転送します。外出先を転送先として登録しておけば、外出先でも受信した原稿を見ることができます。

参照

「特定相手先設定」⇒ P.259

制限

- ❒ 親展受信、封筒受信、ポーリング受信および他のファクスから中継依頼送信された文書は転送されません。
- ❒ 転送先に指定できるのは宛先表またはグループ宛先に登録した相手先だけです。中継局に指定したグループは指定できません。

参照

ファクス機能 基本編「第3章 宛先表に登録する」

ファクス機能 基本編「第3章 グループ宛先を登録する」

補足

- ❒ この機能を使用するときは、「受信設定」でメモリー転送機能を「ON（使用する）」に設定します。⇒ P.224 「受信設定」
- ❒「受信設定」を「ON」にしてこの機能を設定しないときは、印刷だけ行います。相手先によって転送先を変えたいときは、特定相手先設定で相手先ごとに転送先を設定します。設定しない相手先から受信した文書は、この機能で設定した転送先に転送されます。⇒ P.259 「特定相手先設定」
- ❒ 登録できる転送先は1件です。複数の転送先を登録するときはグループ宛先を使います。⇒ ファクス機能 基本編「第3章 グループ宛先を登録する」
- ❒ 転送した原稿にメモリー転送マークを印字できます。⇒ P.237 「メモリー転送マーク印字」
- ❒ メモリー転送した文書を本機でも印刷するかどうか「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「印刷する」に設定されています。⇒ P.244「パラメーター設定」（スイッチ11 ビット6）
- ❒ 変更は登録と同じ操作です。変更する項目の操作をしてください。

転送先を設定する

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。

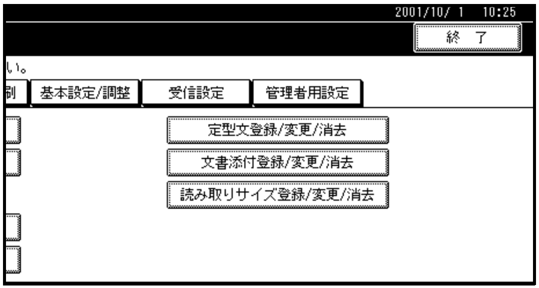


ZFLS110J

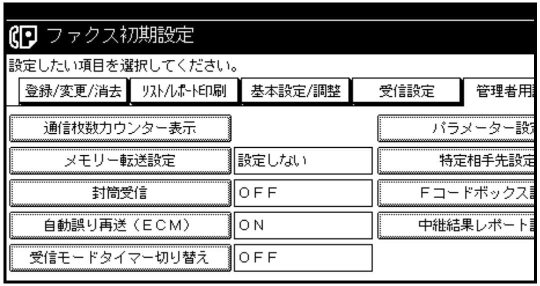
2 ［ファクス初期設定］を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［管理者用設定］を押します。



4 ［メモリー転送設定］を押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

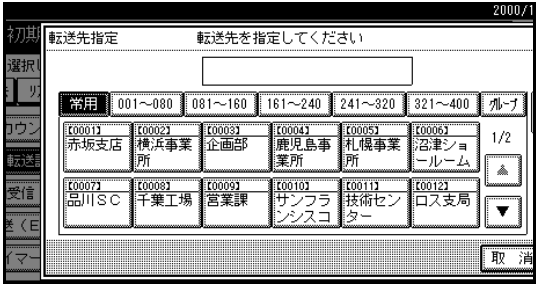
5 ［設定する］を押します。



補足

- ❒ 転送先が設定されているときは、転送先の名称が表示されます。転送先を変更するときは、［転送先］を押して手順6に進みます。
- ❒ メモリー転送を解除するときは、［設定しない］を押して、手順8に進みます。

6 登録する転送先の宛先キーを押します。



補足

- ❒ 間違えたときは、選択された宛先キーまたは［クリア］を押して選択し直します。

7 ［設定］を押します。

「転送先」の右側に転送先の名称が表示されます。

8 ［設定］を押します。

9 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

転送先の設定を取り消す

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。

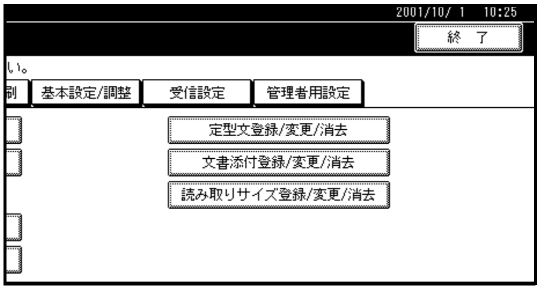


ZFLS110J

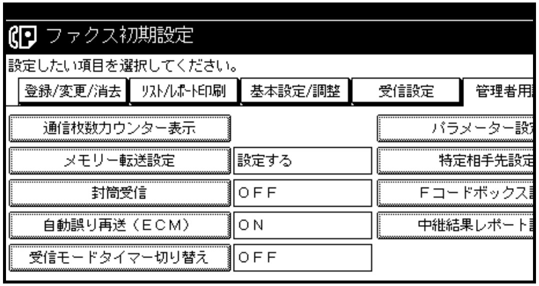
2 ［ファクス初期設定］を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［管理者用設定］を押します。



4 [メモリー転送設定] を押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは [▲前へ] または [▼次へ] を押して表示させます。

5 [設定しない] を押します。



6 [設定] を押します。

7 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

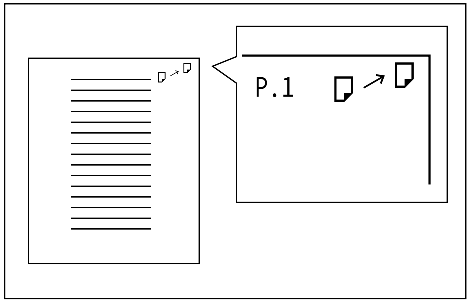
メモリー転送マーク印字

転送した文書に転送されたことを示すマークを印字できます。

転送先で通常の受信文書と転送されてきた文書とを区別できます。

補足

- ❒ メモリー転送マーク印字するかどうかP.244 「パラメーター設定」（スイッチ02 ビット0）で設定できます。工場出荷時は「印字する」に設定されています。



GFMTEN0J

封筒受信

封筒受信機能を設定すると、受信した原稿はメモリーに蓄積され、自動的には印刷されません。封筒受信すると親展受信ランプが点滅します。この原稿は封筒IDを入力して印刷します。封筒IDを知らない人は印刷できないので、内容を他人に見られずにすみます。

封筒受信を使用するときは、封筒IDを登録し、機能を「ON（使用する）」にします。⇒ P.298「封筒ID登録」

操作の前に

あらかじめ封筒IDを登録しておきます。⇒ P.298「封筒ID登録」

補足

❒ 特定の相手先のみ封筒受信するときは、「特定相手先登録（封筒受信設定）」で相手先ごとに封筒受信機能を設定します。⇒ P.259「特定相手先設定」

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



ZFLS110J

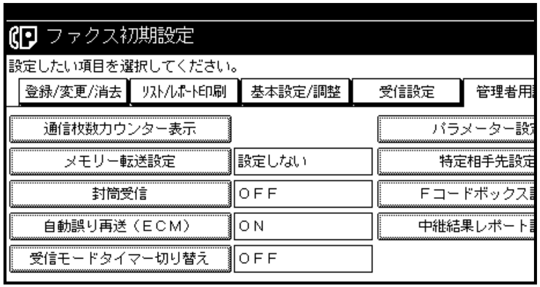
2 ［ファクス初期設定］を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［管理者用設定］を押します。



4 ［封筒受信］を押します。



補足

❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

5 [ON] または [OFF] を押します。



6 [設定] を押します。

補足

- ❒ [取消] を押すと、設定を変更しないで手順**4**の画面に戻ります。

7 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

自動誤り再送 (ECM)

ECM（Error Correction Mode）とは国際的に決められた規格による機能で、電話回線の影響で正しく送信できなかったときに、その部分を自動的に送信し直します。ただし、相手先のファクスにも同じ機能がないと働きません。この機能を使うか使わないか選択します。

制限

- ❒ ECM機能をOFFにすると次の機能が使えなくなります。
  - JBIG送受信
  - スーパー G3通信

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



ZFLS110J

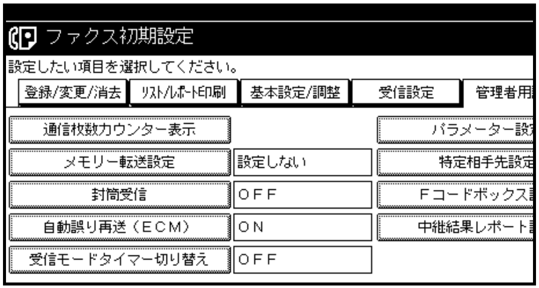
2 [ファクス初期設定] を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［管理者用設定］を押します。



4 ［自動誤り再送（ECM）］を押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

5 ［ON］または［OFF］を押します。



6 ［設定］を押します。

補足

- ❒ ［取消］を押すと、設定を変更しないで手順**4**の画面に戻ります。

7 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

受信モードタイマー切り替え

設定した時刻に自動的に受信モード（自動切り替え、手動受信、自動受信）を切り替えます。通常は手動受信で使用し、不在の時間帯を自動受信にするなど、使用状況に応じて設定しておくと便利です。

制限

❒ ダイヤルイン機能とは併用できません。

❒ 増設G3回線（オプション）のとき、この機能は使えません。

補足

❒ 時刻は1日2回、1週間単位で登録できます。

❒ 変更は登録と同じ操作です。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



ZFLS110J

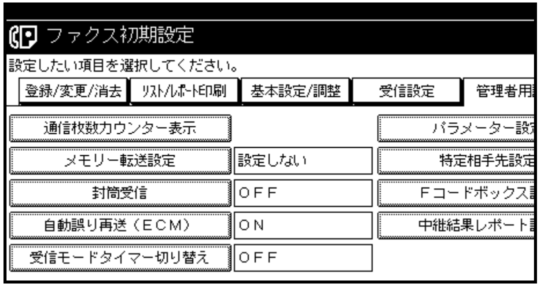
2 ［ファクス初期設定］を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［管理者用設定］を押します。



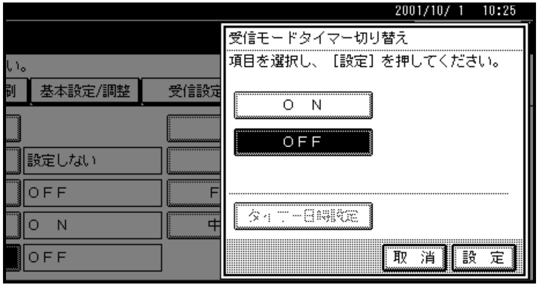
4 ［受信モードタイマー切り替え］を押します。



補足

❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

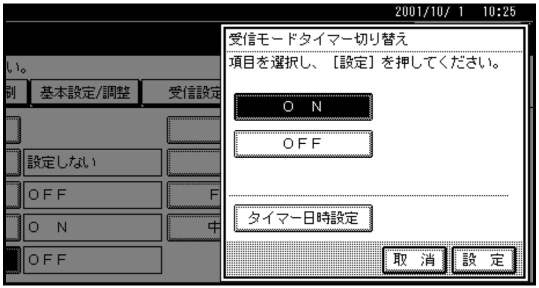
5 [ON] を押します。



補足

- ❒ 受信モードタイマー切り替え設定を取り消すときは、[OFF] を押します。

6 [タイマー日時設定] を押します。



7 切り替える1回目の曜日（セット1）を押します。

画面は月曜日の8：00から19：59まで自動切り替えに設定し、20：00から自動受信に切り替える例です。



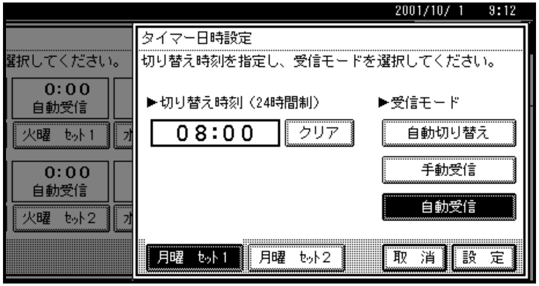
8 時刻（24時間制・この例では08:00）をテンキーで入力します。



補足

- ❒ 間違えたときは、[クリア] または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。

9 切り替える受信モード（この例では[自動切り替え]）を押します。



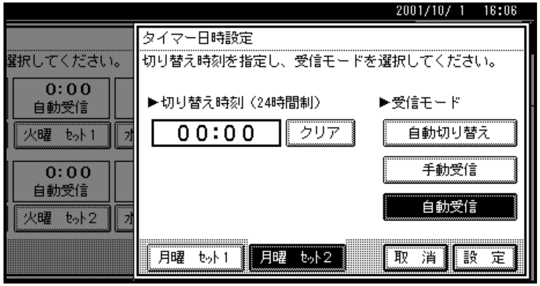
10 同じ曜日の［セット2］を押します。



補足

- 1回しか切り替えないときは、同じ時刻に設定します。

11 手順8と同様の操作で、同じ曜日の2回目の切り替え時刻（この例では20:00）を設定します。



12 手順9と同様の操作で、切り替える受信モード（この例では［自動受信]）を設定します。



13 ［設定］を押します。

14 続けて別の曜日を登録するときは、手順7から操作します。

15 ［閉じる］を押します。

16 ［設定］を押します。

17 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

パラメーター設定

パラメーター設定で各種の機能を利用状況にあった設定に変更できます。パラメーターのスイッチを操作して変更します。

操作の前に

オプションの設置や機能のON/OFFなど、あらかじめ必要な操作を行ってからパラメーターのスイッチを操作してください。

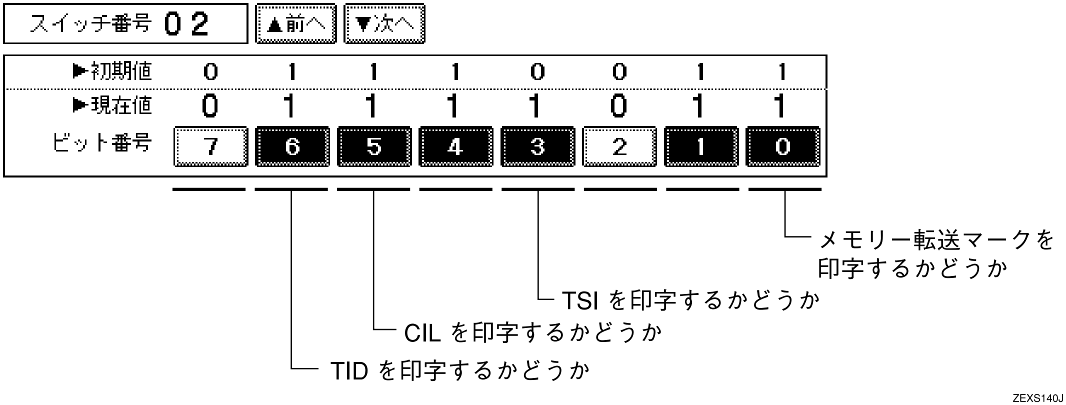
❖ スイッチとビット

それぞれのスイッチは1と0の組み合わせによる8桁の数字の並びで構成され、その1桁1桁をビットと言います。右端がビット0、左端がビット7になります。ビットの数字を0または1に変更することで、機能の設定を変えることができます。

❖「スイッチ02の例」

パラメーター設定の画面では、初期値と現在値が表示されます。

ビットはそれぞれ［0］［1］［2］［3］［4］［5］［6］［7］に対応しており、たとえば［3］を押すごとに、ビット3の数字が0と1とで切り替わります。



補足

❒ **上記の図は「スイッチ02」の「ビット3」を工場出荷時の「0（TSI（送信側情報）を印字しない）」から「1（TSI（送信側情報）を印字する）」に変更してある状態を示しています。**

❖ パラメーター一覧表

__は工場出荷時の設定値です。

スイッチ	ビット	項目	0	1	参照先	オプション
02	0	メモリー転送マークを印字するかどうか	印字しない	印字する	⇒ P.237	
	3	TSI（送信側情報）を印字するかどうか	印字しない	印字する	⇒ P.160	
	5	CIL（受信側・送信側情報）を印字するかどうか	印字しない	印字する	⇒ P.161	G4ユニット
	6	TID（送信側情報印字<G4用>）を印字するかどうか	印字しない	印字する	⇒ P.161	G4ユニット
03	0	メモリー送信結果レポートを自動的に印刷するかどうか	印刷しない	印刷する	⇒ P.129	
	2	蓄積結果レポートを自動的に印刷するかどうか	印刷しない	印刷する	⇒ P.127	
	3	ポーリング予約レポートを自動的に印刷するかどうか	印刷しない	印刷する	⇒ P.27	
	4	ポーリング受信結果レポートを自動的に印刷するかどうか	印刷しない	印刷する	⇒ P.29	
	5	直接送信結果レポートを自動的に印刷するかどうか	印刷しない	印刷する	⇒ P.135	
	6	ポーリング消去レポートを自動的に印刷するかどうか	印刷しない	印刷する	⇒ P.22	
	7	通信管理レポートを自動的に印刷 するかどうか	印刷しない	印刷する	⇒ P.53	

スイッチ	ビット	項目	0	1	参照先	オプション
04	0	親展通知レポートを自動的に印刷するかどうか	印刷しない	印刷する	⇒ P.63	
	7	各種レポートに原稿画像を載せるかどうか	画像を載せない	画像を載せる	⇒ P.22 ⇒ P.127 ⇒ P.129 ⇒ P.132	
05	0	サービスコール時に受信するかどうか	代行受信する	着信しない	—	
	2,1	印刷不可能時に受信するかどうか • 00：無条件に代行受信する • 01：発信元名称（表示用）/発信元ファクス番号を受けたときに代行受信する • 10：ポーリングIDが一致したときに代行受信する • 11：着信しない			⇒ P.139	
	5	最適な用紙サイズで印刷するかどうか（ジャストサイズ印刷）	印刷しない	印刷する	⇒ P.163	
	7	給紙トレイの1つでも用紙がなくなったときに紙なし警告をさせるかどうか	しない	する	⇒ファクス機能 基本編「第4章 いつもと違うメッセージが表示されたとき」	
06	6	見開き原稿の読み取りページ順を指定する	左→右	右→左	⇒ P.98	

スイッチ	ビット	項目	0	1	参照先	オプション
07	0	呼び出し音を鳴らすようにするかどうか	鳴らす	鳴らさない	⇒ P.142	
	1	受信モードを自動切り替えに設定しているとき、相手先に音声メッセージを流すかどうか	流さない	流す	⇒ P.142	
	2	クイックメモリー送信をするかどうか	しない	する	⇒ P.123	
	5	リモート切替できるようにするかどうか	しない	する	⇒ P.146 ⇒ P.147	
08	2	迷惑ファクス防止機能の使用条件	特定相手先だけ受信	特定相手先以外を受信	⇒ P.264	迷惑ファクス「ON」時
10	1	集約印刷をするかどうか	しない	する	⇒ P.158	
	3	受信側縮小をするかどうか	縮小しない	縮小する	⇒ P.160	

スイッチ	ビット	項目	0	1	参照先	オプション
11	1	ISDNの回線を使用するとき、トーンの表示「・」以降をトーン(PB)にするかUUIにするか	UUI	トーン(PB)	⇒ P.89 ⇒ファクス機能 基本編「第2章 トーン信号に切り替える」	G4ユニット
	3	呼び出し音1300Hzで着信するかどうか	着信する	着信しない	⇒ P.348	
	6	メモリー転送した文書を本機でも印刷するかどうか	印刷しない	印刷する	⇒ P.234	
	7	ポーリング送信の文書を送信後に消去するかどうかの初期設定	1回	継続待機	⇒ P.22	

スイッチ	ビット	項目	0	1	参照先	オプション
14	0	自動電源受信機能（スリープモード時の印刷）で受信した文書の印刷のしかた	即時印刷	電源スイッチをONにしたとき印刷	⇒ P.152	
	1	長尺原稿を使用するかどうか	使わない	使う	⇒ファクス機能 基本編「第2章 自動原稿送り装置(ADF)への原稿のセット」	
	2	列信機能を使うかどうか	使わない	使う	⇒ P.124	
	3	機能移行時リセット	リセットしない	リセットする	ー	
	7	オートサービスコールレポートを手動で送信するかどうか	送信しない	送信する		

スイッチ	ビット	項目	0	1	参照先	オプション
17	2	同報時、追加キーを押すかどうか	押さない	押す	⇒ファクス機能 基本編「第2章 メモリー送信で送る」	
	7	手動受信やファクス情報サービスを利用するとき、【スタート】キーを押して受信するかどうか	受信しない	受信する	⇒ファクス機能 基本編「第4章 ファクス情報サービスを利用する」	
18	0	発信元名称（印字用）日付データ印字をするかどうか	しない	する	⇒ P.117	
	1	発信元名称（印字用）発信元データ印字をするかどうか	しない	する	⇒ P.117	
	2	発信元名称（印字用）文書番号印字をするかどうか	しない	する	⇒ P.117	
	3	発信元名称（印字用）ページ番号印字をするかどうか	しない	する	⇒ P.117	
19	0	排紙位置シフト機能を使うかどうか	使わない	使う	⇒ P.167	フィニッシャー
	1	通信管理レポート回線別印字をするかどうか	しない	する	⇒ P.53	G4ユニット 増設G3ユニット

スイッチ	ビット	項目	0	1	参照先	オプション
20	0	PC FAXエラーレポートを自動的に印刷するかどうか	印刷しない	印刷する	⇒ P.326「PC FAXドライバーを使っているときに表示されるメッセージ」	
	1	PC FAXドライバーから印刷できなかった文書を再印刷するかどうか	印刷しない	印刷する	⇒ P.324「印刷機能」	
	5,4,3,2	PC FAXドライバーから印刷できなかった文書の再印刷保持時間 0000:0分 0001:1分 0010:2分 0011:3分 0100:4分 0101:5分 0110:6分 0111:7分 1000:8分 1001:9分 1010:10分 1011:11分 1100:12分 1101:13分 1110:14分 1111:15分			⇒ P.324「印刷機能」	
24	0	送信できなかった文書をメモリーに保持するかどうか	保持しない	保持する	⇒ P.45	
	1	送信できなかった文書のメモリー保持時間	24時間	72時間	⇒ P.45	ビット0が「する」のときに有効
25	3	ダイヤルイン機能を使うかどうか	使わない	使う	⇒ P.145	

パラメーター設定のしかた

パラメーターの設定は次のとおりです。

重要

- ❒ 登録変更したときは、「パラメーター設定リスト」を印刷し、保管しておくことをお勧めします。⇒ P.256 「パラメーターリスト」
- ❒ 一覧表に載っていないビットは変更しないでください。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



ZFLS110J

2 ［ファクス初期設定］を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［管理者用設定］を押します。



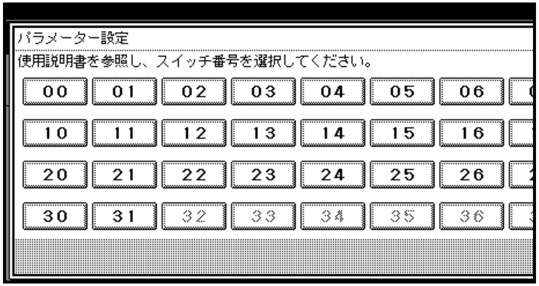
4 ［パラメーター設定］を押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

5 変更するスイッチ番号を押します。



6 変更するビット番号を押して、設定します。



番号を押すたびに1と0が交互に表示されます。

補足

- 同じスイッチでほかのビット番号を変更するときは手順6を繰り返します。

7 ［設定］を押します。

補足

- ［取消］を押すと、変更した内容を取り消して手順5の画面に戻ります。

8 手順5～6を繰り返して、スイッチの設定を変更します。

9 すべての設定を変更したら［閉じる］を押します。

10 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

パラメーター設定リスト印刷

パラメーター設定リストを手動で印刷します。

パラメーターの設定を確認できます。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。

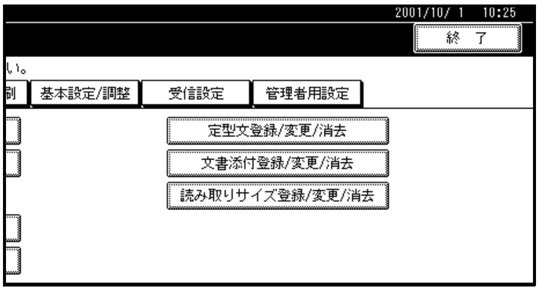


ZFLS110J

2 [ファクス初期設定] を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 [管理者用設定] を押します。



4 「パラメーター設定」の右側にある [リスト印刷] を押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは [▲前へ] または [▼次へ] を押して表示させます。
- ❒ 印刷を中止するときは [取消] を押します。手順4の画面に戻ります。

5 【スタート】キーを押します。

リストが印刷されます。

補足

- ❒ 印刷を中止するときは [印刷中止] を押します。手順4の画面に戻ります。

6 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

パラメーターリスト

設定されている方に「＊」が記載されます。

＊＊＊ パラメーター設定 リスト (2001年10月 1日 12時00分)＊＊＊ Ｐ．１

１）青山支店
２）ＡＯＹＡＭＡ ＯＦＦＩＣＥ

発信元名称（表示用）	アオヤマシテン
発信元名称（印字用） １	青山支店
２	ＡＯＹＡＭＡ ＯＦＦＩＣＥ
発信元ファクス番号 Ｇ３	１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０
ＩＳＤＮ－Ｇ３	１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０
ポーリング ＩＤ	１１１１
親 展 ＩＤ	２２２２
封 筒 ＩＤ	３３３３
中継結果レポート用ファクス番号	
Ｇ３ファクス番号（外線）	０１２３４５６７８９０１２３４５
Ｇ３ファクス番号（内線）	０１２３４５６７８９０１２３４５
Ｇ４ファクス番号	０１２３４５６７８９０１２３４５
ＩＳＤＮ回線－Ｇ３	
ＩＳＤＮ－Ｇ３ファクス番号 １（主）	１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０
ＩＳＤＮ－Ｇ３ファクス番号 ２（副）	１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０
ＩＳＤＮ－Ｇ３サブアドレス	００００
ＩＳＤＮ回線－Ｇ４	
ＩＳＤＮ－Ｇ４端末識別子	－＝
ＩＳＤＮ－Ｇ４ファクス番号 １（主）	１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０
ＩＳＤＮ－Ｇ４ファクス番号 ２（副）	１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０
ＩＳＤＮ－Ｇ４サブアドレス	００００

ZEXR050J

P．2

＊ ＊ ＊ パラメーター設定 リスト （2001年10月 1日 12時00分）＊ ＊ ＊

1）青山支店
2）AOYAMA OFFICE

ユーザースイッチ設定

（SW02）			
〈0〉	メモリー転送マーク印字	＊ON	OFF
〈3〉	TSI 印字	ON	＊OFF
〈5〉	CIL 印字	＊ON	OFF
〈6〉	TID 印字	＊ON	OFF
（SW03）	自動印刷レポート		
〈0〉	メモリー送信結果レポート	ON	＊OFF
〈2〉	蓄積結果レポート	ON	＊OFF
〈3〉	ポーリング予約レポート	ON	＊OFF
〈4〉	ポーリング受信結果レポート	＊ON	OFF
〈5〉	直接送信結果レポート	ON	＊OFF
〈6〉	ポーリング消去レポート	＊ON	OFF
〈7〉	通信管理レポート	＊ON	OFF
（SW04）	自動印刷レポート		
〈0〉	親展通知レポート	＊ON	OFF
〈7〉	レポートへの画像付加	＊ON	OFF
（SW05）			
〈0〉	SC時	代行受信	＊着信不可
〈1－2〉	印刷不可時の代行受信	無条件	＊RTI／CSI
		ポーリングID	着信不可
〈5〉	ジャストサイズ印刷	ON	＊OFF
〈7〉	紙なし警告表示	ON	＊OFF
（SW06）			
〈6〉	見開き原稿読み取り開始ページ	＊右→左	左→右
（SW07）			
〈0〉	無鳴動着信	＊鳴らない	鳴る
〈1〉	音声応答	＊ON	OFF
〈2〉	クイックメモリー送信	＊ON	OFF
〈5〉	リモート切替	＊ON	OFF

ZEXR060J

P．3

＊＊＊ パラメータ設定 リスト （2001年10月 1日 12時00分）＊＊＊

1）青山支店
2）ＡＯＹＡＭＡ ＯＦＦＩＣＥ

ユーザースイッチ設定

（ＳＷ０８）				
	迷惑ファクス防止設定	特定相手先のみ	特定相手先以外	
（ＳＷ１０）				
〈１〉	集約印刷	ＯＮ	＊ＯＦＦ	
〈３〉	受信側縮小印刷	ＯＮ	＊ＯＦＦ	
（ＳＷ１１）				
〈１〉	ＩＳＤＮへのＰＢ ＵＵＩ送信	＊ＰＢ	ＵＵＩ	
〈６〉	メモリー転送時受信文書印刷	＊ＯＮ	ＯＦＦ	
〈７〉	ポーリング送信待機期間	保存	＊１回	
（ＳＷ１４）				
〈０〉	夜間モード文書出力	＊ＯＮ	ＯＦＦ	
〈１〉	長尺原稿モード	ＯＮ	＊ＯＦＦ	
〈２〉	列信	＊ＯＮ	ＯＦＦ	
〈３〉	機能切替時リセット	ＯＮ	＊ＯＦＦ	
〈７〉	システムパラメータ送信	ＯＮ	＊ＯＦＦ	
（ＳＷ１７）				
〈２〉	宛先追加キー	省略不可	＊省略可	
（ＳＷ１８）				
〈０〉	発信元名称印字：日付	＊ＯＮ	ＯＦＦ	
〈１〉	発信元名称印字：名称	＊ＯＮ	ＯＦＦ	
〈２〉	発信元名称印字：文書番号	＊ＯＮ	ＯＦＦ	
〈３〉	発信元名称印字：ページ番号	＊ＯＮ	ＯＦＦ	
（ＳＷ１９）				
〈０〉	排紙位置シフト機能	＊ＯＮ	ＯＦＦ	
〈１〉	通信管理レポート回線別印字	ＯＮ	＊ＯＦＦ	
（ＳＷ２０）				
〈０〉	ＰＣファクスエラーレポート印字	＊ＯＮ	ＯＦＦ	
〈１〉	ＰＣファクス印字リカバリー	ＯＮ	＊ＯＦＦ	
〈２－５〉	ＰＣファクス印字リカバリータイムアウト時間	５分		
（ＳＷ２４）				
〈０－１〉	不達文書保持	＊ＯＦＦ	２４時間保持	７２時間保持
（ＳＷ２５）				
〈３〉	ダイヤルイン	ＯＮ	＊ＯＦＦ	

ZEXR130J

特定相手先設定

あらかじめ特定の相手先を登録しておくと、相手先別に次の機能を設定することができます。

- 相手先別迷惑ファクス防止機能
- 相手先別メモリー転送（メモリー転送機能）
- 相手先別受信印刷部数設定（受信文書印刷部数設定）
- 相手先別両面印刷機能
- 相手先別封筒受信（封筒受信機能）
- 相手先別受信逆順印刷（受信逆順印刷機能）
- 相手先別給紙トレイ選択（給紙トレイ選択機能）

相手先の登録には発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号を使います。相手先が当社のファクスの場合は、相手先に登録してある発信元名称（表示用）を登録します。当社以外のファクスの場合は、発信元ファクス番号を使います。このとき漢字は使えません。G4回線（オプション）で通信するときはG4発信元情報を登録します。

また登録した相手先全体の機能の設定ができます。登録したほとんど相手先が同じ設定のときに全体設定で機能を設定し、機能を変更したい相手先だけ特定相手先登録で変更すると便利です。

登録できる内容は次のとおりです。

- 特定相手先（最大30件。オプションのFAX機能拡張キット装着時は最大50件。名称はG3のとき1件につき最大20文字、G4のとき1件につき最大24文字。）
- 部分一致検索条件
  相手先の発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号を登録するとき、同じ名称部分を持つ複数の相手先を1件ずつ登録するかわりに、同じ名称部分だけを部分一致条件に登録する方法もあります。
  部分一致検索条件に登録した文字列が相手先の発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号に含まれていると、本機は通信している相手先と登録してある相手先とが一致したと判断するため、1件の登録で複数の件数の登録を代用できることになります。

登録する相手先	登録件数
サッポロシテン アオヤマシテン センダイシテン	3件

部分一致検索条件を使うと

登録する相手先	登録件数
シテン	1件

補足

- ❒ 部分一致検索条件に登録できる件数は最大30件（オプションのFAX機能拡張キット装着時は最大50件）です。
- ❒ スペースは無視して比較します。
- ❒ 次の機能で使用できます。
  - 相手先別メモリー転送機能
  - 相手先別受信機能
  - 相手先別迷惑ファクス防止機能

制限

- ❒ 発信元名称（表示用）も発信元ファクス番号も登録されていない相手先は、特定相手先として登録できません。
- ❒ 特定相手先からの文書がポーリング受信、フリーポーリングの文書のときは区別できません。

補足

- ❒ 登録できる相手先の文字数は最大24文字です。
- ❒ 相手先に登録してある発信元名称（表示用）や発信元ファクス番号は「通信管理レポート」⇒ P.53の相手先名称で確認できます。 登録した特定相手先は「特定相手先リスト」⇒ P.273で確認できます。
- ❒「機能設定」の「相手先別受信機能」を「OFF（全体設定に従う）」に設定したときは、「受信設定」⇒ P.224で設定したと同じ設定になります。

❖ **相手先別迷惑ファクス防止機能**

受信する相手先を制限します。登録した相手先（特定相手先）以外からのファクスは受け付けないので、間違いファクスやいたずらファクスなどで、用紙をむだにすることがなくなります。登録した相手先からは受信せず、それ以外からの文書だけを受信するように設定することもできます。

補足

- ❒ この機能を使用するときは、特定相手先を登録したあと、「受信設定（迷惑ファクス防止）」で「ON（使用する）」を選択します。工場出荷時は「OFF（使用しない）」に設定されています。⇒ P.224 「受信設定」
- ❒ 特定相手先を登録しないで「設定する」を選択しても、迷惑ファクス防止機能は働きません。
- ❒ 登録した相手先だけから受信するか、登録した相手先以外だけから受信するか「パラメーター設定」で選択できます。工場出荷時は「特定相手先だけ受信」に設定されています。⇒ P.244「パラメーター設定」（スイッチ08 ビット2）
- ❒「機能設定（迷惑ファクス防止）」は、「パラメーター設定」⇒ P.244と同じ設定になります。
- ❒ 変更は登録と同じ操作です。

❖ 相手先別メモリー転送（メモリー転送機能）

受信した原稿を印刷し、さらにあらかじめ登録してある相手先（転送先）へ転送します。外出先を転送先として登録しておけば外出先でも受信した原稿を見ることができます。

登録した相手先（特定相手先）から送信されてきた原稿だけを転送するなど、送信してきた相手先によって転送先を区別するときは、転送先を登録するときに相手先も登録します。

補足

- ❒ この機能を使用するときは、特定相手先を登録したあと、「受信設定（メモリー転送）」で「ON（使用する）」を選択します。工場出荷時は「OFF（使用しない）」に設定されています。⇒ P.224「受信設定」
- ❒ 「メモリー転送設定」を「設定する」に設定して、「全体設定に従う」を選択したときは、「メモリー転送設定」⇒ P.234で設定した転送先に転送します。
- ❒ 特定相手先を登録しないときは、「メモリー転送設定」で設定した転送先にすべての受信文書を転送します。

❖ 相手先別受信印刷部数設定（受信文書印刷部数設定）

登録した相手先（特定相手先）から受信した文書を、あらかじめ設定した部数分だけ印刷します。相手先を登録しないときは、どの相手先から受信した文書も設定した部数分印刷します。

制限

- ❒ ポーリング受信、フリーポーリング、親展受信、封筒受信のときは複数部数印刷できません。

補足

- ❒ 設定できる部数は1～10部です。

❖ 相手先別両面印刷機能

用紙の両面に印刷します。

この機能を利用するためには両面ユニット（オプション）が必要です。

制限

- ❒ 給紙トレイ設定で手差しトレイを選択したときは、両面印刷はできません。

❖ 相手先別封筒受信（封筒受信機能）

登録した相手先（特定相手先）から受信した文書を印刷せずに、メモリーに蓄積させます。封筒IDを知らない人は印刷できないので、機密文書を受信するときに便利です。相手先を登録しないときは、どの相手先から送信されてきた原稿でも、封筒受信します。

参照

「封筒ID登録」⇒ P.298

制限

- ❒ 封筒受信機能とメモリー転送機能を同じ相手先に登録したときは、メモリー転送しません。

❖ **相手先別受信逆順印刷（受信逆順印刷機能）**
ページの順番を逆にして印刷します。⇒ P.159「受信逆順印刷（受信紙ソート印刷）」

❖ **相手先別給紙トレイ選択（給紙トレイ選択機能）**
登録した相手先（特定相手先）から受信した文書と、それ以外の相手先からの文書を、それぞれ異なる用紙に印刷します。
たとえば、給紙トレイ1に青い用紙、給紙トレイ2に白い用紙をセットすると、特定相手先からの文書は青い用紙に、それ以外からの文書は白い用紙に印刷するので、ひと目で区別できます。
特定相手先を登録しないと、どの相手先から受信した文書も本体給紙トレイの用紙で印刷します。

制限

❒ ポーリング受信、フリーポーリングのときは、給紙選択できません。

❒ 手差しトレイを給紙トレイとして選択したときは、排紙先にフィニッシャー（オプション）を指定しても本体排紙トレイに排紙されます。

補足

❒ 指定したトレイにセットされている用紙と異なるサイズの原稿を受信したときは、分割または縮小して印刷されます。「記録分割・縮小」⇒ P.159

❒ 手差しトレイを選択したときは、「機能設定（手差し用紙サイズ設定）」で用紙のサイズを設定できます。工場出荷時は「自動検知」に設定されています。

特定相手先の登録 / 変更

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。

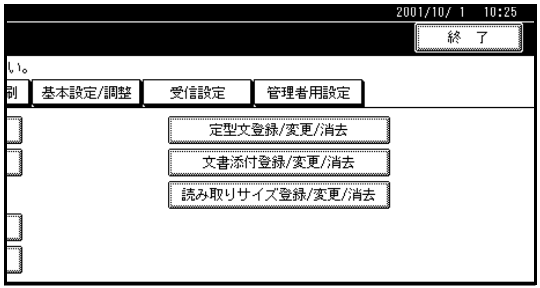


ZFLS110J

2 ［ファクス初期設定］を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［管理者用設定］を押します。



4 ［特定相手先設定］を押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

5 相手先を登録するキーを押します。

新規に登録するときは「＊未登録」と表示されているキーを押します。



6 相手先の名称を入力します。

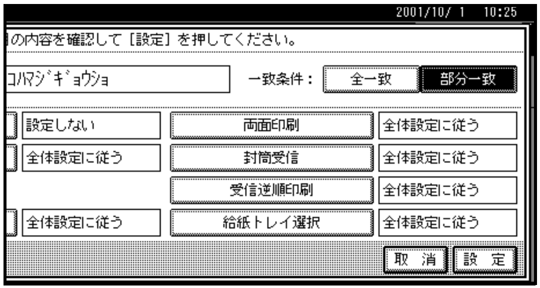
発信元名称（表示用）または発信元ファクス番号で入力します。

参照

ファクス機能 基本編「第3章 文字の入力のしかた」

7 ［OK］を押します。

8 ［全一致］または［部分一致］を押して選択します。



参照

部分一致検索条件⇒ P.259

9 条件を設定する項目を押します。

補足

- ❒ 条件を設定する項目だけ操作します。
- ❒「全体設定に従う」と表示されている項目は、「受信設定」、「メモリー転送設定」、「封筒受信」と同じ設定になります。
- ❒ [取消] を押すと、設定した内容を取り消して手順**5**の画面に戻ります。

迷惑ファクス防止設定をするとき

❶ [迷惑ファクス防止設定] を押します。

❷ [設定する] または [設定しない] を押します。



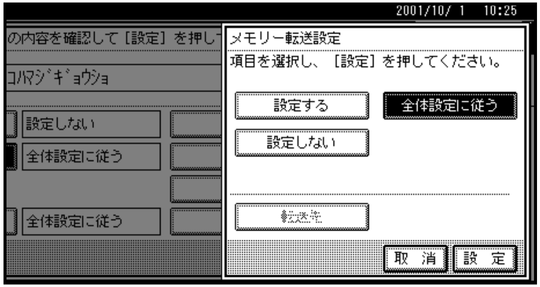
❸ [設定] を押します。

メモリー転送設定をするとき

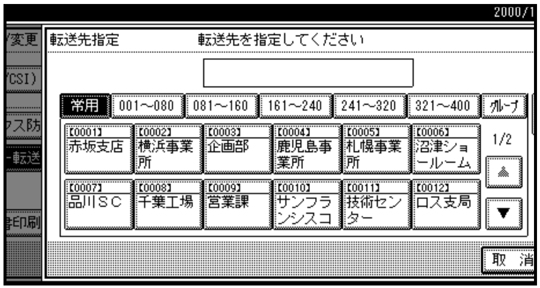
❶ [メモリー転送設定] を押します。

❷ [設定する] または [設定しない] を押します。

[設定しない] を押したときは、手順❹に進みます。



❸ 登録する転送先を押します。



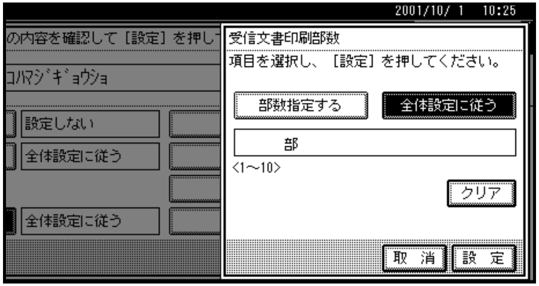
❹ [設定] を押します。

「設定する」を選択したときは「転送先」の右側に転送先の名称が表示されます。

受信文書印刷部数設定をするとき

❶［受信文書印刷部数］を押します。

❷［部数指定する］を押します。



❸ 印刷部数をテンキーで入力します。



補足

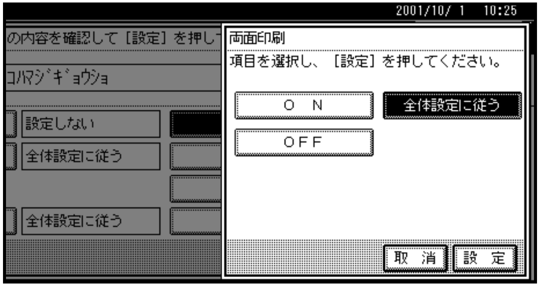
❒ 間違えたときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して、入力し直します。

❹［設定］を押します。

両面印刷設定をするとき

❶［両面印刷］を押します。

❷［ON］または［OFF］を押します。

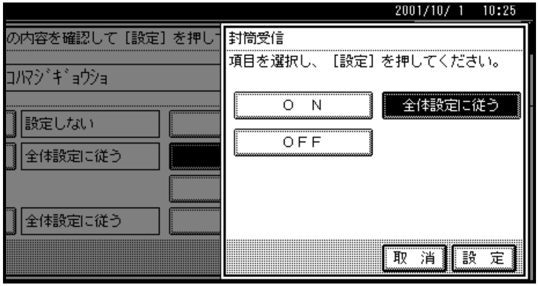


❸［設定］を押します。

封筒受信設定をするとき

❶［封筒受信］を押します。

❷［ON］または［OFF］を押します。

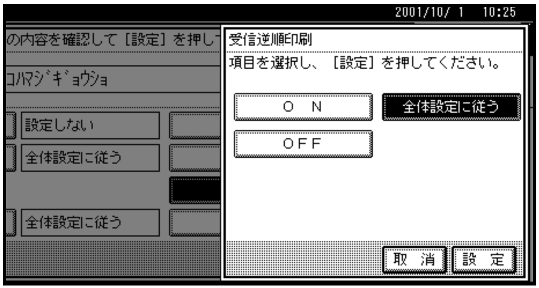


❸［設定］を押します。

受信逆順印刷設定をするとき

❶［受信逆順印刷］を押します。

❷［ON］または［OFF］を押します。



❸［設定］を押します。

給紙トレイ設定をするとき

❶［給紙トレイ選択］を押します。

❷ 給紙するトレイを選択します。

画面はオプション装着時のものです。



補足

❒ 選択できる給紙方法は「トレイ1」「トレイ2」「トレイ3」「トレイ4」「手差しトレイ」「自動選択」です。

❸［設定］を押します。

10 ［設定］を押します。

特定相手先が設定されます。

補足

❒ 続けて登録するときは、手順**5**から操作します。

11 ［閉じる］を押します。

12 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

特定相手先機能設定

特定相手先全体の機能のON/OFFを設定します。また、給紙トレイ選択で手差しトレイを選択したときの用紙サイズを設定します。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



ZFLS110J

2 ［ファクス初期設定］を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［管理者用設定］を押します。



4 ［特定相手先設定］を押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

5 ［機能設定］を押します。



6 設定する機能名を押します。



補足

- ❒「迷惑ファクス防止」は、「受信設定（迷惑ファクス防止設定）」と同じ設定になります。⇒ P.224「受信設定」

迷惑ファクス防止、相手先別受信機能を設定するとき

❶ ［ON］または［OFF］を押して機能を設定します。

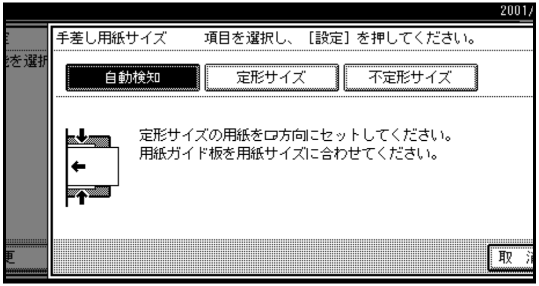
画面は「迷惑ファクス防止設定」を設定しているときを例にしています



❷ ［設定］を押します。

手差し用紙サイズ指定を設定するとき

❶ **設定するサイズを押します。**



補足

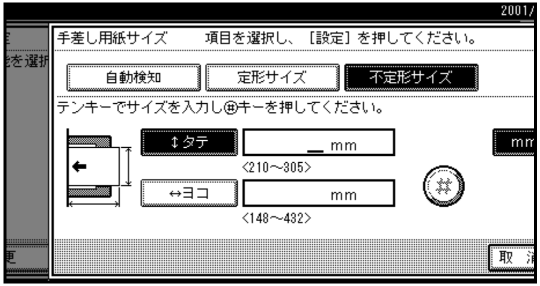
- ［自動検知］を押したときは、手差しトレイにセットした用紙がA4サイズ幅（210mm）のときは「A4□」、B4サイズ幅（257mm）のときは「B4□」、A3サイズ幅（297mm）のときは「A3□」と設定されます。
- ［定形サイズ］を押したときは、表示されたサイズの中から設定するサイズを押して、手順⑦に進みます。
- ［不定形サイズ］を押したときは、手順②に進みます。

❷ **［タテ］が選択されていることを確認します。**

補足

- 「タテ」が選択されていないときは、［タテ］を押します。

❸ **用紙の縦（幅）をテンキーで入力します。**



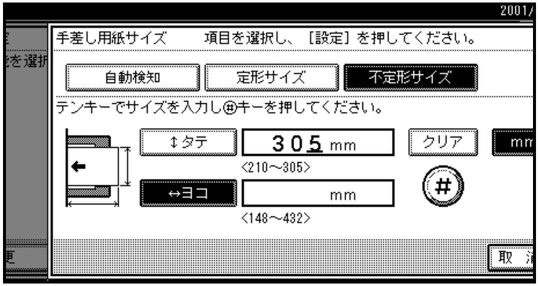
補足

- 縦（幅）の指定は210～305mmまたは8.3～12.0インチまでです。210未満は入力しても設定できません。305より大きい数値は入力できません。
- ［mm］または［inch］を押すと、単位が切り替わります。数値を入力してから［mm］または［inch］を押して切り替えると、その数値を単位に合わせて自動的に計算し表示します。（端数は四捨五入されます。）

❹ **［#］を押します。**

画面に指定したサイズが表示されます。

❺ 横（長さ）をテンキーで入力します。



補足

- 手差し用紙サイズの設定、変更はファクス機能でご利用になる場合とコピー機能でご利用になる場合とでは、設定、変更の方法が異なります。それぞれの機能で実施してください。⇒コピー機能基本編 「手差しコピー」
- 横（長さ）の指定は148〜432mmまたは5.8〜17インチまでです。148未満は入力しても設定できません。432 より大きい数値は入力できません。
- [mm] または [inch] を押すと、単位が切り替わります。数値を入力してから [mm] または [inch] を押して切り替えると、その数値を単位に合わせて自動的に計算し表示します。（端数は四捨五入されます。）

❻ [#] を押します。

画面に指定したサイズが表示されます。

❼ [設定] を押します。

7 [閉じる] を押します。

8 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

特定相手先の消去

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



ZFLS110J

2 [ファクス初期設定] を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 [管理者用設定]を押します。



4 [特定相手先設定]を押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは[▲前へ]または[▼次へ]を押して表示させます。

5 [消去]を押します。



6 消去させる相手先のキーを押します。



7 [消去する]を押します。

選択したキーが「＊未登録」と表示されます。

補足

- ❒ [消去しない]を押すと、相手先を消去しないで手順**6**の画面に戻ります。

8 [閉じる] を押します。

9【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

特定相手先リスト印刷

登録されている特定相手先を確認できます。

1【初期設定/カウンター】キーを押します。



ZFLS110J

2 [ファクス初期設定] を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 [管理者用設定] を押します。



4「特定相手先設定」の右側にある [リスト印刷] を押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは [▲前へ] または [▼次へ] を押して表示させます。
- ❒ 印刷を中止するときは [取消] を押します。手順4の画面に戻ります。

5【スタート】キーを押します。

印刷終了後、手順**4**の画面に戻ります。

補足

❒ 印刷を中止するときは［印刷中止］を押します。
手順**4**の画面に戻ります。

6【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

特定相手先リスト

P.1

＊　＊　＊　特定相手先　リスト　（２００１年１０月　１日　１２時００分）＊　＊　＊

１）青山支店
２）ＡＯＹＡＭＡ ＯＦＦＩＣＥ

全体設定

封筒受信	ON
給紙トレイ	自動選択
印刷部数	1 部
受信逆順印刷	OFF
両面印刷	ON
迷惑ファクス防止設定	ON
メモリー転送	OFF（転送しない）

No.	特定相手先（メモリー転送先）	一致条件	封筒受信	給紙トレイ	印刷部数	受信逆順印刷	両面印刷	迷惑ファクス防止設定
01	アカサカシテン（ワンタッチ0001：青山支店）	部分一致	全体設定	全体設定	1 部	全体設定	全体設定	ON
02	シンジュクシテン（グループ02：関東地区）	部分一致	ON	1	2 部	ON	ON	ON
03	ホッカイドウサッポロシテン（全体設定）	全一致	OFF	2	3 部	OFF	OFF	OFF
04	ナゴヤエイギョウショ（転送しない）	全一致	OFF	自動選択	4 部	OFF	OFF	OFF

ZEXR090J

補足

❒ 両面印刷は、両面ユニット（オプション）を付けているとき記載されます。

F コードボックス設定

ITU-T（国際電気通信連合の通信規格を制定する部門）の国際標準規格に従ったFコードを利用する「親展ボックス」、「掲示板ボックス」、「中継ボックス」を登録／変更／消去します。

❖ Fコードとは
Fコードは、半角の0〜9、#、＊、およびスペースを使い、最大20桁で登録する暗証番号のようなものです。
この機能を利用する場合、Fコードボックス設定でFコードなどを登録しておきます。相手先ではFコード（SUBやSEP）を指定してボックスへ文書を送ったり、ボックスの文書を取り出したりします。

補足

❒ 登録できるFコードボックスの件数は、「親展ボックス」、「掲示板ボックス」、「中継ボックス」の合計で最大150件です。FAX機能拡張キット（オプション）を装着しているときは最大400件まで登録できます。

制限

❒ 同じFコードのボックスは設定できません。

❒ メモリー残量が少なくなったとき、受信や登録ができなくなることがあります。メモリー残量の目安は、オプションの有無によって変わります。

親展ボックスの登録 / 変更

個人単位で利用するFコード親展受信用のボックスを開設します。

参照

「Fコード親展ボックスを使う」⇒ P.66

1つのボックスに登録できる内容は次のとおりです。

- Fコード（登録が必要）
  入力できる文字は、半角で最大20桁、0〜9、#、＊、およびスペースです。ただし、1桁目にスペースを入力することはできません。
- パスワード（登録は任意）
  入力できる文字は、半角で最大20桁、0〜9、#、＊、およびスペースです。ただし、1桁目にスペースを入力することはできません。

  補足

  ❒ パスワードを登録すると、ボックス名称の前にマークが表示されます。
- ボックス名称（登録が必要）
  入力できる文字は、全角で最大10文字、半角で最大20文字です。
- 配信先（登録は任意）
  受信した文書の配信先を1ボックスに1件登録できます。配信先は宛先表に登録した宛先を登録します。

補足

- ❒ 受信した文書を配信した場合は、発信元名称(印字用)は付加されません。⇒ファクス機能 基本編「第3章 こちらの名称とファクス番号を登録する」
- ❒ 配信ができなかった場合には、不達レポートを印刷し、親展受信文書として保存されます。
- ❒ 変更は登録と同じ操作です。ただし、使用中のFコード親展ボックスは変更できません。

参照

「親展ボックスとは」⇒ P.66

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



ZFLS110J

2 [ファクス初期設定] を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 [管理者用設定] を押します。



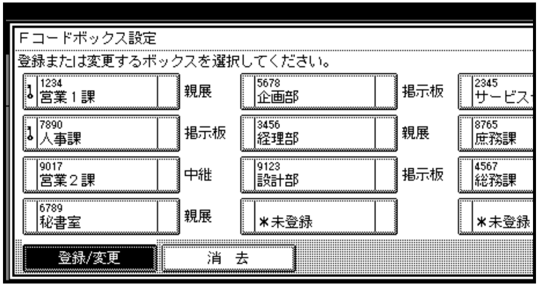
4 [Fコードボックス設定] を押します。



Fコードボックス設定のメニュー画面が表示されます。

5 登録するボックスを押します。

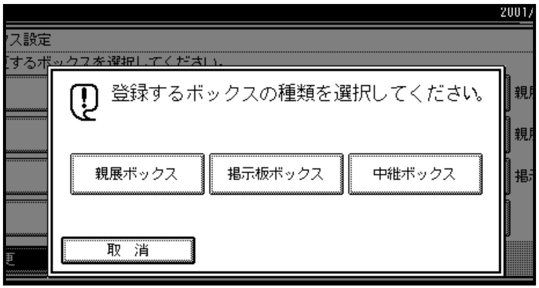
新規に登録するときは「＊未登録」と表示されているキーを押します。



補足

- ❒ すでに登録されている内容を変更するときは、変更するボックスを押して、手順 9 に進みます。
- ❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

6 ［親展ボックス］を押します。



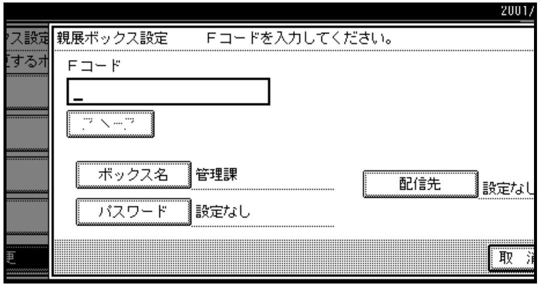
7 ボックスの名称を入力します。

参照

ファクス機能 基本編「第3章 文字の入力のしかた」

8 ［OK］を押します。

9 Fコードを入力します。



補足

- ❒ 変更するときは、［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して、入力し直します。ボックス名称を変更するときは、［ボックス名］を押して、手順7から操作します。
- ❒ 間違えたときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。

10 各種条件を設定します。

パスワードと配信先を設定しないときは、手順 **11** に進みます。

パスワードを登録するとき

❶［パスワード］を押します。

❷ 登録するパスワードを入力します。



補足

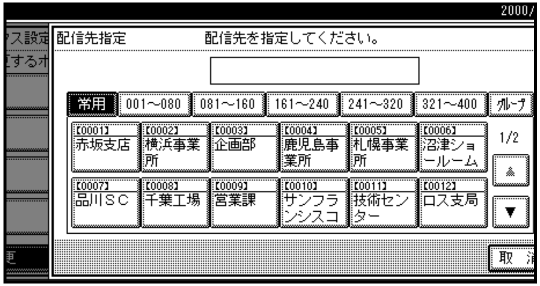
- ❒ 間違えたときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。

❸［設定］を押します。

配信先を登録するとき

❶［配信先］を押します。

❷ 登録する配信先を宛先表から指定します。



補足

- ❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

❸［設定］を押します。

11［設定］を押します。

ボックスの右側にボックスの種類が表示されます。

12［閉じる］を押します。

13【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

親展ボックスの消去

親展ボックスを消去します。

制限

- ❒ 指定した F コードの親展ボックス内に文書が登録されているときは親展ボックスを消去できません。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



ZFLS110J

2 ［ファクス初期設定］を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

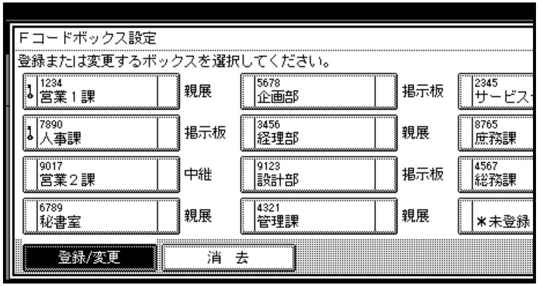
3 ［管理者用設定］を押します。



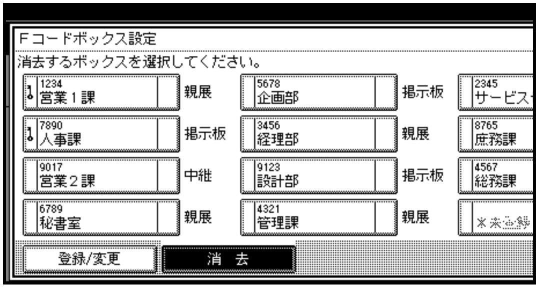
4 ［Fコードボックス設定］を押します。



5 ［消去］を押します。



6 消去する親展ボックスを押します。



補足

❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

❒ パスワードを設定している文書を選択すると、パスワード入力の画面が表示されます。パスワードをテンキーで入力して［実行］を押してください。入力した数値を消すときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押します。文書の選択をやめるときは［取消］を押します。

7 ［消去する］を押します。

選択したキーが「＊未登録」と表示されます。

補足

❒ ［消去しない］を押すと、親展ボックスを消去しないで手順6の画面に戻ります。

8 ［閉じる］を押します。

9 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

掲示板ボックスの登録 / 変更

共有して使用できる掲示板ボックスを開設します。

参照

「Fコード掲示板ボックスを使う」⇒ P.69

1つのボックスに登録できる内容は次のとおりです。

- Fコード（登録が必要）
  入力できる文字は、半角で最大20桁、0〜9、#、＊、およびスペースです。ただし、1桁目にスペースを入力することはできません。
- パスワード（登録は任意）
  入力できる文字は、半角で最大20桁、0〜9、#、＊、およびスペースです。ただし、1桁目にスペースを入力することはできません。

  補足

  ❒ パスワードを登録すると、ボックス名称の前にマークが表示されます。
- ボックス名称（登録が必要）
  入力できる文字は、全角で最大10文字、半角で最大20文字です。

補足

❒ 変更は登録と同じ操作です。変更する項目の操作をしてください。ただし、使用中のFコード掲示板ボックスは変更できません。

参照

「掲示板ボックスとは」⇒ P.69

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



ZFLS110J

2 [ファクス初期設定] を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 [管理者用設定] を押します。

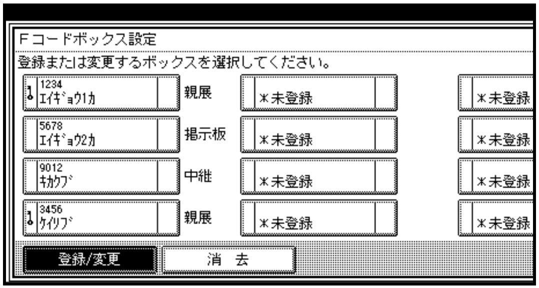


4 [Fコードボックス設定］を押します。



5 登録するボックスを押します。

新規に登録するときは「＊未登録」と表示されているキーを押します。

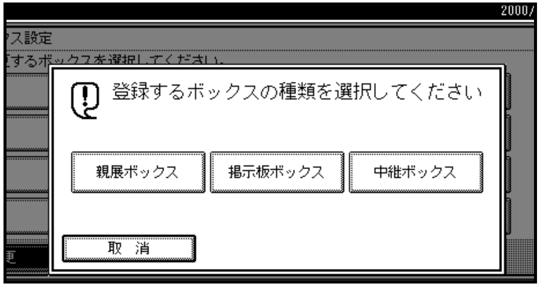


補足

❒ すでに登録されている内容を変更するときは、変更するボックスを押して、手順 **9** に進みます。

❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

6 [掲示板ボックス］を押します。



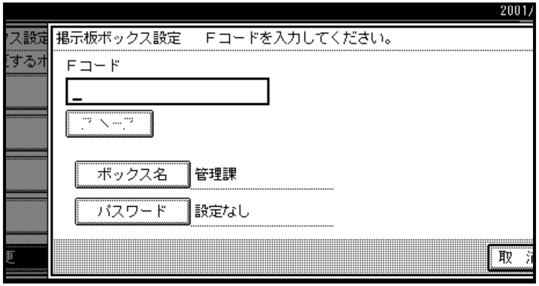
7 ボックスの名称を入力します。

参照

ファクス機能 基本編「第3章 文字の入力のしかた」

8 [OK］を押します。

9 Fコードを入力します。

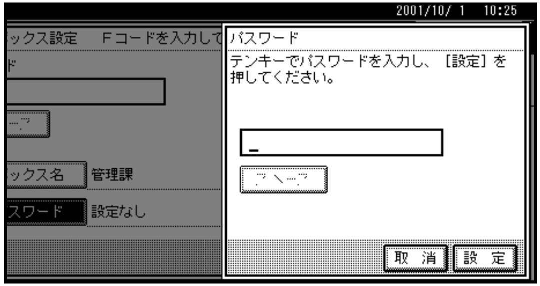


補足

- ❒ 変更するときは、［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。ボックスの名称を変更するときは、［ボックス名］を押して、手順 **7** から操作します。
- ❒ 間違えたときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。

10 ［パスワード］を押します。

パスワードを設定しないときは、手順 **13** に進みます。



11 登録するパスワードを入力します。

補足

- ❒ 間違えたときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。

12 ［設定］を押します。

13 ［設定］を押します。

ボックスの右側にボックスの種類が表示されます。

14 ［閉じる］を押します。

15 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

掲示板ボックスの消去

掲示板ボックスを消去します。

制限

- ❒ 指定した F コードの掲示板ボックスに文書が登録されているときは掲示板ボックスを消去できません。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



ZFLS110J

2 [ファクス初期設定] を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

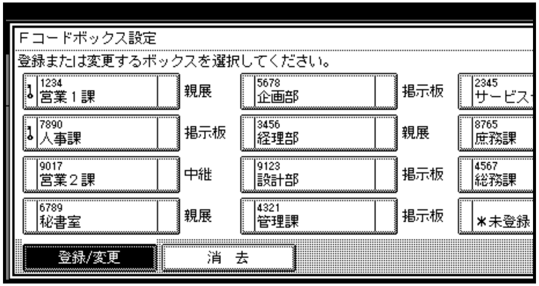
3 [管理者用設定] を押します。



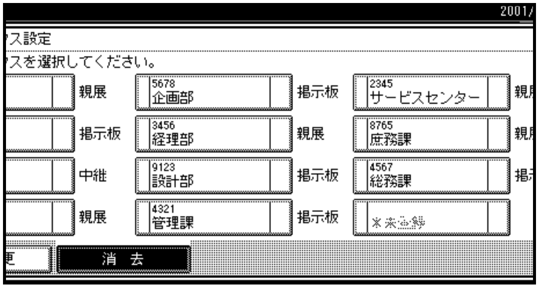
4 [Fコードボックス設定] を押します。



5 ［消去］を押します。



6 消去する掲示板ボックスを押します。



補足

❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

❒ パスワードを設定している文書を選択すると、パスワード入力の画面が表示されます。パスワードをテンキーで入力して［実行］を押してください。入力した数値を消すときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押します。文書の選択をやめるときは［取消］を押します。

7 ［消去する］を押します。

選択したキーが「＊未登録」と表示されます。

補足

❒ ［消去しない］を押すと、掲示板ボックスを消去しないで手順**6**の画面に戻ります。

8 ［閉じる］を押します。

9 【初期設定/カウンター】キーを押します。

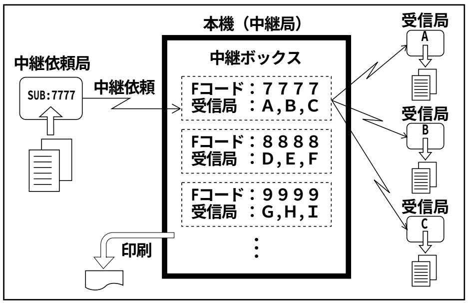
待機中の画面に戻ります。

中継ボックスの登録 / 変更

Fコード中継依頼受信文書を受信局に中継する中継ボックスを開設します。

❖ 中継ボックスとは

本機をFコードを使ったファクス送信の中継局として利用するときに設定します。
中継ボックスに登録した受信局に、中継依頼局から送信されてきた文書を自動的に中継同報送信できます。中継ボックスに受信局を登録しておくだけで、一度の中継依頼で複数の宛先に文書を中継同報送信できるので、遠隔地の複数の宛先に送信するとき、通信料金が節約でき便利です。



GFCYUB0J

- 中継ボックスに登録したFコードを中継依頼局に伝え、Fコードと一致する「Fコード(SUB)」⇒ P.78を付けて文書を送信してもらいます。なお、パスワードを登録したときはパスワードも伝え、「SUB」に加えてパスワードと一致する「Fコード(SID)」⇒ P.80を付けて文書を送信してもらいます。

1つのボックスに登録できる内容は次のとおりです。

- Fコード（登録が必要）
  入力できる文字は、半角で最大20桁、0〜9、#、＊、およびスペースです。ただし、1桁目にスペースを入力することはできません。
- パスワード（登録は任意）
  入力できる文字は、半角で最大20桁、0〜9、#、＊、およびスペースです。ただし、1桁目にスペースを入力することはできません。

補足

❒ パスワードを登録すると、ボックス名称の前にマークが表示されます。

- ボックス名称（登録が必要）
  入力できる文字は、全角で最大10文字、半角で最大20文字です。
- 受信局（登録が必要）
  受信した文書の中継先（受信局）を1ボックスに最大5件登録できます。受信局は宛先登録ずみの宛先表またはグループ宛先で登録します。

制限

❒ 中継依頼局に中継結果レポートを返送しません。

補足

- ❒ 受信した文書は中継したあと、消去されます。
- ❒ 中継依頼送信ができなかったときは、受信した文書を印刷します。
- ❒ 受信した文書を本機で印刷するように設定しているときは、中継処理のあとに中継結果レポートと受信文書を印刷します。工場出荷時は「印刷する」に設定されています。印刷しないように設定する場合は、最寄りのサービス実施店に連絡してください。
- ❒ 登録した受信局が多段中継用グループ宛先のときは、多段中継送信になります。詳しくはサービス実施店にお問い合わせください。⇒ P.149 「多段中継」
- ❒ 変更は登録と同じ操作です。変更する項目の操作をしてください。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



ZFLS110J

2 ［ファクス初期設定］を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［管理者用設定］を押します。

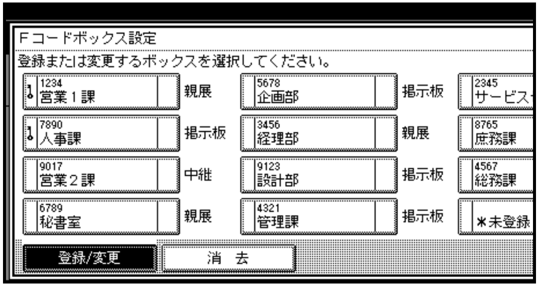


4 ［Fコードボックス設定］を押します。



5 登録するボックスを押します。

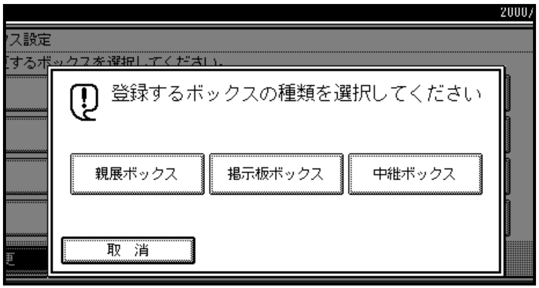
新規に登録するときは「＊未登録」と表示されているキーを押します。



補足

- ❒ すでに登録されている内容を変更するときは、変更するボックスを押して、手順 **9** に進みます。
- ❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

6 ［中継ボックス］を押します。



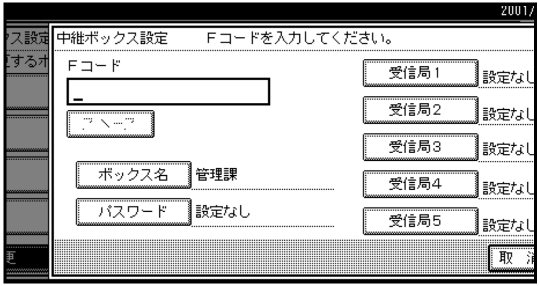
7 ボックスの名称を入力します。

参照

ファクス機能 基本編「第3章 文字の入力のしかた」

8 ［OK］を押します。

9 Fコードを入力します。



補足

- ❒ 変更するときは、［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。ボックスの名称を変更するときは、［ボックス名］を押して、手順**7**から操作します。
- ❒ 間違えたときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。

10 各種条件を設定します。

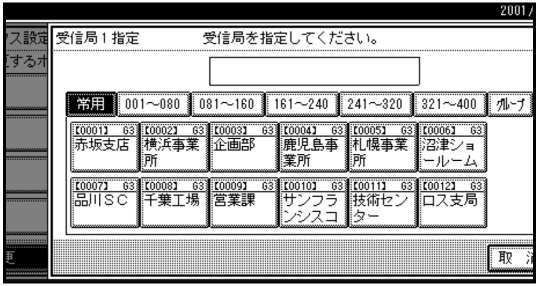
受信局を登録するとき

❶ 登録する受信局を押します。

補足

❒ 登録できる受信局は5件です。

❷ 登録する受信局を宛先表から指定します。



補足

❒ 受信局はグループ宛先も登録することができます。

❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

❸ ［設定］を押します。

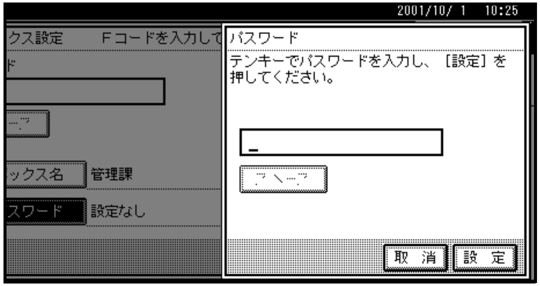
続けて別の受信局を登録するときは、手順❶から操作します。

パスワードを登録するとき

パスワードを登録しないときは、手順**11**に進みます。

❶ ［パスワード］を押します。

❷ 登録するパスワードを入力します。



補足

❒ 間違えたときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。

❸ ［設定］を押します。

11 ［設定］を押します。

ボックスの右側にボックスの種類が表示されます。

12 ［閉じる］を押します。

13 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

中継ボックスの消去

中継ボックスを消去します。

制限

- ❒ 指定したFコードの中継ボックス内に文書が登録されているときは消去できません。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



ZFLS110J

2 [ファクス初期設定]を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

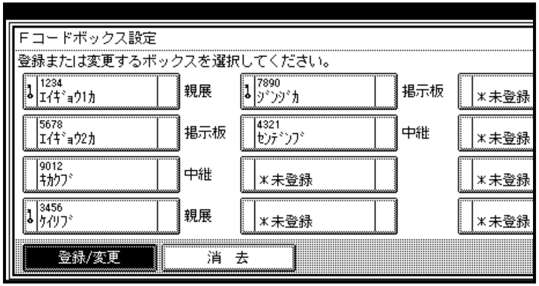
3 [管理者用設定]を押します。



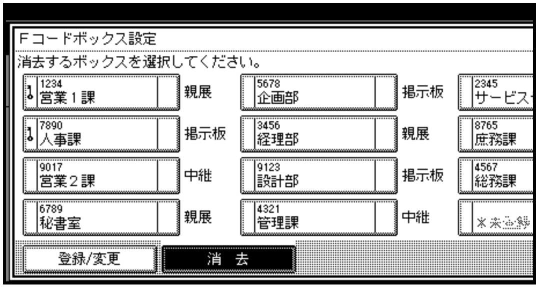
4 [Fコードボックス設定]を押します。



5 [消去] を押します。



6 消去する中継ボックスを押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは [▲前へ] または [▼次へ] を押して表示させます。
- ❒ パスワードを設定している文書を選択すると、パスワード入力の画面が表示されます。パスワードをテンキーで入力して [実行] を押してください。入力した数値を消すときは [クリア] または【クリア/ストップ】キーを押します。文書の選択をやめるときは [取消] を押します。

7 [消去する] を押します。

選択したキーが「＊未登録」と表示されます。

補足

- ❒ [消去しない] を押すと、中継ボックスを消去しないで手順6の画面に戻ります。

8 [閉じる] を押します。

9【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

F コードボックスリスト印刷

本機に設定されている親展ボックス、掲示板ボックス、中継ボックスの一覧をリストにして印刷します。

印刷する手順は次のとおりです。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。

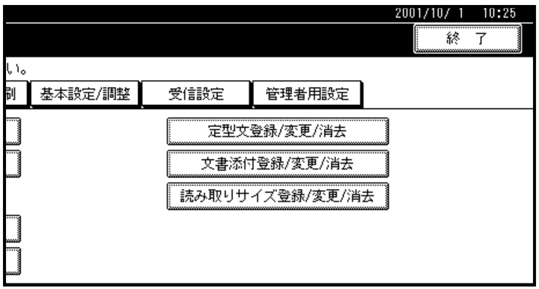


ZFLS110J

2 [ファクス初期設定] を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 [管理者用設定] を押します。



4 [Fコードボックス設定] の右側にある [リスト印刷] を押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは [▲前へ] または [▼次へ] を押して表示させます。

5 【スタート】キーを押します。

印刷終了後、手順4の画面に戻ります。

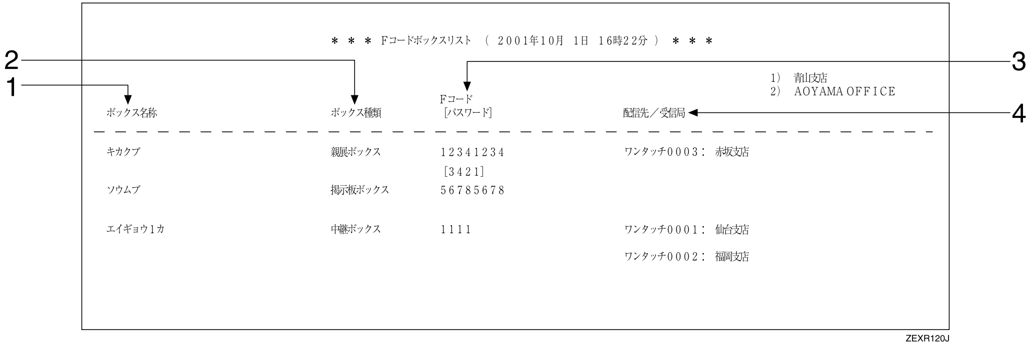
補足

- ❒ 【スタート】キーを押す前に、印刷を中止するときは [取消] を押します。手順4の画面に戻ります。
- ❒ 【スタート】キーを押したあとに、印刷を中止するときは [印刷中止] を押します。手順4の画面に戻ります。

6 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

F コードボックスリスト



1. **ボックス名称**

親展ボックス、掲示板ボックス、中継ボックスに付けられている名称が記載されます。

2. **ボックス種類**

「親展ボックス」「掲示板ボックス」「中継ボックス」のいずれかが記載されます。

3. **Fコード［パスワード］**

登録した各種ボックスに付けられた F コードが記載されます。パスワードが登録されている場合は、［　］内にパスワードが記載されます。

4. **配信先/受信局**

親展ボックスに登録されている配信先と中継ボックスに登録されている受信局が記載されます。宛先表に登録されている宛先は「ワンタッチ」と表示されます。

中継結果レポート設定

接続した電話回線のファクス番号を中継依頼送信をするときに使用する中継自局番号として登録します。

中継依頼送信のとき発信元（こちら側）のファクスは自分のファクス番号（中継自局番号）を中継局に知らせて、受信局への送信の結果を返送してもらいます。

ファクス番号（中継自局番号）は、各回線ごとに登録できます。登録できる回線はG3（外線）、G4（オプション）です。

制限

- ❒ 回線使用中（通信中）の登録／変更はできません。通信が終了してから行ってください。

補足

- ❒ ファクス番号（中継自局番号）を登録していないと中継依頼送信はできません。
- ❒ 通常、G3外線のファクス番号は「KDDIアクセス番号001」、「日本の国番号81」、「0を除いた市外局番」、「－（ポーズ）」、「ファクス番号」の順で登録します。登録できる桁数は最大16桁です。
- ❒ 通常、G4（オプション）のファクス番号は「KDDIアクセス番号001」、「日本の国番号81」、「0を除いた市外局番」、「－（ポーズ）」、「ファクス番号」の順で登録します。登録できる桁数は最大29桁です。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。

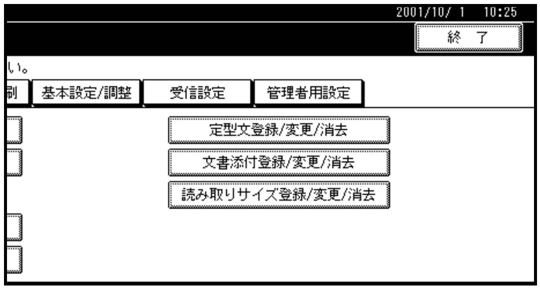


ZFLS110J

2 ［ファクス初期設定］を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［管理者用設定］を押します。



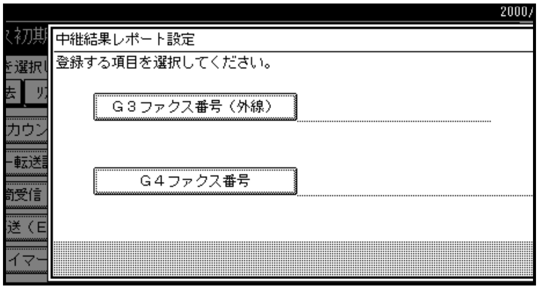
4 ［中継結果レポート設定］を押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

5 回線ごとに登録する番号を設定します。



「G3ファクス番号（外線）」の設定をするとき

❶ ［G3ファクス番号（外線）］を押します。

❷ 自局のファクス番号をテンキーで入力します。



❸ ［設定］を押します。

「G4ファクス番号」の設定をするとき

この機能を使用するには、G4ユニット（オプション）が必要です。

❶ ［G4ファクス番号］を押します。

❷ 自局のファクス番号をテンキーで入力します。



❸ ［設定］を押します。

6 ［閉じる］を押します。

7 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

親展 ID 登録

親展IDを登録します。

「通常親展送信」で送信された原稿を印刷するとき入力するIDを登録します。⇒ P.16 「親展送信」

制限

❒ 親展IDを登録しておかないと、相手先が親展送信してきても受信できません。

補足

❒ 0～9を使った4桁の数字を登録します。ただし、0000は登録できません。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



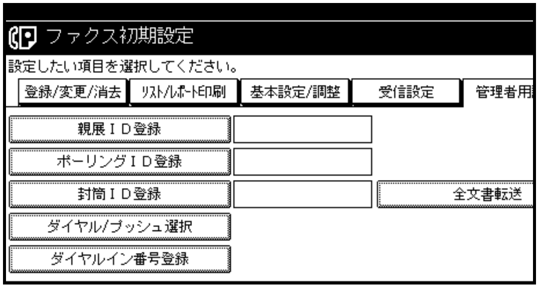
2 ［ファクス初期設定］を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 [管理者用設定] を押します。



4 [親展ID登録] を押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは [▲前へ] または [▼次へ] を押して表示させます。

5 IDをテンキーで入力します。



補足

- ❒ 間違えたときは [クリア] または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。

6 [設定] を押します。

補足

- ❒ [取消] を押すと、入力したIDを取り消して手順4の画面に戻ります。

7 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

ポーリング ID 登録

IDポーリング送／受信、ID送信、中継依頼送信のときに必要です。ID送信を使用するときは、通信する相手先と同じポーリングIDを登録します。

参照

「ポーリング送信」⇒ P.19
「ポーリング受信」⇒ P.24
「オプション設定のしかた」⇒ P.119
「中継依頼送信」⇒ P.83

補足

❒ 0〜9とA〜Fを使った4桁を登録します。ただし、0000とFFFFは登録できません。中継依頼送信、中継局機能、ID送信を使用するときは、通信する相手先のファクスに登録されているIDコードと同じIDコードを登録します。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



ZFLS110J

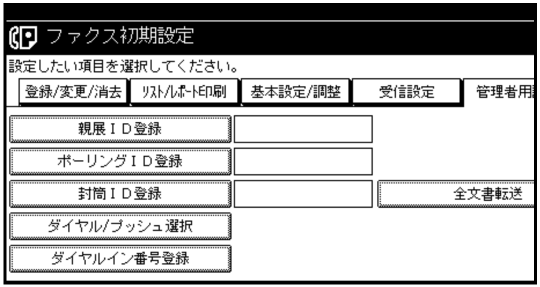
2 [ファクス初期設定] を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 [管理者用設定] を押します。



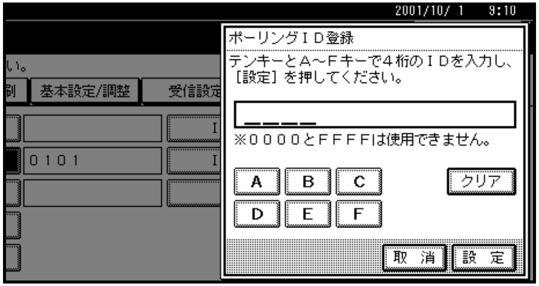
4 [ポーリングID登録] を押します。



補足

❒ 表示されていないときは [▲前へ] または [▼次へ] を押して表示させます。

5 IDをテンキーと［A］～［F］で入力します。



補足

- 間違えたときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。

6［設定］を押します。

補足

- ［取消］を押すと、入力したIDを取り消して手順**4**の画面に戻ります。

7【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

封筒 ID 登録

封筒受信した原稿を印刷するときに入力するIDを登録します。

「封筒受信」⇒ P.238、「相手先別封筒受信（封筒受信機能）」⇒ P.261を設定するときに、あらかじめ登録しておきます。

参照

「封筒受信印刷」⇒ P.64

補足

- 0～9を使った4桁の数字を登録します。ただし、0000は登録できません。

1【初期設定/カウンター】キーを押します。



ZFLS110J

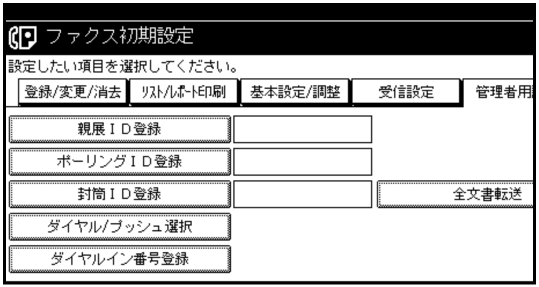
2［ファクス初期設定］を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［管理者用設定］を押します。



4 ［封筒ID登録］を押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

5 IDをテンキーで入力します。



補足

- ❒ 間違えたときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。

6 ［設定］を押します。

補足

- ❒ ［取消］を押すと、入力したIDを取り消して手順**4**の画面に戻ります。

7 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

ダイヤル / プッシュ選択

G3 アナログ回線と接続しているときに接続した電話回線の種別を設定します。

接続した電話回線の種別を設定します。電話回線にはプッシュ回線とダイヤル回線があります。またダイヤル回線には10PPSと20PPSの2種類があります。

工場出荷時は「プッシュ」に設定されています。

制限

- ❒ ISDN回線だけ接続しているときは機能しません。

補足

- ❒ 増設G3ユニット（オプション）を装着しているときは、「G3-2用」が表示されます。
- ❒ NTT の回線を利用していて回線の種類がわからないときは、NTTにお問い合わせください。正しく設定しないと、受信はできますが、送信されないことがあります。
- ❒ 回線の種類が分からないときは、「プッシュ」に設定して177（天気予報）などにオンフックでダイヤルしてみます。正しくつながったときはプッシュ回線です。つながらなかったときは「ダイヤル（20PPS）」に設定して、同じようにオンフックでダイヤルしてみます。正しくつながったときは20PPS、つながらなかったときは10PPSです。
- ❒ 一度設定した内容を変更するときは、登録したときと同じ操作で設定し直します。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。

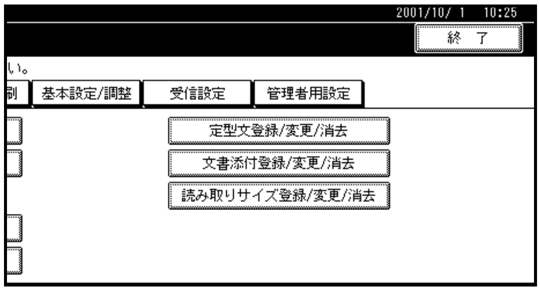


ZFLS110J

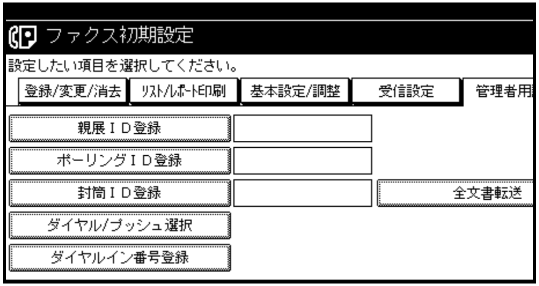
2 ［ファクス初期設定］を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［管理者用設定］を押します。



4 ［ダイヤル/プッシュ選択］を押します。

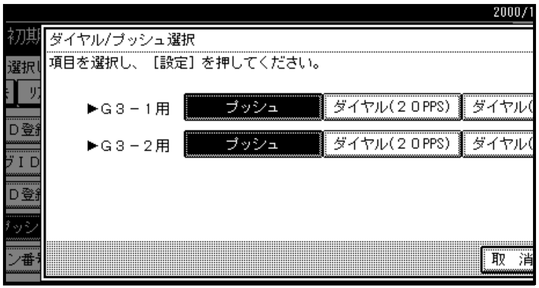


補足

- 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

5 ［プッシュ］、［ダイヤル（20PPS）］または［ダイヤル（10PPS）］を押して、回線種別を選択します。

画面は増設G3ユニット（オプション）を装着しているときの例です。



参照

「電話回線の種別を設定する」⇒ P.342

6 ［設定］を押します。

7 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

ダイヤルイン番号登録

ダイヤルイン機能を使う場合に、電話用として使用する番号を登録します。登録していない番号はファクス用として使用されます。⇒ P.145「ダイヤルイン機能」

操作の前に

ダイヤルイン機能を使用するときには「パラメーター設定」でダイヤルイン機能を「使う」に設定します。工場出荷値は「使わない」に設定されています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ25 ビット3）

重要

- ダイヤルイン機能を使用するには、お客様と NTT とのダイヤルイン契約（有料）が必要です。

制限

- ISDN回線だけ接続しているときは機能しません。
- 増設G3回線（オプション）のとき、この機能は使えません。

補足

- ❒ 登録するのは、NTTとダイヤルイン契約をしたときにNTTからもらう電話用の番号（下4桁）です。
- ❒ ダイヤルイン機能を使う場合に、電話用として使用する番号を登録します。登録していない番号はファクス用として使用されます。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



ZFLS110J

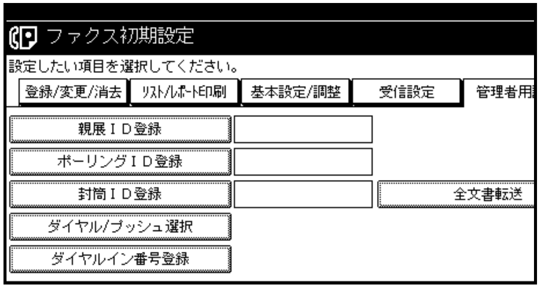
2 ［ファクス初期設定］を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［管理者用設定］を押します。



4 ［ダイヤルイン番号登録］を押します。



5 ダイヤルイン番号をテンキーで入力します。



補足

❒ 間違えたときは、[クリア] または【クリア/ストップ】キーを押して、入力し直します。

6 [設定] を押します。

7【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

ISDN-G3 回線登録

この機能を利用するためには G4 ユニット（オプション）が必要です。

ISDNを使ってG3規格で送信する場合に使用する設定です。

ISDNでG3回線を使って送信したときは、I-G3ファクス番号が、こちら側の発信元ファクス番号として相手先のディスプレイに表示されたり、レポートに印字されたりします。

登録できる内容は次のとおりです。

- 加入番号1
- 加入番号2
- サブアドレス⇒ P.87 「サブアドレス」

補足

❒ 加入番号 1 には、本機のファクス番号を入力します。加入番号2には、1本の回線で2つの番号を使用しているときに、2つめの番号を入力します。

❒ 加入番号1は必ず登録してください。

❒ サブアドレスは、1つの回線に複数の端末（ファクスやデジタル電話など）を接続したときに、それぞれを識別するために付ける番号です。相手先がこのサブアドレスを指定すると本機が受信します。

❒ 入力できるサブアドレスは4桁までの数字です。

❒ 入力できる文字数は0〜9999です。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



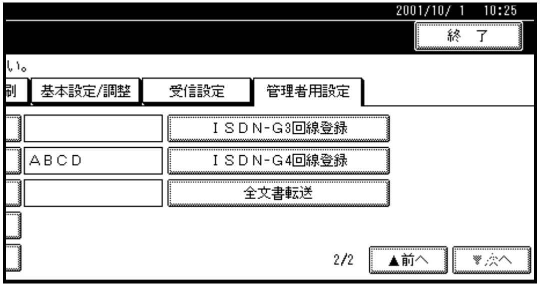
2 [ファクス初期設定] を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 [管理者用設定] を押します。



4 [ISDN-G3回線登録] を押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは [▲前へ] または [▼次へ] を押して表示させます。

5 登録する項目を押します。



「加入番号1」「加入番号2」の設定をするとき

❶ ［加入番号1］または［加入番号2］を押します。

❷ 自局のファクス番号をテンキーで入力します。

加入番号1を登録するとき



❸ ［設定］を押します。

「サブアドレス」の設定をするとき

❶ ［サブアドレス］を押します。

❷ サブアドレスを入力します。



❸ ［設定］を押します。

6 ［閉じる］を押します。

7 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

ISDN-G4 回線登録

この機能を利用するためにはG4ユニット（オプション）が必要です。

ISDNを使ってG4規格で送信する場合に使用する設定です。

登録できる内容は次のとおりです。

- 加入番号1
- 加入番号2
- サブアドレス⇒ P.87 「サブアドレス」

補足

- ❒ 加入番号1には、本機のファクス番号を入力します。加入番号2には、1本の回線で2つの番号を使用しているときに、2つめの番号を入力します。
- ❒ 加入番号1は必ず登録してください。
- ❒ サブアドレスは、1つの回線に複数の端末（ファクスやデジタル電話など）を接続したときに、それぞれを識別するために付ける番号です。相手先がこのサブアドレスを指定すると本機が受信します。
- ❒ 入力できるサブアドレスは4桁までの数字です。
- ❒ 入力できる文字数は0～9999です。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



ZFLS110J

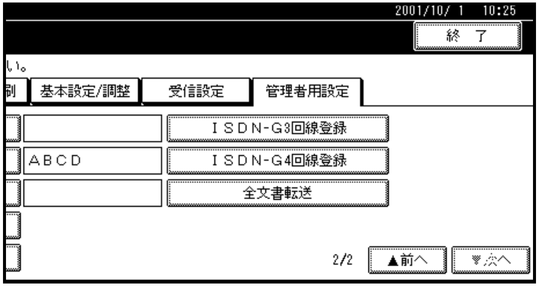
2 ［ファクス初期設定］を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［管理者用設定］を押します。



4 [ISDN-G4回線登録] を押します。



補足

- ❒ 表示されていないときは [▲前へ] または [▼次へ] を押して表示させます。

5 登録する項目を押します。



「加入番号1」「加入番号2」の設定をするとき

❶ [加入番号1] または [加入番号2] を押します。

❷ 自局のファクス番号をテンキーで入力します。

加入番号1を登録するとき



❸ [設定] を押します。

「サブアドレス」の設定をするとき

❶ [サブアドレス] を押します。

❷ サブアドレスを入力します。



❸ [設定] を押します。

6 [閉じる] を押します。

7 【初期設定/カウンター】キーを押します。

待機中の画面に戻ります。

全文書転送

「トナーがない」「用紙がない」「印刷機能が故障している」など本機が印刷できない状態のとき、ファクスのメモリーに蓄積されている文書を他のファクスに転送して印刷させることができます。封筒受信した文書を含め、メモリーに蓄積されている文書はすべて転送されます。緊急のときのみお使いください。

補足

- ❒ 文書は転送したあとも消去されず、本機に蓄積されています。
- ❒ ファクスのメモリーに蓄積されている文書はすべて転送されます。親展受信や封筒受信した文書および文書添付の原稿も印刷されます。
- ❒ Fコード(SUB)、パスワード(SID)、サブアドレス、UUIの付いた転送先を設定することもできます。必要な項目だけ登録してください。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。



ZFLS110J

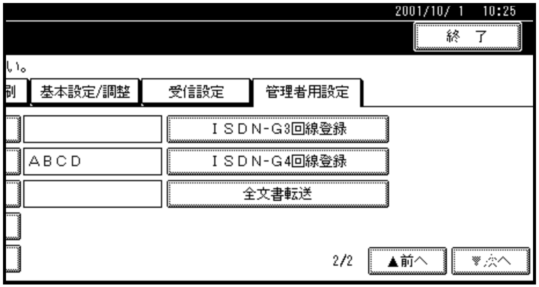
2 ［ファクス初期設定］を押します。

ファクス初期設定のメニュー画面が表示されます。

3 ［管理者用設定］を押します。



4 ［全文書転送］を押します。

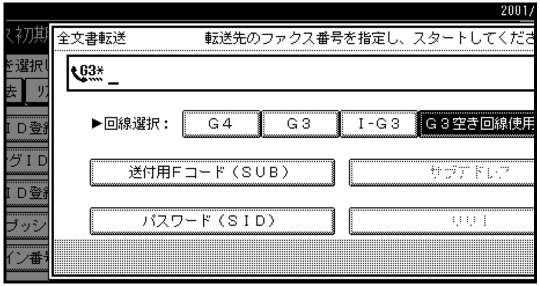


補足

- ❒ 表示されていないときは［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示させます。

- ❒ 装着しているオプションにより画面は異なります。画面はG4ユニット（オプション）を装着しているときの例です。

5 転送先のファクス番号をテンキーで入力します。



補足

- ❒ 間違えたときは［クリア］または【クリア/ストップ】キーを押して入力し直します。
- ❒ ［取消］を押すと、転送しないで手順**4**の画面に戻ります。

回線を選択するとき

この機能を使用するときは増設G3ユニット（オプション）またはG4ユニット（オプション）が必要です。

❶「回線選択」の右側に表示された回線から、使用する回線を押して選択します。

Fコードを設定するとき

❶ ［送付用Fコード(SUB)］を押します。

❷ Fコードをテンキーで入力します。

❸ ［OK］を押します。

パスワードを設定するとき

❶ ［パスワード(SID)］を押します。

❷ パスワードをテンキーで入力します。

❸ ［OK］を押します。

サブアドレスを設定するとき

この機能を使用するときはG4ユニット（オプション）が必要です。

❶ ［サブアドレス］を押します。

❷ サブアドレスをテンキーで入力します。

❸ ［OK］を押します。

UUIを設定するとき

この機能を使用するときはG4ユニット（オプション）が必要です。

❶ ［UUI］を押します。

❷ UUIをテンキーで入力します。

❸ ［OK］を押します。

6 【スタート】キーを押します。

転送先への送信が始まります。

送信終了後、手順4の画面に戻ります。

7 【初期設定/カウンター】キーを押します。

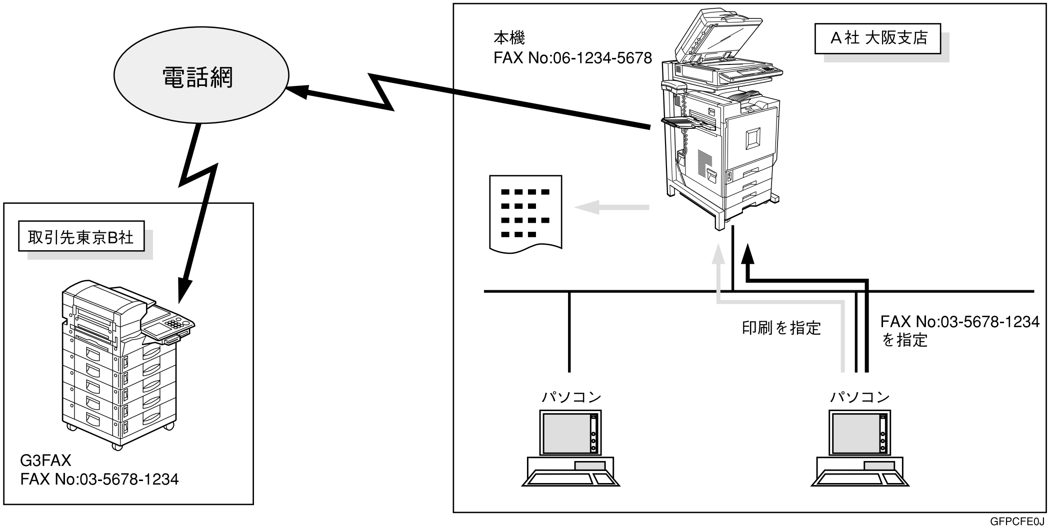
待機中の画面に戻ります。

パソコンからファクスを送信する

Windowsのアプリケーションで作成した文書を、パラレルポート、またはLANで接続された本機から電話回線を使って他のファクスに送信することができます。

操作はWindowsのアプリケーションから文書を印刷する操作を行い、印刷先のプリンタとしてPC FAXドライバーを選択し、ファクスの相手先を指定するだけです。

また、ファクス送信する原稿を印刷して、相手先が受信するイメージを確認することができます。



この機能を使うには、お使いのパソコンにPC FAXドライバーをイントスールする必要があります。PC FAXドライバーはスキャナーユニットに付属のCD-ROMに収録されているものをお使いください。

またネットワーク上でお使いになるときは、ネットワーク環境を設定する必要があります。

参照

ネットワーク環境の設定⇒システム設定編2スキャナーユニット　タイプ8100対応版

重要

- ❒ 本機にエラーが発生しても、PC FAXドライバー側ではエラーが表示されません。

ソフトウェアをインストールする

パソコンからファクス機能を使うためのソフトウェアをインストールします。

❖ ファイル格納場所

CD-ROM内の次のフォルダに格納されています。

- Windows 95/98/Me用PC FAXドライバー

  `\DRIVERS\PCFAX\Win95`

- Windows NT 4.0、Windows 2000用PC FAXドライバー

  `\DRIVERS\PCFAX\Winnt40`

- あて先表編集ツール

  `\UTILITY\ADDRESS`

❖ 動作環境

- **コンピュータ本体**
  対象OSが問題なく動作するPC/AT互換機、NEC PC-9800シリーズ、PC-9821シリーズ、PC98-NXシリーズ
- **対象OS**
  Microsoft Windows 95/98/Me 日本語版
  Microsoft Windows 2000 日本語版
  Microsoft Windows NT 4.0 日本語版
- **CPU**
  i486DX4 100MHz以上
  Pentium 133MHz以上 (Windows 2000)

- **内蔵メモリー**
  16Mバイト以上
  32Mバイト以上 (Windows2000)
- **ディスプレイ**
  VGA 640×480ドット、256 色以上
- **ネットワークプロトコル**
  TCP/IP

制限

- ❒ パソコン環境によっては、すべての動作を保証するものではありません。
- ❒ Windows NTで使用する場合、RISCベースのプロセッサ（MIPS Rシリーズ、Alpha AXP、PowerPC）環境では動作しません。

補足

- ❒ Windows 2000またはWindows NT 4.0でインストールするときは、Administratorグループのメンバーとしてログオンしてください。
- ❒ 表示される画面は、Windowsのシステムバージョン、お使いのパソコンの環境により異なる場合があります。

PC FAX ドライバーをインストールする

操作の前に

プリンタードライバーとRidoc IO Naviをあらかじめインストールしておいてください。⇒プリンタークライアント編1

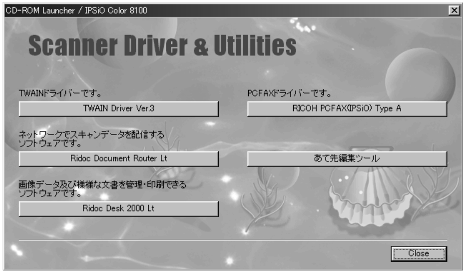
1 **Windowsが起動していることを確認し、スキャナーユニットに付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットします。**

インストーラーが起動します。

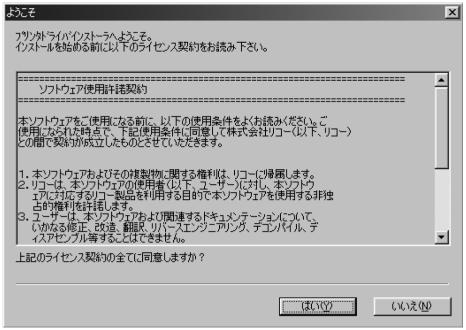
補足

❒ インストーラーが自動的に起動しないときは、スキャナー機能編「オートランプログラムについて」を参照してください。

2 **［RICOH PCFAX(IPSiO) Type A］をクリックします。**



3 PC FAXドライバーのライセンス契約が表示されます。すべての項目をお読みください。ライセンス契約に同意する場合は、［はい］をクリックします。



4 「RICOH PCFAX(IPSiO) Type A」をクリックして反転表示させ、［次へ］をクリックします。



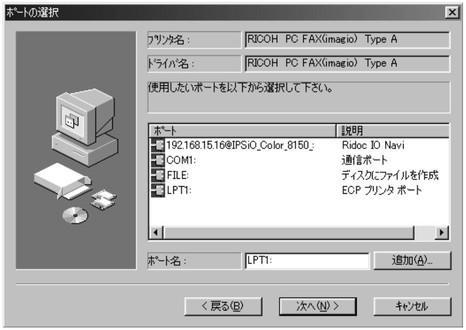
補足

- ❒ 名称を変更するときは、「プリンタ名」ボックスで修正します。

5 ポートを選択します。

LANで接続しているとき

❶「IPSiO Color 8150」をクリックして反転表示させ、[次へ] をクリックします。



パラレルポートで接続しているとき

❶「LPT1」をクリックして反転表示させ、[次へ] をクリックします。



6 **インストール条件を確認し、［完了］をクリックします。**

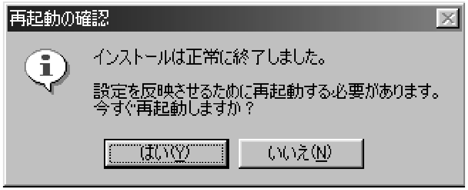


インストールが開始されます。

補足

- ❒ **インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」というメッセージが表示されることがあります。そのときは［はい］をクリックしてインストールを続行してください。**

7 **インストール終了のメッセージが表示されます。［はい］をクリックし、Windowsを再起動します。**



あて先表編集ツールをインストールする

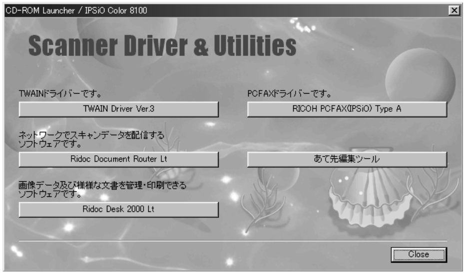
1 Windowsが起動していることを確認し、スキャナーユニットに付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

インストーラーが起動します。

補足

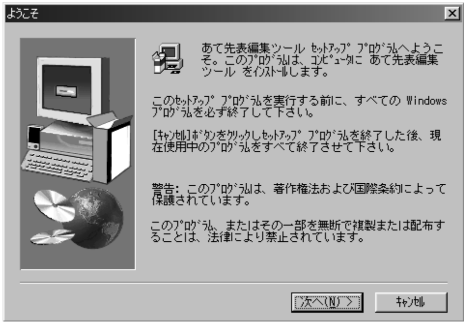
❒ インストーラーが自動的に起動しないときは、スキャナー機能編「オートランプログラムについて」を参照してください。

2 ［あて先表編集ツール］をクリックします。



あて先表編集ツールセットアッププログラムが起動します。

3 [次へ]をクリックします。



インストールが開始されます。

補足

- ❒ インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」というメッセージが表示されることがあります。そのときは[はい]をクリックしてインストールを続行してください。

インストールが終了すると、手順**2**の画面に戻ります。

4 [Close]をクリックし、CD-ROMを取り出します。

PC FAX ドライバーのプロパティを設定する

本機に装着されているオプション構成を正しく設定します。正しく設定していないときは、オプション機能が選択できません。

また送信する原稿のサイズと画質に関する設定もできます。

補足

- ❒ Windows NT4.0、Windows 2000をお使いのときは、Administratorsグループのメンバーとしてログオンしてください。

1 タスクバーの［スタート］→［設定］→［プリンタ］の順にクリックします。

2 「RICOH PC FAX（IPSiO）Type A」を選択して反転表示させ、［ファイル］メニューから［プロパティ］を選択します。

「RICOH PC FAX（IPSiO）Type Aのプロパティ」のダイアログが表示されます。

3 ［用紙］タブをクリックします。



4 ［オプション構成］をクリックします。

Windows 95/98のとき



Windows NT/Windows 2000のとき



5 本機に装着しているオプションをチェックします。



制限

- ❒ オプションの拡張HDD（40GB）を装着している場合は、必ず「増設ハードディスク」に✓印を付けてください。それ以外の場合は✓印を付けないでください。
- ❒ 本機に装着されるオプションで、選択できる回線の種類は「G3–1」「G3–2」「G4」です。「G3–3」に✓印は付けないでください。

6 [OK] をクリックします。

オプション構成が設定されました。

7 [OK] をクリックします。

パソコンから送信する

送信の基本操作

パソコンのアプリケーションで作成した文書をファクス送信します。

送信する文書をアプリケーションで開くか作成しておき、次の操作を行います。

1 [ファイル] メニューから [印刷] を選択します。

2 プリンタの名前で「RICOH PC FAX（IPSiO） Type A」を選択し［OK］をクリックします。

［PC FAX］のダイアログが表示されます。

補足

- ❒ アプリケーションにより設定方法が多少異なることもあります。各アプリケーションの設定方法に従い、プリンタを「RICOH PC FAX（IPSiO）Type A」に設定してください。

3 相手先を指定します。



補足

- ❒ 本機に宛先表を登録しているときは、【#】と登録No.をテンキーで入力します。
- ❒ 本機にグループ宛先を登録しているときは、【#】【✱】【✱】と登録No.をテンキーで入力します。

また、次の方法で、相手先を指定することもできます。詳しくはヘルプをご覧ください。

- あて先表を使って相手先を指定する
- ファクス番号を入力して相手先を指定する

補足

- ❒ 使用する回線を選択するときは、[回線選択] の [▼] を押して、リストボックスを表示させ、選択します。
- ❒ あて先表から相手先を選択するには、あらかじめあて先表編集ツールであて先表に相手先を登録しておく必要があります。⇒ P.324「あて先表を編集する」

4 必要に応じてオプションなどを指定します。

指定しないときは、手順**5**に進みます。

5 ［送信］をクリックします。

補足

❒ ［送信＆印刷］をクリックすると、相手先へのファクス送信と本機からの印刷を行います。

送付状を付けて送信する

［送付状を添付する］のチェックボックスをクリックして✓印を付けると、送信文書の先頭に送付状が添付されます。

補足

❒ ［送付状編集］をクリックすると送付状の内容を編集できます。詳しくはヘルプをご覧ください。

オプションを指定する

オプションの指定で次の設定ができます。

- 時刻指定送信⇒ P.10 「時刻指定送信」
- ユーザーコード⇒ファクス機能　基本編「第1章 ユーザーコード利用制限」
- 発信元名称印字⇒ P.219 「発信元名称印字を設定するとき」

① ［オプション］をクリックします。

② オプションを指定します。



補足

❒ 本機でユーザーコード利用制限を設定しているときは、本機に登録しているユーザーコードを入力します。ユーザーコードの登録はシステム設定編2 スキャナーユニット　タイプ8100対応版をご覧ください。⇒システム設定編2スキャナーユニット　タイプ8100対応版「ユーザーコードについて」

❒ 「オプション構成」で「増設ハードディスク」に✓印を付けていないときは、文書蓄積は選択できません。

❒ 詳しい設定についてはヘルプをご覧ください。

③ ［OK］をクリックします。

印刷機能

送信する原稿を印刷します。相手先が受信するイメージを確認することができて便利です。

印刷する文書をアプリケーションで開くか作成しておき、次の操作を行います。

補足

- ❒ トナー切れなどで印刷できなかった原稿を再印刷するかどうか「パラメーター設定」で選択できます。ただし、再印刷するまでの間、PC FAXドライバーから送信できないときがあります。工場出荷時は「印刷しない」になっています。⇒ P.244「パラメーター設定」（スイッチ20 ビット1）
- ❒ 印刷できなかった原稿を再印刷するまでの時間を「パラメーター設定」で設定できます。工場出荷時は「5分」になっています。⇒ P.244「パラメーター設定」（スイッチ20　ビット2,3,4,5）

1 [ファイル] メニューから [印刷] を選択します。

2 プリンタの名前で「RICOH PC FAX（IPSiO）Type A」を選択し［OK］をクリックします。

［PC FAX］のダイアログが表示されます。

補足

- ❒ アプリケーションにより設定方法が多少異なることもあります。各アプリケーションの設定方法に従い、プリンタを「RICOH PC FAX（IPSiO）Type A」に設定してください。

3 ［印刷］をクリックします。



あて先表を編集する

あて先表編集ツールを使って、あて先表に相手先の登録や編集を行うことができます。

補足

- ❒ 詳しくはヘルプをご覧ください。

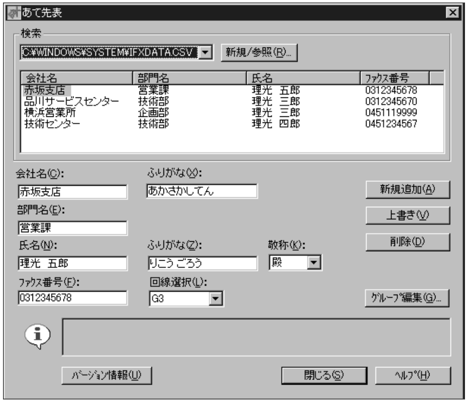
1 タスクバーの［スタート］→［プログラム］→［あて先表編集ツール］→［あて先表編集ツール］の順にクリックします。

［あて先表］のダイアログが表示されます。

補足

- ❒ PC FAXドライバーを起動しているときは、［あて先表編集］を押します。

2 相手先の登録や編集を行います。

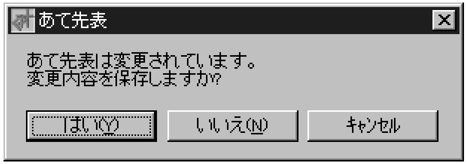


補足

- ❒ 登録されている相手先をグループ分けできます。グループ分けは［グループ編集］をクリックして行います。
- ❒ CSV形式で作成したファイル（Ridoc IO Admin または Ridoc Manager for Admin で作成した宛先のデータを含む）を宛先として利用することができます。

3 ［閉じる］をクリックします。

4 あて先表を変更したときは、ダイアログが表示されます。変更した内容を保存するときは［はい］をクリックします。



変更を取り消して編集を終了するときは［いいえ］をクリックします。

あて先表の編集に戻るときは［キャンセル］をクリックします。

補足

- ❒ あて先表編集ツールを起動してから、何も変更していないときには表示されません。

PC FAX ドライバーを使っているときに表示されるメッセージ

補足

- オプションの指定が正しくなかったり、パソコンとの通信でエラーがあったとき、PCファクスエラーレポートを印刷するかどうか「パラメーター設定」で選択できます。工場出荷時は「印刷する」になっています。⇒ P.244 「パラメーター設定」（スイッチ20　ビット0）

メッセージ	原因と対処方法
送信先件数が多すぎます。 最大100件までです。	一度に送信できる送信先の件数を超えています。一度に送信できるのは最大100件（オプションのFAX機能拡張キット装着時は200件、オプションのFAXメモリーを追加すると500件）までです。

ファクス受信した文書をパソコンから見る

この機能を使用するためには、拡張HDD(40GB)（オプション）が必要です。また配信サーバーとしてRidoc Document Router（別売り）が必要です。パソコンにはRidoc Desk 2000 LtまたはRidoc Desk 2000（別売り）をインストールすることが必要です。

補足

- ❒ 本書では、Ridoc Desk 2000Ltと別売りのRidoc Desk 2000の両方を示すときは、Ridoc Desk 2000/Ltと表記しています。

ファクス受信文書を配信する

ネットワーク上の配信サーバー（Ridoc Document Router）と連携し、本機でファクス受信した文書をネットワーク上のパソコンで見たり引き取ったりすることができます。紙に印刷せずに内容を確認したりパソコンに保存することができて便利です。

また、配信サーバーの設定により、次のようにファクス文書が配信されるので、受信したファクス文書を本機まで取りに来たり、紙に印刷されたファクス文書を宛先ごとに配布する必要がなく便利です。

❖ どんなことができるのか

配信サーバーを使うと次のようなことができます。

- あらかじめ、ファクス受信文書の情報（親展ID、Fコード(SUB)、発信元名称（RTI）、発信元ファクス番号（CSI））と受信者との対応づけを配信サーバーに設定しておくことにより、本機で受信したファクス文書が、対応づけられた受信者に配信されます。
- 配信の方法には、配信サーバー上のユーザーごとに設定された受信トレイに保存する、メールに添付してパソコンに送信する、あらかじめ指定されたパソコン上のフォルダにファイルとして保存する、などがあります。受信したファクス文書に親展ID、Fコード(SUB)、発信元名称（RTI）、発信元ファクス番号（CSI）の情報がないときは、配信サーバーの「ファクス受信トレイ」に保存されます。
- 配信サーバー上の受信トレイに保存された文書は、パソコン上の「Ridoc Desk 2000 Lt」または「Ridoc Desk 2000」を使用して内容を確認したりパソコンに引き取ったりすることができます。

制限

- ❒ 親展受信した文書も配信サーバーに転送されます。

補足

- ❒ 配信サーバーの受信トレイに保存された文書をパソコンで見たり引き取るには、付属の「Ridoc Desk 2000 Lt」または別売りの「Ridoc Desk 2000」がパソコンにインストールされている必要があります。
- ❒ 受信したファクスをメールに添付してパソコンに送信するには、Ridoc Document Routerで対応しているメール環境が必要です。
- ❒ 配信サーバーと連携するために、本機のシステム初期設定で設定を行う必要があります。また、配信サーバーで行う設定もあります。⇒システム設定編2スキャナーユニット　タイプ8100対応版「ファイル転送設定」
- ❒ 配信サーバー（Ridoc Document Router）については、Ridoc Document Routerの説明書およびヘルプをご覧ください。
- ❒ Ridoc Desk 2000 / Lt についてはRidoc Desk 2000 / Lt の説明書およびヘルプをご覧ください。

パソコンからファクス情報を管理する

この機能を使用するときは拡張HDD(40GB)（オプション）とRidoc IO Adminが必要です。

補足

- ❒ Ridoc IO Admin、Ridoc IO Naviは本体付属のCD-ROMに収録されています。

リモートファクス管理

リモートファクス管理は、「Ridoc IO Admin」の機能です。本機に保存されている宛先表や通信レポートを確認するための各種ダイヤルメンテナンス機能とレポートデータ取得機能があります。

各種ダイヤルメンテナンス機能を使うと本機に保存されている宛先表やグループをパソコン上で編集して、登録/変更することができます。

レポートデータ取得機能を使うと、本機のファクス通信履歴をパソコンに読み込み、ファクス通信に関する項目ごとに確認することができます。

参照

「Ridoc IO Admin」とインストールの方法⇒システム設定編2スキャナーユニット　タイプ8100対応版

❖ どんなことができるのか

リモートファクス管理では次の操作ができます。

- **ダイヤルメンテナンス機能**
  - 本機の宛先表やグループのデータを、パソコンで編集し、管理することができます。
  - パソコンから複数台に同じ宛先表やグループのデータを登録することができます。
- **レポートメンテナンス機能**
  - 本機に保存されているファクス通信履歴を一覧リストとして表示したり、印刷することができます。また、CSV形式で保存できます。
  - 一覧リストは、[送信] タブ、[受信] タブおよび [PC FAX] タブとに分類されて表示されます。
  - 参照する一覧リストの表示項目（開始日時、相手先、通信時間、枚数、結果、ユーザーコード、文書番号、料金、送信種別）や表示順を変更することができます。
  - 一覧リストに表示されている内容を、最新情報に更新して表示し直すことができます。

❖ リモートファクス管理を起動するには

① 「Ridoc IO Admin」を起動します。

② 本機の名称をクリックして、反転表示させます。

③ [ツール]をクリックします。

④ メニューから[ファクスあて先データ取得]、[ファクスあて先登録]または[ファクス通信管理レポート取得]をクリックします。

参照

詳しい使い方についてはヘルプを参照してください。

PC FAXドライバーを使った送信を管理する

「Ridoc IO Admin」および「Ridoc IO Navi」からPC FAXドライバーを使った送信を管理することができます。

PC FAXドライバーを使って送信した文書の次の情報を見ることができます。

- ユーザーID
- 状態
- ページ数
- 開始時刻
- ファイルNo.

参照

詳しい使い方についてはヘルプを参照してください。

トナーがなくなったときの送信

本機はトナーがなくなり が表示されているときも、送信の操作をすることができます。

重要

- トナーがない状態で行った通信の数と、自動で印刷される通信管理レポートに記載されていない通信の数の合計が200通信（オプションのFAX機能拡張キット装着時は1000通信）を超えると、通信ができなくなります。トナーは早めに交換してください。

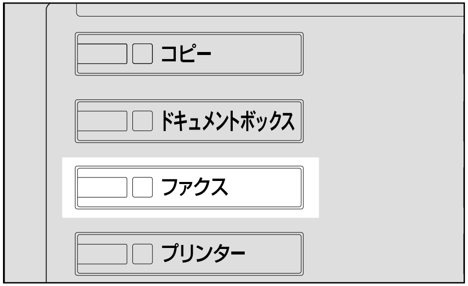
制限

- メモリー送信やポーリング受信の操作をしても、「蓄積結果レポート」、「ポーリング予約レポート」は印刷されません。また、親展受信した文書があっても「親展通知レポート」は印刷されません。

1 ファクスの画面が表示されていることを確認します。

補足

- ファクスの画面が表示されていないときは、【ファクス】キーを押します。



2 ［確認］を押します。

エラー画面が閉じます。

3 送信の操作をします。

参照

ファクス機能 基本編「第2章 メモリー送信で送る」

ファクス機能 基本編「第2章 直接送信で送る」

エラーレポートが印刷されたとき

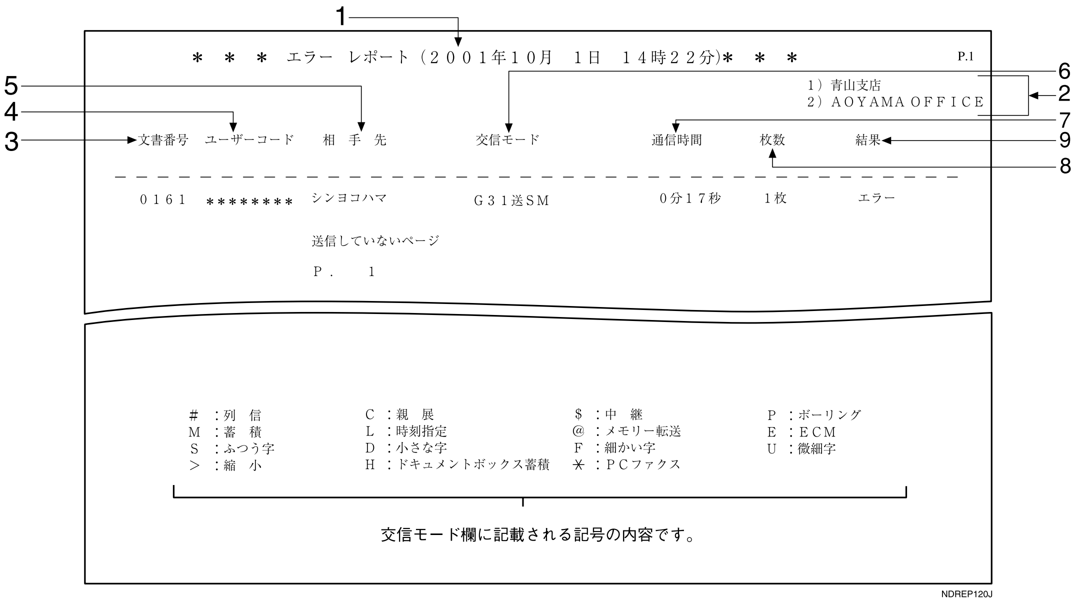
エラーレポートは送信や受信が正常にできなかったときに印刷されます。

エラーレポートが印刷される原因として、自分のファクスか相手のファクスの不具合が考えられます。また、電話回線に雑音が入ったときなどもエラーレポートが印刷される原因となります。送信時にエラーになったときは、もう一度送信し直してください。受信時にエラーになったときは、相手先に送信のやり直しを依頼してください。

重要

- ❒ **操作をやり直してもエラーになるときはサービス実施店に連絡してください。**

❖ エラーレポート



1. **印刷日時**

レポートを印刷した日付と時間が記載されます。

2. **発信元名称（印字用）登録内容**

発信元名称（印字用）に登録されている内容が記載されます。

3. **文書番号**

文書の管理番号です。

4. **ユーザーコード**

ユーザーコード利用制限をしているときに「＊＊＊＊＊＊＊＊」と記載されます。

5. **相手先**

相手先に発信元名称（表示用）が登録してあるときはその発信元名称（表示用）が、発信元名称（表示用）がなく発信元ファクス番号が登録してあるときはその発信元ファクス番号が記載されます。発信元名称（表示用）も発信元ファクス番号もない場合、送信時は入力したファクス番号または宛先表の名称が記載されますが、受信時は何も記載されません。

6. **交信モード**

送信を表す「送」、受信を表す「受」の文字のあとに、通信モードがアルファベットや記号で記載されます。

7. **通信時間**

送受信にかかった時間です。

8. **枚数**

送受信した枚数です。

9. **結果**

常に「エラー」と記載されます。

電源を切る / 切れたとき

主電源スイッチを「Off」にしても、登録した宛先表などの内容は消えませんが、主電源スイッチが「Off」や停電時や電源コンセントを抜いたまま約1時間経過すると、ファクスのメモリーに蓄積されている文書(メモリー送信/受信)は消去されます。メモリーに蓄積されている文書が消去されると、次に主電源スイッチを「On」にしたとき、自動的に電源断レポートが印刷され、消去された文書を確認できます。

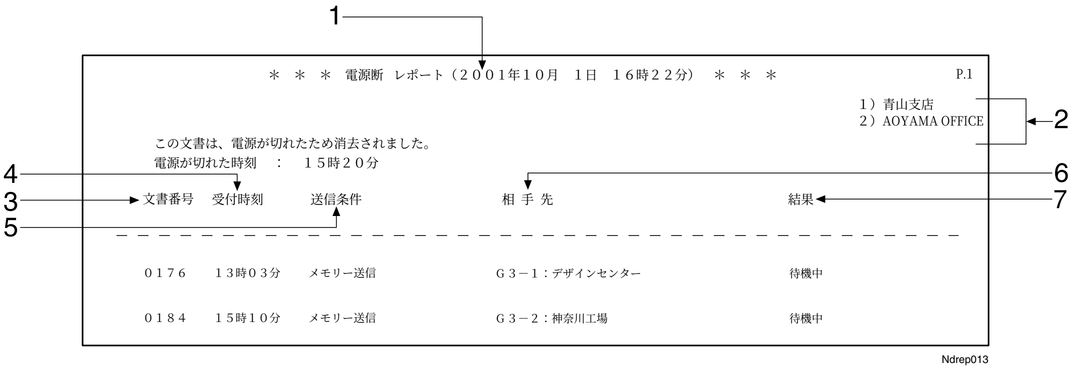
消去された文書がメモリー送信のときは相手先を確認して送信し直します。メモリー受信または代行受信のときは相手先に送信し直してもらいます。文書添付のときは登録し直します。

重要

- ❒ 主電源スイッチを「Off」にするときや電源コンセントを抜くときは、画面のメモリー残量表示が100%であることを確認してください。
- ❒ 電源断レポートが印刷されたときは、電源コンセントを差し込み、主電源スイッチを約24時間「On」にしてください。もう一度停電したり電源コンセントを抜いたとき、メモリーに蓄積されている内容を約1時間保持するための充電を行います。

電源断レポート

メモリーに蓄積されている文書が消去されると、次に主電源スイッチを「On」にしたとき、自動的に電源断レポートが印刷され、消去された文書を確認できます。



1. **印刷日時**
   レポートを印刷した日付と時間が記載されます。
2. **発信元名称（印字用）登録内容**
   発信元名称（印字用）に登録されている内容が記載されます。
3. **文書番号**
   文書の管理番号です。
4. **受付時刻**
   文書を受け付けた（メモリーに蓄積した）時刻です。
5. **送信（受信）条件**
   通信の種類が記載されます。

6. **相手先**

メモリー送信のときは相手先の指定方法によって記載内容が異なります。

テンキーで指定した場合は入力したファクス番号が記載されます。宛先表で指定した場合は登録してある名称が記載されます。グループで指定した場合はそのグループに登録してあるすべての相手先を記載し、各相手先の先頭に「（G01）」のようにグループナンバーを付けます。 代行受信のときは、相手先に発信元名称（表示用）が登録されているときはその発信元名称（表示用）が、発信元名称（表示用）がなく発信元ファクス番号が登録してあるときはその発信元ファクス番号が記載されます。

G4ユニット（オプション）を装着しているときは、回線の種類が「G3」「I-G3」「G4」「G3（空）」のいずれかで記載されます。

増設G3ユニット（オプション）を装着しているときは、回線の種類が「G3-1」「G3-2」「G3（空）」のいずれかで記載されます。

Fコード（SEP/SUB/PWD/SID）、サブアドレスを登録しているときは、テンキーで登録した相手先にのみSEP/SUB/PWD/SID/サブアドレスを印字します。

7. **結果**

送受信の結果が記載されます。

OK	全ページ正しく送受信できました。
エラー	正しく送受信できませんでした。
待機中	ダイヤルするのを待っていた状態です。

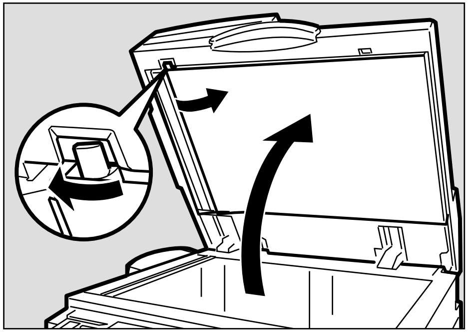
スタンプを交換する

スタンプが薄くなってきたらカートリッジを交換します。

補足

❒ カートリッジは本機専用の「リファクススタンプカートリッジタイプ1」をお使いください。

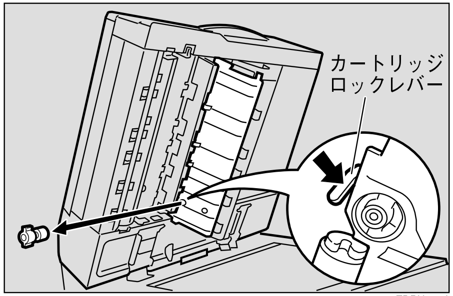
1 自動原稿送り装置(ADF)/原稿カバー（オプション）を上げて、スタンプカバーを開きます。



ZDPH070J

2 使用ずみカートリッジを取り外します。

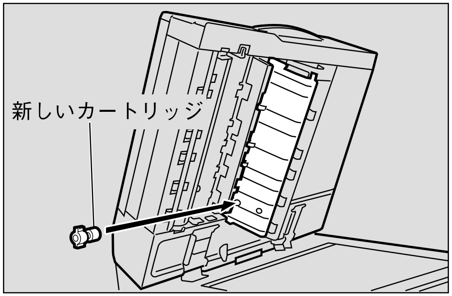
カートリッジロックレバーを 2、3 回軽く叩くと、カートリッジが出てきます。出てきたカートリッジはロックレバーを押しながら取り外します。



ZDPH080J

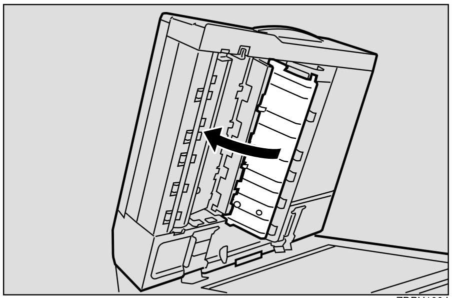
3 **ロックレバーを押しながら新しいカートリッジをセットします。**

カートリッジは金属部が隠れるまで差し込みます。



ZDPH090J

4 **スタンプカバーを「カチッ」と音がするまで押し込み、もとに戻します。**



ZDPH100J

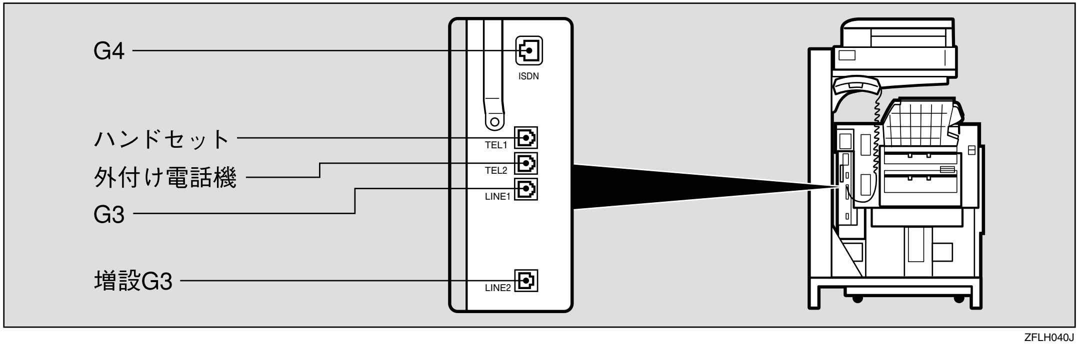
5 **自動原稿送り装置(ADF)/原稿カバー（オプション）を閉めます。**

電話回線および電話機との接続

電話回線と接続する

ファクスを電話回線に接続する接続端子には、差し込み式のモジュラータイプとねじ止めタイプの2種類があります。

❖ 接続する位置



重要

- ❒ G4（オプション）の接続端子にG3アナログ回線を接続しないでください。
- ❒ ねじ止めタイプの接続端子を使用して接続するときは工事担任者の資格が必要です。ご購入の販売店または、サービス実施店に連絡してください。

補足

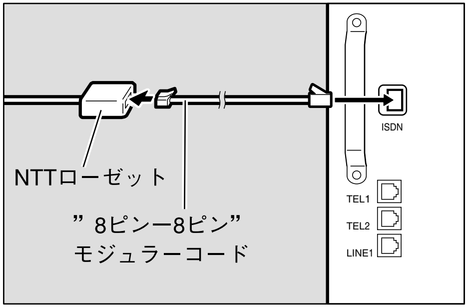
- ❒ G4ユニット（オプション）と増設G3ユニット（オプション）は、どちらか1つだけ装着することができます。
- ❒ ハンドセット（オプション）と外付け電話機は「TEL1」もしくは「TEL2」に接続してください。
- ❒ 各種サービス（キャッチホン、ナンバー・ディスプレイなど）の提供を受けている電話回線は、ファクス用に使用できない場合があります。

ISDN と接続する

G4ユニット（オプション）を装着しているときはISDNと接続します。ＩＳＤＮへの接続端子はモジュラータイプです。

重要

- "8ピンー8ピン"モジュラーコードは「ISDN」と書いてある接続端子に接続してください。



電話機を接続する

ハンドセット（オプション）と外付け電話機を接続できます。接続した電話機で電話をかけたり、受けたりできます。

補足

- 外付け電話機を接続すると、通常の電話機として使用できるほか、ファクスと電話を切り替える操作（リモート切替）もできます。ファクスから離れた場所にいても、ファクスに接続された電話機をそばに置いておけば、席を立たずにファクスと電話の切り替えができて便利です。⇒ P.146 「手動受信」
- 外付け電話機の性能によっては、接続できなかったり機能の一部が使えなくなることがあります。

電話回線の種別を設定する

接続した電話回線の種別を設定してください。電話回線にはプッシュ回線とダイヤル回線があります。またダイヤル回線には10PPSと20PPSの2種類があり、地域によって異なります。

加入電話回線（外線）、自営構内回線（内線）の種別はP.300「ダイヤル/プッシュ選択」で設定します。工場出荷時は「プッシュ」に設定されています。

補足

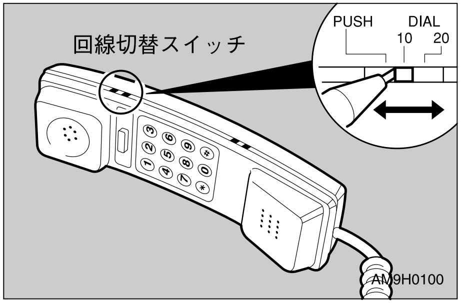
- ❒ NTT の回線を利用していて回線の種類がわからないときは、NTTにお問い合わせください。正しく設定しないと、受信はできますが、送信できないことがあります。
- ❒ 加入電話回線（外線）の種類がわからないときは、「ダイヤル/プッシュ選択」⇒ P.300の設定を「プッシュ」にして、177（天気予報）などにオンフックでダイヤルしてみます。正しくつながったときは「プッシュ回線」です。また、自営構内回線（内線）の種類がわからないときも同様に、G3アナログ回線の「ダイヤル / プッシュ選択」の設定を「プッシュ」にして、内線の電話番号などにオンフックでダイヤルしてみます。正しくつながったときはプッシュ回線です。つながらなかったときは「20PPS」に設定して、同じようにオンフックでダイヤルしてみます。正しくつながったときは20PPS、つながらなかったときは10PPSです。

ハンドセット（オプション）を設定する

❖ ハンドセットの種別を設定する

ハンドセットの回線切替スイッチを電話回線の種別と同じに設定します。

- プッシュ回線・・・PUSH
- ダイヤル回線・・・10（PPS）または20（PPS）

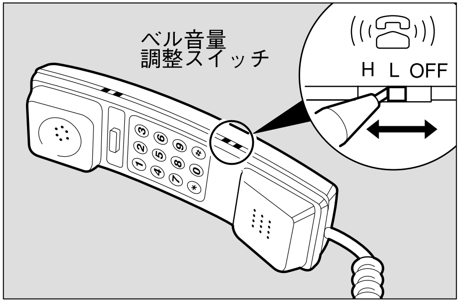


❖ ハンドセットのベル音量を調整する

ハンドセットのベル音量調整スイッチで調整します。

- 大・・・H
- 小・・・L

- **無音・・・**OFF



マルチポート

G4ユニット（オプション）または増設G3ユニット（オプション）を装着すると、接続する回線によって最大2つの通信を同時に行うことができます。

オプション	接続する回線	可能となる通信種類
なし	加入者回線	G3
増設G3ユニット	加入者回線＋加入者回線	G3＋G3
G4ユニット	加入者回線＋ISDN	G3＋G4 または G3（ISDN）＋G4
	ISDN	G3（ISDN）＋G4

制限

- ❒ 同時に通信できるのは最大2通信までです。
- ❒ 直接送信では同時に2通信はできません。
- ❒ 2通信同時に受信したとき、同時に印刷されません。
- ❒ 2通信同時に通信しているとき、画面には先に開始した通信が表示されます。

通信網について

通信網には国内でサービスを受けられるものと、国際電話でサービスを受けられるものがあります。なお、サービス内容、利用方法については各会社にお問い合わせください。

国際ダイヤル通話

国際電話でサービスを行っている各会社専用の番号のあとに、国番号、市外局番、相手先のファクス番号の順でダイヤルします。

会社によっては、あらかじめ登録や申し込みをしていないと利用できないことがあります。この方法を利用できない地域もあります。詳しくは利用する会社に直接お問い合わせください。

補足

❒ G4（オプション）で通信するときはKDDIなどの国際ISDNを利用します。詳しくは各会社にお問い合わせください。

（例）KDDIでニューヨークの1234567にファクスを送信するとき

❶原稿をセットします。

❷読み取り条件を設定します。

❸相手先を指定します。

001(KDDI)	+	1	+	212	+	1234567
各会社専用番号		国番号		市外局番		相手先のファクス番号

補足

❒ 国番号の前に3回くらい【ポーズ/リダイヤル】キーを押さなければならないことがあります。

❹【スタート】キーを押します。

国際オペレータ通話

KDDIを利用するときは、オペレータを呼び出して国際電話を申し込むことができます。

制限

- ❒ この方法はKDDIだけが取り扱っています。ISDNでは使えません。

補足

- ❒ 一度受話器を置き、KDDIからの呼び出しを受けてから送信することがあります。そのときは、あらかじめ受信モードを手動受信または自動切り替え（電話優先）に切り替えておきます。⇒ファクス機能 基本編「第2章 受信の種類」、P.142「受信モードについて」

1 原稿をセットします。

2 読み取り条件を設定します。

3 受話器を上げて、【0】【0】【5】【1】をダイヤルします。

KDDIのオペレータが応答します。

4 相手先のファクス番号とこちらのファクス番号を伝え、オペレータの指示に従います。

重要

- ❒ このとき、ファクスを送信するということを伝えてください。

F ネットのサービスを利用する

NTTのFネット（ファクシミリ通信網サービス）を利用すると、ファクス通信に関するいろいろなサービスを受けられます。

オプションのG4ユニットを使用し、ISDNをFネット契約すると、Fネットとの送受信にG4が使えます。

❖ Fネットの主なサービスを利用する

機能名	内容
再コール	受信側が通話中のとき、自動的にダイヤルし直します。
不達通知	再コールしても送信できないときは、不達通知が送られてきます。
一斉同報送信 *1	1回の送信操作で、個別に相手先を複数指定したり、あらかじめFネットに登録してあるグループ番号を指定することにより、同じ原稿を複数の相手先に送信（同報送信）することができます。
通知メッセージ *2 （UUI）	相手先のファクスに正常に送信できなかった場合など、Fネットから通知メッセージが返ってきます。通知メッセージを受け取るとそのメッセージ内容を画面に表示したり、不達レポートなどに印字したりします。 （例）「通信が混み合っています。」
短縮ダイヤル	相手先をFネットの短縮ダイヤルに登録しておくと、送信操作が簡単になります。
電話番号などの自動記載	送信する原稿の上部に発信年月日、時刻、電話番号、ページ番号を記載して送信します。

*1 本機の一斉同報機能 （⇒ P.125） とは別のFネットのサービスです。

*2 ISDNに接続しているときに利用できます。

制限

- ❒ Fネットを利用するときは、NTTとの契約（有料）が必要です。詳しくはNTTにお問い合わせください。
- ❒ Fネットとの通信に、ポーリング受信は使えません。

補足

- ❒ Fネットの詳しいサービス内容については、NTTから発行されている「ご利用の手引き」をご覧ください。

F ネットに送信する

操作方法は通常の送信と同じです。

1 原稿をセットします。

2 読み取り条件を選択します。

3 テンキーで【1】【6】【1】または【1】【6】【2】を押します。

4 相手先のファクス番号や F ネットのサービスコードをテンキーで入力します。

補足

- ❒ 宛先表でも相手先を指定できます。

5【スタート】キーを押します。

F ネットから受信する

加入電話回線のとき

受信モードを自動切り替え（ファクス優先）または「自動受信」に設定しておくと自動的に受信します。NTTとFネットの利用契約を結ぶ際に「1300Hz呼び出し」を指定しておけば、自動切り替え（電話優先）または「手動受信」に設定していても、呼び出し音を鳴らさずに自動的に受信します。

補足

- ❒ 1300Hz呼出しで受信するかどうかP.244 「パラメーター設定」（スイッチ11 ビット3）で設定できます。工場出荷時は「着信しない」に設定されています。

ISDN のとき

NTT とG4F ネットの利用契約を結ぶと、受信モード（自動切り替え、自動受信、手動受信）にかかわらず、自動的に受信します。

F ネットに送信以外の操作をする

F ネットの短縮ダイヤルに電話番号を登録したり、F ネットから親展通信の文書を受け取ったりするときは、原稿をセットしないで操作します。

加入電話回線のとき

1 【オンフック】キーを押すか、受話器を上げます。

発信音が聞こえます。

2 テンキーで【1】【6】【1】または【1】【6】【2】を押します。

補足

❒ 宛先表でも相手先を指定できます。

3 F ネットのサービスコードをテンキーで入力します。

4 受話器を置きます。

受信するとき

❶ 【手動受信】キーまたは【スタート】キーを押して、受話器を置きます。

受信しないとき

❶ そのまま受話器を置きます。

ISDN のとき

「G4 メールサービス」を使用します。⇒ P.31「G4 メールサービス」

消耗品

❖ **スタンプ用カートリッジ**

1個当たり約3000回スタンプを押すことができます。

名称	色	販売単位
リファクススタンプカートリッジタイプ1	ピンク	1ケース（4個）

オプション

FAX 機能拡張キット

JBIG圧縮による送受信が可能になります。

また、次の機能の内容を拡張して使用できます。

機能	FAX機能拡張キット（オプション）なし	FAX機能拡張キット（オプション）あり	参照先
宛先表の登録数	400件	1200件	⇒ファクス機能 基本編「第3章 宛先表に登録／変更する」
メモリー送信の文書数	400件	800件	⇒ファクス機能 基本編「第2章 メモリー送信で送る」
文書添付の登録数	6文書	18文書	⇒ P.195 「文書添付」
特定相手先登録数	30件	50件	⇒ P.259 「特定相手先設定」
プログラム登録数	100件	200件	⇒ P.168 「プログラムを使う」

FAX メモリー

FAXメモリーを使うと「細かい字」、「微細字」での送受信が可能になります。また、メモリーに蓄積できる原稿の枚数を増やすことができます。26MB（標準2MB）に増設できます。

機能	FAXメモリー（なし）	FAXメモリー（あり）	FAXメモリー（あり）、FAX機能拡張キット（あり）	参照先
メモリー送信で蓄積できる原稿の枚数 [*1]	約160枚	約1000枚	約2080枚	⇒ファクス機能 基本編「第2章 メモリー送信で送る」
メモリーに蓄積できる原稿の最大枚数	最大400枚	最大1000枚	最大3000枚	

[*1] 原稿枚数は、A4標準原稿（ITU-TNo.1チャート）を、文字サイズ「ふつう字」濃度「自動濃度」原稿種類「文字」で蓄積したときの枚数です。

ハンドセット

次の機能を使えるようになります。

機能	参照先
オンフックダイヤルで相手と会話する	⇒ P.91 「オンフックダイヤル（オンフックを使った送信）」
マニュアルダイヤルで電話として使う	⇒ P.93 「マニュアルダイヤル（受話器を使った送信）」

G4 ユニット

ISDNと接続できます。

次の機能を使えるようになります。

機能	参照先
サブアドレス	P.87 「サブアドレス」
UUI	P.89 「UUI」
G4メールサービス	P.31 「G4メールサービス」

制限

- ❒ UUIを使うときは、NTTとUUIの契約をする必要があります。
- ❒ G4メールサービスを使うときは、FネットG4サービスの契約も必要です。
- ❒ 増設G3ユニットと同時に装着することはできません。

増設 G3 ユニット

G3回線がもう1つ増えます。

制限

- ❒ G4ユニットと同時に装着することはできません。

仕様

形式	デスクトップ型トランシーバー
規格	G3規格、G4規格（オプション）
適用回線	加入電話回線(PSTN)、自営構内回線(PBX)、サービス総合デジタル網(ISDN)（オプション）
接続方法	ダイレクトカプル
走査線密度	G3:8×3.85本/mm・200×100dpi（ふつう字）、8×7.7本/mm 200×200dpi（小さな字）、8×15.4本/mm・200×400dpi（細かい字・オプション）、16×15.4本/mm、400×400dpi（微細字・オプション）
	G4:200×100dpi（ふつう字）、200×200dpi（小さな字）、400×400dpi（微細字・オプション）
電送時間 *1	G3:約3秒（オプション:2秒台 *2）
	G4:約3秒
走査方式	平面走査
符号化方式	MH、MR、MMR、JBIG（オプション）
変調方式	メッセージモデム:V.34 V.33 V.17 V.29 V.27ter(G3)
	プロトコルモデム:V.21(G3) V.8
原稿サイズ	最大A3または11"×17"（DLT）
最大読取サイズ	定形サイズ:A3◻、幅297mm×長さ432mm 不定形サイズ:幅210mm〜297mm、長さ128mm〜1200mm
記録方式	レーザーによる普通紙記録
相互通信	G3:PSTN、PBX、INSネット64
	G4:INSネット64

通信速度	300bps（制御信号） G3:33,600/31,200/28,800/26,400/24,000/21,600/19,200/16,800/14,400/12,000/9,600/7,200/4,800/2,400bps（自動シフトダウン方式）IG3時max26,400bps	
	G4:64kbps/56kbps（自動速度整合）	
直流抵抗値	366Ω	
消費電力	待機時	約200W *3
	メモリー送信時	約200W *3
	メモリー受信時	約200W *3
最大消費電力	1200W	
認証番号 *4	ACD01-0427JP、L01-0132	

本装置は、電話回線や地域などの条件によっては、ご使用になれない場合があります。

*1 A4版700文字程度の原稿を標準的画質（G4は200×200dpi、G3は8×3.85本/mm）で送ったときの速さです。ただし、G3は画像情報だけの通信速度で、通信の制御時間は含まれておりません。実際の通信時間は、原稿の内容、相手機種、回線状態により異なります。

*2 JBIG通信時。

*3 ファクス標準装備時の値です。

*4 （財）電気通信端末機器審査協会による認証番号です。専用のPC FAXドライバーご利用時に適用されます。

電波障害について

他のエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、次のようにしてください。

- テレビやラジオなどからできるだけ離す。
- テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える。
- コンセントを別にする。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

原稿について

セットできる原稿のサイズと坪量

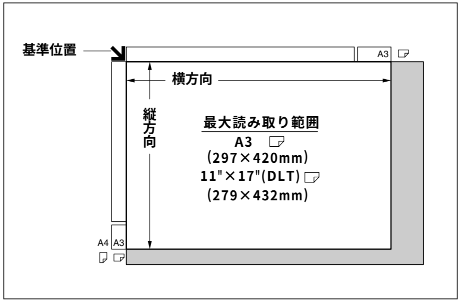
原稿セット先	原稿サイズ	原稿坪量（カッコ内は連量）
原稿ガラス	A3（297×420mm）、11"×17"(DLT)（279×432mm）まで	———
自動原稿送り装置(ADF)	**ファクス送信時（片面）**A3～A5 **※ただし長さは**1200mm**まで可能** 11"×17"(DLT)～8$\frac{1}{2}$"×5$\frac{1}{2}$"(HLT)	40～128g/m^2 （35～110kg）
	ファクス送信時（両面）A3～A5 11"×17"(DLT)～8$\frac{1}{2}$"×5$\frac{1}{2}$"(HLT)	52～105g/m^2 （45～90kg）

補足

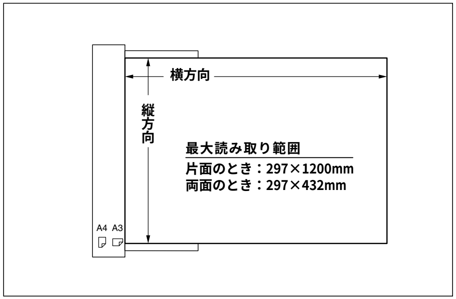
- ❒ **自動原稿送り装置**（ADF）<**オプション**>**にセットできる枚数は、『リコピー**PPC**用紙タイプ**6200』**のとき約**80**枚です。**

原稿サイズと読み取り範囲

❖ 原稿ガラス面



❖ 自動原稿送り装置（ADF）<オプション>使用時



制限

- ❒ 原稿ガラスにA3より大きい原稿をセットしたときは、A3の範囲内だけ読み取ります。

補足

- ❒ 送信した画像と相手先で印刷された画像の大きさには多少の差があります。
- ❒ 原稿ガラスまたは自動原稿送り装置（ADF）<オプション>上に正しくセットしても、送信する原稿の周囲約3mmは送信できないことがあります。
- ❒ 相手先の用紙の幅が送信する原稿の幅より小さいときは、相手先の用紙の幅に合わせて縮小して送信されます。⇒ P.117 「オプション設定」
- ❒ 原稿サイズは次の数値を目安として検知します。自動原稿送り装置（ADF）<オプション>にセットしたときは、幅が約235mmより狭い原稿をA4幅、約268mmより狭い原稿をB4幅、約268mm以上の原稿をA3幅として読み取ります。（A4より幅の狭い原稿はすべてA4幅として送信されます。）長さは原稿に応じ1200mmまで読み取ることができます。
- ❒ 原稿ガラスにセットした原稿の読み取りは下記の表のようになります。なお、サイズ判別不可となるサイズの原稿については、読み取りサイズを指定してください。⇒ファクス機能 基本編「第2章 読み取りサイズを指定する」

		長　さ*1		
		～約245mm	約245mm～約270mm	約270mm～約432mm
幅	～約245mm	サイズ判別不可	B5	A4
	約245mm～約270mm	B5	サイズ判別不可	B4
	約270mm～約297mm	A4	サイズ判別不可	A3

*1 通常は約420mmまで読み取りますが、読み取りサイズ指定で約432mmまで可能です。

❖ 最大読み取り範囲

最大読み取り範囲は、次のようになります。

- メモリー送信時:幅297×長さ1200mm（自動原稿送り装置（ADF）<オプション>使用時）
- 直接送信時:幅297×長さ1200mm（自動原稿送り装置（ADF）<オプション>使用時）

  補足

  - ❒ 直接送信時は、文字サイズおよび受信先の設定によって読み取り範囲の長さが1200mmより狭くなるときがあります。

- 幅297×長さ432mm（原稿ガラスの場合）

項目別最大値一覧

各機能の登録できる数および最大値は次のとおりです。

項目	標準	オプション装着時
メモリー容量	2MB	26MB *1
メモリー送信で蓄積できる原稿蓄積枚数（A4標準原稿<ITU-T　#1チャート、ふつう字>使用）	約160枚	約2080枚 *2
総文書数	400件	800件 *4
1文書あたりのページ数	400ページ	1000ページ *3
総文書のページ数	400ページ	3000ページ *3
1文書で指定できる相手先数	500件	
総文書で指定できる相手先数	500件	2000件 *4
宛先表の登録数	400件	1200件 *4
グループ宛先の登録数	64件	
テンキーで指定できる宛先数	100件	1000件 *4
1グループ当りの登録宛先数	500件	
総グループ当りの登録数	500件	2200件 *6
ユーザーコード登録数 *5	100種類	
ダイヤルの桁数	254桁	
プログラム登録数	100件	200件 *4
文書添付登録数	6件	18件 *4
定型文印字登録数	3種類	

項目	標準	オプション装着時
通信結果表示件数	200件	
蓄積文書指定送信で一度に指定できるページ数	400ページ	1000ページ [*1]
蓄積文書指定送信で一度に送信できる文書数	30件	
ドキュメントボックスに蓄積できる原稿枚数（ITU-T #4チャート使用）	2000ページ	
1文書当たりドキュメントボックスに蓄積できるページ数	400ページ	1000ページ [*1]

[*1] FAXメモリー（オプション）装着時

[*2] FAX機能拡張キット（オプション）、FAXメモリー（オプション）装着時。FAXメモリー（オプション）のみ装着しているときは約1000枚。

[*3] FAX機能拡張キット（オプション）、FAXメモリー（オプション）装着時。FAXメモリー（オプション）のみ装着しているときは、約1000ページ。

[*4] FAX機能拡張キット（オプション）装着時。

[*5] ユーザーコードは、システム初期設定で登録します。⇒システム設定編2スキャナーユニット　タイプ8100対応版「ユーザーコードについて」

[*6] グループとして登録できる相手数は、宛先表400件、テンキー100件です。FAX機能拡張キット（オプション）装着時は、宛先表1200件、テンキー 1000件です。

拡張送信一覧表

機能名	内容	参照先
時刻指定送信	送信やポーリング受信したい時刻を指定すると、指定した時刻に自動的に送信やポーリング受信を開始します。	⇒ P.10
納期指定送信	送信を完了させたい時刻を指定すると、話し中などで通信できなくても指定した時刻まで何回でもダイヤルします。	⇒ P.12
優先発信	すでに予約されているメモリー送信より先に送信されます。	⇒ P.14
親展送信	機密文書などを親展扱いで送信します。通常親展送信とIDパーソナル親展送信があります。	⇒ P.16
ポーリング送信	相手先から送信の依頼があると、メモリーに蓄積してある原稿を送信します。フリーポーリング、IDポーリング送信、パーソナルIDポーリング送信があります。	⇒ P.19
ポーリング受信	相手先に送信の依頼をして相手先のメモリーに蓄積されている原稿を受信します。IDポーリング受信、パーソナルIDポーリング受信があります。	⇒ P.24
G4メールサービス	ISDNを利用して、Fネットの短縮ダイヤルにファクス番号を登録したり、Fネットから親展送信の原稿を受信するときなどに使います。	⇒ P.31

拡張宛先一覧表

機能名	内容	参照先
Fコード(SUB)	Fコードを使って他社のファクスに親展送信、中継依頼送信します。	⇒ P.78 「Fコード(SUB)」
Fコード(SEP)	Fコードを使って他社のファクスからポーリング受信、中継依頼送信します。	⇒ P.80 「Fコード(SEP)」
中継依頼	中継機能が付いた当社のファクスを経由して、相手先に送信します。	⇒ P.83 「中継依頼送信」
サブアドレス/UUI	サブアドレス、UUIの付いた相手先に送信します。	⇒ P.87 「サブアドレス」、⇒ P.89 「UUI」

送信補助一覧表

機能名	内容	参照先
見開き原稿指定	見開きの原稿を送信するとき、左右を1ページずつ読み取って送信します。	⇒ P.98
両面原稿送信	両面の原稿を送信するとき、表と裏を1ページずつ読み取って送信します。	⇒ P.100
定型文印字	送信する文書の先端にあらかじめ登録してある定型文を印字します。	⇒ P.103
文書添付	あらかじめよく使う原稿を登録しておき、必要なときに印刷したり、そのまま送信します。	⇒ P.104
蓄積文書指定	本機のドキュメントボックスに蓄積した文書を指定して送信します。	⇒ P.107
済みスタンプ	原稿が正しく蓄積、送信されたことを確認するスタンプを押します。	⇒ P.115

オプション設定一覧表

機能名	内容	参照先
発信元名称（印字用）印字	発信元名称（印字用）として登録したこちらの名称を相手先の用紙に印字するかどうか、1文書ごとに選択できます。	⇒ P.117
宛名差し込み	あらかじめ宛先表に相手先の名称を登録しておき、その名称に自動的に「様」を付けて相手先の受信紙の先端に印字します。また登録してある定型文を印字することもできます。	⇒ P.118
送信者名印字	相手先の受信紙の先端に送信者の名称を印字します。	⇒ P.118
縮小送信	原稿の左側に余白をつけて送信します。	⇒ P.118
自動縮小	送信側の原稿の幅より受信側の用紙の幅が小さいとき、受信側の用紙の幅に合わせ縮小して送信します。	⇒ P.119
ID送信	本機に登録されているポーリングIDと同じポーリングIDが登録されている、当社のファクスだけに送信します。	⇒ P.119

通信情報一覧表

機能名	内容	参照先
通信管理レポート印刷	通信管理レポートを手動で印刷します。最新の送信と受信の結果を確認できます。	⇒ P.50
送信結果表示	通信管理レポートの内容の一部を画面に表示できます。通信の結果が新しいもの（送受信あわせて最大200通信）から送信結果だけを確認できます。	⇒ P.56
受信結果表示	通信管理レポートの内容の一部を画面に表示できます。通信の結果が新しいもの（送受信あわせて最大200通信）から受信結果だけを確認できます。	⇒ P.58
メモリー使用状況表示	画面にメモリーが何に使われているかを表示します。	⇒ P.60
親展受信印刷	親展受信した原稿を印刷します。	⇒ P.61
封筒受信印刷	封筒受信した原稿を印刷します。	⇒ P.64
Fコード親展ボックス 受信文書印刷	Fコード親展ボックスに受信した文書を印刷します。	⇒ P.66
Fコード掲示板ボックス 文書登録/消去/印刷	Fコード掲示板ボックスに文書を登録します。また登録されている文書を消去したり印刷したりすることができます。	⇒ P.69

初期設定一覧表

機能	内容	参照先
登録/変更/消去		
• 宛先登録/変更/消去	相手先を宛先表に登録すると、宛先キーを押すだけで相手先を指定できます。	⇒ファクス機能 基本編「第3章 宛先表に登録する」
• グループ登録/変更/消去	複数の相手先を1つのグループとしてグループキーに登録すると、グループキーを押すだけで登録されているすべての相手先を指定できます。	⇒ファクス機能 基本編「第3章 グループ宛先を登録する」
• 宛先表 並び順入れ替え	宛先表の宛先キーの順番を並べ替えて、よく使う宛先キーを先頭に持ってくることができます。	⇒ P.188
• 宛先表 見出し登録	宛先表の見出しキーの名称を登録することができます。	⇒ P.190
• 定型文登録/変更/消去	定型文を登録する相手先が受信した用紙の先端に、登録した定型文を印字することができます。	⇒ P.193 「登録/変更する」
• 文書添付登録/変更/消去	よく使う原稿を登録できます。登録した原稿は必要なときに印刷したり、そのまま送信できます。	⇒ P.104
• 読み取りサイズ登録/変更/消去	読み取りサイズ指定で送信するとき、よく使うサイズをあらかじめ登録しておきます。	⇒ファクス機能 基本編「第2章 読み取りサイズを指定する」

機能	内容	参照先
リスト/レポート印刷	いろいろなレポートやリストを手動で印刷できます。印刷できるリストは以下のとおりです。 • 通信管理レポート印刷（⇒ P.53） • 宛先リスト印刷（⇒ P.205） • 宛名差し込みリスト印刷（⇒ P.207） • グループリスト印刷（⇒ P.208） • プログラムリスト印刷（⇒ P.210） • 文書添付リスト印刷（⇒ P.212）	⇒ P.203

機能	内容	参照先
基本設定/調整	送信モード、読み取り条件などの初期値を設定します。電源を入れたとき、ここで設定した項目が選択されます。 • メモリー送信/直接送信優先設定 • 優先文字サイズ • 優先原稿サイズ • 自動濃度優先 • 読み取り濃度調整 • 宛先表見出し切り替え • 宛先表表示切り替え • 音量調節 • 発信元情報登録 • 発信元名称優先印字設定 • 宛名差し込み優先設定 • 縮小送信優先設定 • 自動縮小優先設定 • ID送信優先設定 • 読み取り終了時リセット • 原稿サイズ混載優先設定 • 済みスタンプ優先設定 • 優先回線選択 • エコノミー時刻登録 • オンフック解除時間 • クイック操作キー設定	⇒ P.213 ⇒ファクス機能 基本編「第3章 こちらの名称とファクス番号を登録する」 ⇒ファクス機能 基本編「第4章 音量を調節する」

機能	内容	参照先
受信設定	受信するときに使う次の機能のON/OFFを設定できます。 • 受信モード切り替え（⇒ P.142） ⇒ファクス機能 基本編「第2章 受信の種類」 • 受信モード自動切り替え時優先設定⇒ P.142 「自動切り替え」 • 迷惑ファクス防止機能（⇒ P.264） • メモリー転送機能（⇒ P.234） • 受信文書印刷部数設定（⇒ P.157） • 両面印刷機能（⇒ P.155） • 受信逆順印刷機能（⇒ P.159） • 給紙トレイ選択（⇒ P.262） • 回線別排紙先設定（⇒ P.167） • しおり印字機能（⇒ P.153） • センターマーク印字機能（⇒ P.154） • 受信時刻印字機能（⇒ P.154）	⇒ P.224

管理者用設定一覧表

機能	内容	参照先
通信枚数カウンター	送信枚数、受信枚数の累積を画面で確認できます。	⇒ P.233
メモリー転送設定	受信した原稿を登録してある相手先（転送先）へ転送します。受信した相手先にかかわらずすべて転送します。	⇒ P.234
封筒受信	封筒受信機能を使用するかどうか設定します。使用するときは封筒受信した原稿を印刷するIDを登録します。	⇒ P.238
自動誤り再送（ECM）	電話回線の影響で正しく送信できなかったときに、その部分を自動的に送信し直します。	⇒ P.239
受信モードタイマー切り替え	受信モード（自動切り替え、手動受信、自動受信）を切り替える時間を登録します。	⇒ P.241
パラメーター設定/リスト印刷	各種の機能を利用状況に合った設定に変更できます。また、設定した内容をリストに印刷して確認できます。	⇒ P.244
特定相手先設定/リスト印刷	特定の相手先からの受信文書を他の文書と区別して印刷したり、転送することができます。また、設定した内容をリストに印刷して確認できます。	⇒ P.259
Fコードボックス設定/リスト印刷	親展ボックス、掲示板ボックス、中継ボックスの登録、変更、消去ができます。またFコードボックスリストを印刷します。	⇒ P.274

機能	内容	参照先
中継結果レポート設定	中継依頼送信の結果を中継局から返送してもらうために、接続した電話回線の番号を登録しておきます。	⇒ P.293
親展ID登録	親展送信、親展受信を使用するために必要なIDを登録します。	⇒ P.295
ポーリングID登録	中継依頼送信、中継局機能、IDポーリング送信、IDポーリング受信、ID送信、ID受信を使用するために必要なIDを登録します。	⇒ P.297
封筒ID登録	封筒受信を使用するために必要なIDを登録します。	⇒ P.298
ダイヤル/プッシュ選択	接続した電話回線の種別を設定します	⇒ P.300
ダイヤルイン番号登録	ダイヤルイン番号のうち電話用として使用する番号を登録しておきます。登録していないダイヤルイン番号はファクス用として使用されます。	⇒ P.301
ISDN-G3回線登録	G3デジタル回線と接続しているとき、2つのファクス番号、サブアドレスを登録します。	⇒ P.303
ISDN-G4回線登録	G4デジタル回線と接続しているとき、2つのファクス番号、サブアドレスを登録します。	⇒ P.306
全文書転送	メモリーに蓄積したすべての文書を他のファクスに転送して印刷します。	⇒ P.308

索引

アルファベット索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

重要

- ❒ 本機に登録した内容は、必ず控えをとってください。お客様が操作をミスしたり本機に異常が発生した場合、登録した内容が消失することがあります。
- ❒ 本機の故障による損害、登録した内容の消失による損害、その他本機の使用により生じた損害について、当社は一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

機械の改良変更等により、本書のイラストや記載事項とお客様の機械とが一部異なる場合がありますのでご了承ください。

おことわり

1. 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
2. 本製品（ハードウエア、ソフトウエア）および使用説明書（本書・付属説明書）を運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
3. 本書の一部または全部を無断で複写、複製、改変、引用、転載することはできません。

2002年1月　G307-850-4